

甲府市内遺跡 V

— 平成11～12年度試掘調査報告書 —

2008

甲府市教育委員会

序

本市は県中央部に位置し、南北に細長い市域であります。標高2599mの金峰山山頂から250mの盆地低平地まで、多彩な自然環境が存在するとともに豊かな歴史や伝統文化が育まれてきました。こうした郷土の文化遺産を保護するとともに積極的に活用することは、現代に生きるものの責務であると考えております。

埋蔵文化財発掘調査事業もそうした活動の一環であり、市域には364箇所の埋蔵文化財包蔵地が確認されており、連綿と営み続けた生活の痕跡が数多く残されております。郷土の歴史文化を理解し、さらには故郷を慈しみ、誇りに思えるよう、当教育委員会ではこれら埋蔵文化財を保護するとともに後世へ正しく伝えるため啓発活動に取り組んでいるところであります。

本書は、平成11・12年に市域において実施した各種開発にともなう事前の有無確認及び緊急発掘調査の報告であります。本報告書が学術研究深化への一助になるとともに、教育資料へも活用され、郷土の歴史と文化を再認識する機会となればこの上ない喜びであります。

末筆となりましたが、調査に際し、貴重な文化遺産に対する深いご理解を賜り、ご支援・ご協力を頂いた土地所有者及び関係各位に、感謝申し上げますとともに、衷心より厚くお礼申し上げます。

2008年3月

甲府市教育委員会

教育長 奥 田 理

例 言

1. 本書は、平成11～12年度に実施した市内遺跡発掘調査事業の報告書である。
2. 本事業は、文化庁・県教育委員会の指導のもと、甲府市教育委員会が主体となって実施した。調査経費は国・県の補助金の交付を受けた。
3. 各年度の調査件数及び試掘・工事立会等の内訳は、一覧表のとおりである。
4. 調査は甲府市教育委員会が主体となり、文化財保護担当（信藤祐仁・伊藤正幸・平塚洋一・志村憲一・佐々木満・伊藤正彦）が実施している。
5. 本書の執筆は各調査担当者が行い、編集は末木瑞夫（文化振興課長）を編集責任者とし、伊藤正彦が行った。
6. 土器片の分析は山梨県立博物館 香名貴彦氏より玉稿を賜り、本書に係わる陶磁器について東京大学埋蔵文化財調査室 堀内秀樹氏よりご教示を賜った。
なお本文中の記述に誤りのある場合は、編集者の責である。
7. 本書の挿図・表は、中村里恵、三神千佳、清水秀樹、栗田かず子、佐野香織、鈴木由香、内藤真千子、西久保民子が作成した。
8. 本書に係わる出土遺物及び記録図面・写真等は甲府市教育委員会が保管している。
9. 本書に係わる陶磁器(一部)の写真実測図化は株式会社シン技術コンサルに、金属器及び木製品の保存処理は帝京大学山梨文化財研究所にそれぞれ委託した。
10. 発掘調査及び報告書の作成に際し、次の機関及び諸氏からご指導・ご協力を賜った。
厚く感謝申し上げる。
山梨県教育委員会学術文化財課 帝京大学山梨文化財研究所 堀内秀樹 大高正之
林陽一郎 鈴木 稔 畑 大介 宮澤公雄 平野 修 橋原功一

11. 調査・整理作業参加者

青柳 茂	雨宮 英郎	荒木 昭彦	飯谷久美恵	池谷富士子	石川 弘美
磯村 美佳	上島 光子	岡 悦子	長田由美子	小沢 四郎	金井いく代
金子 利雄	川口 格一	岸本 美苗	北原 洋子	倉田 勝子	栗田かず子
栗田 宏一	小池 孝男	小池 幹子	小林 明美	小林 光男	小宮 通子
三枝袈裟男	坂本しのぶ	佐田 金子	佐田 昇	清水 公子	末木 義光
鈴木 正文	鈴木 由香	関本 芳子	高添美智子	高添 陽平	高野真寿美
武井美知子	知見寺照子	塚原 澄子	寺田 恒造	富永 小枝	内藤真千子
中村 孝一	中村 知保	長澤 晴雄	根岸 利昭	花曲 敬子	早川さやか
林 久美子	樋口 進	平出 俊男	平沢 則子	平原 司	藤原 祥子
古屋袈裟男	保坂 邦雄	本道 歌子	本道 政清	三井裕一郎	向井袈裟春
望月貴美子	望月 小枝	望月 典子	望月 秀和	望月 宏美	山崎 雅恵
山田 利三	渡辺 茂	渡辺百合子			(敬称略)

凡 例

1. 遺構・遺物番号は、各遺跡の調査地点単位で通し番号とした。
2. 遺構名は、各遺構の性格や形状に応じて調査当時、各担当者が名称を付した。今後、新たな調査等により全体の把握がなされた場合、変更が生じる可能性がある。
3. 全体図・遺構・遺物実測図の縮尺は、図面上に表示したスケールのとおりである。
4. 図面のスクリーントーンは、図面上に指示してある。

写真図版

- 図版 1 11-12音羽遺跡、11-14上石田遺跡、11-16川田館跡、11-26甲府城下町遺跡
- 図版 2 11-46武田城下町遺跡、11-53緑ヶ丘一丁目遺跡、11-56緑ヶ丘二丁目遺跡、
12-8金塚西遺跡
- 図版 3 12-8金塚西遺跡、12-13甲府城下町遺跡、12-14甲府城下町遺跡
- 図版 4 12-17甲府城下町遺跡、12-44東畑遺跡、出土遺物（11-8大北耕地遺跡、
11-9大坪遺跡）
- 図版 5 出土遺物（11-11大坪遺跡、11-13音羽遺跡、11-14上石田遺跡）
- 図版 6 出土遺物（11-14上石田遺跡、11-15加牟那塚古墳、11-16川田館跡、
11-19甲府城下町遺跡）
- 図版 7 出土遺物（11-19甲府城下町遺跡、11-22甲府城下町遺跡）
- 図版 8 出土遺物（11-22甲府城下町遺跡、11-23甲府城下町遺跡）
- 図版 9 出土遺物（11-23甲府城下町遺跡、11-28塩部遺跡）
- 図版 10 出土遺物（11-28塩部遺跡、11-41武田城下町遺跡、11-51本郷遺跡、
11-53緑ヶ丘一丁目遺跡、11-56緑ヶ丘二丁目遺跡）
- 図版 11 出土遺物（11-56緑ヶ丘二丁目遺跡、12-7音羽遺跡、12-8金塚西遺跡）
- 図版 12 出土遺物（12-8金塚西遺跡、12-13甲府城下町遺跡）
- 図版 13 出土遺物（12-13甲府城下町遺跡）
- 図版 14 出土遺物（12-13甲府城下町遺跡、12-14甲府城下町遺跡）
- 図版 15 出土遺物（12-14甲府城下町遺跡）
- 図版 16 出土遺物（12-14甲府城下町遺跡）
- 図版 17 出土遺物（12-14甲府城下町遺跡）
- 図版 18 出土遺物（12-14甲府城下町遺跡）
- 図版 19 出土遺物（12-14甲府城下町遺跡、12-17甲府城下町遺跡）
- 図版 20 出土遺物（12-17甲府城下町遺跡）
- 図版 21 出土遺物（12-17甲府城下町遺跡）
- 図版 22 出土遺物（12-40天神西遺跡、12-41東光寺遺跡、12-44東畑遺跡、
12-47緑ヶ丘一丁目遺跡）

目 次

序例凡目

目 次

I 平成11年度試掘調査

朝気遺跡	2
銀杏之木遺跡	6
榎田遺跡	8
大北耕地遺跡	11
大坪遺跡	13
音羽遺跡	19
上石田遺跡	22
加平那塚古墳	24
川田館跡	26
甲府城跡	28
甲府城下町遺跡	29
甲府城下町遺跡出土の土器片の分析について	36
幸町A遺跡	52
塩部遺跡	53
十二天遺跡	59
堰添遺跡	60
外河原チクヤ遺跡	61
武田城下町遺跡	63
天神西遺跡	76
中小河原堤防遺跡	77
本郷遺跡	79
本郷B遺跡	83
緑ヶ丘一丁目遺跡	84
緑ヶ丘二丁目遺跡	86
南河原A遺跡	90
宮ノ脇A遺跡	91
横田遺跡	93
和戸町遺跡	94

II 平成12年度試掘調査

朝気遺跡	100
居村村上遺跡	101
大坪遺跡	103
お塚さん古墳	104
音羽遺跡	105
金塚内遺跡	109
上石田遺跡	120
神田遺跡	121
北善光寺A遺跡	122
甲府城下町遺跡	123
武田城下町遺跡	152
天神西遺跡	173
東光寺遺跡	174
西河原遺跡	177
西耕地C遺跡	178
東畑遺跡	186
御崎出遺跡	187
緑ヶ丘一丁目遺跡	188
緑ヶ丘二丁目遺跡	190

平成11年度試掘調査一覧表

No.	遺跡名	掲載No.	所在地	調査原因	種別	備考
1		11-1	朝気三丁目281-2	個人住宅建設	集落跡	
2	朝気遺跡	11-2	朝気一丁目27-3	個人住宅建設	集落跡	
3		11-3	朝気一丁目93-2他	店舗建設	集落跡	
4		11-4	朝気一丁目197-4他	個人住宅建設	集落跡	
5	銀吉之木遺跡	11-5	東光寺二丁目295-1他	集合住宅建設	散布地	
6	横田遺跡	11-6	千原五丁目2918-9	個人住宅建設	散布地	
7		11-7	山宮町3550-1他	宅地造成	散布地	
8	大北耕地遺跡	11-8	大里町地内	区画整理事業	散布地	
9		11-9	横根町字反田443-1他	宅地造成	生産遺跡	
10	大坪遺跡	11-10	横根町字反田455-1	アンテナ建設	生産遺跡	
11		11-11	和戸町916-2他	店舗建設	生産遺跡	
12	音羽遺跡	11-12	音羽町420他	宅地造成・集合住宅建設	散布地	
13		11-13	音羽町389-7	個人住宅建設	散布地	
14	上石田遺跡	11-14	上石田一丁目1301	店舗建設	集落跡	
15	龜田久保田遺跡		川田町字龜田久保田地内他	グラウンド建設	散布地	別冊にて報告予定
16	龜田久保田遺跡		和戸町1253他	道路建設	散布地	別冊にて報告予定
17	桜井畑遺跡		和戸町1256-1	個人住宅建設	包蔵地	別冊にて報告予定
18	加那那塚古墳	11-15	千塚三丁目2437-9	個人住宅建設	古墳	
19	川田館跡	11-16	川田町字北村373-2他	個人住宅建設	城館跡	
20	久保之沢遺跡		下番町町字久保之沢232-1	農道建設	散布地	甲府市文化財調査報告13にて報告済み
21	甲府城跡	11-17	北口二丁目2-42	歯科医院建設	城館跡	
22		11-18	宝一丁目106-1他	病院築造	城下町	
23			北口二丁目1-8他	店舗建設	城下町	甲府市文化財調査報告15にて報告済み
24		11-19	北口二丁目13	店舗併用住宅建設	城下町	
25		11-20	北口三丁目1-1他	電力ケーブル埋設	城下町	
26	甲府城下町遺跡	11-21	丸の内二丁目623他	個人住宅建設	城下町	
27		11-22	中央二丁目373-4他	個人住宅建設	城下町	
28		11-23	北口二丁目12-1	事務所建設	城下町	
29		11-24	宝一丁目165-1	個人住宅建設	城下町	
30		11-25	北口二丁目15-27	電力ケーブル埋設	城下町	
31		11-26	北口三丁目101他	集合住宅建設	城下町	
32	幸町A遺跡	11-27	幸町2673-4	個人住宅建設	包蔵地	
33	塩部遺跡	11-28	飯田一丁目2356-1他	貸事務所建設	包蔵地	
34		11-29	飯田一丁目2328他	倉庫建設	包蔵地	
35	十二天遺跡	11-30	小松町496-1	個人住宅建設	散布地	
36	積翠寺泉道試掘		上積翠寺町地内	泉道建設	散布地	
37	塚添遺跡	11-31	高原町1163他	倉庫建設	散布地	
38	外河原ダケヤ遺跡	11-32	蓬沢町成木の995-3他	鉄塔建設	散布地	
39		11-33	増坪町445-6他	店舗建設	散布地	
40	武田兵館跡		古府中町字高柳3575-1 (第62次)	個人住宅建設	城館跡	甲府市文化財調査報告23にて報告済み
41			古府中町2777-2他 (第63次)	スポーツ公園整備	城館跡	
42		11-34	古府中町3006-1他	個人住宅増築	城下町	
43		11-35	武田二丁目2425	個人住宅建設	城下町	
44		11-36	屋形三丁目2476	集合住宅建設	城下町	
45		11-37	屋形二丁目2411-7他	集合住宅建設	城下町	
46		11-38	屋形二丁目2289-1他	宅地造成	城下町	
47		11-39	屋形二丁目2357-1	個人住宅建設	城下町	
48		11-40	屋形二丁目2350-1他	個人住宅建設	城下町	
49	武田城下町遺跡	11-41	天神町148-1他	集合住宅建設	城下町	
50		11-42	屋形二丁目2318-1他	集合住宅建設	城下町	
51		11-43	大手一丁目4405	個人住宅建設	城下町	
52		11-44	武田三丁目448他	個人住宅建設	城下町	
53		11-45	古府中町998-1他	個人住宅建設	城下町	
54		11-46	大手一丁目4610-4他	宅地造成・個人住宅建設	城下町	
55			大手一丁目4539-1	宅地造成	城下町	甲府市文化財調査報告17にて報告済み
56	天神西遺跡	11-47	千塚四丁目3155-1	個人住宅建設	散布地	
57	中小河原堤防遺跡	11-48	中小河原町1609-2他	宅地造成	包蔵地	
58		11-49	善光寺三丁目2445-11	個人住宅建設	包蔵地	
59	本郷遺跡	11-50	善光寺三丁目2445-69	個人住宅建設	包蔵地	
60		11-51	善光寺三丁目1935-1	個人住宅建設	包蔵地	
61	本郷B遺跡	11-52	善光寺三丁目1917-1	個人住宅建設	散布地	
62	緑ヶ丘一丁目遺跡	11-53	緑ヶ丘一丁目74-6	個人住宅建設	散布地	
63		11-54	緑ヶ丘二丁目138-10他	個人住宅建設	散布地	
64		11-55	緑ヶ丘二丁目897-4	個人住宅建設	散布地	
65		11-56	緑ヶ丘二丁目771-20他	保育園建設	散布地	
66	南河原A遺跡	11-57	富竹四丁目980-1	宅地造成	散布地	
67	宮ノ脇A遺跡	11-58	善光寺二丁目2752-1	個人住宅建設	散布地	
68	横田遺跡	11-59	桜井町字横田420-5他	個人住宅・作業場建設	散布地	
69	和戸町遺跡	11-60	和戸町730-2他	住宅展示場建設		

平成11年度立会調査一覧表

No.	遺跡名	所在地	調査原因	種別	備考
1	銀舌之本遺跡	東光寺二・三丁目地内	公共下水道管布設	散布地	
2	亥ノ兎遺跡	東光寺三丁目4-728他	個人住宅建設	散布地	
3	天坪遺跡	横根町565-1	個人住宅建設	生産遺跡	
4	大土井遺跡	上町地内	公共下水道管布設	散布地	
5	宮羽遺跡	千塚一丁目321-1他	宅地造成	散布地	
6		千塚一丁目321-3他	宅地造成	散布地	
7	金塚西遺跡	千塚三・五丁目地内	公園造成	散布地	
8	上沢遺跡	下那智町字上組	農道建設	散布地	
9		丸の内一丁目199	高圧地上機器移設	城館跡	教教委対応
10		丸の内一丁目6-1他	電源空線設	城館跡	
11		丸の内地内	ガードレール設置	城館跡	
12	甲府城跡	丸の内一丁目9-17	地中ケーブル撤去	城館跡	
13		丸の内一丁目2-4	電力ケーブル埋設	城館跡	
14		丸の内一丁目地内	駐輪場造成	城館跡	
15		丸の内一丁目6-1	アース埋理設	城館跡	
16		相生二丁目2-17	商工会議所会館建設	城下町	
17		中央四丁目317	個人住宅建設	城下町	
18		中央四丁目195他	集合住宅建設	城下町	
19		中央二丁目105	個人住宅建設	城下町	
20		丸の内一丁目14-449他	倉庫建設	城下町	
21		丸の内三丁目549	個人住宅建設	城下町	
22		中央一丁目11	防火水槽設置	城下町	
23	甲府城下町遺跡	中央四丁目240-2他	事務所建設	城下町	
24		丸の内二丁目66	個人住宅建設	城下町	
25		元紺屋町2	個人住宅建設	城下町	
26		丸の内二丁目224	事務所建設	城下町	
27		中央二丁目579	店舗併用住宅建設	城下町	
28		朝日三丁目239他	店舗増築地設	城下町	
29		北口三丁目176	個人住宅建設	城下町	
30		城東二丁目245	事務所建設	城下町	
31	桜井塚遺跡	川田町603-2	個人住宅建設	包蔵地	
32	桜林八遺跡	大里町地内	公共下水道管布設	散布地	
33	塩部遺跡	塩部一丁目431	幼稚園増設	包蔵地	
34	地蔵北・堀下遺跡	東光寺三丁目・東光寺町地内	公共下水道管布設	散布地	
35	地蔵北遺跡	東光寺三丁目地内	公共下水道管布設	散布地	
36	十二天遺跡	和田町・小松町地内	公共下水道管布設	散布地	
37		和田町・小松町地内	公共下水道管布設	散布地	
38	外河原デクヤ遺跡	増坪町地内	公共下水道管布設	散布地	
39	外中代遺跡	川田町字外中代556-1	個人住宅建設	集落跡	
40		古府中町6028-3	個人住宅建設	城下町	
41		武田一丁目109他	個人住宅改築	城下町	
42		屋形二丁目2357-10	個人住宅建設	城下町	
43		屋形二丁目2367-6	個人住宅建設	城下町	
44		屋形二丁目2367-11	個人住宅建設	城下町	
45	武田城下町遺跡	元紺屋町59-1	個人住宅建設	城下町	
46		屋形二丁目2367-13	個人住宅建設	城下町	
47		天神町83	個人住宅増築	城下町	
48		屋形二丁目2357-9	個人住宅建設	城下町	
49		屋形二丁目2357-7	個人住宅建設	城下町	
50		屋形二丁目2357-17	個人住宅建設	城下町	
51	天神平遺跡・羽黒無名墳	羽黒町地内	公共下水道管布設	散布地・古墳	
52	西橋地A・西橋地B遺跡	大里町地内	公共下水道管布設	散布地	
53	西橋地C遺跡	大里町地内	公共下水道管布設	散布地	
54	平石遺跡	荒川二丁目地内	公共下水道管布設	散布地	
55	園之上遺跡	蓬沢一丁目826-2	個人住宅建設	散布地	
56	南河原C・南河原D遺跡	富竹四丁目地内	公共下水道管布設	散布地	
57	山之神遺跡	山宮町地内	公共下水道管布設	城館跡	
58	菅宮前遺跡	羽黒町地内	公共下水道管布設	散布地	

平成11年度慎重工事一覧表

No.	遺跡名	所在地	調査原因	種別	備考
1		千塚五丁目3077-8	個人住宅建設	散布地	
2	覆田遺跡	千塚五丁目3077-13	個人住宅建設	散布地	
3		千塚五丁目3077-6	個人住宅建設	散布地	
4		千塚五丁目3077-9	個人住宅建設	散布地	
5	亥ノ兎遺跡	東光寺三丁目4-719	個人住宅建設	散布地	



図1 平成11年度調査位置図(1)

0 3000m



図2 平成11年度調査位置図(2)



I. 平成11年度 試掘調査

11-1 朝気遺跡

調査位置 甲府市朝気三丁目281-2
調査原因 個人住宅建設
対象面積 346.27㎡
調査面積 3㎡
調査期間 平成11年6月1日
調査担当 佐々木 満



調査の概要

本地点は、朝気遺跡包蔵地範囲の南端部に位置し、個人住宅の増築に伴い試掘調査を実施した。調査区は1.5m四方のグリッドを1箇所設定し、掘削に着手したが、地表下約50cmまで既存建物建設時の盛土層が確認された。盛土層直下では、宅地造成前まで使用されていたと考えられる水田跡が確認されたが、それより下層は洪水時の堆積とみられる砂層が続いていた。部分的に深く掘り下げて確認を試みたが、シルト層と砂層の互層が検出されるのみで、遺構・遺物などは確認されなかった。

まとめ

朝気遺跡では、これまで数次にわたり調査が行われているが、遺跡が確認される範囲は、包蔵地範囲中央部周辺に集中する傾向にあり、本地点を含む南側一帯の遺跡密度は、極めて薄いものと考えられる。

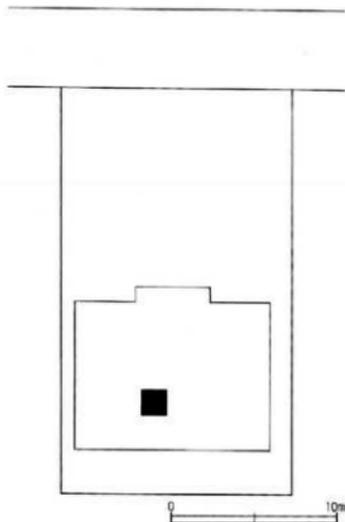


図3 試掘坑配置図



調査状況

11-2 朝氣遺跡

調査位置 甲府市朝氣一丁目27-3
調査原因 個人住宅建設
対象面積 80㎡
調査面積 4㎡
調査期間 平成11年7月6日
調査担当 伊藤正彦

遺跡の概要

本遺跡は、盆地中央部に位置し、濁川と荒川に挟まれた沖積地に広がる。これまで校舎・市道建設など開発に先立つ調査により、古墳時代から平安時代を中心に、多数の遺構・遺物が確認され、良好な資料を得ている。調査地点は遺跡の北西端、標高258mを測る住宅地であり、一帯は近年、開発され宅地・店舗の密集する市街地と化している。

調査の概要

対象地に2ヵ所の試掘坑（1m×2m）を設定し、人力により調査を行った。いずれの試掘坑も地表下70cmまで掘り下げを行った。旧建物解体に伴う攪乱が表層に確認されたが、その下層は安定した層序となり、上層から灰色土層（水田耕作土）・褐色砂質土層（水田床土）・灰色砂質土層が堆積する。調査に際し、遺構・遺物ともに確認できなかった。

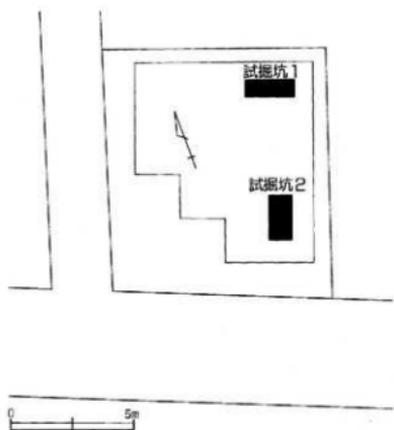


図4 試掘坑配置図



試掘坑 1



試掘坑 2

11-3 朝気遺跡

調査位置 甲府市朝気一丁目93-2 他
 調査原因 店舗建設
 対象面積 482.17㎡
 調査面積 24㎡
 調査期間 平成11年11月9日～10日
 調査担当 平塚洋一



遺跡の概要

本遺跡は古くは東小学校校庭遺跡として山梨県遺跡地名表に記載された。しかし、同遺跡の範囲は広範囲におよぶため、朝気遺跡と改称され東小学校校庭を中心とした周辺において発掘調査が実施されてきた。

調査の結果

予定地に2×12mの試掘トレンチを設定し、地表から重機と人力によって掘り下げ埋蔵文化財を調査した。現地表から80cm下層まで昭和時代の瀬戸産陶磁器が大量に廃棄されていた。またそれより下層は自然堆積土が確認された。

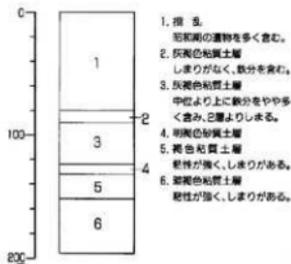


図6 土層柱状図

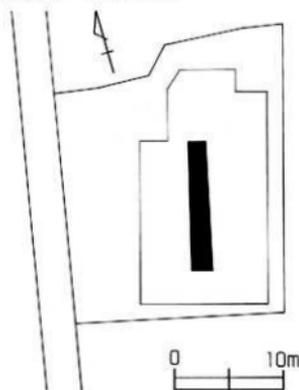


図5 試掘坑配置図

周辺の聴き取り調査によると、第2次大戦の戦災処理に埋めたものと聞いた。

まとめ

今回の調査では古墳時代を中心とする朝気遺跡の遺構・遺物を確認できなかった。しかし、東小学校の敷地を中心に周辺の発掘調査で貴重な発見が相次いでいる。今後の開発にも注意をするべき遺跡である。



調査状況

11-4 朝氣遺跡

調査位置 甲府市朝氣一丁目197-4 他
 調査原因 個人住宅建設
 対象面積 164.35㎡
 調査面積 8㎡
 調査期間 平成12年3月31日～4月5日
 調査担当 伊藤正彦



遺跡の概要

本遺跡は、盆地中央部に位置し、濁川と荒川に挟まれた沖積地に広がる。これまで校舎・市道建設など開発に先立つ調査により、古墳時から平安時代を中心に、多数の遺構・遺物が確認され、良好な資料を得ている。調査地点は遺跡の北側、標高257mを測る住宅地であり、一帯は近年、開発され宅地・店舗の密集する市街地と化している。

調査の概要

対象地に2カ所の試掘坑(2m×2m)を設定し、人力により調査を行った。いずれの試掘坑も地表下70cmまで掘り下げを行った。建物解体に伴う攪乱が表層に確認されたが、下層は安定した層序をなしていた。調査により遺構は確認できず、3～4層から遺物を数点確認したのみであった。

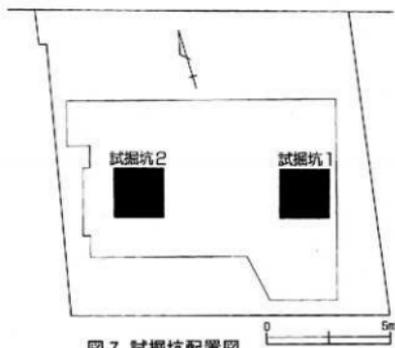


図7 試掘坑配置図

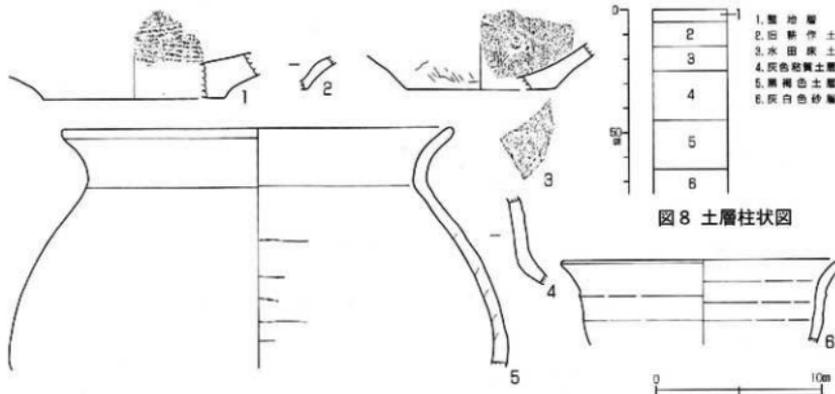


図8 土層柱状図

図9 出土遺物

11-5 銀杏の木遺跡

調査位置 甲府市東光寺二丁目295-1 他
調査原因 集合住宅建設
対象面積 1064.77㎡
調査面積 74㎡
調査期間 平成11年11月10日～11月17日
調査担当 志村憲一



遺跡の概要

当遺跡は北原扇状地の中央部を流れる高倉川右岸、標高約261m立地する平安から近世にかけての遺跡である。近隣には宮裏遺跡、宮の脇B遺跡など平安時代の遺跡が多く見られる地域である。

調査の概要

6箇所のグリッドを設定し、深さは各地点40～60cm、地山層まで掘削を行った。調査区は北から南側へ緩やかに傾斜している。各グリッドの推積状況はほぼ均一である。基本土層は、第1層の表土層が約20cm堆積し、第2層は厚さ10～20cmの暗褐色土であり、時期不明の遺物を含む。第3層は厚さ20～30cmの黒褐色土で、古墳時代の遺物が検出されている。

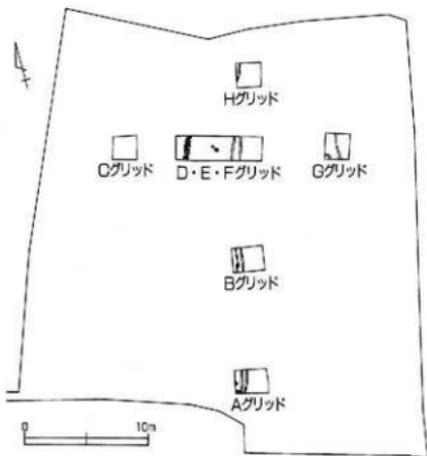


図10 試掘坑配置図

遺構と遺物

調査区の中央部A・B・F・Hグリッド

下からは幅50cm前後、深さ約10cmの南北方向の溝が検出された。基本土層の第2層の下部に位置し、溝内からは中世の瀬戸美濃系陶器が検出された。Dグリッドでは溝と平行する幅40cmの暗渠が確認され、径15cm前後の自然石が充填されている。表土層の下層に位置することから考えて、近世から近代にかけて構築されたものと考えられる。径20cm、深さ10cmと径30cm、深さ28cmのピットが確認されている。Gグリッドでは、深さ約10cmの落ち込みとピットが1基検出された。

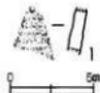


図11 出土遺物

まとめ

遺物はほとんどが表土層から検出されているが、耕作等により攪乱を受けたものと考えられる。検出された南北方向の溝は、出土遺物の時期から16世紀代の遺構と考えられる。調査区南側に現存する水路とはほぼ同軸線上の延長にあることから、現在の地割は中世から引き続いている可能性が考えられる。



出土遺物

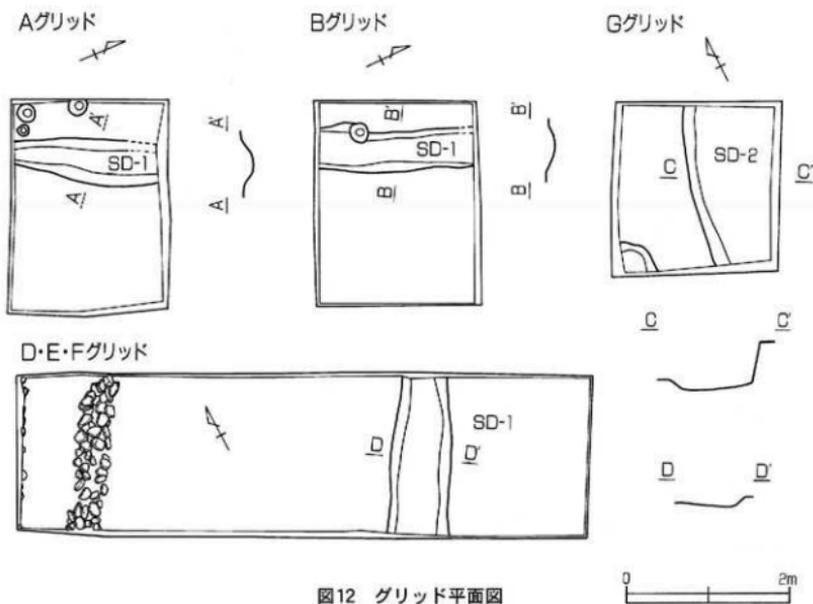


図12 グリッド平面図



11-6 榎田遺跡

調査位置 甲府市千塚五丁目2918-9
調査原因 個人住宅建設
対象面積 236.24㎡
調査面積 10㎡
調査期間 平成11年5月28日、6月2日
調査担当 伊藤正彦

遺跡の概要

本遺跡は、盆地北部に位置し、市城西部を流下する荒川の左岸微高地に広がっている。周辺に多数の遺跡が確認され、山麓には後期古墳が群集する遺跡密集地である。過去、当遺跡からは弥生時代後期から平安時代に及ぶ遺構・遺物が検出されており、該期の集落の一端が明らかとなっている。調査地は遺跡の北側、標高304mを測る住宅地である。近年、開発が進み宅地の密集する住宅街と化している。

調査の概要

対象地に試掘坑（1m×3m）を設定し、人力により掘り下げた。地表下40cmまではすでに攪乱を受けており、地表下70cmで礫層となるが、涌水のためそれ以上の調査は断念した。後日、工事に際し立会を行ったが、地表下50cmで黄褐色砂質土中に礫が多量に混じる状況であったが、一部に安定した黒色土の堆積が見られた。調査により遺構は確認できず、土師器小片を数点確認したのみであった。

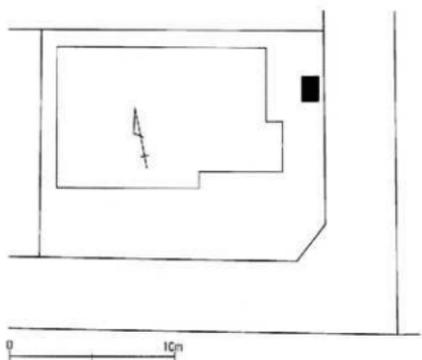


図13 試掘坑配置図



調査状況

11-7 榎田遺跡

調査位置 甲府市山宮町3559-1 他
 調査原因 宅地造成
 対象面積 2,300㎡
 調査面積 36㎡
 調査期間 平成11年6月29日～7月23日
 調査担当 伊藤正幸



調査の概要

今回の調査地点は開発面積が2,000㎡を超え、一部が榎田遺跡の範囲に接していたため、埋蔵文化財包蔵地と同様に扱い、開発前に試掘確認調査を実施した。荒川左岸の扇状地上、標高307mに位置する。調査地は周囲より若干低い様子が地形図から読み取れる。平成4年度に山梨県埋蔵文化財センターで調査を行った榎田遺跡は、今回の調査地から300mほど南の舌状台地上に位置する。

調査は2m四方の試掘坑を9ヵ所設定し、地山面まで掘り下げ遺構・遺物の検出を行った。

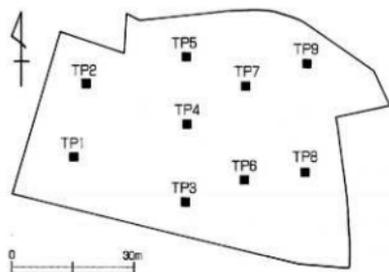
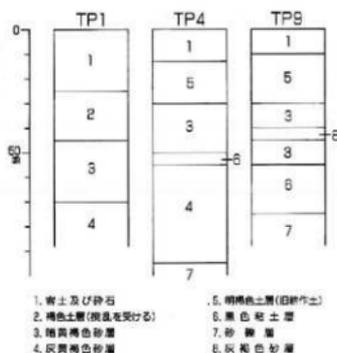


図14 試掘坑配置図

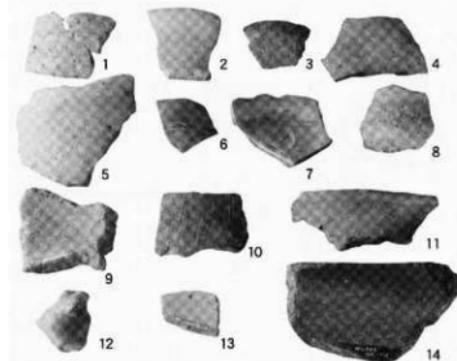
客土の運び込みが厚く、-50cmに達する試掘坑も確認できた。その下層は砂が堆積していて、この砂層が地山まで至る。地山までの深さは90cm程で、拳大の礫を多量に含む砂混じりの灰黄褐色土層である。遺構が確認された試掘坑はなく、遺物も古墳時代の土器の小破片が若干出土した程度である。



1. 客土及び砂石
2. 褐色土層(礫混じりを受ける)
3. 灰黄褐色砂層
4. 灰黄褐色砂層
5. 明褐色土層(旧耕作土)
6. 黒色粘土層
7. 砂層
8. 灰褐色砂層

※ 全体的に4層中級まで混入が入り、一部は7層(地山)面上まで至る。

図15 土層柱状図



出土遺物



調査状況



調査状況



調査状況



調査状況

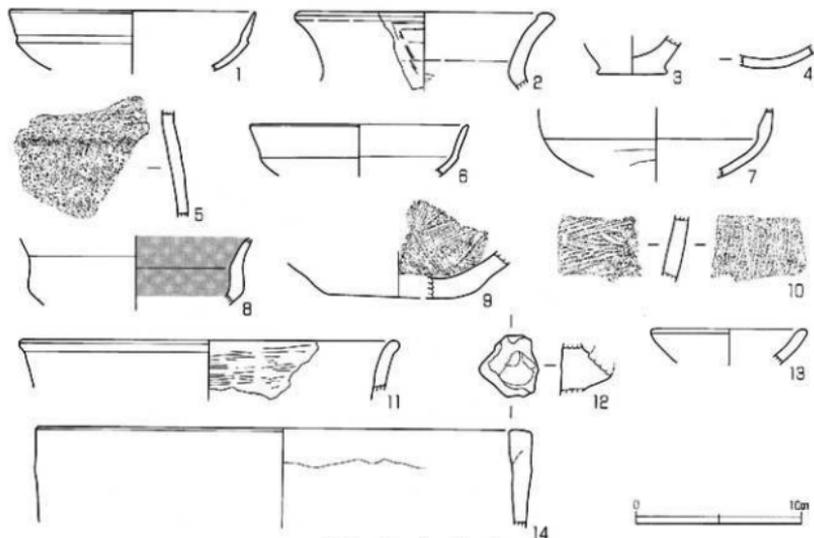


図16 出土遺物

11-8 大北耕地遺跡

調査位置 甲府市大里町地内
調査原因 区画整理事業
対象面積 188,227.89㎡
調査面積 400㎡
調査期間 平成11年12月16日～
平成12年1月26日
調査担当 伊藤正幸



調査の概要

大里町区画整理事業に伴い、昨年度から継続して事業地全体を対象とした試掘確認調査を実施している。今年度は、昨年度中に農地の耕作等により調査できなかった部分を、2m四方の試掘坑を中心に、可能な場所では幅2mの溝状に設定しながら、延べ400㎡の調査を実施した。

なお、昨年度の調査では『西耕地C遺跡』として報告したが、今回は福泉寺を中心とする大北耕地遺跡周辺の調査であったため、大北耕地遺跡として報告するものである。

調査の方法

大里北団地の西側一帯の調査は、2m四方の試掘坑28個及び幅2m長さ12mの試掘坑（TR2）を設定して実施した。全体が畑地で全体的には耕作土を除去すると砂粒子を多

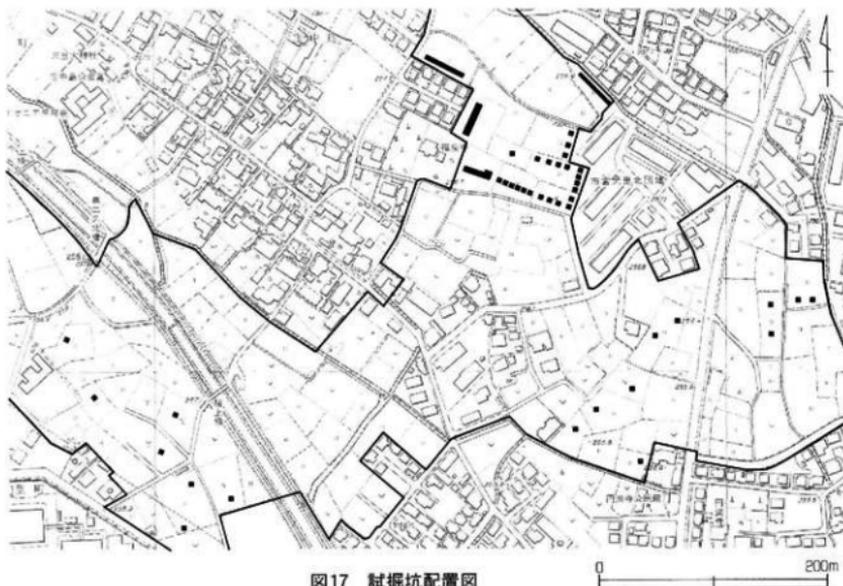


図17 試掘坑配置図

く含む黄褐色土層が40乃至70cmの深さで続き、白色の粗粒砂層に至る。TR 2中に桶を8段重ねた形の井戸跡と思われる桶組が一基確認された。最下部までの深さは165cmを測るが帯水層には達せず、2個の桶には『川口屋』の焼判が押されていた。この桶組以外に確認された遺構はなく、遺物も時代を特定することができないような小破片が若干検出した程度である。

大里北団地南側一帯も砂質土層が堆積し、-100cmを超えると湧水面に至る。全体的に礫の混入もなく、遺物の検出も散漫であった。

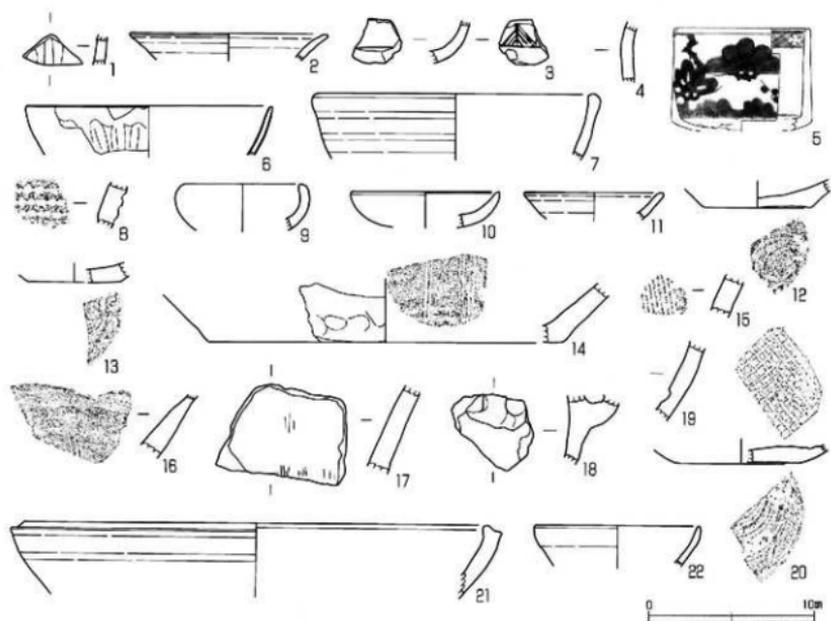


図18 出土遺物

11-9 大坪遺跡

調査位置 甲府市横根町字反田443-1 他
調査原因 宅地造成
対象面積 1922.54㎡
調査面積 202㎡
調査期間 平成11年5月12日～5月25日
調査担当 伊藤正幸

調査地の概要

十郎川の左岸、標高240mに位置する。昭和57年度に十郎川の河川改修工事に伴い出土した多量の土器の中に『甲斐国山梨郡表門』と刻書された土器が出土した地点が今回の調査地のすぐ西側にあたる。今回は宅地造成工事に先立つ試掘確認調査を実施した。

調査の概要

調査地に4本の試掘坑（TR1・2・3及び6）と2カ所のテストピット（TP1及び2）を設定し、必要に応じて拡張を行った結果、最終的には試掘坑6本とテストピット4カ所、延べ101mの調査地を設定した。このうちTR4は暗渠排水路が南壁に露出し調査不能となったため、実際の調査面積は184㎡である。

基本層序としてはTR1西壁に見られるように、Ⅲ層の黄褐色土層を掘りこみ遺構を構築し、Ⅳ層の黒色粘土層まで部分的にはあるが遺物が包含されている。

検出された遺構

TR1南端部からTR2東端部にかけて溝跡(SD1)が1条確認された。幅3m、長さ5.5mの規模で確認したが、赤褐色粗粒砂層を掘りこみ、覆土も砂層であったため、壁面及び底面は不鮮明であった。

検出された遺物

出土した遺物は調査地西側（TR5西端及びTP3）に集中していた。現地表から25～30cmほどの深さで、奈良・平安時代の遺物が混在していた。器形としては坏・及び高坏、甕等が確認できたが、いずれも破片で、遺構に伴うものや層位的に捉えられる遺物がなかったため、耕作の際に攪乱されたものと思われる。

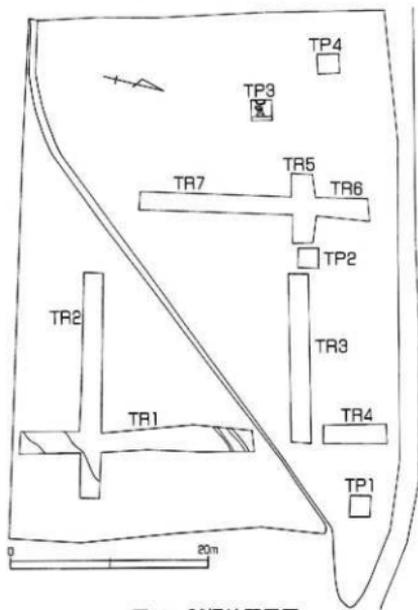


図19 試掘坑配置図

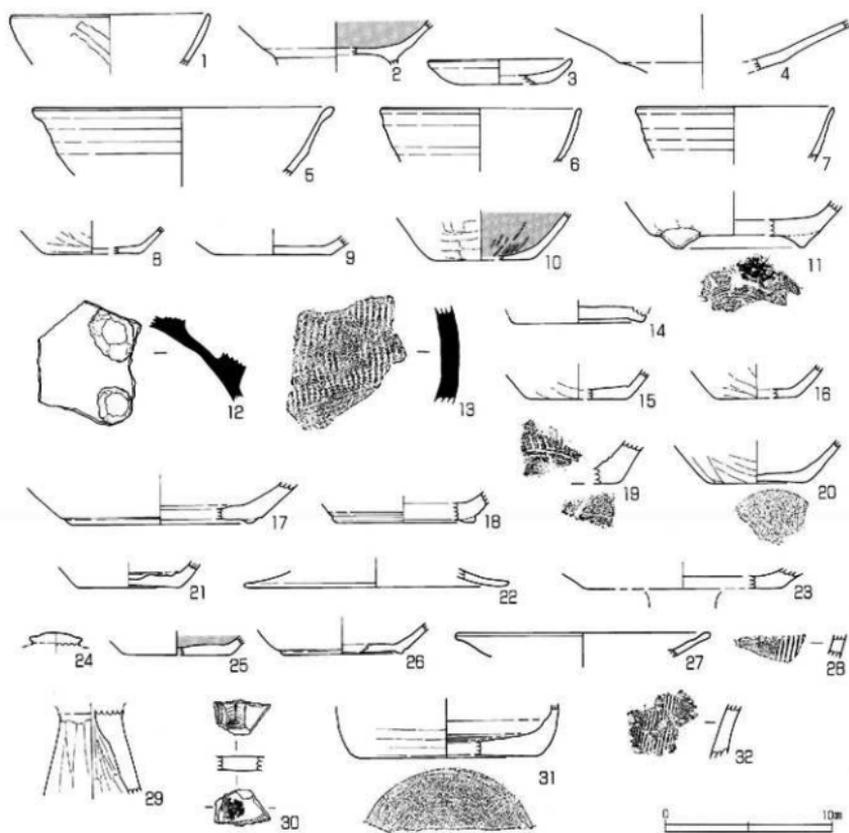


图20 出土遗物

11-10 大坪遺跡

調査位置 甲府市横根町字反田455-1
調査原因 アンテナ建設
対象面積 495.89㎡
調査面積 8.4㎡
調査期間 平成11年11月11日
調査担当 伊藤正彦

調査地点

本遺跡は盆地北部、本市東部郊外に広がる。当遺跡は、これまで幾度となく発掘調査が実施され、古墳～平安時代にいたる集落・土器生産遺跡であり、該期の拠点集落であることが判明している。調査地点は濁川左岸の標高約260mに位置する。

調査の概要

対象地に試掘坑（1.2m×7m）を設定し、重機・人力により地表下1.5mまで掘り下げた。上層に碎石が厚く堆積し、それ以下に茶褐色土層（水田床土）・灰色砂層・黒色粘質土・青灰色粘質土が堆積する。調査により遺物・遺構は検出できなかった。

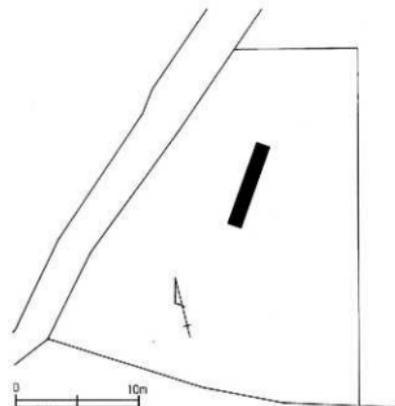
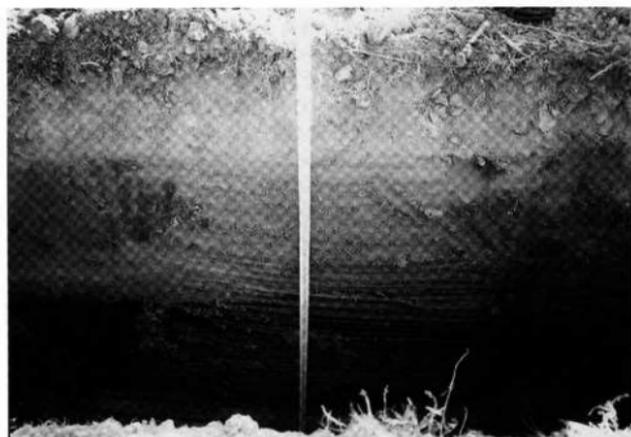


図21 試掘坑配置図



土層堆積状況

11-11 大坪遺跡

調査位置 甲府市和戸町916-2 他
調査原因 店舗建設
対象面積 1602.96㎡
調査面積 90㎡
調査期間 平成12年1月12日～1月18日
調査担当 志村憲一

遺跡の概要

本遺跡は、甲府盆地北縁部の十郎川沖積地上の標高約260m地点に位置する古墳～平安時代にかけての集落・生産遺跡である。遺跡北方の山裾には6世紀代の横根・桜井積石塚古墳群が存在し、その南側には県指定文化財の小金銅仏が出土した東畑遺跡が広がる、古墳～平安時代にかけての遺跡が多く見られる地域である。調査区は遺跡南端に位置し、現状は平坦面である。

調査の概要

調査区域にA～Hの8箇所にトレンチを設定し、地表下1.2～2mまで掘削を行った。

調査区北側のBトレンチ以外からは遺構・遺物ともに確認されていないが、AT層が調査区東側のAトレンチでは地表下1.9m、F～Gトレンチでは地表下1.3～1.4m地点から検出されている。

Bトレンチは部分的に拡張し、22㎡掘削を行った。この場所からは棒状と板状の加工された木材と、古墳時代中期(5世紀前葉)に位置付けられる土師器が、地表下1～1.5mの灰色粘土層から検出された。トレンチ南側では、幅10～30cm、厚さ1.5cmほどの板材を打ち込んだ、径約80cmの不整形を呈する遺構が確認された。内部からは壺(1)、台付甕脚部(2)が出土した。この遺構の北東側1m地点には、数本打ち込まれた杭に添い長さ1.65m、幅3～4cm、高さ20cmの板材が確認された。この遺構周辺からは高坏(6)、丸底壺(9)、小型土器(10)が出土している。またトレンチ北側からは、長さ10～170cmの棒状の木材が不規則に折り重なり横たわり、近辺からは遺物が多数出土した。遺物はいずれも古墳時代5世紀前葉の土師器であることから、検出された遺構及び木材も同時期のものと考えられる。

まとめ

調査区は現状平坦面であるが、旧地形は東と南側へ傾斜していたものと考えられる。遺構・遺物の検出はBトレンチのみであり、遺構が検出された灰色粘土層は砂分の水平推移が数条見られることから、5世紀前葉に水辺に存在していた遺構の可能性が考えられる。

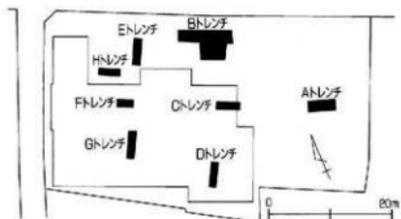


図22 試掘坑配置図

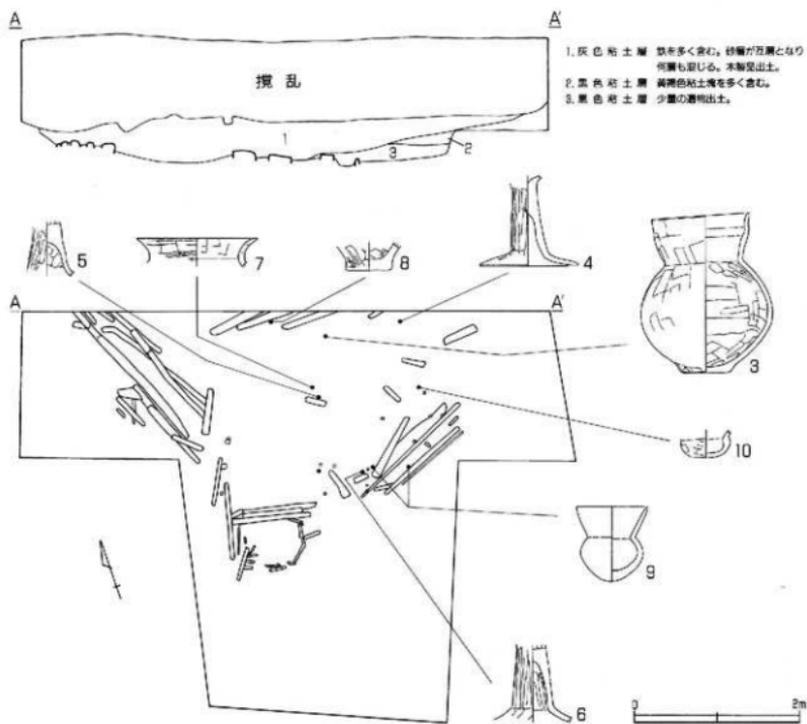


図23 Bトレンチ遺物出土状況・土層堆積図



遺構検出状況



板状木製品出土状況

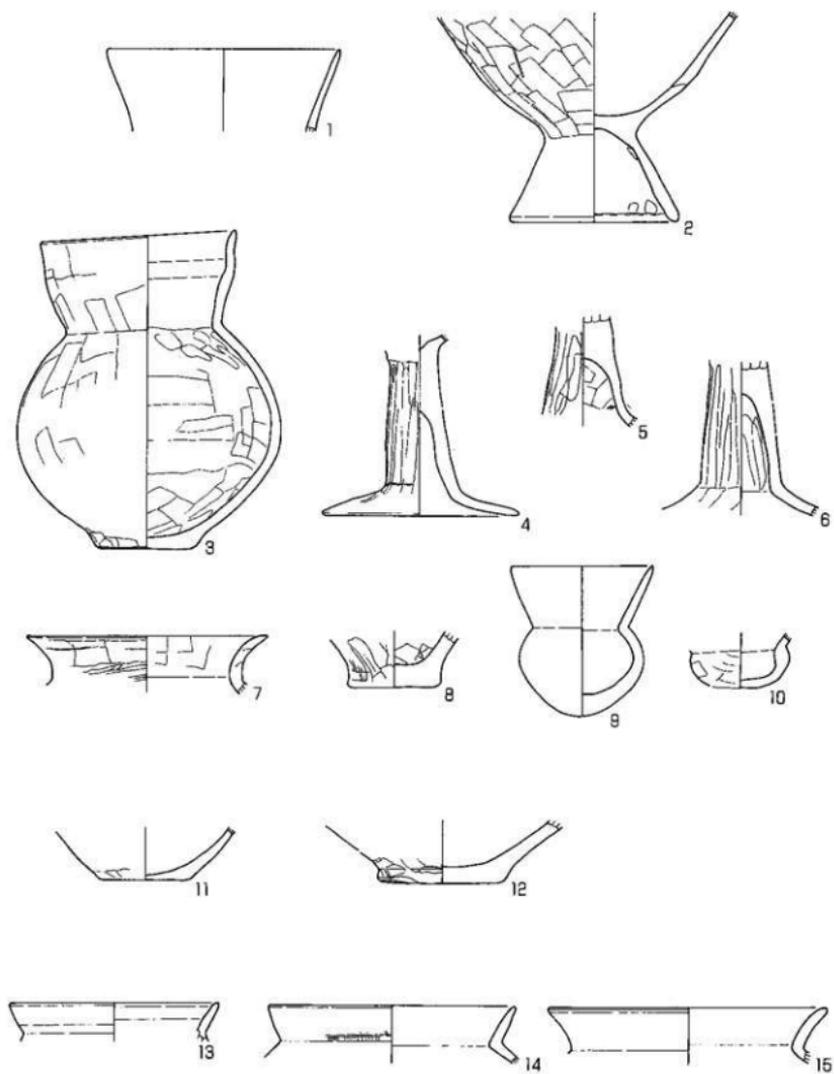


图24 出土遺物

11-12 音羽遺跡

調査位置 甲府市音羽町420 他
 調査原因 宅地造成・集合住宅建設
 対象面積 2493.11㎡
 調査面積 50㎡
 調査期間 平成11年11月2日～11月16日
 調査担当 伊藤正幸



遺跡の概要

本市千塚から富士見に至る荒川左岸扇状地上に、微高地が数多く確認できる。これら微高地上にこれまで調査を行った米草・榎田・音羽遺跡以外にも古墳時代を中心とする多くの遺跡が存在する。さらに一帯に河川の氾濫に備えた治水遺跡（かすみ堤）も多く存在する。調査地は本遺跡の南西に位置し、標高280mを測る水田である。なおTR1とTR2は約80cmの段差があり、南側に設定したTR1が低地となる。

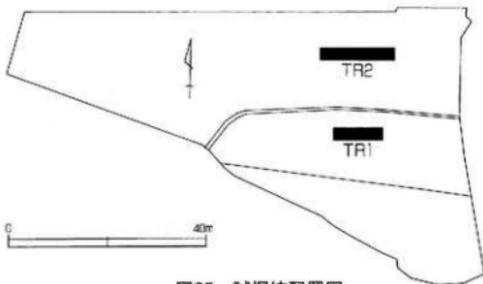


図25 試掘坑配置図

調査の概要

幅2mの試掘坑を延べ25m設定し、部分的に深掘りを行い、地下の状況を把握した。

TR1の概要 西端部分から深さ30cmの掘り込みが存在し、長辺が30cm前後の自然礫及び若干の遺物を検出している。中央部以東からは、遺物が若干出土したにとどまる。

西端は65cmの覆土を除去すると褐色土(15cm)が堆積し、この下層から掘り込みが確認された。深さ30cmを測り、覆土は黒色土及び褐色土の混合土層である。石製品が1点及び古墳時代の土器が出土している。東側の立ち上がりは確認されず、自然地形の可能性が強い。

TR2の概要 東から10mまでは、灰白色砂層(-40乃至70cm)面に長径20cm前後の礫及び若干の焼土が混じり、深さ20cm前後の不明確な掘りこみが確認された。それより西方は、色調の差があるもの-35cmで粗粒砂層に至り遺構の検出量も微量であった。



図26 出土遺物



出土遺物



調査状況 (TR1)

11-13 音羽遺跡

調査位置 甲府市音羽町389-7
調査原因 個人住宅建設
対象面積 265.13㎡
調査面積 10㎡
調査期間 平成11年12月2日～12月3日
調査担当 志村憲一



遺跡の概要

音羽遺跡は、荒川左岸の河岸段丘上の標高286mに位置する弥生時代～平安時代にかけての散布地である。調査区東側100m地点では、平成4・5年度山梨県埋蔵文化財センターが調査を実施し、弥生時代後期から平安時代の住居跡が28軒と古墳時代前期の方形周溝墓4基が検出された。

調査の概要

調査区域内に2m四方のグリッド(A・B)と南北2×1.5mのCグリッドを設定し、地表下0.8～1.2mまで掘削を行った。基本土層として地表下50cmまでは、第1層の灰色土層と第2層の黄灰褐色土層であり旧水田層である。その下層の第3層は褐色土層であり、厚さ26～80cmある。炭化物と少量の土器が検出されている。第4層は暗褐色土層であり厚さ20cm前後ある。古墳時代の遺物が多く検出されている。

調査区からは、平安時代前期の甲斐型土器(2～4・6)と土師器甕、須恵器甕・蓋・壺・碗が出土した。特に調査区南東隅のCグリッドの地表下約1m地点の第4層上面からは、大量の炭化物に伴い土師器・須恵器が集中して検出された。

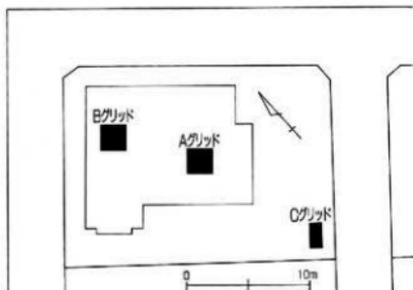


図27 試掘坑配置図

まとめ

調査区は狭隘なため全体像を捕らえることは困難であるが、現状の地表下1m地点には9世紀前半の住居址等の遺構が存在することが考えられる。今回の住宅工事における基礎掘削は、地表下0.5m地点であるため、遺構面には影響を及ぼさないと判断し、調査は終了した。

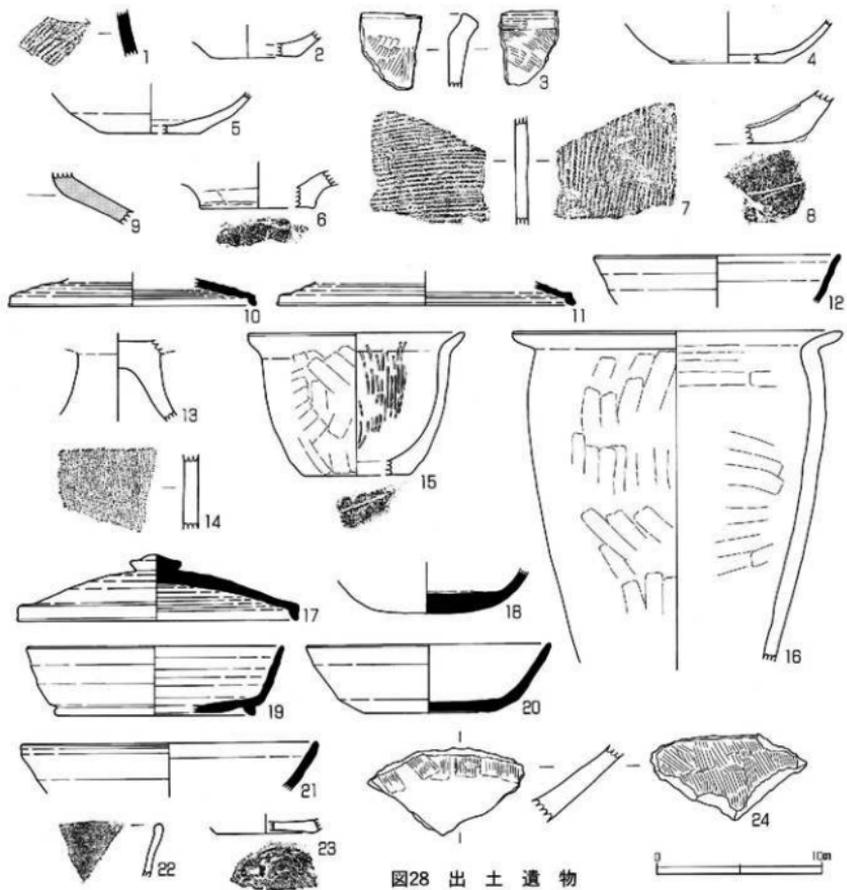
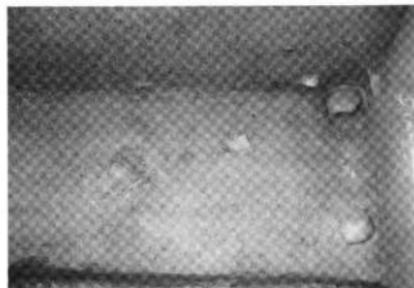


図28 出土遺物



Bグリッド



Cグリッド

11-14 上石田遺跡

調査位置	甲府市上石田三丁目1301
調査原因	店舗建設
対象面積	365.84㎡
調査面積	10㎡
調査期間	平成11年11月4日～11月9日
調査担当	志村 憲一



遺跡の概要

調査区は荒川の右岸標高264mの微高地、遺跡範囲のほぼ中央部に位置する。当遺跡は昭和47年に東側30m地点において発掘調査が実施され、縄文時代中期後半の遺物と、住居址3基・石囲い土抗墓などの遺構が検出されている。

調査の概要

建設予定地2箇所を掘削した。Aグリッドは3×2m、Bグリッドは2m四方である。両地点とも0.7m掘削を行った。

基本土層は、調査区は平坦地である。Aグリッドの2・3層、Bグリッドの2～4層は水田層である。Aグリッドの第4層は溝跡である。両グリッドの第5層は遺物包含層であり、縄文・古墳・平安・中世の遺物が検出されている。

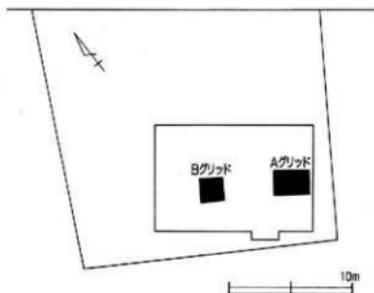


図29 試掘坑配置図

遺構・遺物の検出状況

Aグリッド 東西3×2m、地表下約0.7mまで掘削した。南北方向の溝が確認され、南壁のセクションでは幅1.1m、深さ0.34mである。覆土は灰色土であり砂分の推積が少量見られることから、水が流れていた可能性が考えられる。また構内からは中国製青磁碗(1)が出土した。地表下0.7mの第5層の底部からは径10～40cmのビットが10基確認された。また同一面からは平安期の甲斐型土器(5～8)が出土している。その他縄文時代の曾利式土器深鉢(2～4)や磨石(14・15)が検出された。

Bグリッド 2m四方であり、地表下約0.7mまで掘削した。北側では地表下0.4mから深さ0.3mの落ち込みが確認された。この落ち込み部分は灰褐色土であり、炭化物を少量含む。さらに縄文(11)・平安期の遺物が出土している。また南側部分からは径25cm、深さ30cmのビットが1基検出された。

まとめ

上石田遺跡の調査事例は、昭和47年の調査以降初めてである。今回の調査は、試掘調査であり極めて狭隘な範囲の掘削のため遺構の全体像を解明することは不可能であったが、平安期の遺物の出土量から推察するに、周辺には9世紀代の住居址が存在する可能性が考えられる。また中世の遺構・遺物が検出されたことにより、甲府盆地中央部における平安時代以降の土地利用の一端を垣間見ることができる遺跡である。

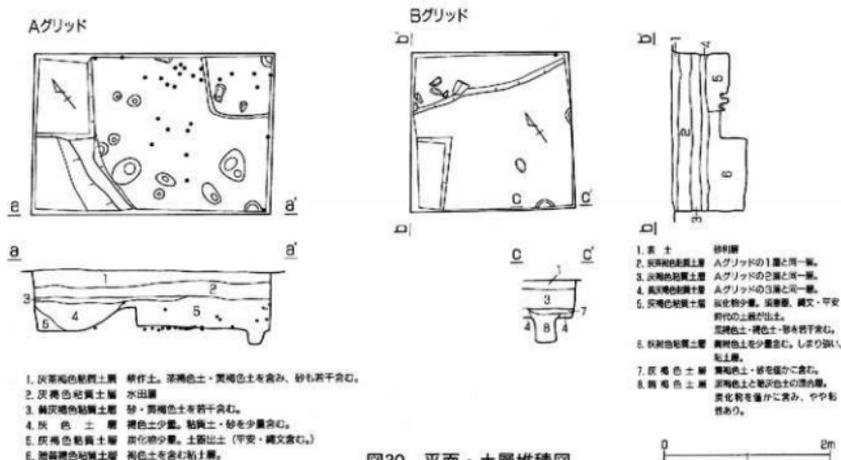


図30 平面・土層堆積図

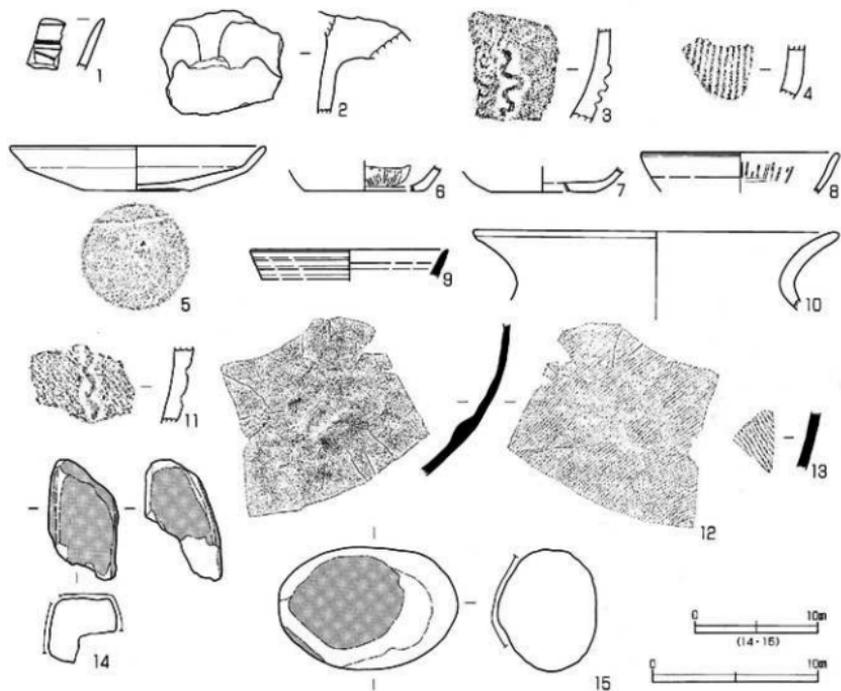


図31 出土遺物

11-15 加牟那塚古墳

調査位置 甲府市千塚三丁目2437-9
調査原因 個人住宅建設
対象面積 242.89㎡
調査面積 15㎡
調査期間 平成11年10月29日
調査担当 伊藤正彦

調査地点

本古墳は、盆地北部に位置し、市城西部を流下する荒川の左岸、標高295mを測る緩傾斜地に立地する。周辺に多数の遺跡包蔵地が確認され、山麓には後期古墳が群集するなど一帯は遺跡密集地である。近年、開発が進み、宅地が増加している状況である。昭和43年、県史跡に指定され、同45年には修理工事に際し、墳丘・石室の測量調査を実施している。直径40～45m、高さ7mほどの円墳であり、周囲に周溝が巡ると推量される。調査地は古墳の南側宅地である。

調査概要

掘削に際し、土層堆積の確認を主な目的として調査を行った。基礎工事に伴う調査であり、掘削は地表下20cm程度であった。掘削が及ぶ範囲は解体ガラの混入が見られ、その下層に旧水田床土が確認された。遺物・遺構などは確認できなかったものの、過去の立会調査での出土遺物、採集遺物を図化した。

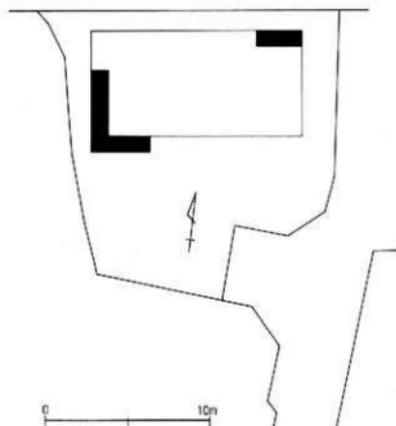


図32 試掘坑配置図



調査状況

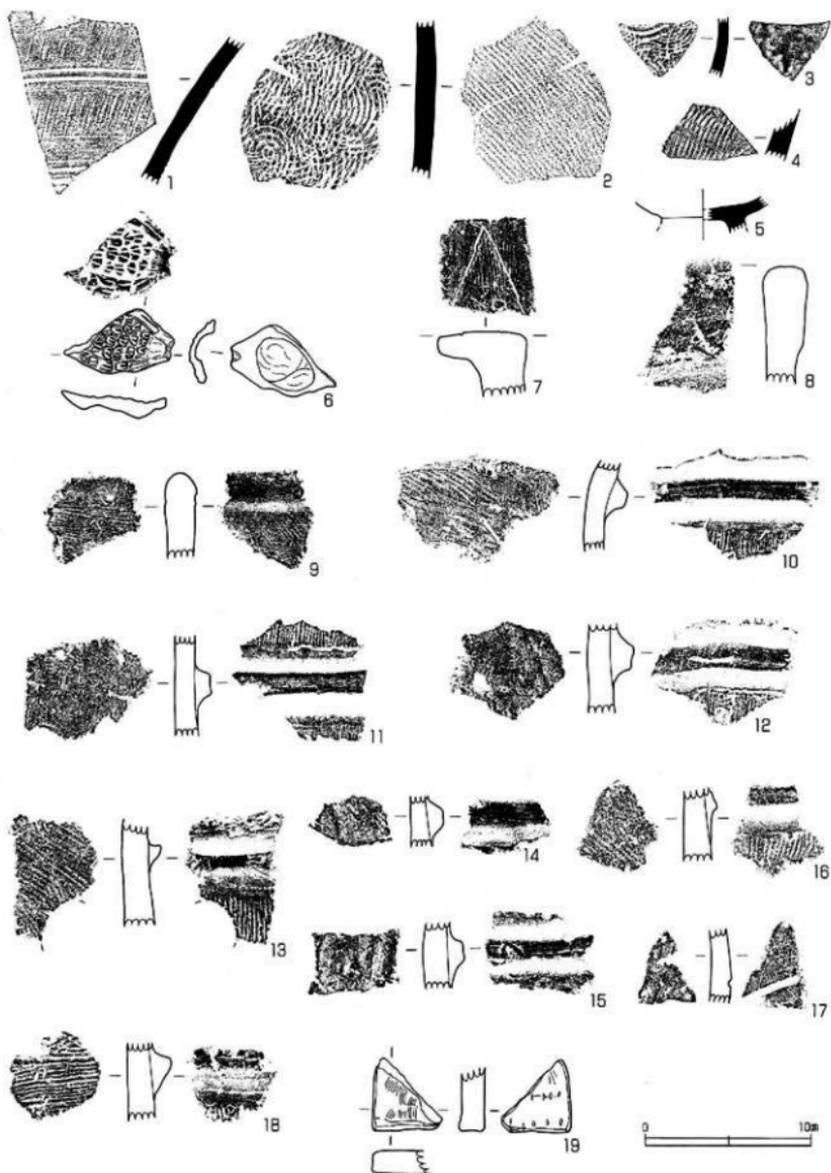


图33 出土遺物

11-16 川田館跡

調査位置 甲府市川田町字北村373-2 他
調査原因 個人住宅建設
対象面積 1179.8㎡
調査面積 12㎡
調査期間 平成11年5月25日～5月28日
調査担当 佐々木 満

調査の概要

本地点は、武田信虎の居館と推定される川田館跡の西側に位置する。住宅と浄化槽埋設予定地で3箇所のグリッドを設定し、確認作業を実施した。

2m四方のグリッド1は、約50cmまで果樹園の耕作が及び、その下層から遺構は確認されなかったものの、生活面と考えられるやや硬化した地盤が検出された。川田館跡主郭から出土するものと同形態のかわらけ片などが出土している。

2m四方のグリッド2でも土層堆積状況は同様であったが、硬化面からビット状の遺構が1基検出された。出土遺物は、かわらけなどとともに24の土師製の三脚付香炉が完形で出土した。

グリッド3は浄化槽予定地に設定した。グリッド1・2で検出された硬化面からビット1基と集石遺構が1基検出されている。集石遺構は、調査区外に展開していたため、浄化槽で破壊される範囲を拡張して調査を実施した。集石を除去すると浅い土坑となったことから用途は定かではないが、年代的にはかわらけが出土したため、中世遺構と考えられる。

まとめ

川田館跡は、甲斐守護武田信虎が躑躅ヶ崎に築いた武田氏館造営以前に使用していた武田氏の本拠である。本地点は、館本体からは西へ外れた場所に位置し、遺構密度も薄いことが判明したが、かわらけなど川田館跡と同時期の遺物が出土したことは大きな成果であった。

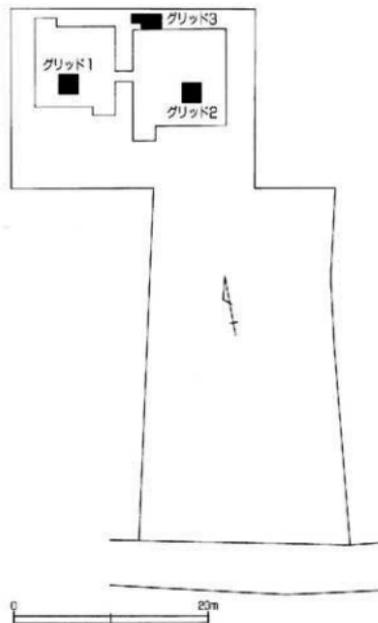


図34 試掘坑配置図

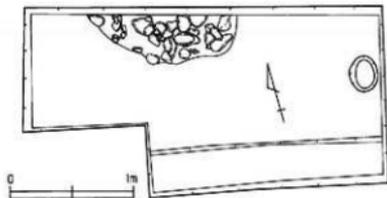


図35 第3グリッド平面図

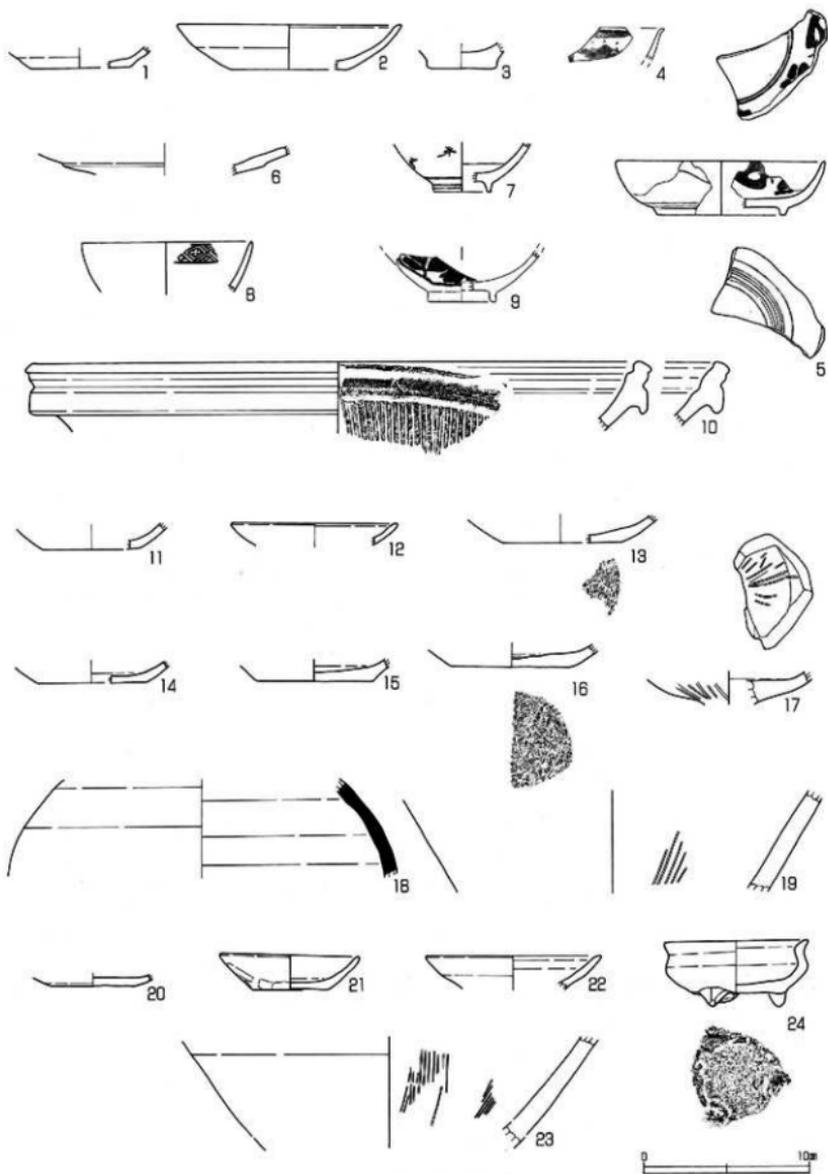


图36 出土遗物

11-17 甲府城跡

調査位置 甲府市北口二丁目2-42
調査原因 歯科医院建設
対象面積 442.59㎡
調査面積 20㎡
調査期間 平成11年8月2日～8月10日
調査担当 伊藤正幸



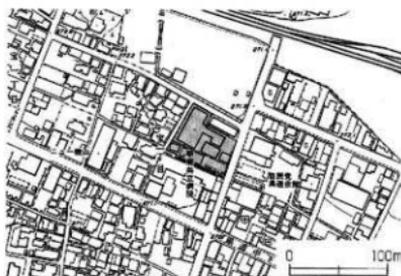
調査の概要

今回の調査地は甲府城山手門のすぐ外側、標高278mに位置する。敷地の南側は旧JRの用地で、1.2mの段差がつけられている。調査は住宅増築に伴い実施したもので、4m×5mの大きさの試掘坑を設定し、重機により掘下げて埋蔵文化財の確認を行った。

表土を除去すると全体的に粘性の強い黄褐色の粘土層になり、遺構・遺物等は確認できなかった。

11-18 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市宝一丁目106-1 他
 調査原因 病院増築
 対象面積 2760.04㎡
 調査面積 34㎡
 調査期間 平成11年4月5日～4月8日
 調査担当 伊藤正幸



調査の概要

調査地は甲府城下の外郭部に位置し、二の堀に接する。標高は272mを測る。病院の増築に伴い、重機の提供を受けて試掘確認調査を行った。

調査は幅2m、長さ17mの試掘坑を設定し、重機により地山まで掘下げた。地山までの深さは1.2mを測る。基本層序としては攪乱層(碎石)、茶褐色土層、黄褐色土層、黒色土層と続き地山に至るが、試掘坑東端部分には攪乱が認められる。試掘坑の西端から4mの範囲は地山まで下がるが、東側は攪乱直下の面から井戸跡が確認された。

検出された井戸跡は内径が1.0m、礫を86cmの高さに積み上げ、やや胴張りぎみに構築されていて、石積み最下部には木杵が確認できる。積み上げられた礫の外側には裏込め石が充填されていた。井戸跡の東側は攪乱されていて、井戸に伴う遺物も確認できなかったことから、また掘り込みが攪乱(碎石)直下に確認できたことから、近代以降の井戸と考えられる。

井戸跡の西側に小規模な溝状遺構が確認された。攪乱(碎石)直下に掘り込みが確認され、南側で20cm、北側で10cmの掘り込みを持つ。北側壁面には廃材が露出しており、井戸跡同様近代以降に構築されたものと考えられる。

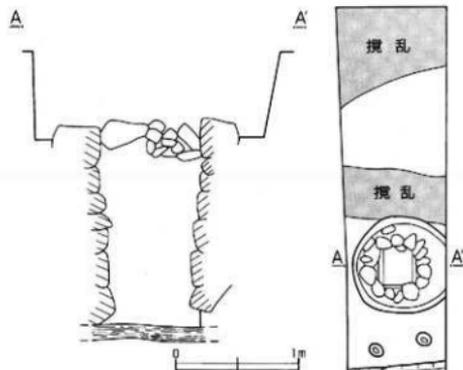


図38 井戸跡断面図

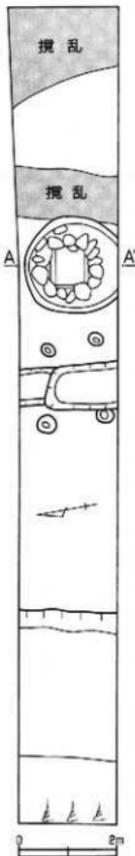


図37 試掘坑平面図

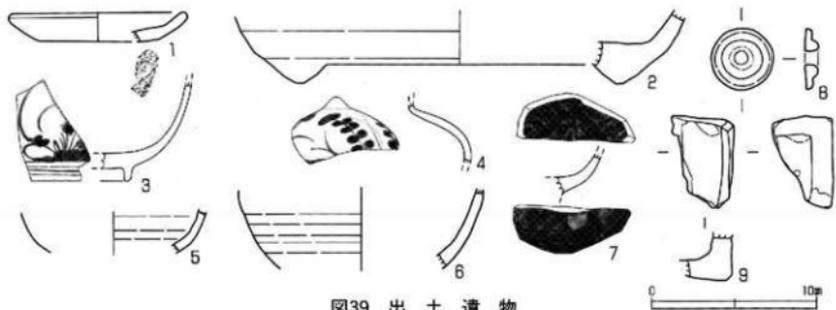


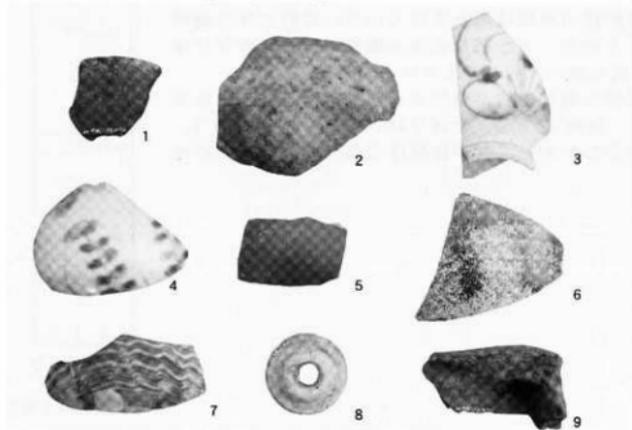
図39 出土遺物



井戸跡



調査状況



出土遺物

11-19 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市北口二丁目13
調査原因 店舗併用住宅建設
対象面積 263.03㎡
調査面積 42㎡
調査期間 平成11年6月10日～6月18日
調査担当 佐々木 満



調査の概要

本地点は、中世と近世の二つの城下町が重複する一帯であり、近世には甲府城北側に位置し、二の堀土塁あるいは武家屋敷地と考えられる。試掘調査は、幅2mで南北方向に2箇所のトレンチを計画した。第1トレンチでは1m40cmまで住宅解体などの攪乱層が堆積しており、遺構・遺物が皆無であったことから、5mまで掘削したところで確認を中止した。しかし、第2トレンチでは地表下約20cmで遺構が検出されたため、範囲を拡張して調査を実施した。

検出遺構

第2トレンチからは、溝跡4条、土坑3基、ビット25基が検出されている。溝跡については、1・2・4号溝跡は、堆積した覆土と出土遺物から判断し、近世・近代と考えられるが、南北方向にのびる3号溝跡は、出土遺物から判断して中世段階の遺構と考えられる。U字状に掘られた水路底部には砂層が堆積しており、一定の流水があったことが伺え、一部に石列が存在した。

ビット群は中世段階のものが多く、そのいくつかは列として捉えられることから掘立柱建物などが存在していたと考えられる。また、ビット群と重複する形で中世墓である3号土坑が検出されている。3号土坑からは、人骨とともに六道銭とみられる古銭が出土しているのみであるが、この地点の遺構としては最も古期に位置づけられる。

出土遺物

調査区全体より中世前半から中葉の遺物が多く、3号溝跡からは瀬戸美濃大窯2段階を主体とする遺物群が出土している。かわらけをみても、武田氏館跡から出土する器壁が厚く、口縁部が玉縁状になる一群のみで構成され、16世紀後半以降のかわらけを含まないことから、3号溝跡は16世紀中葉に廃絶したものと考えられる。

また、3号溝跡出土遺物の中で10・11のかわらけには溶融した金属が付着しており、表面観察で金粒子が確認された。このことは、付近に金の精錬あるいは金細工などの2次加工に関連する工房が存在した可能性を示唆している。

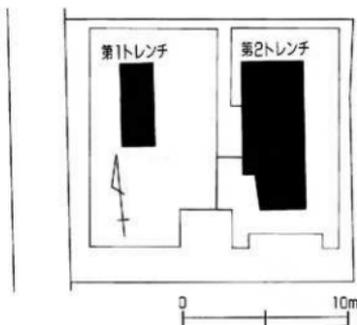


図40 試掘坑配置図

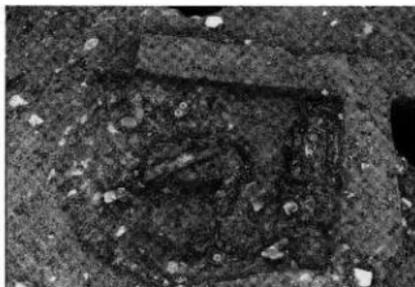
ま と め

本地点南側の隣接地において、県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施しており、3号溝跡の南側延長部に同軸の溝跡を検出している。したがって、3号溝跡は16世紀中葉段階には、中世城下町を南北方向に縦断する水路として機能していたと考えられる。3号溝跡から出土した熔融物付着土器は、県内外の事例も含めて、今後慎重に検討していく必要がある。

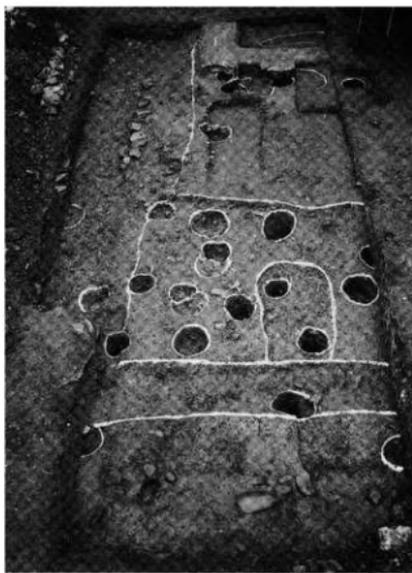
3号土坑は、16世紀中葉以前の墓と考えられ、現時点では屋敷墓であるか寺院に伴う墓であるか定かではないが、この一帯の土地利用を考える上で注目すべき成果であった。



3 号 溝



3 号 土 坑



第2トレンチ

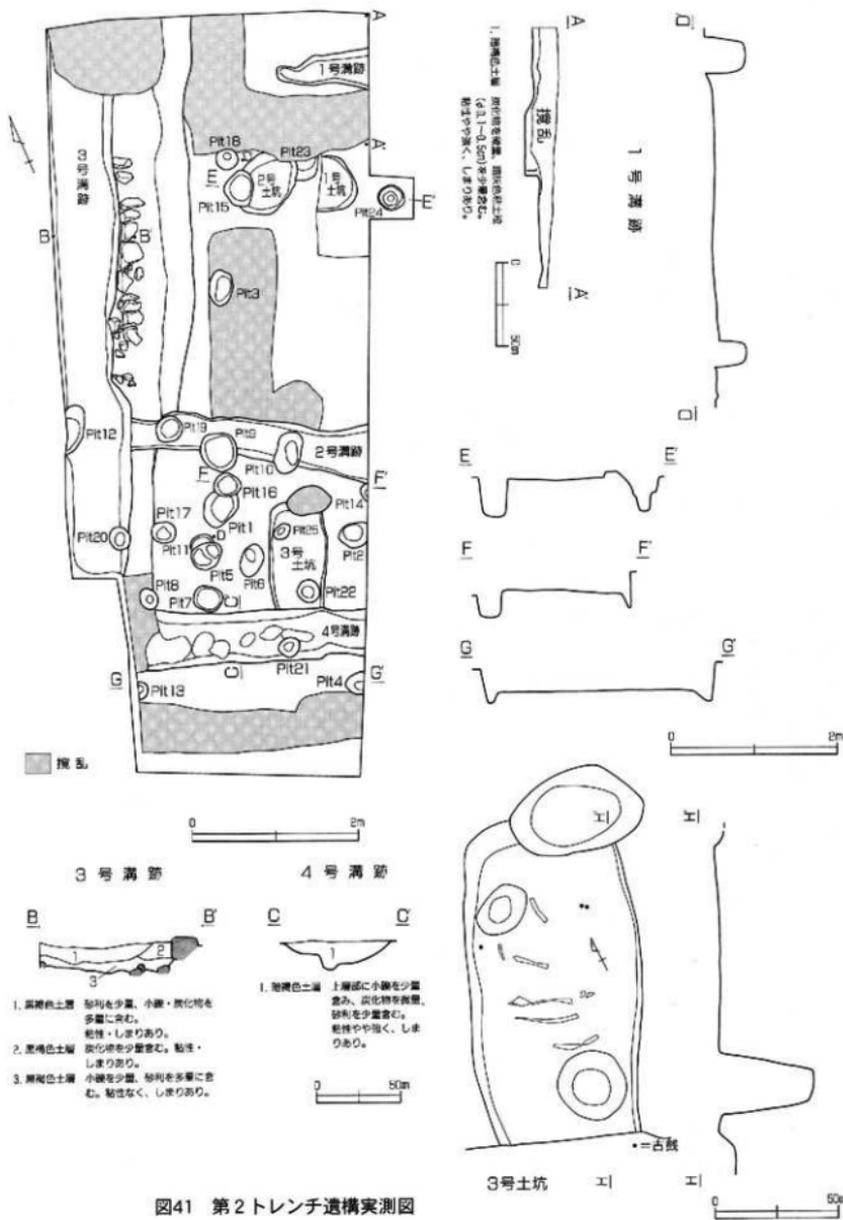
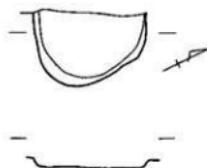
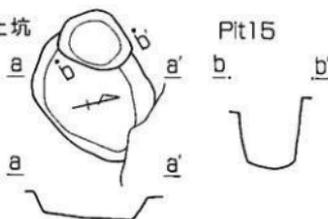


図41 第2トレンチ遺構実測図

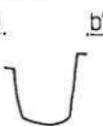
1号土坑



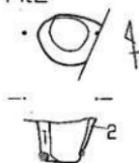
2号土坑



Pit15



Pit2



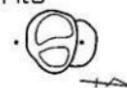
1. 黒褐色土層 小礫・暗褐色土塊を少量含む。しまりやや強く、粘性あり。
2. 黒褐色土層 1層に比べ、土粒は細かく炭化物を微量含む。粘性やや強く、しまりあり。

Pit3



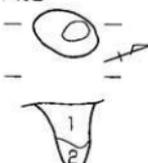
1. 黒褐色土層 黄褐色土粒(φ0.1~0.5mm)を微量。炭化物を少量含む。粘性・しまりあり。

Pit5



1. 黒褐色土層 小礫・炭化物を微量含む。粘性・しまりあり。

Pit6



1. 黒褐色土層 小礫微量。炭化物を少量含む。粘性・しまりあり。
2. 黒褐色土層 炭化物を微量含む。粘性やや強く、しまりあり。

Pit7



1. 黒褐色土層 砂利少量。炭化物を微量含む。粘性・しまりあり。
2. 黒褐色土層 小礫少量・炭化物を微量含む。しまりやや強く、粘性あり。

Pit8



1. 黒褐色土層 小礫微量。炭化物を少量含む。粘性・しまりあり。
2. 黄褐色土層 炭化物を微量含む。粘性やや強く、しまりあり。

Pit9



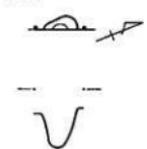
1. 黒褐色土層 小礫微量。炭化物を少量含む。粘性・しまりあり。

Pit10

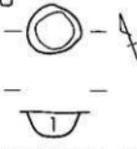


1. 黒褐色土層 黄褐色土粒(φ0.5~1mm)・炭化物を少量含む。粘性・しまりあり。
2. 黒褐色土層 1層に比べ、やや明るく砂利を少量含む。粘性・しまりあり。

Pit14



Pit16



1. 黒褐色土層 炭化物を微量。小礫・黄褐色土粒(φ0.1~0.5mm)を少量含む。粘性・しまりあり。

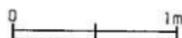
Pit18



Pit24



図42 土坑、ピット平・断面図



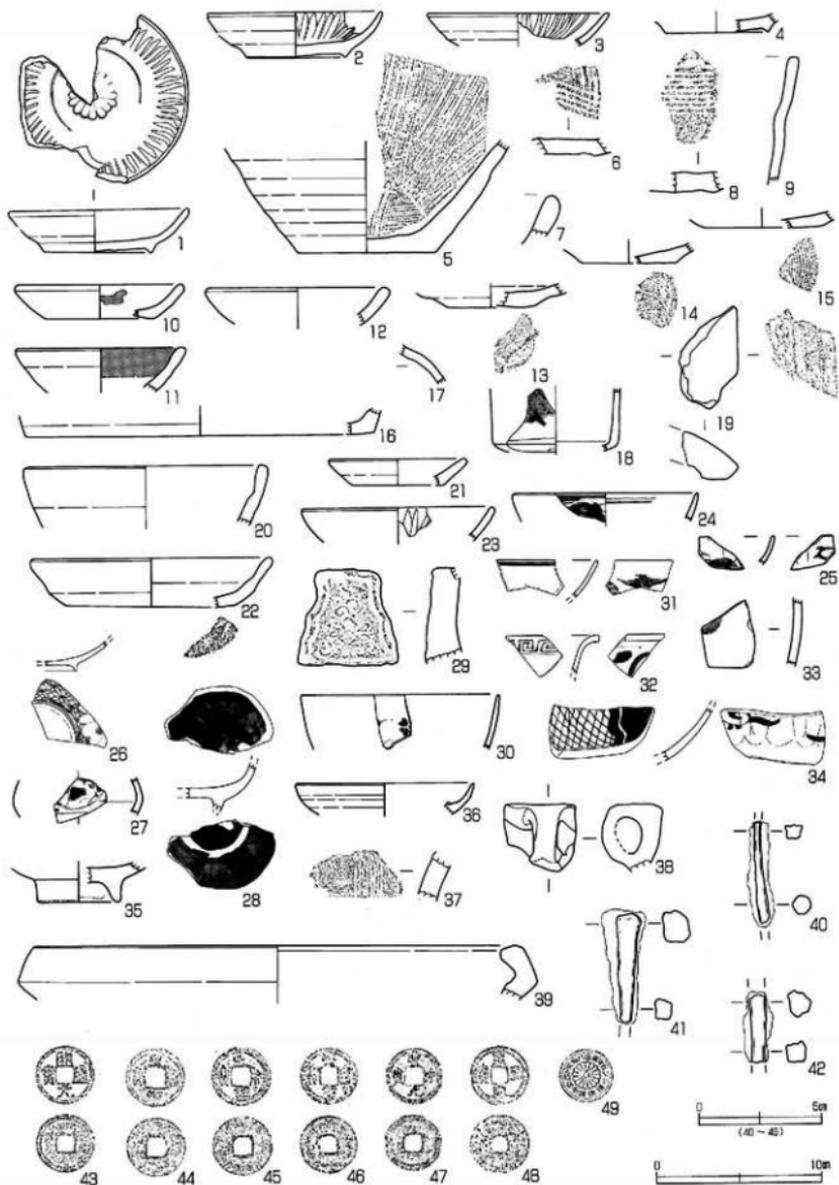


圖43 出土遺物

甲府城下町遺跡出土の土器片の分析について

山梨県立博物館 杵名貴彦

甲府城下町遺跡出土の土器片には、表面に熱による発泡状態やその付着物が存在するため、付着物の詳細な調査を行うことが必要であると考えられた。そこで、科学調査として顕微鏡による表面観察とX線透過撮影、蛍光X線分析による元素分析を行った。その結果について報告する。

(1) 分析資料

甲府城下町遺跡出土土器片 №10・11 (3号溝跡地点出土) 合計2点

(2) 分析方法

①顕微鏡による詳細な観察

実体顕微鏡を用いて土器片表面の詳細な観察を行った。№10の顕微鏡写真を写真1・2に、№11の写真を写真3・4に示した。写真に示される金色の球状物質は金粒であると考えられた。直径約0.8mmから数十 μ m程度の大きさの金粒が、両土器片に数十粒以上付着していることが観察された。金粒は土器片の口縁部から離れた底部に近い部分に多く観察され、付着物の中に埋まっている状態や、その上に付着している状態などで観察された。

これらの観察から、この土器片は金の製・精錬や加工等に用いられた埴埴の破片であると考えられた。そこで土器片の付着物に含まれる元素の分布状態を確認するために、X線透過撮影を行った。

②X線透過撮影による重元素の分布状態の確認

X線は、元素の種類によって透過性が異なり、重元素と呼ばれる重い元素ほど透過しにくい性質がある。金は重元素を代表する元素の一つであり、透過しにくい黒い影となる。他にも、重元素が付着していれば黒や灰色の影となって観察することが出来る。

そこで、この土器2点についてX線透過撮影とを行い、重元素の分布状態について確認を行った。

装置：デジタルX線リアルタイム透視装置 (エクスロン・インターナショナル製)

管電圧：160kV

管電流：4mA

写真5に土器片の写真とX線写真を同じ構図で並べて示した。№10のX線写真では、灰色から黒い特徴的な影が土器の中心付近より下に環状に見られる。また、№11には同様の黒い影が下部に2ヶ所見られた。土器片の胎土中には重元素は含まれていないため、両土器片ともに灰色のほぼ均一な状態が示されている。

よって、この黒い影はこれら土器片が使用されたときに付着したものであると考えられた。この影の原因は、重元素が付着していることを意味している。顕微鏡観察から、№10に付着している金粒の最も大きいもの(写真1)は、写真5中では黒点で確認できる。写真5中の№10左上部分の黒点は、この金粒によるものである。そこで、この影が存在する部分について蛍光X線分析を用いて元素分析を行うことにより、付着元素の同定を行った。

③蛍光X線分析による付着元素の分析

装置：SEA5230HTW (エスアイアイ・ナノテクノロジー製)

管電圧：50kV

管電流：48 μ A

測定環境：真空中

測定時間：300sec

図1から2に№10・11の金粒、金粒を含めた全体、金粒の周辺を分析した蛍光X線のスペクトルを示す。№10・11の両方の金粒の蛍光X線分析からAu, Ag, Cuが検出された。ピーク強度比から考えると、Agの強度が高く、金粒中に銀が多く含まれていることが考えられる(図1(a)・図2(a)参照)。

金粒を含めた全体の分析では、両土器片ともにBi, Pbが特徴的に検出された(図1(b)・図2(b)参照)。このことから、いわゆるPbによる吹き分け(灰吹き法)が行われていたと考えられ、黒川金山遺跡出土の上器や、勝沼氏館跡出土の土器類とも同様の傾向が示されている。このことについては、今後充分な検討が必要と考えられる。

金粒周辺の付着物部分について分析を行った場合に特徴的だったのは、Ag(図1(c)・図2(c)参照)が検出されたことである。これまで、同様の分析を行った場合においてAgが検出されたことは無かった。

また、銀粒は顕微鏡による観察では確認できないことから、酸化物の状態では存在しているのではないかと考えられる。このことについても、更なる調査や検討が必要であろう。

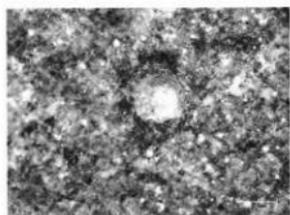


写真 1

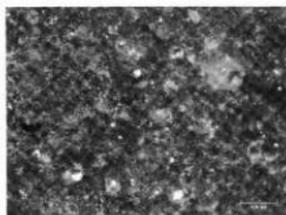


写真 2

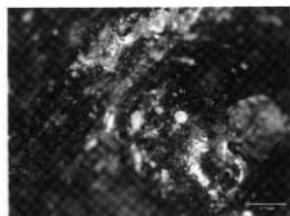


写真 3



写真 4

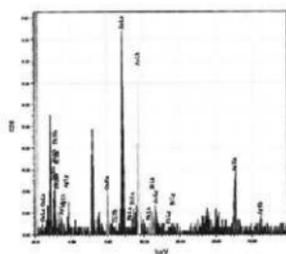


No. 10

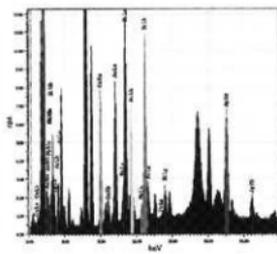


No. 11

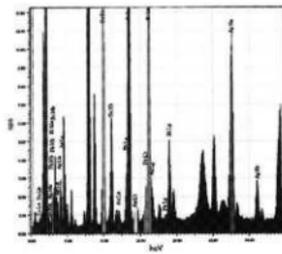
写真 5



(a) 金粒部

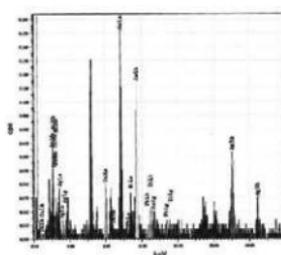


(b) 金粒含む全体

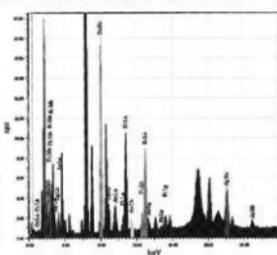


(c) 金粒周辺

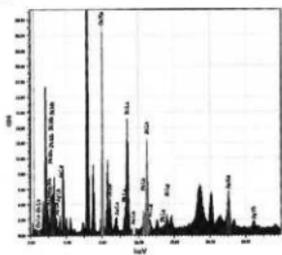
図1 No.10 金粒部分の蛍光X線スペクトル



(a) 金粒部



(b) 金粒含む全体



(c) 金粒周辺

図2 No.11 金粒部分の蛍光X線スペクトル

11-20 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市北口三丁目1-1～1-12
調査原因 電力ケーブル埋設
対象面積 107㎡
調査面積 7.5㎡
調査期間 平成11年7月1日～7月31日
調査担当 志村憲一

遺跡の概要

調査区は甲府城お花畑曲輪の北東側、愛宕町御門から東側の三念坂へ通じる小路と南へ下る小路に該当する。幅1m×1.5mの試掘坑を5箇所設定し、1.5mの深さまで掘削を行った。

調査の概要

①～③・⑤の4地点に関しては、下水管等の工事により攪乱を受け、遺構・地山層ともに確認されていない。④地点では東西と南北方向の石積の溝が検出された。溝は幅40cmあり、溝の西と東側は高さ約90cmあり、間知石が三段に積まれている。反対側の東と北の石積は、高さ30cmの一段の間知石が使用され、下部には径10cmの胴木が確認されている。石材は花崗岩を間知石に加工したものである。時代としては、近代に構築された遺構ではあるが、近世の城下町の区画を踏襲している可能性も考えられる。検出された石積はケーブルの位置を変更し保護することとした。

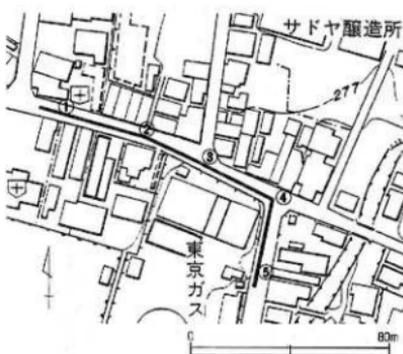


図44 試掘坑配置図



遺構検出状況



遺構検出状況

11-21 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市丸の内二丁目623 他
 調査原因 個人住宅建設
 対象面積 160.83㎡
 調査面積 10㎡
 調査期間 平成11年8月26日～8月27日
 調査担当 志村憲一



遺跡の概要

調査区は、甲府城西側の二の堀外側の百石町の小路に面する武家屋敷地である。18世紀前半の『楽只堂年録』（柳沢文庫所蔵）の絵図によると、「二百坪関文右衛門」の記載が見られる。関文右衛門は柳沢氏の家臣であり、御用役衆として百二十石の石高であった。18世紀半ば以降の甲府勤番支配の時代の絵図には、名前等の記載は見られない。

調査の概要

調査区域内に3箇所のグリッドを設定し、人力で掘削を行った。

Aグリッド 1m四方、深さ1.35mまで掘削を行う。東壁において基本土層の観察を行い8層に分層された。表土下50cmまでは攪乱層と昭和20年7月6日の甲府空襲による焼土層である。その下層は、厚さ55cmあり4層に分層され2時期の水田層が確認された。第6層は厚さ25cmの黒褐色粘質土層であり、Cグリッドにおいてこの層から五領期の土器片が検出されていることから、4世紀末から5世紀初頭にかけての推積層と考えられる。第7層は、厚さ約3cmの灰黒褐色粘土層である。第8層は黒色粘土層である。

図45 試掘坑配置図

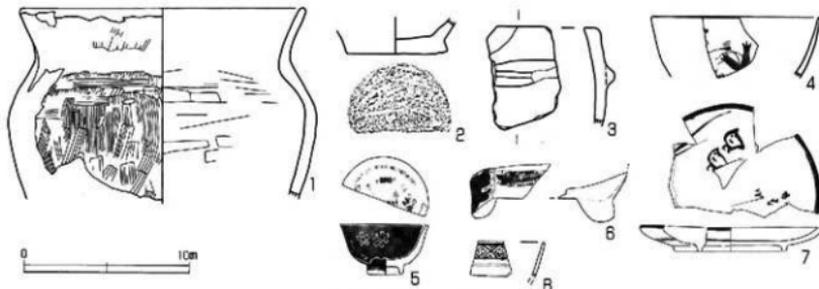
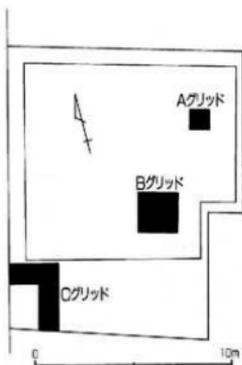


図46 出土遺物

Bグリッド 2m四方、深さ0.5m掘削を行う。地表下0.5mより、径約20cmのビットが3基と径8cmの杭が1基検出された。東壁のビットは近世遺物が検出された堆積層から掘り込まれていることから、近世の遺構と考えられる。

Cグリッド L字状に東西2.5m×南北3.5m、深さ1.1m掘削。地表下0.85m部分から、30cm四方の上面が平らな自然石が1基検出された。自然石の上部には3cmの面取りがされた約28cmの角柱が存在したことが西壁の上層から確認された。またこの周辺から平瓦・丸瓦など本瓦葺の瓦が出土している。

遺物としては、古墳時代五領期の壺（1）、平安期の羽釜（3）、近世18～19世紀の陶磁器（4・8）、近代の陶磁器（5・7）と瓦・焼夷弾片が出土した。近世の磁器は焼継の痕跡が見られることから18世紀後半以降の遺物である。

ま と め

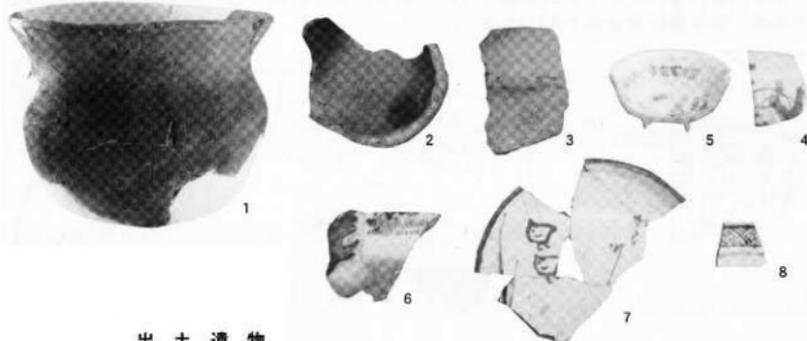
この地域で古墳時代の遺物が確認されたのは、今回が初見であり今後近世城下町成立以前の遺構についても検出される可能性がある。Cグリッドから確認された礎石と柱跡については、調査区西側の百石町の小路に面し、瓦が検出されていることから推測すると、武家屋敷の門跡と考えられる遺構である。



Bグリッド



Cグリッド



出土遺物

11-22 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市中央二丁目373-4 他
調査原因 個人住宅建設
対象面積 759.35㎡
調査面積 10㎡
調査期間 平成11年9月6日～9月9日
調査担当 志村憲一



遺跡の概要

調査区は、甲府城東方の三の堀内の町人地である。堅近寄町の小路に面し、西側は二の堀を背とし、現状は間口四間(約7.2m)、奥行三十七間(約66m)の細長い敷地である。

調査の概要

調査区奥、二の堀に近い西側部分に、2箇所のトレンチを設定し、人力で掘削を行った。

Aトレンチ 東西3m、深さ1mまで掘削を行う。地表下10cmから加工された長方形の石材が南北方向に二列に並び、部分的にレンガが使用されている。この石列上面は甲府空襲による火災層が堆積していた。地表下60cmの黒褐色粘土層から、遺構は確認されなかったが、19世紀代の陶器と焼継痕が見られる磁器、棧瓦が大量に出土した。

Bトレンチ 2m四方、深さ約1mまで掘削を行う。地山層まで攪乱を受けていたが、攪乱内から近世・近代の遺物が出土した。地山層に打ち込まれた径7cmの杭は、近代のものと考えられる。出土遺物は、18世紀代から20世紀前半にかけての陶器及び磁器が多いが、特に江戸時代後半の19世紀代と明治期の遺物が特出して多く見られる。

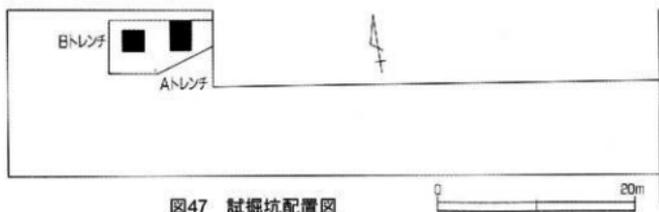


図47 試掘坑配置図

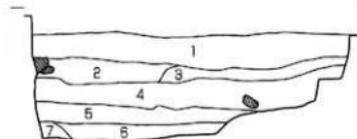
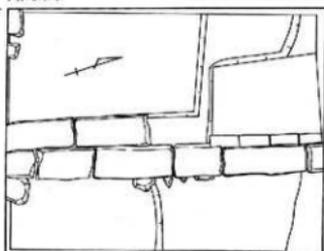


Aトレンチ



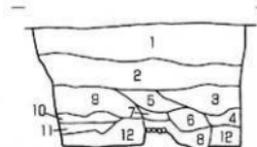
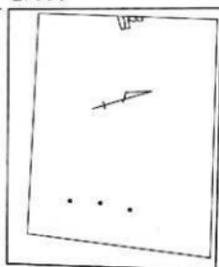
Bトレンチ

Aトレンチ



1. 雑土層 瓦・焼土・炭化物を多量に含む。(昭和29年、空襲による火災層)
2. 暗褐色土層 炭化物・焼土を少量含む。
3. 暗褐色土層 ②層と同層。
4. 黄褐色土層 炭化物を少量含む。
5. 暗褐色砂土層 江戸期江戸代末の瓦磁器を多量に出す。
6. 黄褐色土層 ⑤層と同層。焼瓦片出土。
7. 黄褐色土層 炭化物を含む。

Bトレンチ



1. 雑土層 セメント片を含む。
2. 雑土層 Aトレンチ1層と同層。
3. 暗褐色土層 炭化物・レンガ片等を含む。
4. 暗褐色土層 ③層とは深部一層。
5. 暗褐色土層 砂質・磁器片を含む。
6. 暗褐色土層 ⑤層とほぼ同層。白磁片を含む。
7. 炭化物層
8. 黄褐色土層 鉄骨上に4行並の炭化物層4本あり。
9. 暗褐色土層 焼けた瓦(破瓦)が多量に出土。
10. 暗褐色土層 ⑪層との間に白磁器が入る。
11. 黄褐色土層 Aトレンチ2層と同層。
12. 黄褐色土層 炭化物を多量に、焼土・白磁器を少量含む。
13. 黄褐色土層 Aトレンチ4層と同層。

●=杭

図48 平面・土層堆積図

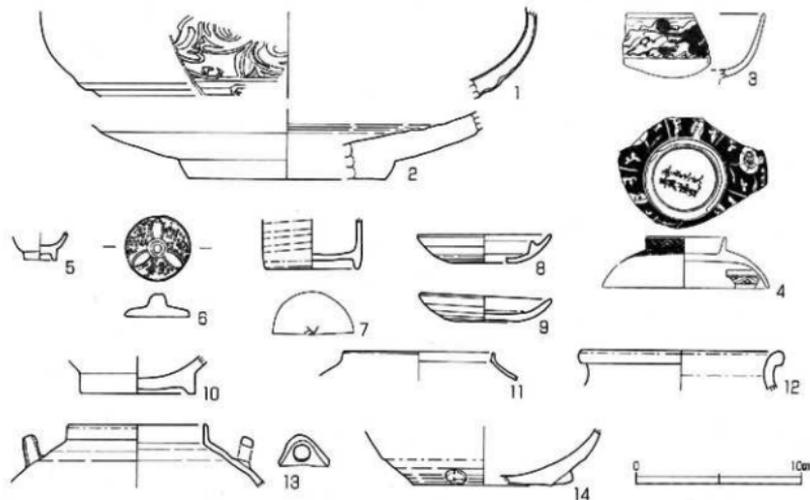
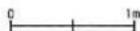


図49 出土遺物(1)



图50 出土遗物(2)

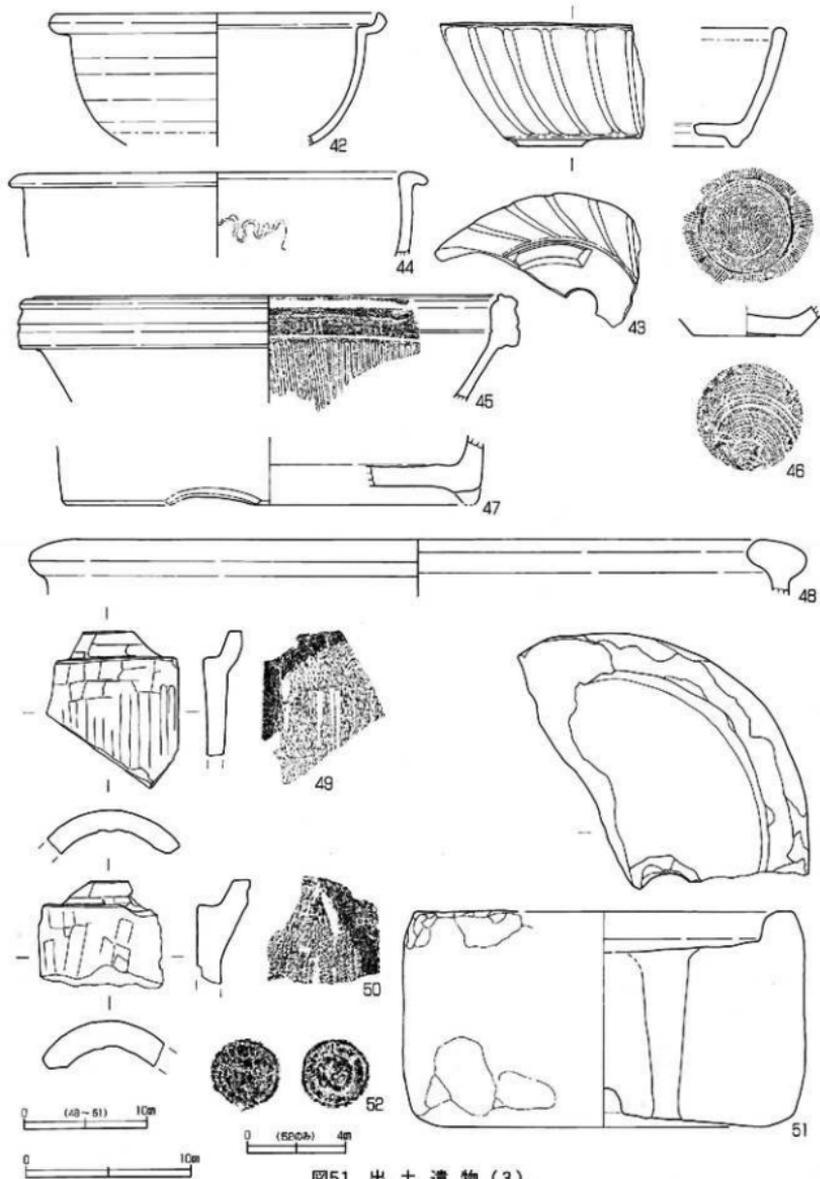


图51 出土遺物(3)

11-23 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市北口二丁目12-1
調査原因 事務所建設
対象面積 142.92㎡
調査面積 19㎡
調査期間 平成11年10月12日～10月26日
調査担当 志村憲一



遺跡の概要

調査区は、相川扇状地扇端部の標高280mに位置する、甲府城北側の二の堀内側の武家屋敷地である。古絵図などから南北の通りである橋小路と東西の森下小路が交差する北東隅の屋敷地である。近世の絵図から2期の変遷が窺える。

柳沢氏が領有していた18世紀前期の『楽只堂年録』（柳沢文庫所蔵）掲載の甲府絵図には、森下小路の通り北側は4区画に地割りされる。調査地点は「五百六十坪 千葉七右衛門」の記載が見られる。享保四年(1719)の『松平甲斐守様御家中後役人付』の記載には、「奇合並 式百石 千葉与七郎」の名前が見られる。甲府勤番支配の時代の元文三年の絵図には「小倉政兵衛」の記名が見られる。19世紀の絵図には「五十六」と屋敷の番号が記載されている。また19世紀後半の『懐宝甲府絵図』では、この屋敷地は南北に2分割されている。明治30年書写の絵図には、「風間伊七」の名前が見られる。

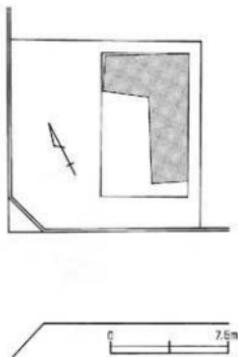


図52 試掘坑配置図

調査の概要

調査区東側にL字状に東西6.5m、南北10m、幅3mのトレンチを設定した。重機で表土を70～80cm掘削し、その後人力で遺構の確認作業を行った。

基本層序としては大別して、近代・近世・中世の3層に大別される。近代の堆積層としては、地表下40～60cmに位置する第1・2層である。コークス・近代の遺物を多く含む。近世は第4～10層の暗褐色粘質土層であり、焼土塊・炭化物を多く含む、礎石が2基検出された。中世の堆積層は地表下0.8mに位置する第12～14層である。暗褐色及び黒褐色粘質層であり炭化物を少量含む。井戸の覆土と同一層である。地山層は15・16層の黄褐色土層である。

検出された遺構・遺物

礎石は、地表下0.6mに位置する8層の上層から南北方向に約90cm間隔で2基検出された。いずれも自然石であり、径50cmを測る。

井戸は素掘りであり、地山層に掘り込まれた状態で検出された。上面は東西約3m、南北約3.4mの楕円形を呈するが、約60cm下がった部分で平面プランは瓢型を呈する。深さについては約1.5mまでしか掘削できなかったため測定不能である。井戸の覆土は黒

褐色粘土であり、上面は拳大の礫が多数検出された。また井戸内からは1～23の遺物が確認された。漆碗(1・2)は、外面は黒漆の地に朱で模様が描かれ、内面は朱漆である。3の用途不明の木製品は、中央部に2～3mmの刻み目が一周して見られる。かわらけ(4～16、19～22)はロクロ成形であり、底部は回転糸切痕が見られる。17は土釜、18は土製挿鉢、23は香炉であり、いずれの遺物も16世紀代に位置づけられる。近世の遺物は極めて少なく24の染付け碗が1点のみである。

調査所見

検出された礎石は近世段階の遺構であり、橋小路沿いに建てられた構造物の可能性が考えられる。また井戸内から検出されたかわらけは、調査区北方2.5kmに位置する武田氏館跡及び周辺の武田城下町遺跡から出土するかわらけと類似することから、この周辺にも16世紀代に居住空間が存在したことが確認された。



調査状況



井戸跡



遺物出土状況

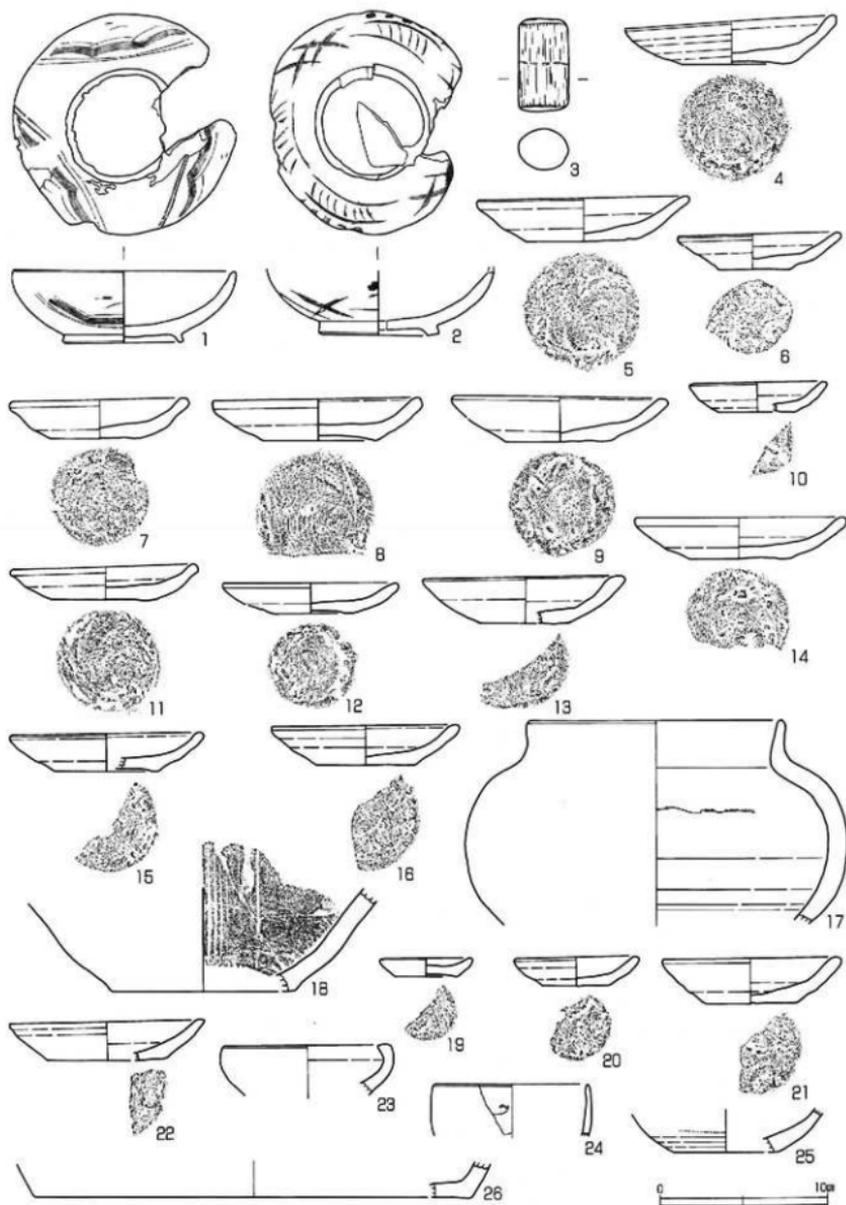


图54 出土遺物

11-24 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市宝一丁目165-1
調査原因 個人住宅建設
対象面積 136.37㎡
調査面積 4㎡
調査期間 平成11年11月9日
調査担当 志村憲一

遺跡の概要

調査区は、甲府城下町西端の横沢小路の東側であり、調査区北側には江戸時代から続く曹洞宗の旭栖院が位置する。

調査の概要

旧建物撤去後、2m四方を深さ1.8mまで掘削を行ったが、遺構・遺物ともに確認されなかった。掘削部分は3層に分層され、第1層は地表下30cmまでの攪乱層である。第2層は暗褐色粘質土層である。第3層は黒色粘土の地山層となる。



調査状況

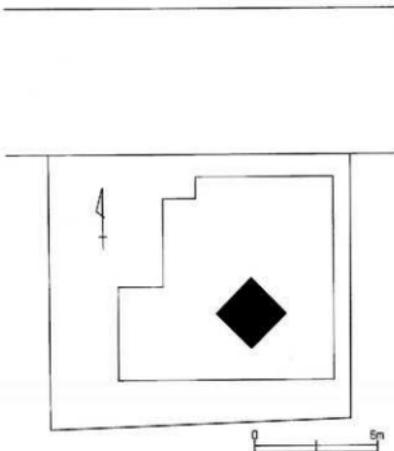


図55 試掘坑配置図

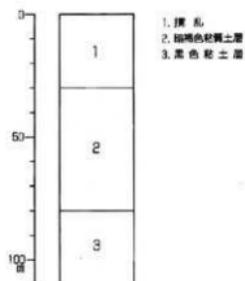
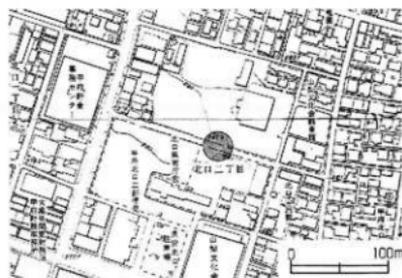


図56 土層柱状図

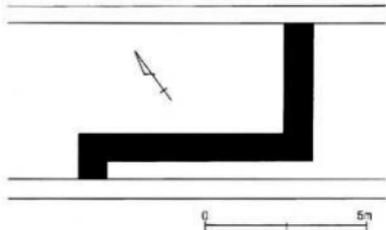
11-25 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市北口二丁目15-27
 調査原因 電力ケーブル埋設
 対象面積 9.68㎡
 調査面積 9.68㎡
 調査期間 平成11年11月24日～11月25日
 調査担当 志村憲一



遺跡の概要

調査区は、甲府城北側の郭内の南北方向の通りである森下小路にあたる。過去平成11年度実地された北側の武家屋敷の調査では中世～近世にかけての遺構・遺物が多数検出されている。その際に森下小路北側の武家屋敷地の境の溝が検出されている。武家屋敷側は削木上に石積が一段確認されている。森下小路側については、近代の側溝が入っているため攪乱を受けていた。



調査の概要

調査区にL字状に長さ約11m、幅0.9～1m、深さ1.4mのトレンチを設定した。重機で掘削後土層の推積状況の確認作業を行った。

図57 試掘坑配置図

まとめ

森下小路の道路面と側溝等の遺構が検出されることを想定したが、近代の攪乱を受けていた。しかし、その下層の第5層において遺構は確認されなかったが、かわらけが出土しており、中世の遺構が存在する可能性が考えられる。



図58 土層柱状図



土層堆積状況

11-26 甲府城下町遺跡

調査位置	甲府市北口3-101 他
調査原因	集合住宅建設
対象面積	3631.24㎡
調査面積	380㎡ (平成11年度 200㎡ 平成13年度 180㎡)
調査期間	平成11年11月24日～12月15日 平成13年11月27日～11月30日
調査担当	伊藤正幸



調査の経過

現地は甲府城御花畑曲輪の北に位置し、西側に二の堀が存在していたと想定されている地域である。東に接した街路は「御納戸小路」と呼ばれ、甲府城下町にあって主要な街路のひとつである。今回の調査地は標高280mに位置し、北から南にかけて緩やかに傾斜した場所である。愛宕山の急斜面が藤川によって区切られ、3mほどの比高差で平坦な市街地が広がっている。

今回の調査は集合住宅建設に先立ち、2カ年にわたって試掘確認調査を実施したものである。現状敷地南側は住宅地であるが、その大半が駐車場により利用されている。

平成11年度の調査 平成11年度は敷地北側の駐車場部分に2m幅の試掘坑を延べ80m掘り下げて調査をおこなった。北部を東西にTR1を設定し、そこから南へTR2及びTR3を設定した。併せて敷地中央部南寄りには屈曲したTR4をそれぞれ設定した。TR1～3については、碎石を除去すると焼土層が15cmほど確認でき、以下明褐色土層・淡黄褐色土及び灰白色土の互層・明褐色土及び灰白色粘土の互層と続くがこれらはいずれも客土で、-130cm程まで持ち込まれていることを確認した。遺構は検出されず、遺物も客土内から検出されるだけで、原位置を保っているものは確認できなかった。

平成13年度の調査 敷地の南側、平成11年当時は店舗等の建物が存在していた地域で、その撤去が終了したため、今回調査する運びとなった。

重機により幅2mの試掘坑を十文字に設定し、南北方向の一部を拡張して確認調査を行った。全体的に地表下50cmまでは客土面であり、攪乱も随所に認められた。この攪乱は地山にまで至り、遺構・遺物等は確認できなかった。

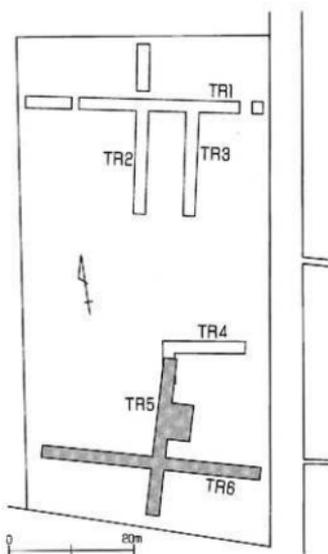


図59 試掘坑配置図

11-27 幸町A遺跡

調査位置 甲府市幸町2673-4
調査原因 個人住宅建設
対象面積 231.46㎡
調査面積 12㎡
調査期間 平成11年5月6日～8月7日
調査担当 伊藤正幸



調査地の概要

市内中央部の市街地に位置する幸町A遺跡は弥生時代の包蔵地として周知されている。荒川氾濫源上に位置し、標高は259.5mを測る。敷地の東側は駐車場として使用されているが、今回個人住宅建設に先立ち、埋蔵文化財の試掘確認調査を実施した。

調査の概要

調査は対象地に2m四方の試掘坑を3ヵ所設定し、人力で掘下げて地下の状況を確認したが、いずれの試掘坑も攪乱が深く、55cmまで達している状況だったため、中央部の試掘坑(TP3)のみを110cmまで掘下げた。TP3における攪乱下部は、110cmまで黄褐色砂層で、90～105cmにかけて黄褐色砂に黒色土が混入する。遺構・遺物は皆無であった。

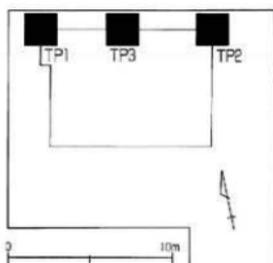


図60 試掘坑配置図

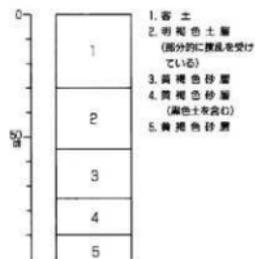


図61 土層柱状図

11-28 塩部遺跡

調査位置	甲府市飯田一丁目2356-1 他
調査原因	貸事務所建設
対象面積	3363.8㎡
調査面積	160㎡
調査期間	平成11年4月7日～4月23日
調査担当	佐々木 満



調査の概要

本地点は、塩部遺跡包蔵地範囲の南端部に位置する。過去には西側隣接地において原埋蔵文化財センターによる発掘調査が実施され、遺構は検出されなかったものの、古墳時代の遺物が多数出土している。そのため、本地点においても古墳時代の遺構・遺物が確認される可能性が高いと想定された。

L字型に広がる敷地面積は大きいものの、直接地下への掘削が及ぶ範囲は建物建設予定地のみであり、大部分は駐車場となる計画であった。よって、調査区は建物建設予定地を重点的に調査するため、幅2mで十字のトレンチを設定した。駐車場予定地についても、全体の状況の把握と塩部遺跡の範囲確認を行う意味で、2箇所にとレンチを設定した。

まず、敷地東側の駐車場予定地に設定した第1トレンチでは、地表下約30cmから40cmのところまで塩部遺跡一帯で確認される黒色粘質土が検出された。トレンチ北側でサブトレンチを設定し、深く掘り下げてみたが、遺構・遺物は確認されなかった。

建物建設予定地に設定した十字のトレンチのうち、東西方向を第2トレンチ、南北方向を第3トレンチとして調査した。土層の堆積状況は、第1トレンチで確認した黒色粘質土の上に河川氾濫によるものと思われる細粒砂層が厚さ10cm前後で検出された。このような堆積状況から、僅かな距離ではあるが、第1トレンチに比べてこの調査区が地形的に低かったことが判明した。この調査区の黒色粘質土中からは、古墳時代の遺物が散発的に出土したが、トレンチの交点付近では土器が比較的集中する箇所がみられた。

最後に敷地南側の第4トレンチを調査したが、他のトレンチとは状況が大きく異なった。トレンチ北側から中央付近までは他のトレンチと同様に黒色粘質土層が続き、一部には土

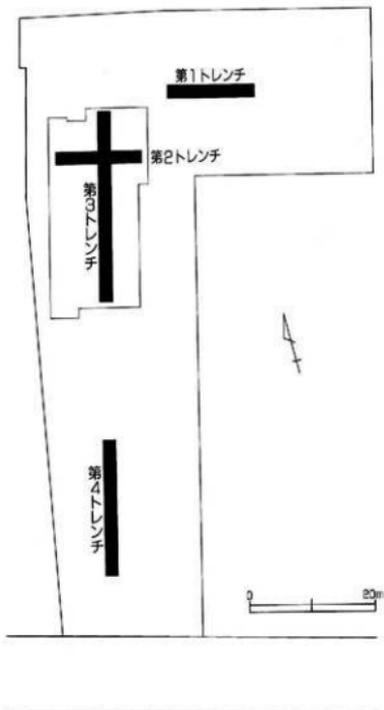


図62 試掘坑配置図

器の集中箇所が確認された。しかし、徐々に地形の起伏に変化が生じ、黒色粘質土は途中で完全になくなり、2号溝跡以南では砂質ながら黄褐色の安定した地山層が確認された。したがって、トレンチ中央から南側は微高地を形成していたものと考えられ、その縁辺部で竪穴建物跡が検出されている。

検出遺構

第4トレンチにおいて溝跡2条と竪穴建物跡1棟、ピット9基を検出している。1号竪穴建物跡は地表下約40cmで検出され、建物北側の壁際で竪が確認されたが、煙道を持たない構造であった。トレンチ内での調査であったため、建物全体の規模は定かではないが、比較的大きな竪穴建物と考えられる。

出土遺物

調査区全体の出土遺物の多くは、4世紀後半から5世紀中葉であり、1号竪穴建物跡の遺物群は、年代的に5世紀前半から中葉と考えられる。また、21～27までは第4トレンチの東壁内からの一括出土である。調査時には土器の一部だけが表面に現れていたが、掘削すると複数の土器がまとまった状態で出土した。遺構確認はできなかったが、土坑のようなものに一括廃棄されていた可能性も考えられる。28については、トレンチ内の一括であったが、底部中央が窪み、体部に粘土帯がみられた。タタキ目などは確認できなかったが、特徴としては塩部遺跡で確認されている畿内系土器に酷似している。

まとめ

塩部遺跡ではこれまでに大小さまざまな調査が実施され、本地点から中央線を越えた北側一帯では、弥生末期から古墳時代の大集落が調査されている。本地点の様相をみるかぎり、北側に位置する第1～3トレンチでは遺構は確



図63 第4トレンチ平面・土層堆積図

認められず、土器捨て場のような利用状況であったことから北側の大集落からの連続性はないと思われる。むしろ、第4トレンチで確認された1号竪穴建物跡は、南側の微高地上に別の集落の存在を予見させるものであり、遺跡自体は南側に広がる可能性が高いと考えられる。



1号竪穴建物跡検出状況



カマド調査状況

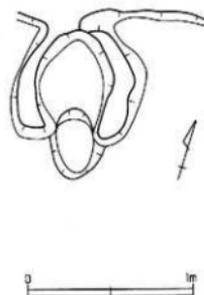
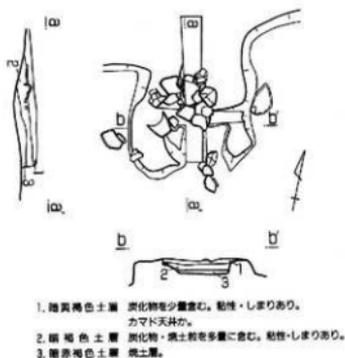
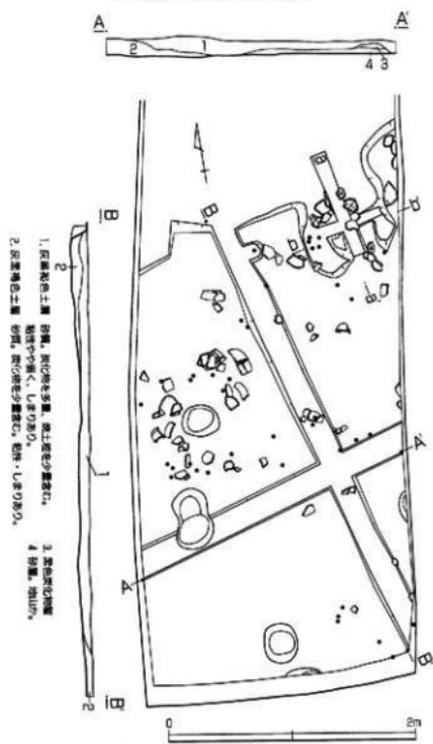


図64 竪穴建物跡、カマド平・断面図

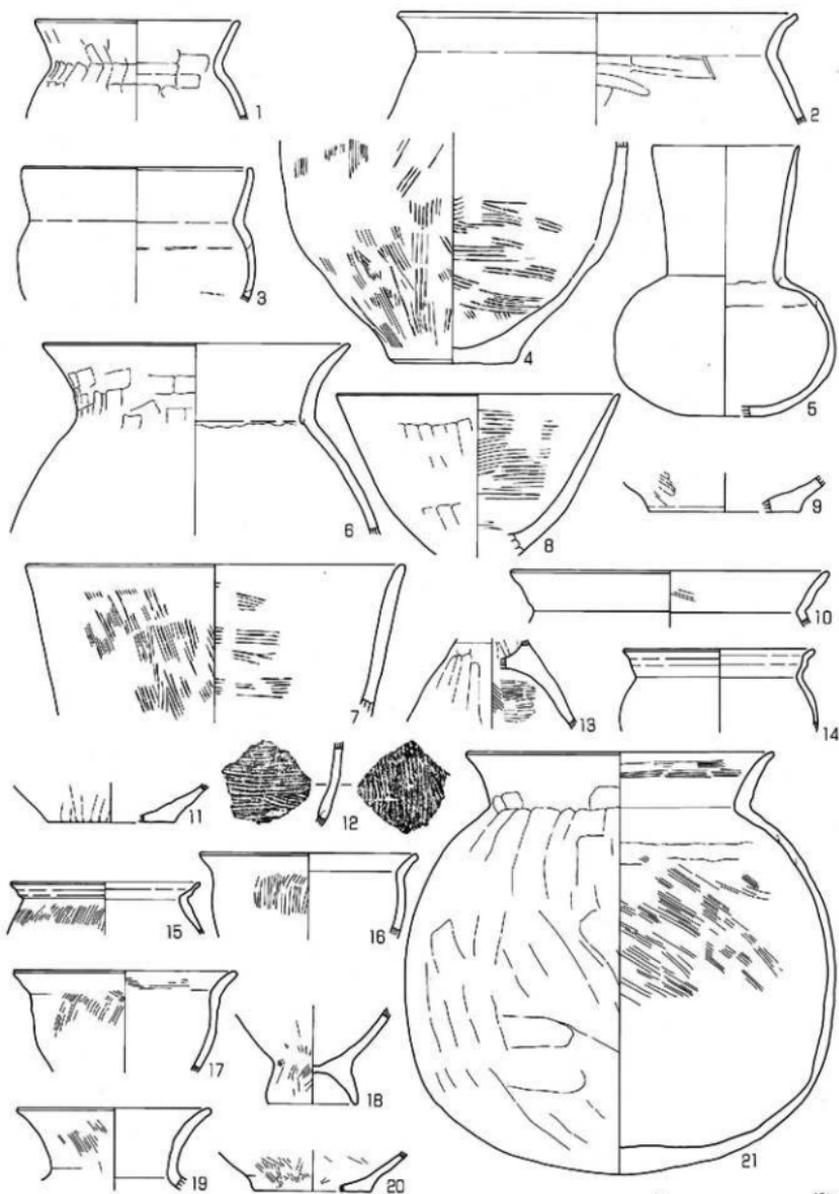


圖65 出土遺物(1)



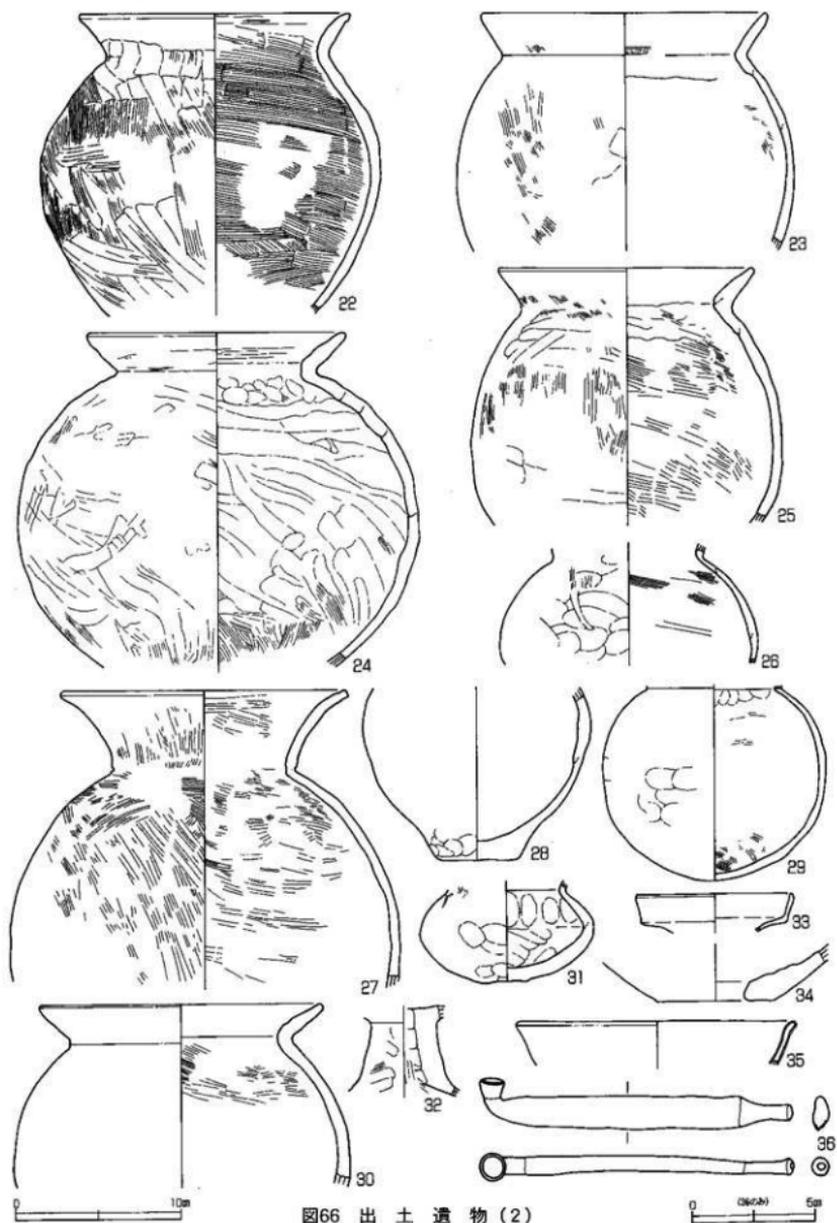


图66 出土遗物(2)

11-29 塩部遺跡

調査位置 甲府市飯田一丁目2328 他
 調査原因 倉庫建設
 対象面積 13,020㎡
 調査面積 40㎡
 調査期間 平成11年9月9日～21日
 調査担当 伊藤正幸



調査の概要

塩部遺跡の南東端に位置し、標高274mを測る。これまでに敷地の西側に隣接するホテル紫玉苑の建設工事に先立ち発掘調査がされた(昭和59年)。この調査により弥生～古墳時代初期の土器などが確認されている。

今回の調査は敷地内にある倉庫の改築工事を行うにあたり、遺跡の範囲確認と地下の状況を把握する目的で、試掘確認調査を行ったものである。

調査は幅2m長さ10.8mのAトレンチと幅2m、長さ10.7mのBトレンチの2本の試掘坑を設定し、アスファルトの除去を含めて重機により掘り下げを行った。

アスファルト舗装面及びその下部の床土面まで合わせて20cmの厚さで、明褐色土層、灰褐色粘土層、黒色粘土層と続く。最下層は、細石を多く含む地山で、明褐色を呈する。地山面までは90cmを測るが、2本の試掘坑とも遺構・遺物等は一切確認されなかった。

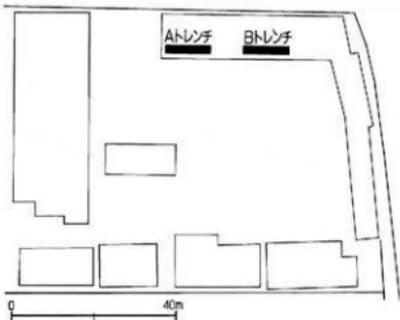


図67 試掘坑配置図



図68 土層柱状図



調査状況

11-30 十二天遺跡

調査位置 甲府市小松町496-1
調査原因 個人住宅建設
対象面積 324.05㎡
調査面積 3㎡
調査期間 平成11年12月17日
調査担当 志村憲一

遺跡の概要

甲府盆地北側の相川扇状地右岸、小松山南麓位置する平安時代の遺跡である。調査区北側には、中世文書に記載されている諏訪神社があり、その境内には2個の巨石があることから、石宮明神とも云われている。調査区は遺跡範囲の東辺にあたり、標高約320m地点に位置する。今回が遺跡範囲内における初めての調査である。

調査の概要

敷地の北東隅（Aグリッド）と建物の北側中央部（Bグリッド）の2箇所を設定し、人力で地表下20～40cmの地山層まで掘削を行い、土層の堆積状況及びに遺構・遺物の確認を行った。両グリッドともに地山層は拳大の礫を多く含む黄褐色の粘質土である。遺構は確認されなかったが、Aグリッドからは縄文時代と考えられる土器の小片1点とジャスパー製の石器未成品が1点出土した。

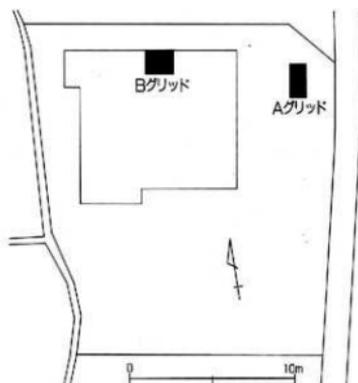


図69 試掘坑配置図

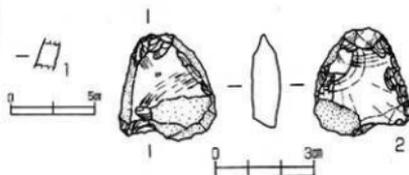
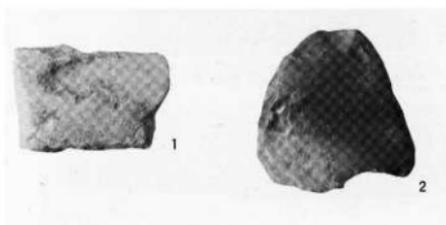


図70 出土遺物



出土遺物

11-31 堰添遺跡

調査位置 甲府市宮原町1163 他
 調査原因 倉庫建設
 対象面積 199.20㎡
 調査面積 8㎡
 調査期間 平成12年2月22日
 調査担当 伊藤正幸



遺跡の概要

堰添遺跡は鎌田川の氾濫源に位置し、標高253mを測る。平安時代から中世に及ぶ遺物の散布地として周知されている。周囲は水田及び鎌田川の堤防に沿うように若干の畑地が存在している。今回この場所に倉庫を建設するにあたり、試掘確認調査を行った。

調査の概要

調査は2m四方の試掘坑1ヶ所を設定し、人力により100cmまで掘り下げた。10cmほどの耕作土を除去すると15cmほどは攪乱層であった。その下層は明るい褐色土になる。さらに5cmほどの粗粒砂層と続き、以下黄褐色(10cm)、灰白色(10cm)の砂層を経て黒色土層に至る。黒色土層上面には白色の細粒砂が堆積していて、過去に水の流路があったものと思われる。黒色土の堆積は20cmで、その下層は粗粒砂層になり湧水が確認できる。

黒色土層及び砂層中から遺構は確認されず、遺物が若干出土した。



図71 土層柱状図

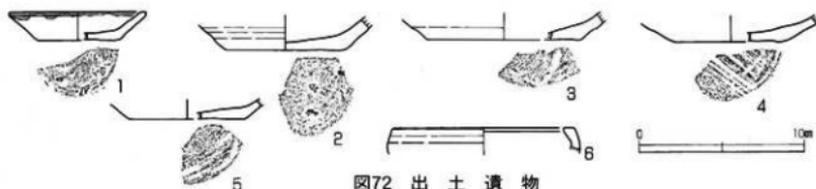
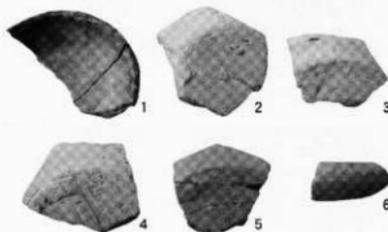


図72 出土遺物



調査状況



出土遺物

11-32 外河原ヂクヤ遺跡

調査位置 甲府市蓬沢町庄の木995-3 他
 調査原因 铁塔建設
 対象面積 230㎡
 調査面積 7㎡
 調査期間 平成11年8月31日～9月3日
 調査担当 志村憲一



遺跡の概要

外河原ヂクヤ遺跡は、甲府盆地中央部を南流する濁川の右岸と左岸の広範囲に位置する古墳時代から平安時代にかけての遺跡である。調査区周辺は標高約254mと低く、元禄9年(1696)の河川改修まで水害の常襲地帯であった。

調査の概要

調査区にグリッドを3箇所設定し、人力で1.8mほど掘削を行った。3箇所とも遺構は確認されていないが、Aグリッドでは、地表下1.2m地点から織部焼(1)と中国製の白磁製の輪花皿(2)が出土した。さらに地表下1.4m地点から平安期の土器が確認された。

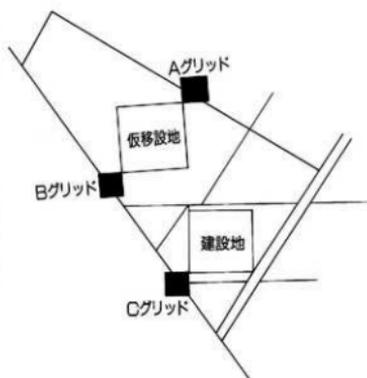


図73 試掘坑配置図

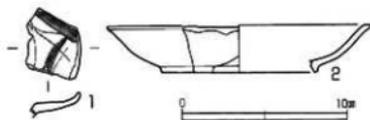
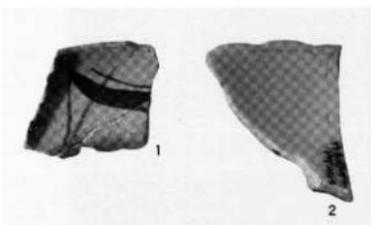


図74 出土遺物



出土遺物

11-33 外河原チクヤ遺跡

調査位置 甲府市増坪町445-6 他
調査原因 店舗建設
対象面積 449.91㎡
調査面積 3㎡
調査期間 平成11年12月2日
調査担当 佐々木 満



調査の概要

本地区は、外河原チクヤ遺跡包蔵地範囲の南端部に位置する。付近での調査事例はなく、地下の状況は未知数であったため、試験的に2m×1.5mのグリッドを設定し、人力のみで掘削した。

事前に盛土を施した造成地であることは連絡を受けていたが、掘り下げると造成時の盛土が予想以上に厚く、旧地表まで約1mの盛土があることを確認した。

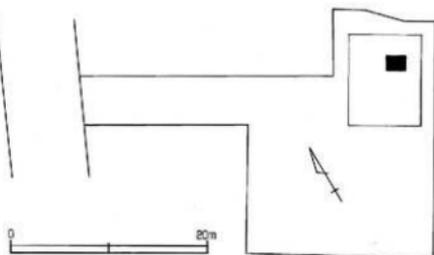
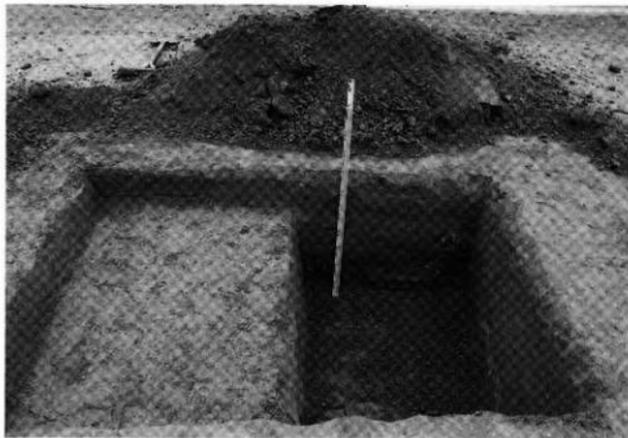


図75 試掘坑配置図

まとめ

宅地造成時の盛土層が厚いことが確認され、店舗の基礎工事はすべて盛土内で収まることが確認されたため、それより下層への調査を行わなかった。



調査状況

11-34 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市古府中町3006-1 他
調査原因 個人住宅増築
対象面積 266.02㎡
調査面積 約2.4㎡
調査期間 平成11年8月25日
調査担当 志村憲一



遺跡の概要

調査区は、国史跡武田氏館跡北方の武田信玄の次男の信親（龍宝）の墓と伝えられる、お聖道様の石仏の東方30mに位置する宅地である。昭和25年ごろまで水田であった。

調査の概要

敷地北側の浄化槽設定部分に、東西2.2m、南北1.1m、深さ1.1mほど掘削を行い、土層の堆積状況を確認した。地表下0.25m地点で近代の水田面が確認された。地山層は、さらに5cm下がった地点の礫を少量含む黄褐色粘質土層である。遺構・遺物ともに確認されなかった。

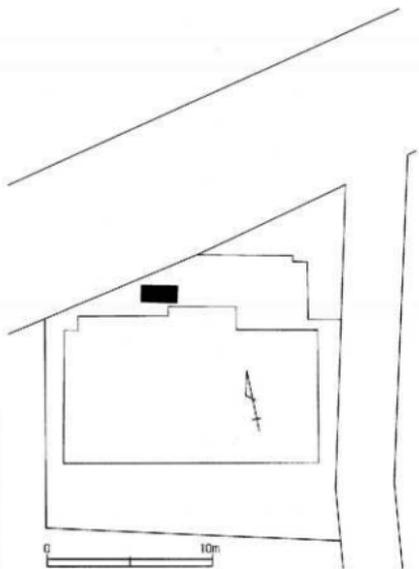


図76 試掘坑配置図



調査状況

11-35 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市武田二丁目2425
調査原因 個人住宅建設
対象面積 234.74㎡
調査面積 4㎡
調査期間 平成11年8月25日～26日
調査担当 伊藤正彦



調査地点

本遺跡は市街北部、相川扇状地一带に広がる戦国期開創の城下町遺跡である。城下の範囲は、武田氏の居館「躰躰ヶ崎館」を中心に現在のJ R甲府駅付近まで広がっていたものと推量される。居館を基軸として南北五本の基幹街路が二町間隔に設定され、調査地点は中心街路に接した標高約328m付近に位置する。

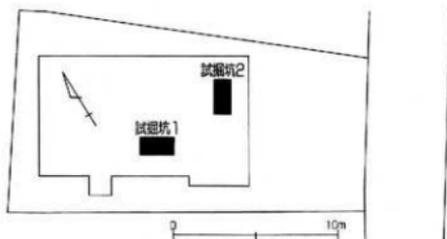


図77 試掘坑配置図

調査概要

対象地に試掘坑（1m×2m）を二箇所設定し、人力により掘り下げた。対象地中央に設定した試掘坑1は、地表下80cmまで掘削し、地表下20cmまでは、碎石・整地層であり、それ以下に第1層明茶褐色土(盛土)・第2層灰色土混じりの明茶褐色土が堆積する。東側に設定した試掘坑2も試掘坑1と同様の土層堆積であった。調査により遺構・遺物とも確認できなかった。



試掘坑 1



試掘坑 2

11-36 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形三丁目2476
 調査原因 集合住宅建設
 対象面積 770.24㎡
 調査面積 12㎡
 調査期間 平成11年9月2日～9月6日
 調査担当 伊藤正幸



調査地の概要

武田城下町遺跡内における集合住宅建設工事に先立ち、埋蔵文化財の試掘確認調査を行った。対象地は武田氏館跡梅翁曲輪から300mほど南に位置する住宅街の中の宅地で、標高331mを測る。

調査の概要

調査は計画建物の配置に従い、2m四方の試掘坑を3カ所設定し、人力により掘り下げて行った。

基本層序としては耕作土（1層）を除去すると黄色土層（2層）、暗褐色土層（3層）を経て小礫混じりの黄褐色土層（4層：地山）に至る。TP2については2層が攪乱され4層まで礫が充填されていた。地山までの深さは0.5mほどである。

いずれの試掘坑からも遺構は確認されなかったが、TP3から中世の土器小破片数点が、またTP2からは攪乱に混ざり縄文時代から中世に至る土器小破片が確認されている。

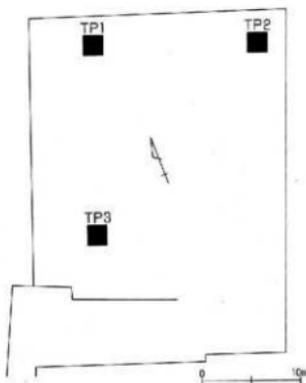


図78 試掘坑配置図



出土遺物

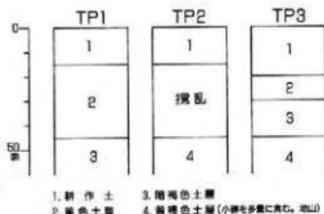


図79 土層柱状図

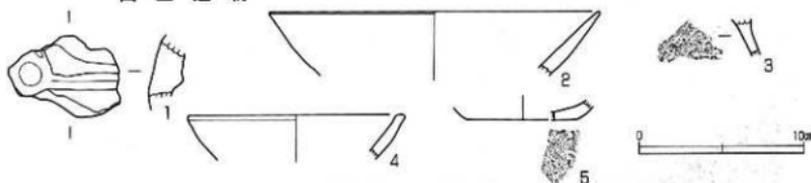


図80 出土遺物

11-37 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形二丁目2411-7 他
調査原因 集合住宅建設
対象面積 246.54㎡
調査面積 24㎡
調査期間 平成11年10月4日～6日
調査担当 平塚洋一

調査の概要

調査対象地は『甲府略史』所収の「古府之岡」によると、三枝勘解由の屋敷跡とされている。

調査対象地点に2×12mのトレンチを設定し、地表から40cmまで重機で掘削し、その後人力で調査を実施した。

調査の結果、柱穴跡と思われる直径20cmの柱穴が2基確認できた。柱穴と柱穴の間隔芯一芯で7.5mもあることから相互に関連した可能性は低い。また、出土遺物は確認できなかった。

まとめ

武田勝頼により天正9年(1581)に躰躑ヶ崎館から新府城に移転した際、家臣屋敷もなかば強制的に移住を推し進めたことが、記録からわかる。今回の調査により確認できた柱穴も中世の城下町の居住形態を推測するための一助となるものと思われる。

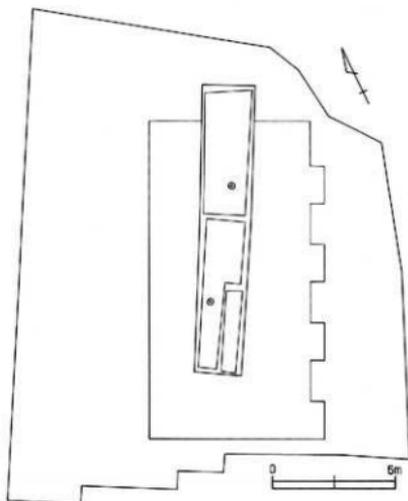


図81 試掘坑配置図



調査状況

11-38 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形二丁目2289-1 他
調査原因 宅地造成
対象面積 1665.25㎡
調査面積 160㎡
調査期間 平成11年10月4日～10月15日
調査担当 伊藤正幸



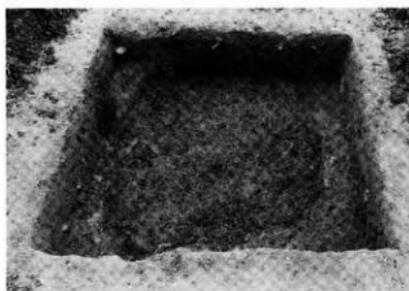
調査地の概要

相川扇状地の扇端部、標高322m程の地に立地する。全体的には水田であるが、一部畑地も残っている。南に向かう緩やかな傾斜地で、南端部分と北端部分とでは1.9mの比高差が認められる。

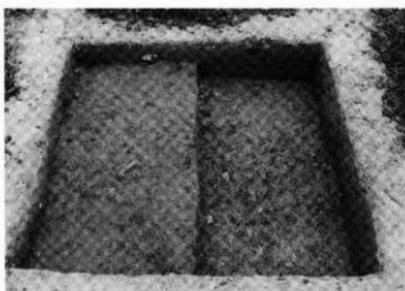
調査の概要

宅地造成工事に先立ち埋蔵文化財の試掘確認調査を行った。造成計画図面に従い、2m四方の試掘坑を道路部分に3ヵ所、5つの各区画部分には1ヵ所ずつ設定して、人力により掘り下げて地下の埋蔵文化財について確認した。

地山までの深さは-30～-50cm程度と浅く、いずれの試掘坑からも遺構は検出されず、遺物も小破片が数点検出したにとどまった。



調査状況 (TR4)



調査状況 (TR8)

11-39 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形二丁目2357-1
調査原因 個人住宅建設
対象面積 299.16㎡
調査面積 8㎡
調査期間 平成11年10月8日
調査担当 伊藤正幸



調査の概要

現地は既に造成済の土地で、対象地に2m四方の試掘坑2ヶ所を設定して人力により掘り下げ調査した。

現状地盤から10cmほどの深さで整地に伴う黄褐色の山砂が確認でき、さらに造成により持ち込まれた客土が40cmほど続く。工事による根切りの深さは30cmなので、造成土部分のみの掘り下げに限られ、旧地山まで至らないことが確認できたので、埋め戻して終了した。

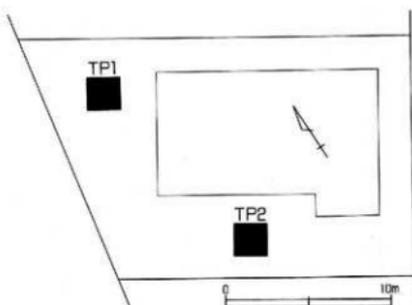
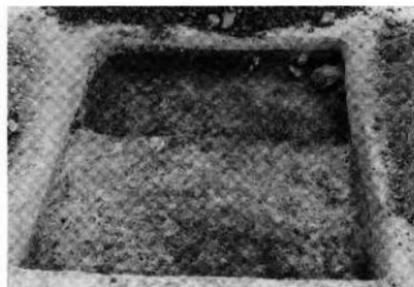
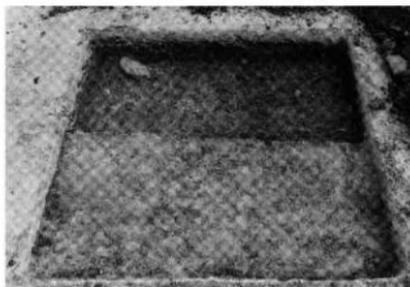


図82 試掘坑配置図



TP1



TP2

11-40 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形二丁目2350-1他
調査原因 個人住宅建設
対象面積 271.54㎡
調査面積 8㎡
調査期間 平成11年10月25日～10月26日
調査担当 伊藤正幸



調査の概要

個人住宅建設に伴い、2m四方の試掘坑を2ヶ所所定し人力により掘り下げたが、いずれの試掘坑とも-30cmほどで地山に至り、すでに切り土による造成が行われていたと思われる。陶器の小破片が1点出土した。

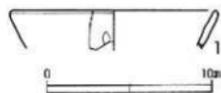
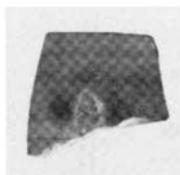


図84 出土遺物



出土遺物

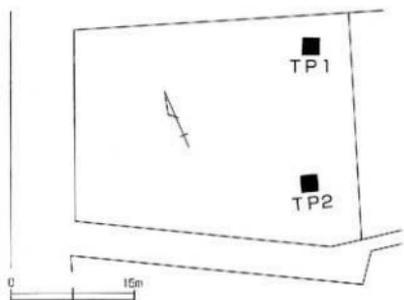


図83 試掘坑配置図



T P 1



T P 2

11-41 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市天神町148-1 他
 調査原因 集合住宅建設
 対象面積 403.40㎡
 調査面積 8㎡
 調査期間 平成11年11月2日～11月4日
 調査担当 志村憲一



遺跡の概要

調査区は相川扇状地扇央部、標高約296mに位置する。武田時代の家臣屋敷を描いた『甲府略志』の絵図によると、「大熊備前守」の屋敷跡の伝承地である。現在も大熊備前守の氏神と伝えられている天神社が存在している。

調査の概要

調査区にA・Bのグリッドを2箇所設定し、地山層まで0.3～0.8mほど掘削を行い、土層の観察と遺構・遺物の確認作業を行った。

Aグリッドでは、地表下0.35m地点から南北方向の暗渠が検出された。暗渠内には拳大の礫が充填され、瓦・陶磁器など近代の遺物が出土した。

Bグリッドは、地表下0.3mで地山層となる。径15cmのピットが1基と溝状の遺構が確認された。平安期の坏（9）が検出されていることから、平安期の遺構である可能性も考えられる。

両グリッドからは、近世から近代にかけての陶磁器が多く、特にAグリッドの暗渠内から集中して検出された。またかわらけ・白磁など中世の遺物が少量出土していることから、近辺に中世16世紀の遺構が存在することも考えられる。

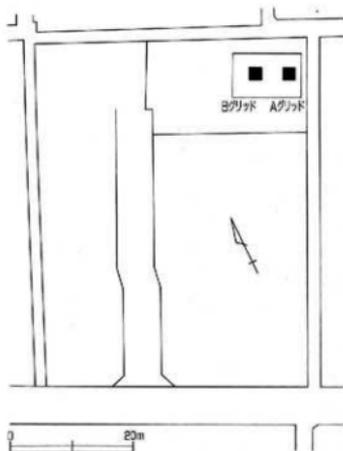


図85 試掘坑配置図

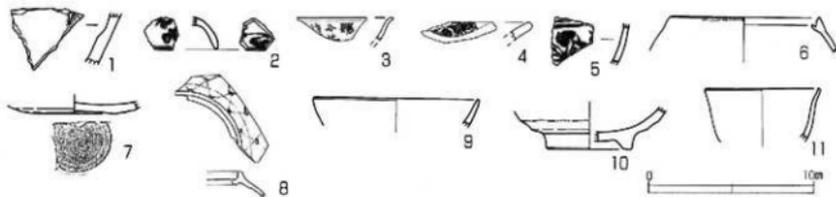


図86 出土遺物

11-42 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形二丁目2318-1 他
 調査原因 集合住宅建設
 対象面積 515.55㎡
 調査面積 8㎡
 調査期間 平成11年11月17日～11月18日
 調査担当 伊藤正幸



調査地の概要

武田城下町遺跡の範囲内でも南部に位置し、中世の街路である広小路に面した、標高320mに位置する。集合住宅建設に伴い、対象地に2m四方の試掘坑を2ヵ所設定して人力により掘り下げ調査を実施した。現状は宅地で、部分的にコンクリート瓦礫等が埋められていた。

調査の概要

TP1 調査地東側の試掘坑 (TP1) は -20cmまで攪乱を受けていて、砕石及びコンクリート等が埋められていた。その下層が明褐色土の旧表土で25cmの厚さで、地山に至る。地山は若干水が湧き出し拳大の礫を多量に含む。

TP2 TP2では、旧表土(2層)と地山(4層)との間に褐色土層が35cmほど確認できた。黄色土ブロック及び拳大から人頭大の礫を多量に含んでいるが、礫に加工痕は認められない。

両試掘坑とも遺構・遺物等は確認できず、TP2東壁面に攪乱の竪穴が確認できた程度であった。

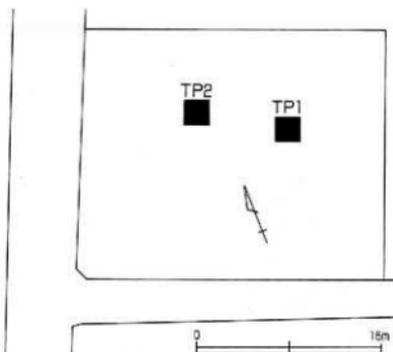


図87 試掘坑配置図

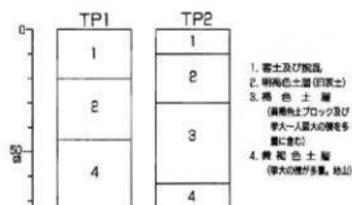


図88 土層柱状図

11-43 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市大手一丁目4405
調査原因 個人住宅建設
対象面積 505㎡
調査面積 30㎡
調査期間 平成11年11月26日～30日
調査担当 平塚洋一

調査の概要

調査地点は鍛冶小路と呼ばれる道路に面する。鍛冶小路は中世の武田城下町を形成する南北5条の通りのうち東から2条目に位置し、特に調査地点は『甲府略史』所収の「占府之図」によると伝来福寺御朱印地にあたる。

遺構確認面は地表から約50cm下層の水田耕作面の直下にある整地層および地表から約70cm下層の自然堆積層を掘り込んだ文化面が2面存在する。上面の整地層で井戸跡1基、柱穴5基が確認できた。下層の自然堆積層で柱穴が2基確認できた。

調査の結果、井戸跡は石積みで井戸枠を形成し、出土遺物にロクロ成形のかわらけ片と天目茶碗片がある。

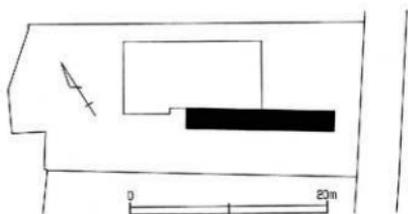
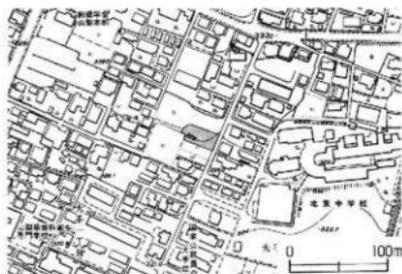


図89 試掘坑配置図



検出遺構



調査状況

11-44 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市武田三丁目448 他
調査原因 個人住宅建設
対象面積 314.55㎡
調査面積 10㎡
調査期間 平成11年12月3日～12月7日
調査担当 志村憲一



遺跡の概要

調査区は相川扇状地扇央部、標高約295mに位置する。武田時代の家臣屋敷を描いた『甲府略志』の絵図によると、米迎寺跡であり、周辺の字名は「相ノ原」と記載されている。

調査の概要

調査区にA・Bのグリッドを2箇所設定し、地山層まで0.4mほど掘削を行い、土層の観察と遺構・遺物の確認作業を行った。2地点とも地表下0.4mで黄褐色粘質土の地山層となる。遺構はBグリッドにおいて、径15cmのピットが1基確認された。ピット内からは黒曜石・水晶片・研磨された石が出土している。また中世のかわらけが少量出土したが、遺構は確認されなかった。

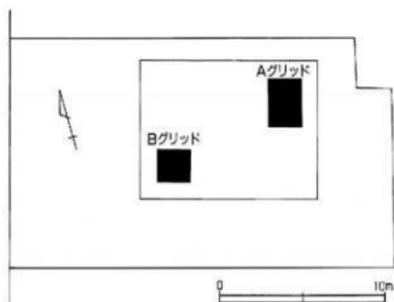


図90 試掘坑配置図

11-45 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市古府中町字中屋敷998-1 他
 調査原因 個人住宅建設
 対象面積 312.64㎡
 調査面積 8㎡
 調査期間 平成11年12月7日～12月8日
 調査担当 志村憲一



調査の概要

調査区は、相川扇状地の相川左岸標高235m地点に位置する。武田時代の家臣屋敷を描いた『甲府略志』の絵図によると、調査区北東側には山本勘助の屋敷地が描かれている。調査区に2m四方のグリッドを2ヶ所設定し、Aグリッドで地表下15～20cm、Bグリッドで約80cm掘削を行った。Bグリッドで近代の水田面が確認されたのみで、遺構・遺物ともに確認されなかった。

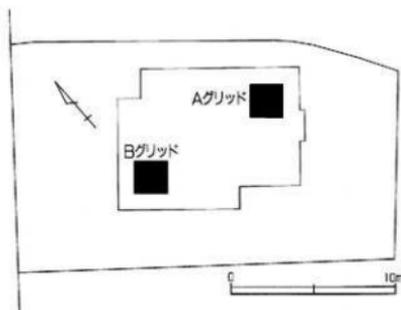


図91 試掘坑配置図

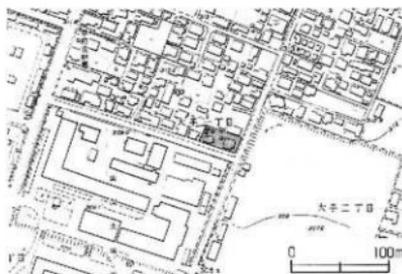


図92 土層柱状図

Bグリッド調査状況

11-46 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市大手一丁目4510-4 他
 調査原因 宅地造成・個人住宅建設
 対象面積 569.37㎡
 調査面積 65㎡
 調査期間 平成11年12月7日～12月15日
 調査担当 志村憲一



遺跡の概要

調査区は相川扇状地扇央部、標高約311mに位置し、東側には鍛冶小路が通る。武田時代の家臣屋敷を描いた『甲府略志』の絵図によると、家臣屋敷が存在していた場所と推定される。

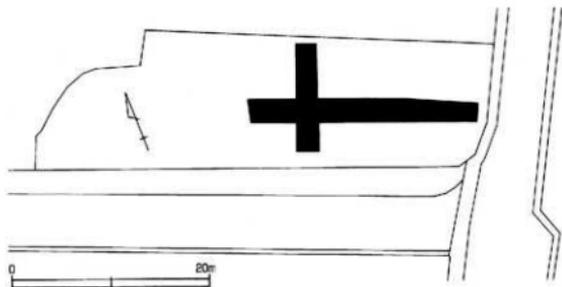


図93 試掘坑配置図

調査の概要

調査区に東西23.5m、南北11m、幅2mとトレンチを十文字状に設定し、重機で掘削を行った。上面遺構は耕作等により削平を受けているが、地表下0.5～1mの範囲からビット20基、溝1条、石積など中世から近世にかけての遺構と、古墳時代・中世・近世の遺物が出土している。

検出遺構

ビットは地山層に掘り込まれた状態で検出された。いずれも円形を呈し径15～30cmを測り、内部からは中世のかわらけが出土したものもある。トレンチ調査のため、ビットの関連性、性格については断言できないが、ビット内から根石が検出されたものもあることから、建物の柱穴跡と考えられる。

溝は東西トレンチの東側から検出され、幅約2m、深さ0.3mを測る。南北方向の溝である。溝内は黒褐色粘質土と砂質土の堆積が見られるが、遺物の混入は確認されなかった。

石積は南北トレンチ北側で確認された。東西方向の石積であり、基底部が残存するのみである。径30～40cmの自然石が使用され、裏込石として拳大の石が伴う。この石積を境に南側は約40cm低くなる。裏込内からは、18～19世紀代の肥前系磁器が出土していることから、江戸時代後期に水田の畦として築かれたものと考えられる。

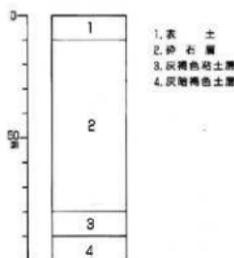


図94 土層柱状図



図95 出土遺物



出土遺物

11-47 天神西遺跡

調査位置 甲府市千塚四丁目3155-1
調査原因 個人住宅建設
対象面積 203.71㎡
調査面積 4㎡
調査期間 平成11年6月24日
調査担当 伊藤正彦



調査地点

本遺跡は、盆地北部に位置し、市域西部を流下する荒川の左岸微高地に広がっている。周辺に多数の遺跡が確認され、山麓に後期古墳が群集する遺跡密集地である。調査地は遺跡の中央、標高305mを測る住宅地である。近年、開発が進み宅地の密集する住宅街と化している。

調査概要

対象地に試掘坑（1m×2m）を二箇所を設定し、人力により掘り下げた。試掘坑1、2ともに地表下70cmまで掘削し、同様の土層堆積を示した。地表下10cmまでは、整地層であり、それ以下に第1層灰土（水田耕作土）・第2層褐色砂質土（水田床土）・第3層黒褐色砂質土が堆積し、地山は黄白色砂質土となる。調査により遺構は確認できなかったが、いずれの試掘坑も第3層から土器片が数点出土している。

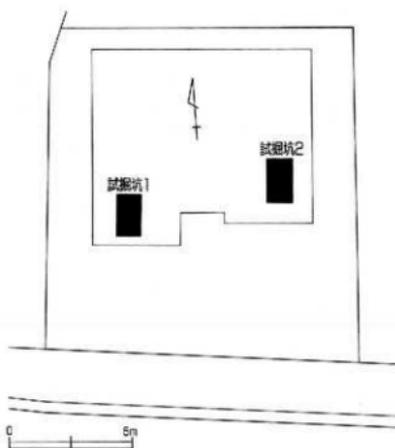


図96 試掘坑配置図



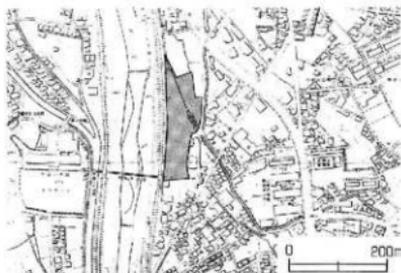
試掘坑 1



試掘坑 2

11-48 中小河原堤防遺跡

調査位置 甲府市中小河原町1609-2 他
調査原因 宅地造成
対象面積 11764.1㎡
調査面積 703㎡
調査期間 平成11年4月14日～20日
調査担当 伊藤正彦



調査地点

本遺跡は盆地中央、本市南部郊外に位置する。市域西部を流下する荒川の左岸堤防に近接し、調査地点は標高約257mを測る。対象地中央に幅2mの用水路が南北に流下し、それを境に西方堤防側は一段高く荒地となり、東側は碎石敷きの駐車場となっている。

調査概要

対象地に幅2m、長さ14～30mのトレンチを任意に17本設定し、重機により掘り下げ遺構・遺物の確認を行った。各トレンチとも深さ2.5～3mまで掘削を行ったが、全てのトレンチから遺構・遺物は確認できなかった。特に一段高い西側部分、トレンチ1～9の範囲では地表下約2mにコンクリート・アスファルト片、焼却灰、解体ゴミなどが大量に埋設され、それらを覆い隠すため約2mの厚さで茶褐色土が盛土されていた。その結果、現状の一段高い地形が造りだされたのだろう。

トレンチ10～14にかけて地表下1mまでコンクリート片が混入し、部分的に地表下2mまで攪乱を受けている箇所も存在した。地山は黄白色砂層となるであろう。

トレンチ15～17にかけて、2m程度の盛土が確認された。トレンチ15の南端を境に盛土の様相が異なり、北側は黄褐色砂質土、南側(トレンチ16～17)は、コンクリート片を含む礫混じり土であった。

調査結果

いずれの試掘地点も盛土されている状況が確認され、しかも数時期にわたりその都度、盛土されていることが判明した。調査中、周辺住民より伺った話によると、かつて西側の現堤防を一番堤と呼び、東側道路部分を二番堤と呼び、二番堤はすでに削平され、道路になっているとのことである。



現堤防(右 調査地)



トレンチ2～6

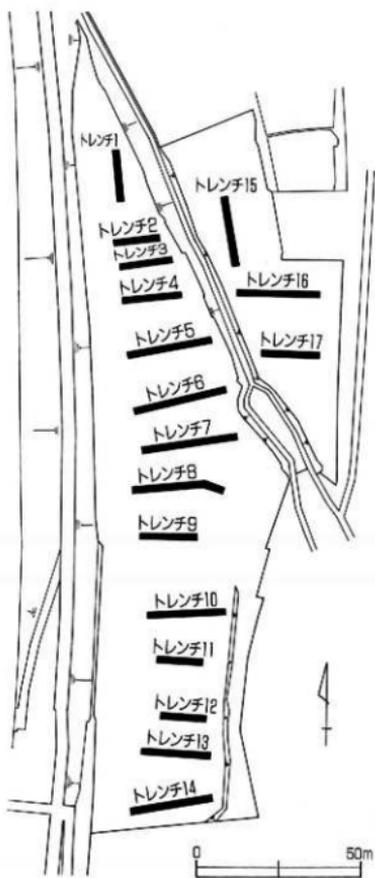


図97 試験坑配置図



トレンチ6



トレンチ13



手前 二番堤、奥 一番堤

11-49 本郷遺跡

調査位置 甲府市善光寺三丁目2445-11
 調査原因 個人住宅建設
 対象面積 141.28㎡
 調査面積 3㎡
 調査期間 平成11年5月7日
 調査担当 佐々木 満



調査の概要

本郷遺跡では、過去に市営善光寺団地建設前に大規模な調査が実施され、古代から中世にかけての遺跡が確認されている。本地点は、市営善光寺団地から川を挟んだ東側に位置する。調査は1m×3mのトレンチを一箇所設定して調査に着手したが、住宅解体に伴う攪乱層を除去すると、全体に盛土層が検出された。盛土層は約60cmまで確認され、直下で地山面が検出された。盛土層から近世の遺物が若干出土したが、地山面で遺構は確認されなかった。住宅基礎も盛土内で収まることから、試掘調査のみで確認作業を終了した。

まとめ

市営善光寺団地からのつながりが注目されたが、狭い範囲での確認であったものの、本地点では中世を含む遺跡の存在を確認することはできなかった。したがって、本郷遺跡内でも河川を挟んだ東側の遺跡密度は低いことが予測される結果となった。

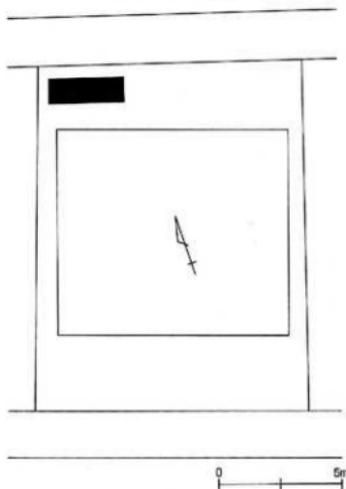


図98 試掘坑配置図

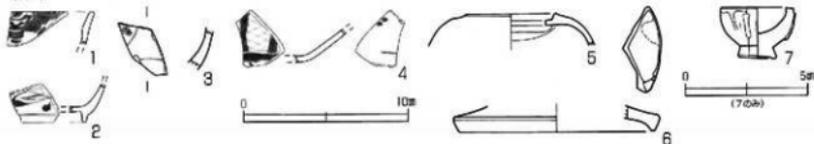
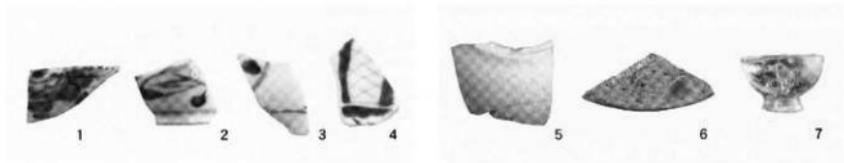


図99 出土遺物



出土遺物

11-50 本郷遺跡

調査位置 甲府市善光寺三丁目2445-69
 調査原因 個人住宅建設
 対象面積 164.14㎡
 調査面積 4㎡
 調査期間 平成11年8月30日～8月31日
 調査担当 伊藤正幸



調査地の概要

高倉川扇状地の中央部を南流する高倉川の左岸、標高260mに位置する住宅地の一角で、本郷遺跡の東端に位置する。高倉川を挟んで西側の市営善光寺団地建設に先立ち、昭和60年度・61年度の2ヵ年度にわたり発掘調査が実施された。

調査の概要

個人住宅改築に伴い、試掘確認調査を実施した。2m四方の試掘坑を2ヵ所設定し、手掘りにより地山まで掘り下げた。地山までの深さは0.7mほどである。旧住宅の基礎及び瓦礫などによる攪乱が著しく、旧建物の基礎や暗渠排水路の構築などにより-0.5mまで攪乱が達している部分も認められた。地山は拳大から人頭大の礫を含む黄褐色土で、粘性に乏しい。若干湧水が認められた。試掘坑壁面中に茶褐色土層も確認されたが、埋蔵文化財は確認できなかった。



図100 土層柱状図



TP1



TP2

11-51 本郷遺跡

調査位置 甲府市善光寺三丁目1935-1
調査原因 個人住宅建設
対象面積 262.15㎡
調査面積 19㎡
調査期間 平成11年12月15日～12月17日
調査担当 志村憲一



遺跡の概要

本郷遺跡は、高倉川により開析された北原扇状地の扇央部標高約261mに立地する。調査区北東側の市営団地建設工事の際に行われた調査では、縄文・古墳～平安・中世・近世の遺構と遺物が確認されている。また周辺には本郷B遺跡（平安時代）・同C遺跡（古墳～中世）があり、北には武田信玄により遷座させられた甲斐善光寺が鎮座する。

調査の概要

調査はA・Bの2ヶ所トレンチを設定し、深さ0.8～1.2mを人力により掘削を行い、遺構・遺物を確認した。基本土層としては下記6層に分層される。

第1層 暗褐色土	厚さ30cmの耕作土
第2層 黒色粘土	厚さ25～30cm。炭化物少量、黄褐色・赤褐色土微量。しまる。
第3層 暗黒褐色粘質土	厚さ10～15cm。炭化物少量、黄褐色・赤褐色土微量。しまる。
第4層 暗褐色粘質土	厚さ10～20cm。炭化物微量、砂分若干混入。
第5層 黒褐色土	厚さ15cm。炭化物少量含む。若干粘土分あり。
第6層 暗褐色粘質土	厚さ15～30cm。炭化物少量。黄褐色・暗褐色粘土、砂分の混合層。 緑釉陶器1点を含む、土器片多数出土。

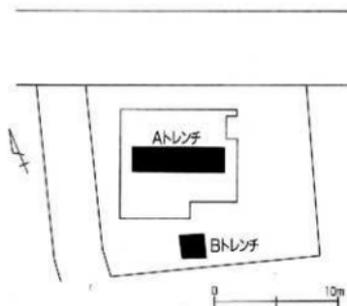


図101 試掘坑配置図

遺構と遺物

Aトレンチは東西7.5m、幅2m、地表下約1mまで掘削した。溝が2条、ピットが6基確認された。溝は幅20cmあり、南北方向に通じ、溝内は拳大の礫が充填されている。第1層から掘り込まれていることから近代の暗渠である。ピットに関しては径20～50cmあるが、遺物等は未確認であるため、時期等は不明である。

Bトレンチは2m四方である。地表下約1.1mの最下層から溝が検出され、溝内から須恵器が出土した。

両トレンチからは、古墳時代後期の土師器(坏・壺・甕)、平安期の甲斐型土器、中世のかわらけ・青磁・土製播鉢、19世紀中葉から明治時代の陶器・磁器が出土した。



調査状況

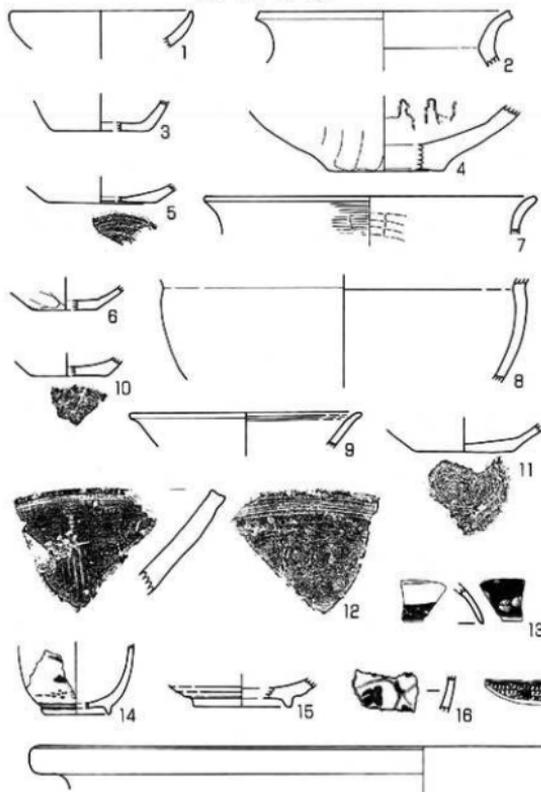


図103 出土遺物

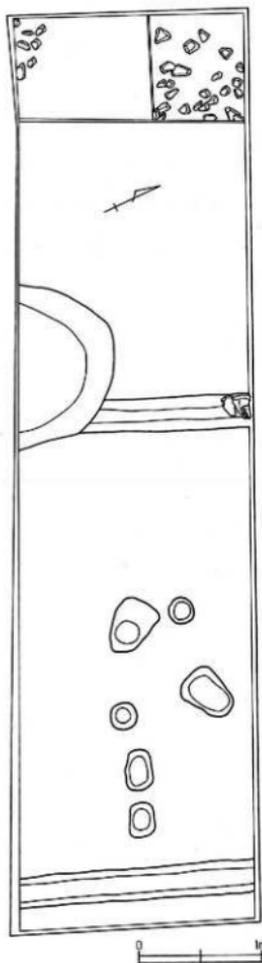


図102 Aトレンチ平面図

11-52 本郷B遺跡

調査位置 甲府市善光寺三丁目1917-1
調査原因 個人住宅建設
対象面積 277㎡
調査面積 4㎡
調査期間 平成11年11月4日
調査担当 平塚洋一



調査の概要

高倉川と大円川に開削された北原扇状地の標高265m付近に位置する。今回の調査地点の約100m西側で平成15年に発掘調査が実施され、弥生時代末から中世にかけての溝跡や井戸跡、土坑墓が検出されている。

今回の調査では、現況地盤より50cm下まで盛土が施されている状況が確認できた。地表下50～70cmの間の地層が遺物包含層となっていることが確認できた。地表下70cmより下層は黄褐色粘土の自然堆積層が確認できた。

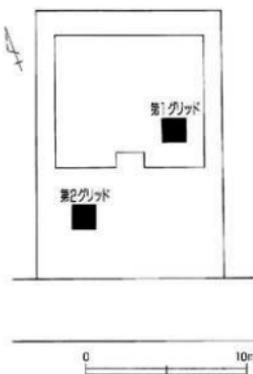
11-53 緑ヶ丘一丁目遺跡

調査位置 甲府市緑ヶ丘一丁目74-6
 調査原因 個人住宅建設
 対象面積 191.83㎡
 調査面積 4.5㎡
 調査期間 平成11年5月10日～5月11日
 調査担当 佐々木 満



調査の概要

本地点は、緑ヶ丘一丁目遺跡の東側に位置する。敷地内で1.5m四方のグリッドを2箇所を設定し、調査を実施している。地表下約20cmまで碎石層で転圧されていたが、その下層には旧水田層と考えられる暗青灰色土と暗灰褐色土が確認された。水田層を除去すると、黒褐色土が検出され、土器などの出土が確認された。第1グリッドからは比較的大きな破片も出土したが、明確な遺構などは確認されなかったことから、黒褐色土自体は包含層と考えられた。黒褐色土を掘り下げたところで、第2グリッドから溝跡が1条検出されている。出土遺物などから古墳時代の遺構と考えられるが、部分的な確認であるため、規模は不明であった。住宅基礎も包含層までは及ばないことから、調査はこの時点で終了している。



まとめ

緑ヶ丘一丁目遺跡でも相川に近いこの一帯は遺跡密度が濃く、本地区の様相からも縄文から古代までの遺物がみられる。本地点では狭い範囲での確認であったため全容は不明であるが、遺物の出土状況からも集落の一角と考えられる。

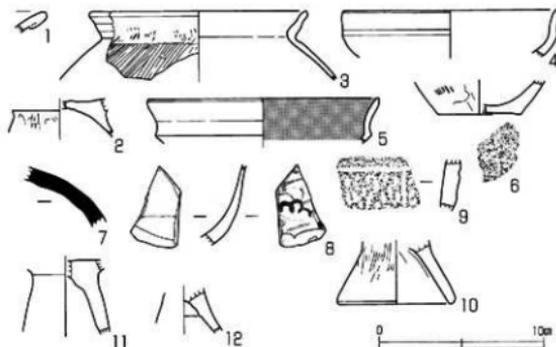
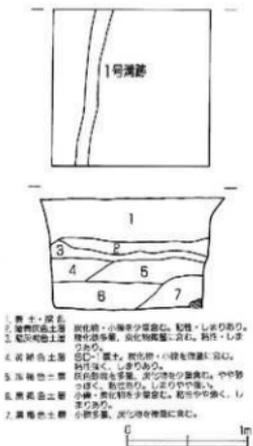


図106 出土遺物

図104 試掘坑配置図



1. 青土・原土 粘性弱・土層厚く露出。粘性・土厚の差あり。
2. 暗灰褐色土層 粘性の差あり。粘性の差あり。粘性・土厚の差あり。
3. 暗青灰色土層 粘性弱・土層厚く露出。粘性・土厚の差あり。
4. 黒褐色土層 粘性弱・土層厚く露出。粘性・土厚の差あり。
5. 黒褐色土層 粘性弱・土層厚く露出。粘性・土厚の差あり。
6. 黒褐色土層 粘性弱・土層厚く露出。粘性・土厚の差あり。
7. 黒褐色土層 粘性弱・土層厚く露出。粘性・土厚の差あり。

図105 第2グリッド平面・土層堆積図

11-54 緑ヶ丘一丁目遺跡

調査位置 甲府市緑ヶ丘二丁目138-10 他
 調査原因 個人住宅建設
 対象面積 255.42㎡
 調査面積 17㎡
 調査期間 平成11年11月17日～18日
 調査担当 平塚洋一



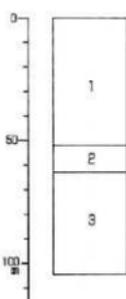
調査の概要

調査対象地に1×8m及び1×9mのトレンチを十字に配置し調査を実施した。表土から50～60cm下層の暗褐色粘土層が遺物包含層となる可能性が高い。東西トレンチ東側で溝状の落ち込みを確認し、掘り下げた。遺構の深さは、確認面から5cm程度であったため、以前に整地、掘削されたことも考えられる。出土遺物は時代不明の土師質皿で、底部に糸切り痕を残す小片が出土しただけである。

北西に隣接する区画の調査の際には遺構・遺物ともほとんど検出されなかった経緯を考えると、遺跡の範囲のなかでも密度が薄い地点だったことが想定できる。



図109 出土遺物



1. 表土
2. 灰黄褐色土層
炭化物を散見、
やや軟弱。
3. 灰色粘質土層
鉄をまばらに
含む。

図108 土層柱状図

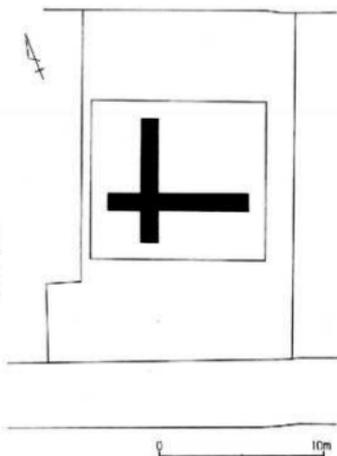


図107 試掘坑配置図



出土遺物

調査状況

11-55 緑ヶ丘二丁目遺跡

調査位置	甲府市緑ヶ丘二丁目897-4
調査原因	個人住宅建設
対象面積	132.66㎡
調査面積	6㎡
調査期間	平成11年5月13日～5月20日
調査担当	佐々木 満

調査の概要

本地点では、宅地分譲に際して進入路の試掘調査を実施している。その時点では宅地部分は盛土造成のため個々の建築物に応じて対応することとなっていた。調査区は、1.5m×2mのグリッドを2箇所を設定し、調査を実施した。宅地造成時の盛土規模は不明であったことから、まず盛土除去から開始したが、両グリッドとも地表下70cmまで盛土されていることが確認された。第1グリッドでは盛土下の旧地表を約30cm掘削すると、砂質土層が検出され、その下は地山であった。第2グリッドでは、砂質土層下に古墳時代の包含層と考えられる黒褐色土層がわずかに残されており、土器片などが数点出土した。本地点については、盛土も予想以上に厚く、基礎深度も盛土内で収まり、遺跡包含層は保護されることが確実であったことから、調査を終了とした。

まとめ

緑ヶ丘二丁目遺跡の包蔵地範囲内でも本地点は中央に近いが、遺構密度は薄い。周辺部の調査状況を見ると、むしろ包蔵地範囲の南側と北側に集中域が存在する傾向にある。



調査状況 (第2グリッド)

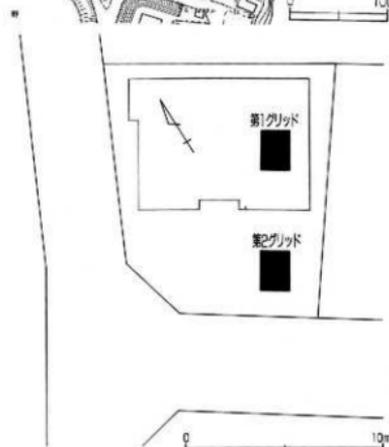


図110 試掘坑配置図

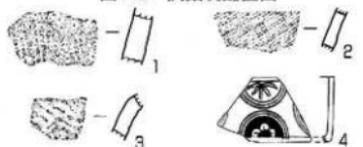
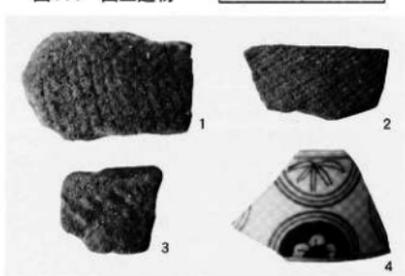


図111 出土遺物



出土遺物

11-56 緑ヶ丘二丁目遺跡

調査位置 甲府市緑が丘二丁目771-20 他
調査原因 保育園建設
対象面積 1614.13㎡
調査面積 80㎡
調査期間 平成11年5月25日～6月21日
調査担当 伊藤正幸



調査の概要

緑ヶ丘二丁目遺跡は相川の右岸、標高290mほどに立地する。古墳時代を中心に平安時代までの遺物が表探できる地域として周知されている。今回保育園建設が計画された場所は相川に接した宅地であり、周囲の畑から数多くの古墳時代の土器が採集されている。

調査は建設部分を中心に幅2mの試掘坑を東西に1本（TR1）及び2m四方の試掘坑3ヵ所（TP1～3）を設定、必要に応じて拡張し、最終的に80㎡の調査を行った。

TR1は-80cm程で全面的に人頭大程度の河原石が重畳していたが、TR1西端に南東方向に伸びる水路跡が確認された。河原石面の広がりを読みながら、南北に2本の試掘坑を追加設定して掘り掘げると同時に河原石面の下部構造を確認、一方水路の西側への延長を確認するため、TP3（2m×2m）を設定した。

TR1西側に検出された水路跡の構造は底面に割り石を、側面には河原石を使用して構築されていたが、遺物の搬出は認められなかった。また河原石の下面は、礫が重畳しているのみであった。

水路跡の西への延長はTP3中には確認できなかったが、カマド状の石組み及び若干の焼土が発見されるとともに坏等が数点確認されたため、北及び西へそれぞれ1mずつ延長し、精査を行ったが明確に住居跡とは捉えきれなかった。

なお調査地南側に設定したTP1及びTP2は、表土の明褐色土を除去（-0.8m）すると人頭大を超える河原石が重畳しているのが確認されたにとどまった。

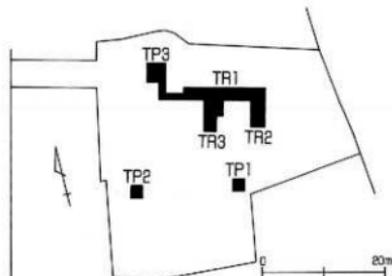


図112 試掘坑配置図



調査状況

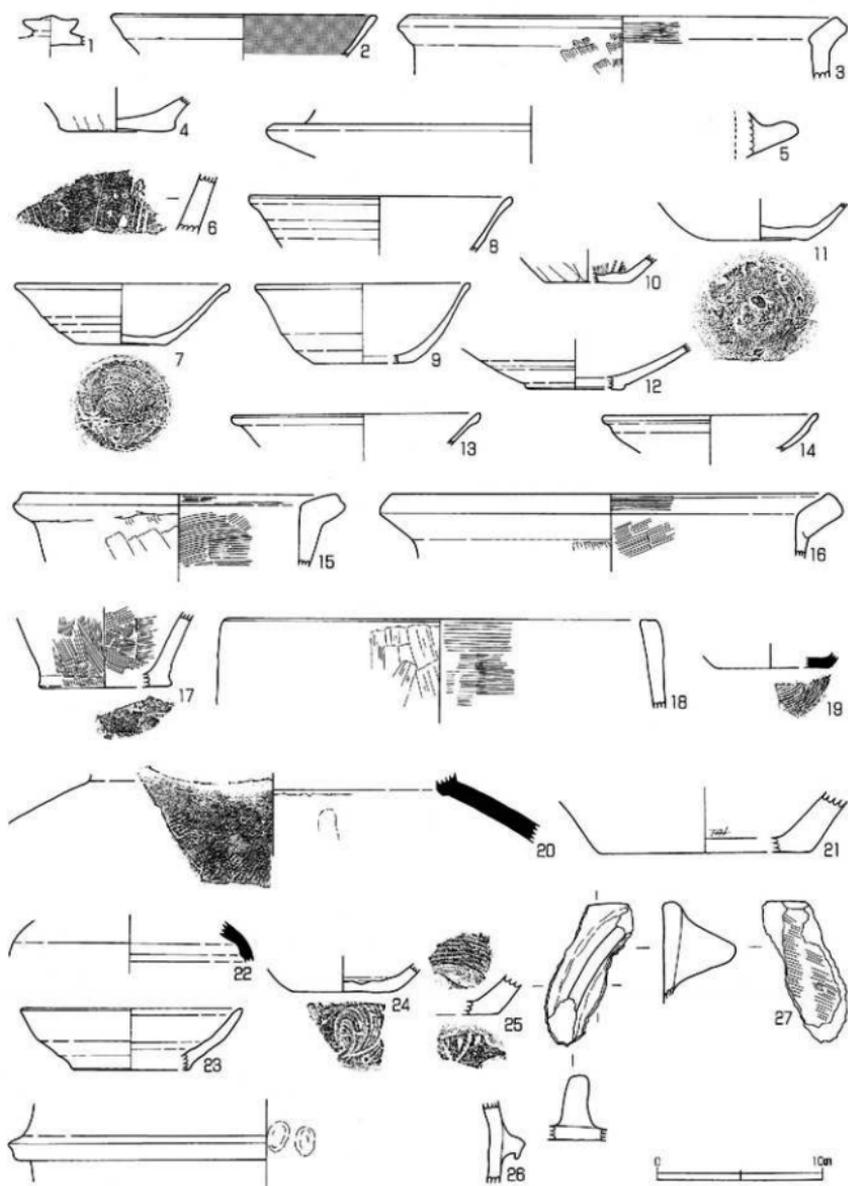


图113 出土遗物(1)

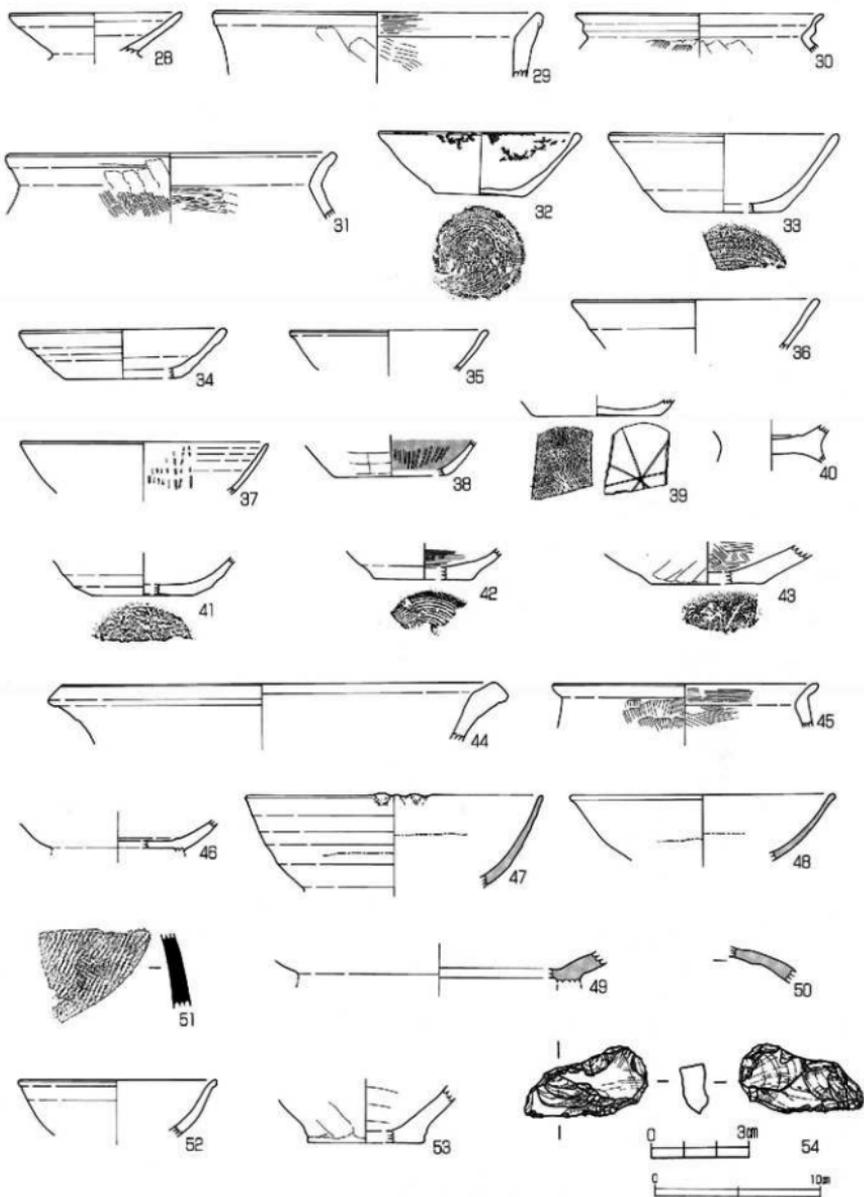
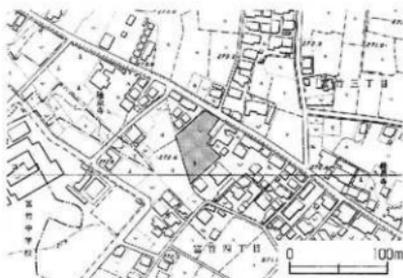


图114 出土遗物(2)

11-57 南河原A遺跡

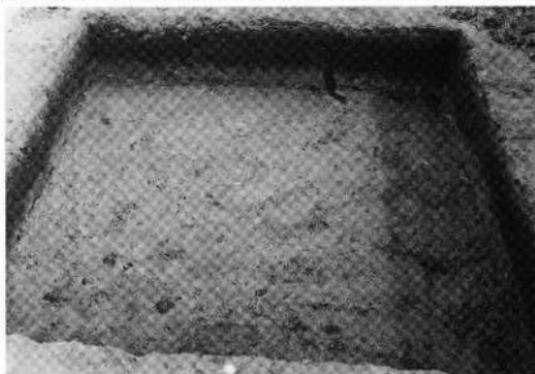
調査位置 甲府市富竹四丁目980-1
調査原因 宅地造成
対象面積 2094.37㎡
調査面積 8㎡
調査期間 平成12年3月1日
調査担当 伊藤正幸



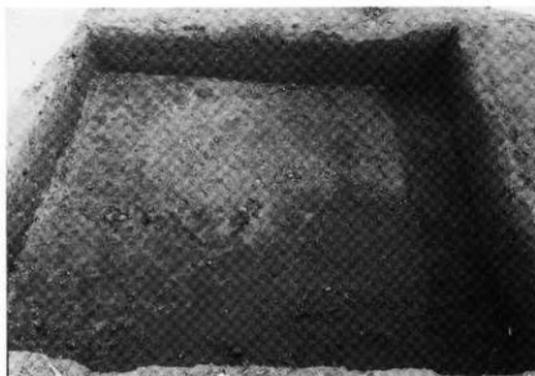
調査の概要

南河原A遺跡は、甲府市の南西部、標高273mに位置する。本遺跡から東に3カ所の遺跡が周知されているが、同一の遺跡である可能性が高い。今回、宅地造成に際し、開発予定地域の一部が遺跡の範囲に該当するため、事前の試掘確認調査を実施した。

調査は2m四方の試掘坑2ヶ所を設定し人力により掘下げたが、20cmほどの耕作土を除去すると灰白色の粗粒砂層になり、1m以上堆積している状況が両試掘坑とも確認された。対象地全体の表探調査でも遺物の散布は認められず、埋め戻して調査を終了した。



調査状況



調査状況

11-58 宮ノ脇A遺跡

調査位置 甲府市善光寺二丁目2752-1
 調査原因 個人住宅建設
 対象面積 325㎡
 調査面積 30㎡
 調査期間 平成11年11月8日
 調査担当 平塚洋一



調査の概要

高倉川左岸の微高地に位置する。表土には平安時代の土器片が散布する。調査の結果、縄文時代中期（曾利式）の土器片がトレンチ西側、高倉川に近いほうからまとまって出土した。

土器が出土した深さは現地表面より40cm下層からで、計画建物の基礎の深さから保護層を保つことが確認できたため、拡張せず調査終了とした。

平安時代の土器片が表面採集できることから、近隣に平安時代の集落跡があることも考えられる。

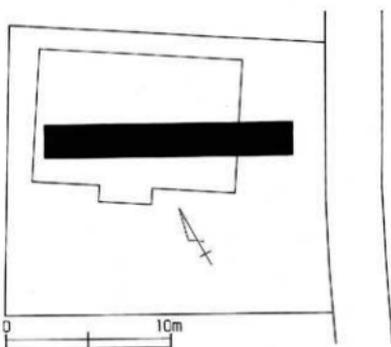


図115 試掘坑配置図

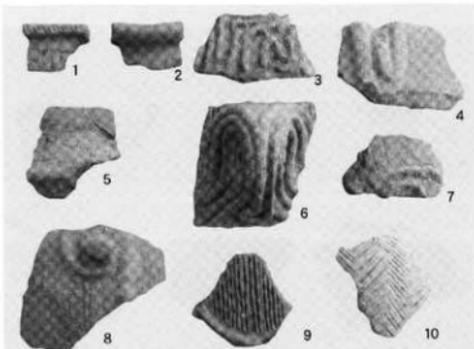
出土遺物

出土遺物に縄文土器と近世の陶磁器がある。縄文土器は縄文時代中期後半の曾利式土器が出土している。深鉢形土器の把手（6）、J字状懸垂文（8）など曾利式のなかでも古相の土器や、連続する「八」の字文をほどこされた新相の土器（10）も出土している。

近世の陶磁器には、瀬戸・美濃産の鉄軸陶製灯明皿（13、14）や、陶器碗（16）、肥前系染付碗（11、12）などが出土している。



調査状況



出土遺物

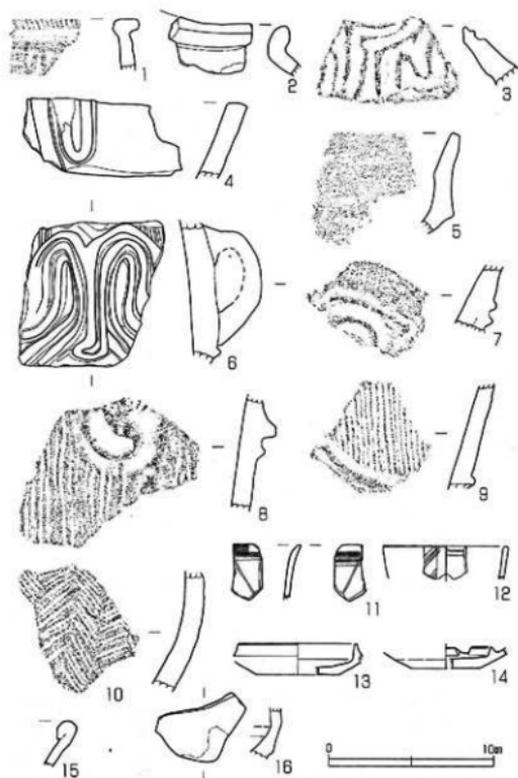
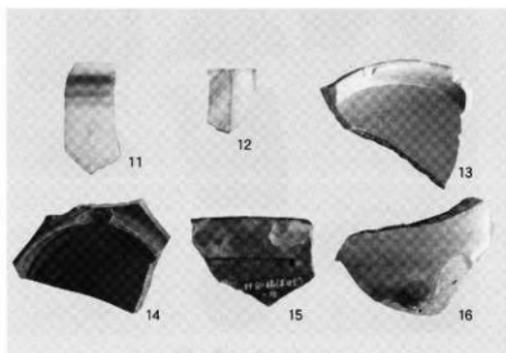


図116 出土遺物



出土遺物

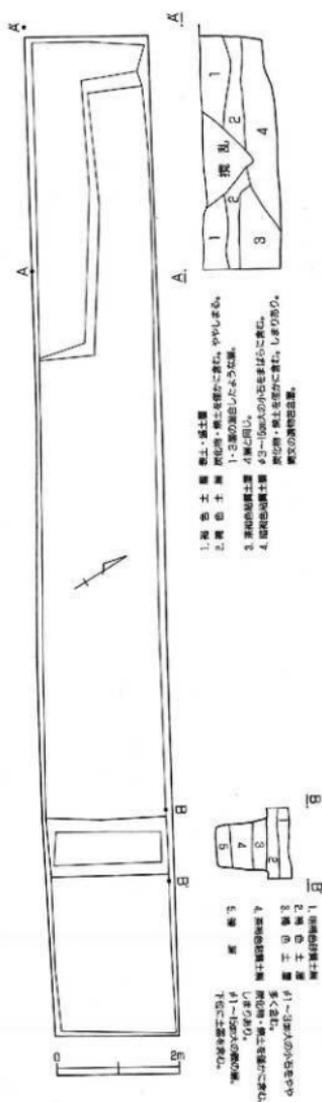


図117 平面・土層堆積図

11-59 横田遺跡

調査位置 甲府市桜井町字横田420-5 他
調査原因 個人住宅・作業場建設
対象面積 992.02㎡
調査面積 8㎡
調査期間 平成11年12月15日
調査担当 平塚洋一

調査の概要

分布調査の結果、近世の土器散布地とされていた遺跡であった。調査対象地に2×2mのトレンチを設定し地表から60cm掘り下げ調査したが、試掘調査の結果、遺構・遺物ともに確認できなかった。

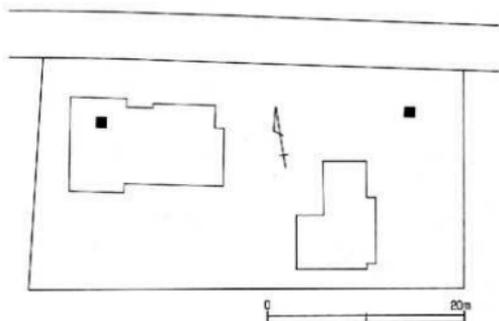
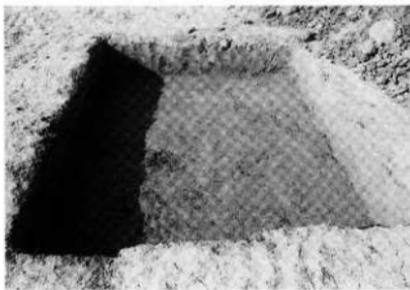


図118 試掘坑配置図



調査状況



試掘状況

11-60 和戸町遺跡

調査位置 甲府市和戸町390-2 他
調査原因 住宅展示場建設
対象面積 8000㎡
調査面積 320㎡
調査期間 平成11年8月26日～27日
調査担当 伊藤正彦



調査地点

本遺跡は盆地北部、本市東部郊外に広がり、市内でも遺跡が濃密に分布する地域である。一帯は開発が進み、店舗・住宅が急増する状況である。調査地点は濁川左岸の標高約261mに位置し、碎石敷き駐車場として利用されていた。

調査概要

対象地に幅2m、延べ160mにわたる試掘坑を2本設定し、重機にて地表下約1mまで掘削を行った。

いずれの地点も水田だったらしく、碎石層以下に床土(褐色土)がみられ、それより下層に黒色粘質土・灰色砂層・青灰色粘質土の堆積が見られた。遺構・遺物などは検出できなかった。

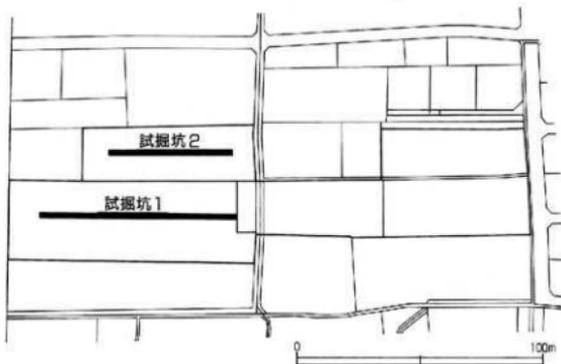


図119 試掘坑配置図



試掘坑 2



試掘坑 1

平成12年度試掘調査一覧表

No.	遺跡名	掲載No.	所在地	調査原因	種別	備考	
1	朝気遺跡	12-1	朝気二丁目600-1他	宅地造成	集落跡		
2	居村村上遺跡	12-2	池田二丁目376-2	集合住宅建設	散布地		
3		12-3	池田二丁目391他	集合住宅建設	散布地		
4	大坪遺跡	12-4	桜井町字角田593-1他	個人住宅建設	生産遺跡		
5	お塚さん古墳	12-5	古府中町字古八幡1427-1	個人住宅建設	古墳		
6	音羽遺跡	12-6	音羽町398-1他	集合住宅建設	散布地		
7		12-7	音羽町433他	集合住宅建設	散布地		
8	金塚西遺跡	12-8	千塚五丁目2599-1他	公園建設	散布地		
9		12-9	千塚三丁目2548-5	個人住宅建設	散布地		
10	川田久保田遺跡		川田町字亀田117, 字久保田2001	駐車場建設	散布地	別冊にて報告	
11	上石田遺跡	12-10	上石田三丁目1683-1	個人住宅建設	集落跡		
12	神田遺跡	12-11	千塚三丁目2136-3	個人住宅建設	散布地		
13	北野光寺A遺跡	12-12	静光寺町3038-11	個人住宅建設	散布地		
14	甲府城下町遺跡	12-13	北口二丁目94他	区画整理及び個人住宅建設	城下町		
15		12-14	丸の内一丁目13-9	店舗建設	城下町		
16		12-15	愛宕町101-1他	個人住宅建設	城下町		
17		12-16	北口三丁目144	集合住宅建設	城下町		
18		12-17	朝日四丁目99他	集合住宅建設	城下町		
19			武田二丁目82-1	集合住宅建設	城下町	甲府市文化財調査報告19にて報告済み	
20			12-18	古府中町字中屋敷973-6	個人住宅建設	城下町	
21			12-19	星形二丁目2392-3	店舗建設・宅地造成	城下町	
22			12-20	星形三丁目1785-3	個人住宅建設	城下町	
23			12-21	星形三丁目1706-2	個人住宅建設	城下町	
24		12-22	大手一丁目4347-21	個人住宅建設	城下町		
25		12-23	星形二丁目4423-1	診療所建設	城下町		
26		12-24	大手二丁目4211-1他	個人住宅建設	城下町		
27		12-25	大手一丁目4293-4	個人住宅建設	城下町		
28		12-26	大手三丁目3758-4他	個人住宅建設	城下町		
29		12-27	武田三丁目391他	個人住宅建設	城下町		
30	武田城下町遺跡	12-28	星形三丁目1709-6	個人住宅建設	城下町		
31		12-29	星形二丁目2393-1	個人住宅建設	城下町		
32		12-30	宮前町38-1他	集合住宅建設	城下町		
33		12-31	星形一丁目2105-1他	個人住宅建設	城下町		
34		12-32	元紺屋町43-4	個人住宅建設	城下町		
35		12-33	天神町7-4	個人住宅建設	城下町		
36		12-34	星形二丁目2438-3	個人住宅建設	城下町		
37		12-35	古府中町字中屋敷1009-1他	集合住宅建設	城下町		
38		12-36	大手三丁目3764-3他	個人住宅建設	城下町		
39		12-37	天神町35他	集合住宅建設	城下町		
40	12-38	宮前町89	宅地造成	城下町			
41	12-39	天神町98-1	個人住宅建設	城下町			
42	天神西遺跡	12-40	千塚四丁目3212-1	個人住宅建設	散布地		
43	東光寺遺跡	12-41	東光寺一丁目208-1他	宅地造成	散布地		
44	西河原遺跡	12-42	荒川二丁目90-2他	鉄道建設	散布地		
45	西耕地C遺跡	12-43	大里町4269-4他	建売分譲住宅建設	散布地		
46	東畑遺跡	12-44	横根町字東畑902-1	個人住宅建設	包蔵地		
47	御崎田遺跡	12-45	東光寺二丁目4-349他	宅地造成	散布地		
48	緑ヶ丘一丁目遺跡	12-46	緑ヶ丘一丁目147-1	個人住宅建設	散布地		
49		12-47	緑ヶ丘二丁目144-2	個人住宅建設	散布地		
50	緑ヶ丘二丁目遺跡	12-48	緑ヶ丘二丁目771-6	個人住宅建設	散布地		
51		12-49	緑ヶ丘二丁目2414-3	個人住宅建設	散布地		

平成12年度立会調査一覽表

No.	遺跡名	所在地	調査原因	種別	備考
1	朝気遺跡	朝気一丁目1-25、-40	個人住宅建設	集落跡	
2		朝気三丁目17-17	建物解体	集落跡	
3	亥ノ鬼遺跡	善光寺三丁目4-721他	個人住宅建設	散布地	
4	上土器遺跡	桜井町290-2他	農業基盤整備	散布地	
5	榎田遺跡	千塚五丁目地内	雨水渠工事	散布地	
6		横根町194-1他	教習所路盤整備	生産遺跡	
7	大坪遺跡	横根町字反田455-1	通信塔建設	生産遺跡	
8		桜井町641-1先	電柱新設工事	生産遺跡	
9		横根町字大坪659-1他		生産遺跡	県教委対応
10	音羽遺跡	音羽町地内	雨水渠工事	散布地	
11	北新一丁目遺跡	北新一丁目2654-1他			県教委対応
12		丸の内一丁目6-1	地質調査	城館跡	
13	甲府城跡	丸の内一丁目6-1	掘殺工事	城館跡	
14		丸の内一丁目4先	地下施設建設	城館跡	
15		天神町106	個人住宅建設	城下町	
16		丸の内一丁目12-1他	地中電線改修	城下町	
17		中央四丁目289	集合住宅建設	城下町	
18		北口二丁目7	地中電線改修	城下町	
19		中央二丁目7-29	個人住宅建設	城下町	
20		丸の内一丁目12-1	電線埋設	城下町	
21		北ロー一丁目4-11	電力地中管路改修	城下町	
22		中央三丁目142	個人住宅建設	城下町	
23		中央三丁目69-1	個人住宅建設	城下町	
24		丸の内二丁目164他	個人住宅建設	城下町	
25	甲府城下町遺跡	相生一丁目206	集合住宅建設	城下町	
26		朝日三丁目210、207	個人住宅建設	城下町	
27		丸の内一丁目11-6先	地中電線路新設・改修	城下町	
28		愛宕町26-1,2	郵便局建設	城下町	
29		朝日四丁目110	事務所併用住宅	城下町	
30		丸の内二丁目630	自動車庫建設	城下町	
31		朝日三丁目127	寺院裏庫建設	城下町	
32		北口二丁目15地内	電力地中管撤去	城下町	
33		相生二丁目271	事務所建設	城下町	
34		中央三丁目121-1、-2	個人住宅建設	城下町	
35		丸の内一丁目11-6		城下町	県教委対応
36		丸の内一丁目11-6		城下町	県教委対応
37	甲府東高等学校	酒折一丁目17-1			県教委対応
38	寿町遺跡	寿町地内	道路建設	包蔵地	
39	桜井畑遺跡	和戸町字桜井畑1256-1	個人住宅建設	包蔵地	
40	十二天・水井遺跡	小松町地内	下水道管布設	散布地	
41		城形二丁目2330-4	個人住宅建設	城下町	
42		大手一丁目4539-1、-6	電柱・地中電線路新設	城下町	
43	武田城下町遺跡	古府中町字古屋敷851-10	個人住宅建設	城下町	
44		大手一丁目4539-17	個人住宅建設	城下町	
45		大手一丁目4539-10	個人住宅建設	城下町	
46		武田三丁目5-23		城下町	県教委対応
47	堀下B・北原無名1号・北原遺跡	北光寺地内	下水道管布設	散布地・古墳・集落跡	
48	天神平・若宮前遺跡	羽黒町地内	下水道管布設	散布地	
49	道々芽木・久保田遺跡	横根町字東畑874-1他		散布地	県教委対応
50	八幡神社	宮前町186他			県教委対応
51	富士見遺跡	富士見一丁目1746-1,1747	店舗併用住宅改築	散布地	
52		富士見一丁目他	道路改修・地中管理設	散布地	
53	富士見一丁目遺跡	富士見一丁目1-1			県教委対応
54	二又遺跡	住吉四丁目3103	個人住宅建設	包蔵地	
55	緑ヶ丘一丁目遺跡	緑ヶ丘一丁目地内	配水管布設	散布地	
56	緑ヶ丘二丁目遺跡	和田町2489-8	個人住宅建設	散布地	
57	南河原日遺跡	富竹四丁目1091-5	個人住宅建設	散布地	

平成12年度慎重工事一覽表

No.	遺跡名	所在地	調査原因	種別	備考
1		屋形二丁目2357-8	個人住宅建設	城下町	
2	武田城下町遺跡	屋形二丁目2320-9	個人住宅建設	城下町	
3		屋形二丁目2357-16他	個人住宅建設	城下町	
4	甲府城下町遺跡	北口二丁目103	個人住宅建設	城下町	

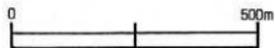


図120 平成12年度調査位置図(1)





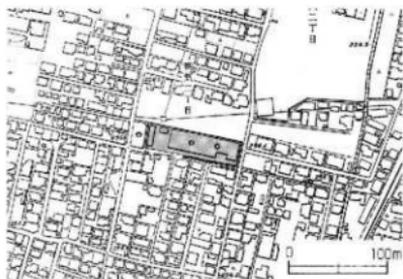
図121 平成12年度調査位置図(2)



Ⅱ. 平成12年度 試掘調査

12-1 朝気遺跡

調査位置 甲府市朝気二丁目600-1 他
調査原因 宅地造成
対象面積 2660.91㎡
調査面積 約18㎡
調査期間 平成12年9月25日
調査担当 志村憲一



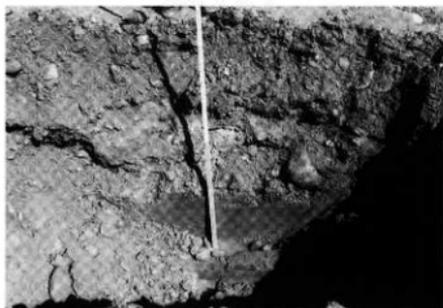
遺跡の概要

調査区は、甲府盆地の中央部の微高地上に形成された、縄文から平安時代にかけての集落地である。調査区は遺跡範囲の北端にあたり、標高約256mである。

調査区3箇所に2×3mのトレンチを設定し、重機で1.7～2.5mまで掘削を行った。3箇所ともに地表下1～1.5mは建物の攪乱を受けていた。攪乱層の下層は厚さ10～20cmの砂礫層となる。その下層は極めて軟質な褐色粘土層が1m以上堆積していた。いずれの層からも遺構・遺物は確認されなかった。



A トレンチ



C トレンチ

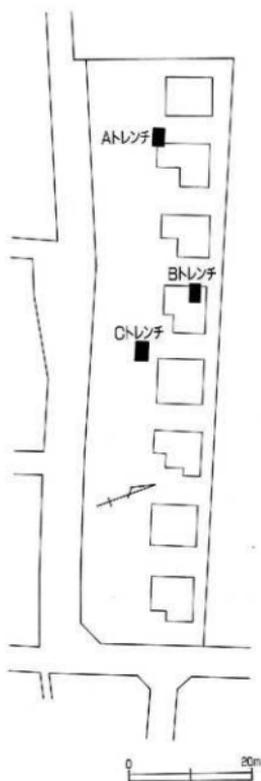


図122 試掘坑配置図

12-2 居村村上遺跡

調査位置 甲府市池田二丁目376-2
 調査原因 集合住宅建設
 対象面積 516.40㎡
 調査面積 16.5㎡
 調査期間 平成12年11月20日～11月21日
 調査担当 佐々木 満



調査の概要

本地点は、居村村上遺跡包蔵地範囲の境界に位置し、当地区の西側約100mには古刹立本寺が存在することから中世段階の遺跡の発見が期待された。南北に細長い敷地内に2棟の集合住宅が建設される予定であり、各棟に対して幅1.5mの東西方向のトレンチを設定し、調査を実施した。両トレンチともに25cm～30cmの耕作土を除去すると、洪水で堆積したとみられる砂層が確認され、砂層の下には江戸期以降と思われる水田層が検出された。部分的に深く掘り下げたが、水田下層にも洪水時の厚い砂層が確認された。この層からは平安期の甲斐型土器片が出土したが、いずれも角が丸くとれていることから、洪水によって運ばれてきたものと考えられる。

まとめ

甲府市西部は、河川洪水によって旧地形の埋没が著しく、遺跡の分布も少ない地域であるが、居村村上遺跡における本地点の調査でも最低2回の洪水層が確認された。砂層より下層への調査は行わなかったが、今後この地区での対応をする上で貴重な情報を得ることができた。



調査状況

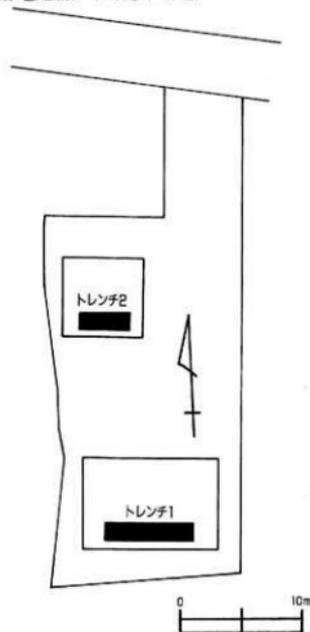


図123 試掘坑配置図

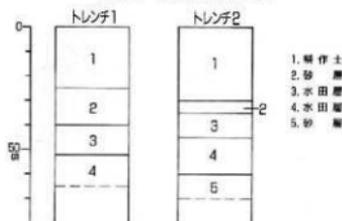


図124 土層柱状図

12-3 居村村上遺跡

調査位置 甲府市池田二丁目391 他
 調査原因 集合住宅建設
 対象面積 934㎡
 調査面積 18㎡
 調査期間 平成12年11月27日
 調査担当 佐々木 満



調査の概要

本地点は、居村村上遺跡包蔵地範囲の東端に位置し、北西には居村村上遺跡第1次地点が存在する。地形的には第1次地点に比べ低い位置にあることから、洪水で堆積したとみられる砂層が厚いことが予想された。敷地内には集合住宅2棟が並列される計画であり、各棟につき南北幅1.5m、長さ6mでトレンチを設定した。

両トレンチともほぼ同じ堆積状況であり、第1次地点と同様水田層下層には洪水時の砂層が確認されたが、本地点では地表下約90cmから黒色粘性土層を検出した。黒色粘性土上では遺構は確認されず、遺物の出土もなかったことからさらに掘り下げたところ、約115cmで黄褐色の地山を検出した。しかし、地山面でも遺構・遺物は確認されなかったことから、本地点には遺跡は存在しないと判断し、調査を終了している。

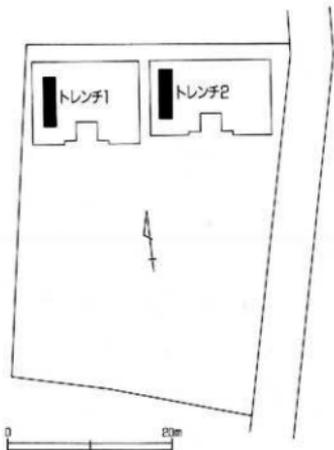


図125 試掘坑配置図

まとめ

洪水層下層で安定した地盤を確認したものの、本地点においても遺跡は発見されなかった。今後、調査成果を積み重ねた上で本地区の取り扱いなどを再検討する必要があるだろう。

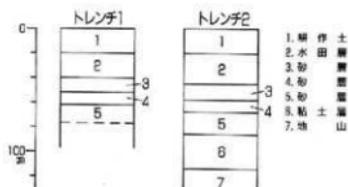


図126 土層柱状図

調査状況 (トレンチ2)

12-4 大坪遺跡

調査位置 甲府市桜井町字角田593-1他
 調査原因 個人住宅建設
 対象面積 235.68㎡
 調査面積 6㎡
 調査期間 平成12年11月30日
 調査担当 平塚洋一

調査の概要

調査対象地は十郎川の左岸に展開する扇状地に立地する。今回の調査地点から西に約500mの地点を平成6年度に、また西北西約800mの地点を平成12年度に試掘調査を実施している。その結果、現在は埋没した旧河道が今回の調査地点の西方約300mに存在するらしいことが解明されている。

その埋没河川の西側では古墳時代から平安時代にかけて集落が展開したが、河川の東側では継続的な集落は営まれなかった可能性がある。



図128 土層柱状図

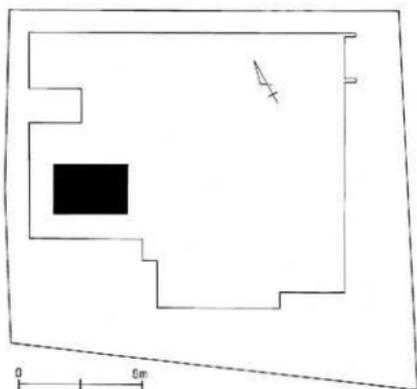


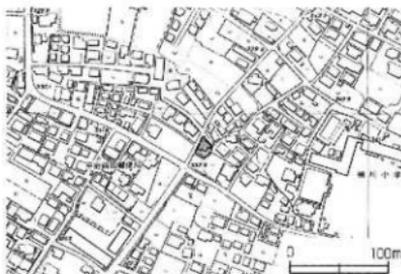
図127 試掘坑配置図



調査状況

12-5 お塚さん古墳

調査位置 甲府市古府中町字古八幡1427-1
調査原因 個人住宅建設
対象面積 254.10㎡
調査面積 2㎡
調査期間 平成12年4月25日
調査担当 佐々木 満



調査の概要

本地点は、相川へ向かう西向きに傾斜地に位置し、かつてお塚さん古墳が存在したとされるが、宅地化によって墳丘など古墳の痕跡を示すものは残されていない。調査は個人住宅の建て替えによるものであり、基礎解体時に試掘調査を実施した。

掘削中に30cm～80cm程度の礫石が複数検出されたため、古墳の石材である可能性も含め慎重に確認したが、宅地造成あるいは基礎解体時の攪乱であることが明らかとなった。最終的に攪乱を除去したところで黄褐色の地山層が確認されたため、全体的に攪乱が及んでいる可能性が高いとみて本地点における調査を終了した。

まとめ

お塚さん古墳は、すでに宅地開発によって消滅していることが確認され、古墳に関連する出土遺物等も確認されなかった。また、武田城下町遺跡としてみた場合でも中世に関連するものは皆無であり、城下町末端部の様相を知ることはできなかった。

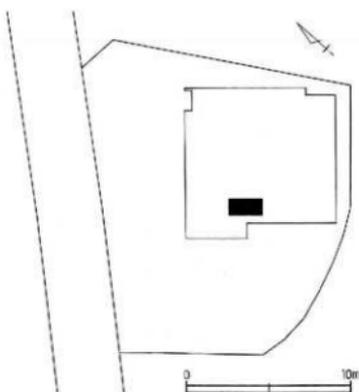


図129 試掘坑配置図



調査状況

12-6 音羽遺跡

調査位置 甲府市音羽町398-1 他
調査原因 集合住宅建設
対象面積 639.09㎡
調査面積 24㎡
調査期間 平成12年7月19日～7月21日
調査担当 志村憲一



調査区の概要

調査区は、荒川の左岸標高約287m地点に位置する、弥生～古墳時代にかけての散布地である。過去調査区東側100m地点における山梨埋蔵文化財センターの調査では、古墳時代の住居址と方形周溝墓が確認されており、この周辺は古墳時代の集落及び墓域が形成されていたものと推定される。

遺構・遺物の概要

建物部分2ヶ所にA・Bのトレンチを設定し、表土下0.3～0.5m部分まで重機で掘削を行い、その後人力で遺構・遺物の検出を行った。

Aトレンチは、南北8m、幅1.3mである。確認された土層は水平堆積を呈し、表土下0.6mに位置する暗茶褐色土層から、炭化物が微量と土師器甕(1)と土器小片の混入が見られたが、遺構は確認されなかった。

Bトレンチでは、表土下0.3m地点から遺物が多く出土している。さらに0.7m下層からは、溝・土坑・ピットなどの遺構と古墳後期から平安時代にかけての遺物が確認された。

1号溝は、地表下0.4m地点から掘り込まれ、幅約0.5m、深さ約0.5mの南北方向の溝である。砂礫の堆積が見られ、また土師器坏(2)と甕(3)、須恵器甕(4)が出土した。

2号溝は、幅約1.2m、深さ0.3mの湾曲した溝である。東南の隅部分からは炭化物に伴い、骨粉と(5～8)の土師器が集中して検出された。

3号溝は、トレンチ北東隅で確認された。2号溝とほぼ同質である砂分の堆積が確認されている。北側で2号溝に繋がる可能性が考えられる。出土遺物は土師器坏(9)である。

ピット1は、2号溝の上面に位置する。径約0.35m、深さ0.2mを測り、ほぼ円形である。上面からは須恵器が出土した。

集石土坑は、1号溝より古い時代にあたる。長径1m、短径0.8m、深さ約0.3mである。遺構上面には径10～40cmの自然石が9点ほど集中して見られた。土坑底部からは土師器(10・11)が出土している。

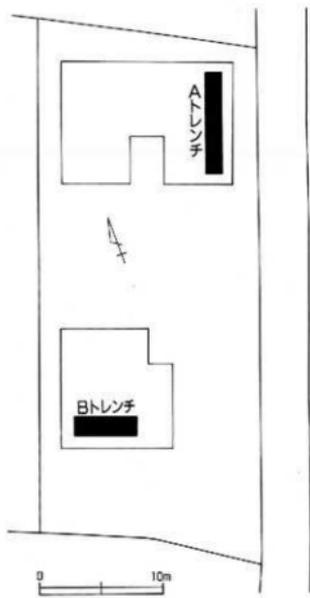


図130 試掘坑配置図

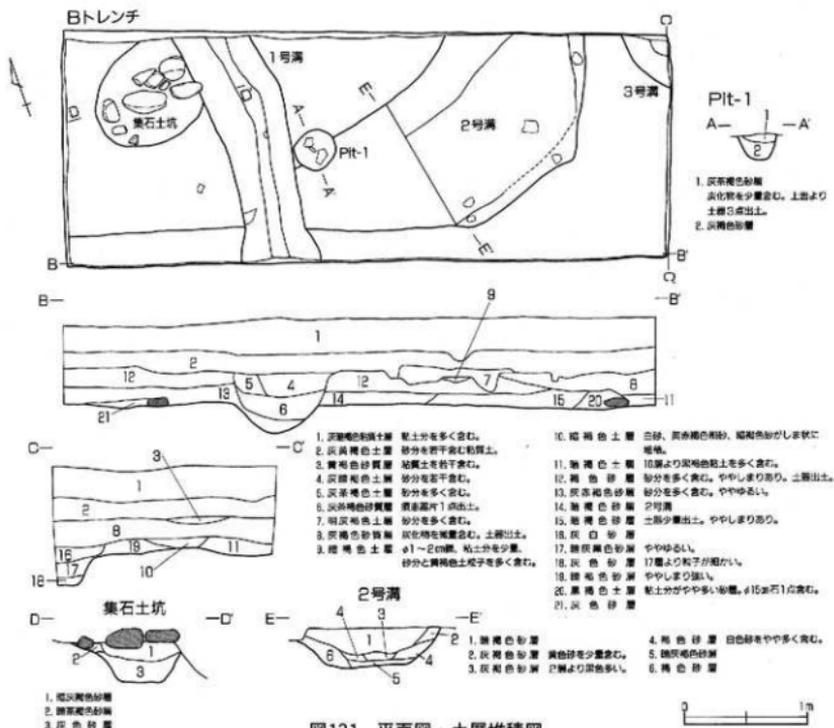


図131 平面図・土層堆積図



Bトレンチ



Bトレンチ1号溝

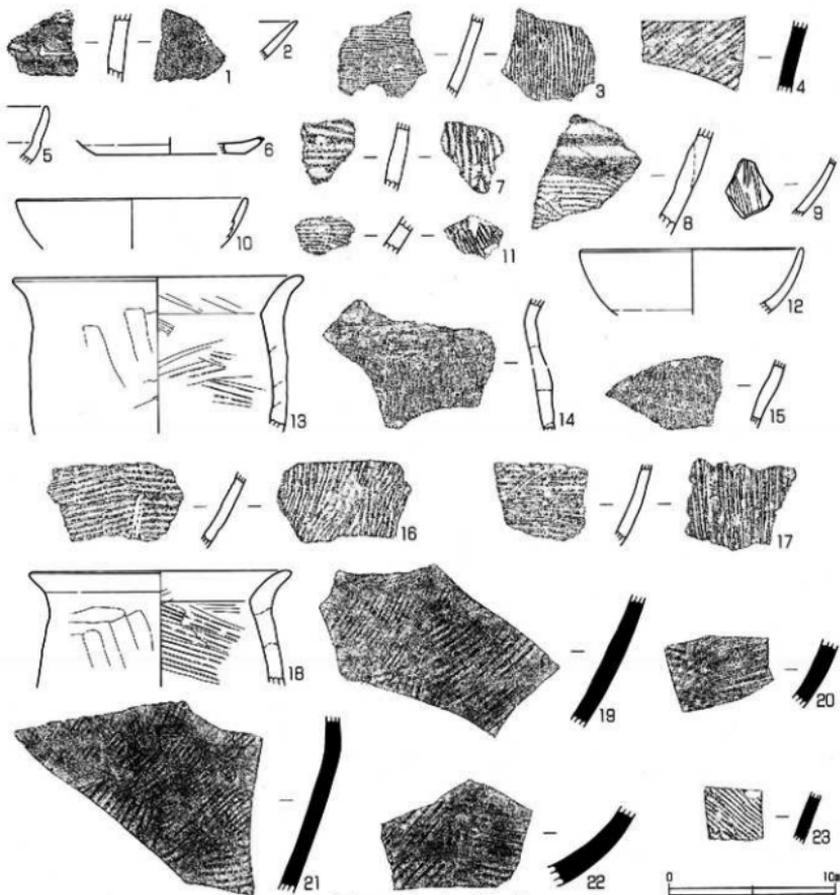
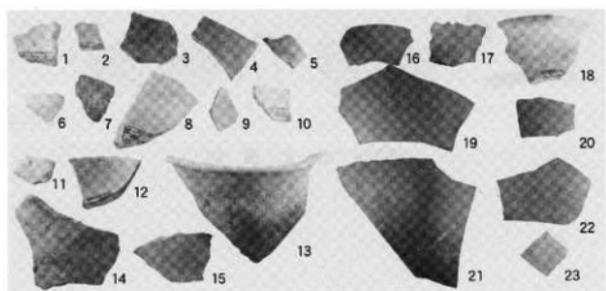


图132 出土遗物



12-7 音羽遺跡

調査位置 甲府市音羽町433 他
 調査原因 集合住宅建設
 対象面積 596.60㎡
 調査面積 3㎡
 調査期間 平成12年10月4日～10月5日
 調査担当 志村憲一



遺跡の概要

音羽遺跡は、荒川の左岸に位置する弥生～古墳時代にかけての散布地である。調査区は遺跡範囲の南西側に位置し、周辺より1mほど低く標高約286mである。過去平成11年11月に行われた調査区北側隣接地の試掘調査では、弥生～平安時代の遺構・遺物が検出された。さらに東側50m地点の住宅地内においても検出されている。

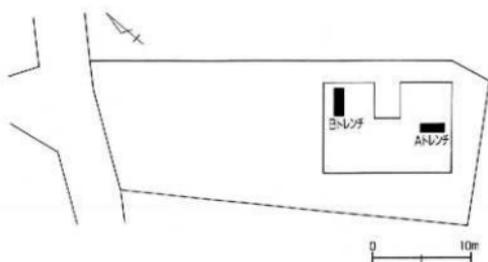


図133 試掘坑配置図

調査の概要

建物部分2ヶ所にA・Bのトレンチを設定し、表土下1.5mまで人力で掘削を行い、土層の堆積状況の確認を行った。両地点とも10～11層に分層され、地表下0.8m地点の第7・8層の灰褐色粘質土内から平安時代の遺物が確認された。甲斐型土器杯（1～3）、須恵器（4・5・7・8）、緑軸陶器（6）、置きカマド（9）、灰軸陶器杯（10）など10世紀代を中心とするものであるが、遺構は確認されていない。さらに下層は砂礫が多数確認されていることから、荒川の堆積層と考えられる。

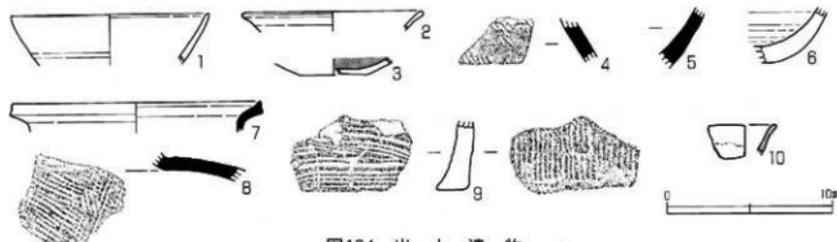
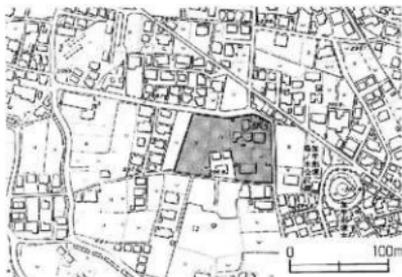


図134 出土遺物

12-8 金塚西遺跡

調査位置 甲府市千塚五丁目2599-1 他
(千塚公園建設予定地)
調査原因 公園建設
対象面積 4,458.51㎡
調査面積 562㎡
調査期間 平成12年10月17日～11月28日
調査担当 平塚洋一



調査の概要

調査対象地は山梨県指定史跡加牟那塚古墳の西約50mに立地する。調査地点の堆積土は南北で大きく異なる。南側は淡褐色シルト層だが、北側は暗褐色の粘土層である。

遺構・遺物の出土の分布状況も南側に偏る傾向が看取できた。また、北側においても平安時代の土器がややまとまって出土するところもある。

調査対象地の面積が広いので、塀や溝で区切られた地区ごとに3つの区画に便宜上分けて調査を実施した。

調査対象地のうち、西側地区を1区、中央部分を2区、東側を3区として調査を実施した。

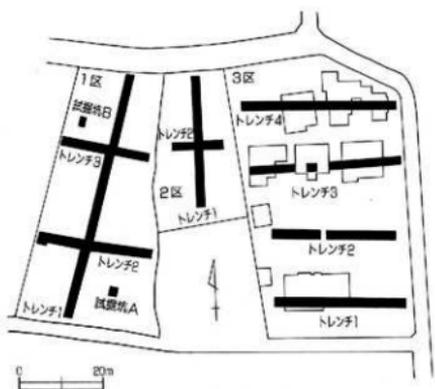


図135 試掘坑配置図

－ 1 区の調査状況 －

1区は公有地化されるまでは水田耕作に利用されていたため、遺構の残りが良かった。1区には「キ」の字状にトレンチを設定し、南北にトレンチ1、直行する東西トレンチのうち南側をトレンチ2、北側をトレンチ3とした。1区は水田に利用され、深い地層まで耕作が及ばなかったため、比較的遺構の残存状況は良好であった。

1区トレンチ3の西端で古墳時代の溝跡（1号溝跡）が確認されている。その後、平成17年度に公園造成のトイレ建築に先立って、トレンチ西端に重なる部分を3.5×7mの範囲で本発掘調査を実施した際、試掘調査で確認された古墳時代の溝跡の延長が確認され、さらに古墳時代の溝を切って開削された平安時代の溝跡が確認されている。

1区トレンチ2の西端では5号溝跡（古墳時代）のほか6号・7号竪穴住居跡が確認されている。当初土器集中区として調査を進め、結果的に竪穴住居跡が2棟と溝跡が重複している状況が確認できた。古墳時代前期に該当する土器がまとまって出土している。これは溝跡に伴う土器だと思われ、高坏など供献土器とともに、頸部から上と底部を打ち欠かれた大型の壺が出土している。壺形土器の内部から骨片と思われる白いものが出土している。5号溝跡からは土器がまとまって出土している。土器の年代から古墳時代前期末くらいの時代が考えられる。

溝跡の下層から竪穴住居跡が6号竪穴住居跡と7号竪穴住居跡が重複して検出されている。新旧関係は6号竪穴が7号竪穴を切ることから、7号竪穴住居跡が先行する。時代は出土遺物から弥生時代末から古墳時代初頭にかけてと推測できる。

トレンチ1とトレンチ2が交差する周辺のおいても、竪穴住居跡が3軒・溝跡が3条と遺構が集中している。

トレンチ1の南端でも4号竪穴住居跡が検出できた。カマド周辺の出土遺物から7世紀第2四半期のもので推定できる。

－2区の調査状況－

2区は建築会社の資材置き場として利用されたためか、地表から2mくらいまで全域にわたって攪乱を受けていた。そのため、遺構も出土遺物も全く確認できなかった。

－3区の調査状況－

住宅地として利用されていた地区3区とした区域では、東西方向に4本の試掘調査トレンチを設定し調査を実施した。3区の北半分は住宅地として利用され、南半分は畑や駐車場として利用されていた。そのため北半分は攪乱を受け、残存状況はあまりよくはなかった。しかし、南から2本目にあたるトレンチ2の西端では白色粘土で床面を整地した8号竪穴住居跡が確認できた。

出土遺物

出土遺物は1区のトレンチ1では古墳時代前期の4世紀後半および古墳時代後期の6世紀後半に位置づけられる土器群がまとまって出土している。また、奈良時代の8世紀後半から9世紀前半にかけての土器も出土している。

まとめ

本遺跡は山梨県史跡加牟那塚古墳のすぐ西側に位置することから「金塚西」の字名がつけられている。加牟那塚古墳は出土遺物から6世紀後半の築造と考えられ、古墳が築造された頃の遺構が検出されたことは非常に興味深い事例である。

3区のトレンチ1で検出された11号溝跡・12号溝跡は北に24°振れた東西方向に軸を持つ。同じく3区のトレンチ2で検出された14号溝跡は36°西に振れた南北方向に軸を持つ。1区で検出されたピット群に関しては、トレンチ調査であり、トレンチに沿った連続性が認められないため、一連のものかどうかの判断は難しい。

遺構面は最低でも古墳時代と平安時代の2面があり、古墳時代の面はさらに前期・後期の2時期にわたる。隣接する加牟那塚古墳の築造されたのが6世紀後半と推測され、金塚西遺跡の時代感と近いものがある。

千塚公園としては平成19年に完成した。公園の造成については担当部局と協議を重ね埋蔵文化財を極力保護する計画となった。倉庫1棟とトイレ2棟の建築場所についてのみ遺構面まで掘削が及ぶことから、平成17年度に部分的な試掘調査を再度実施している。そこでも古墳時代前期の溝跡と平安時代の竪穴住居跡が確認された。詳細については別の機会に報告する。



1区トレンチ2 土器集中



1区トレンチ2 下層

1区上層

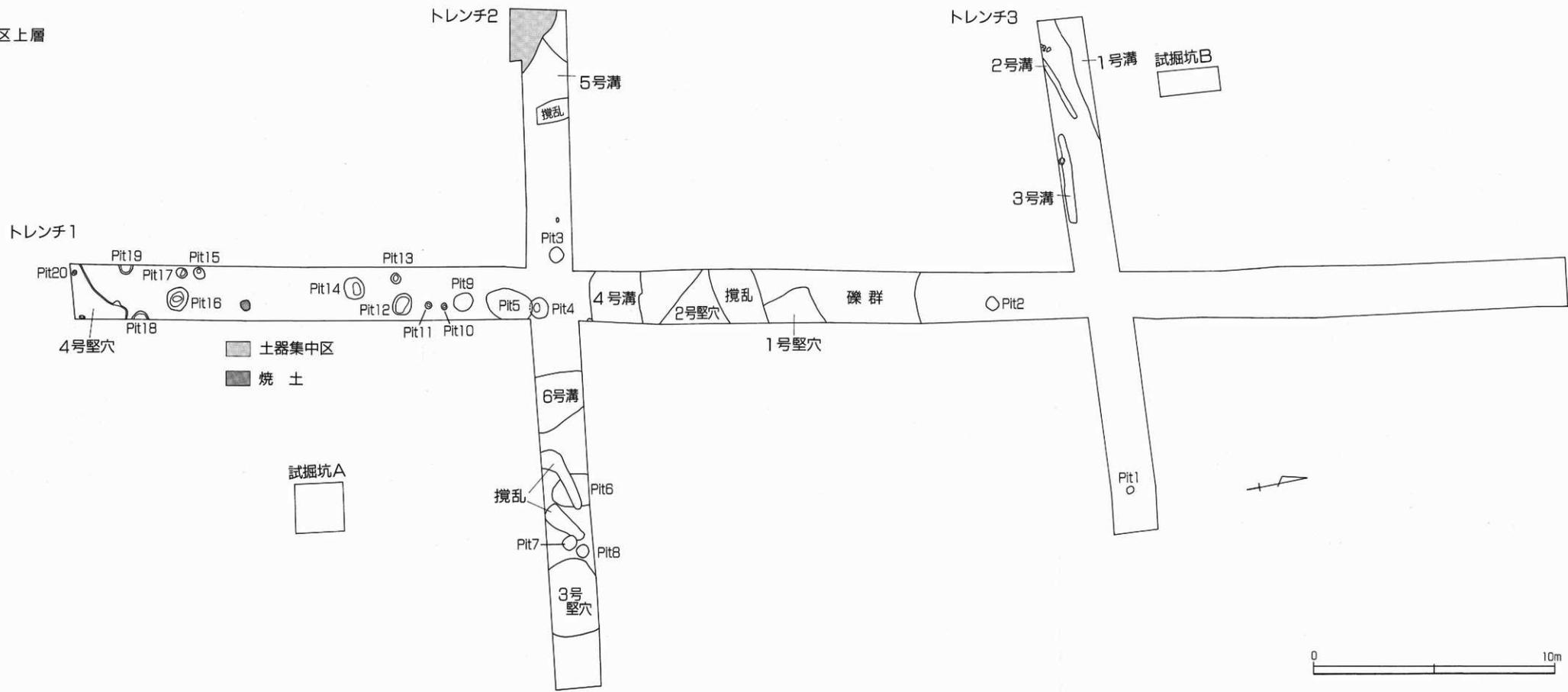


図136 1区上層平面図

1区下層

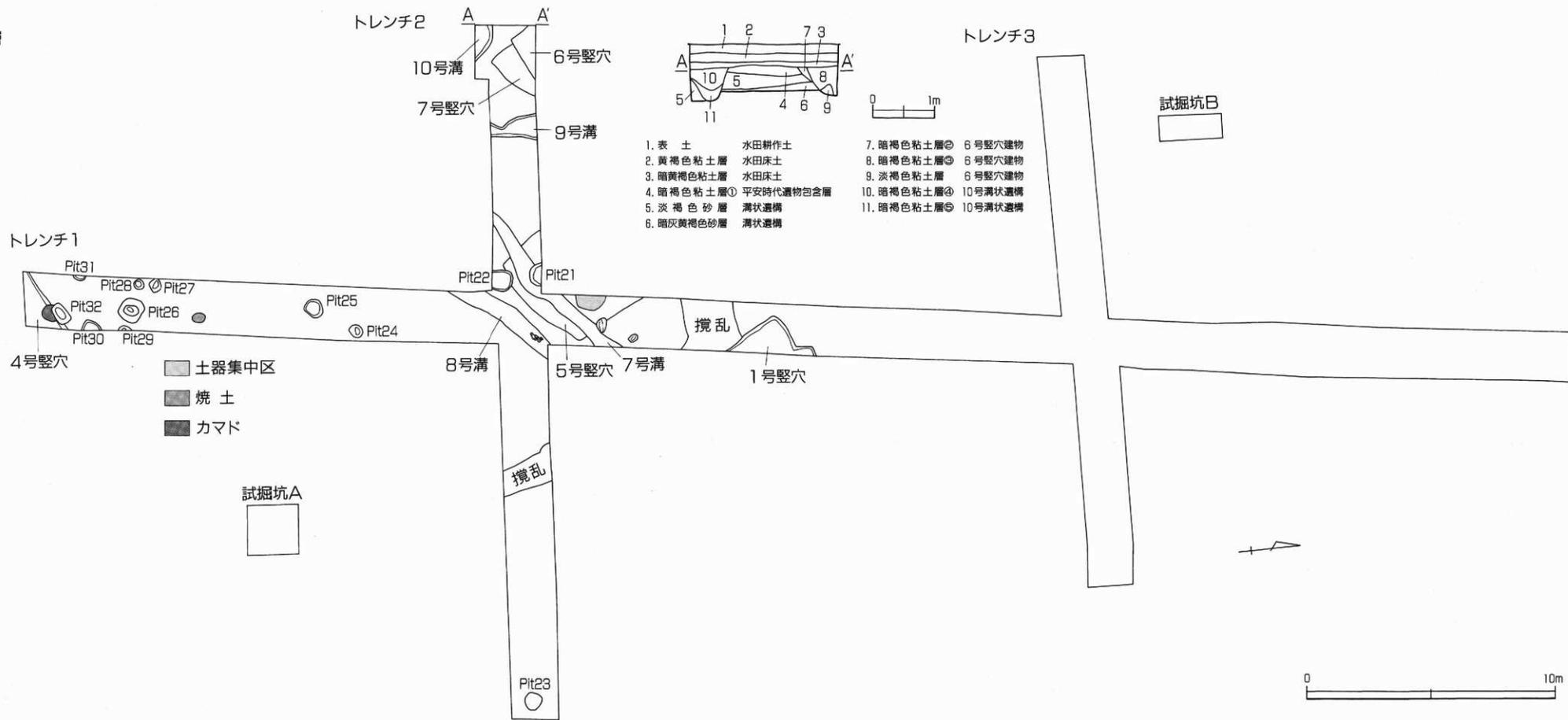
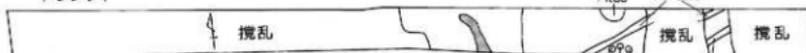


図137 1区下層平面図

3区

トレンチ1



トレンチ2



■ 炭化物

図138 3区 1・2トレンチ平面図

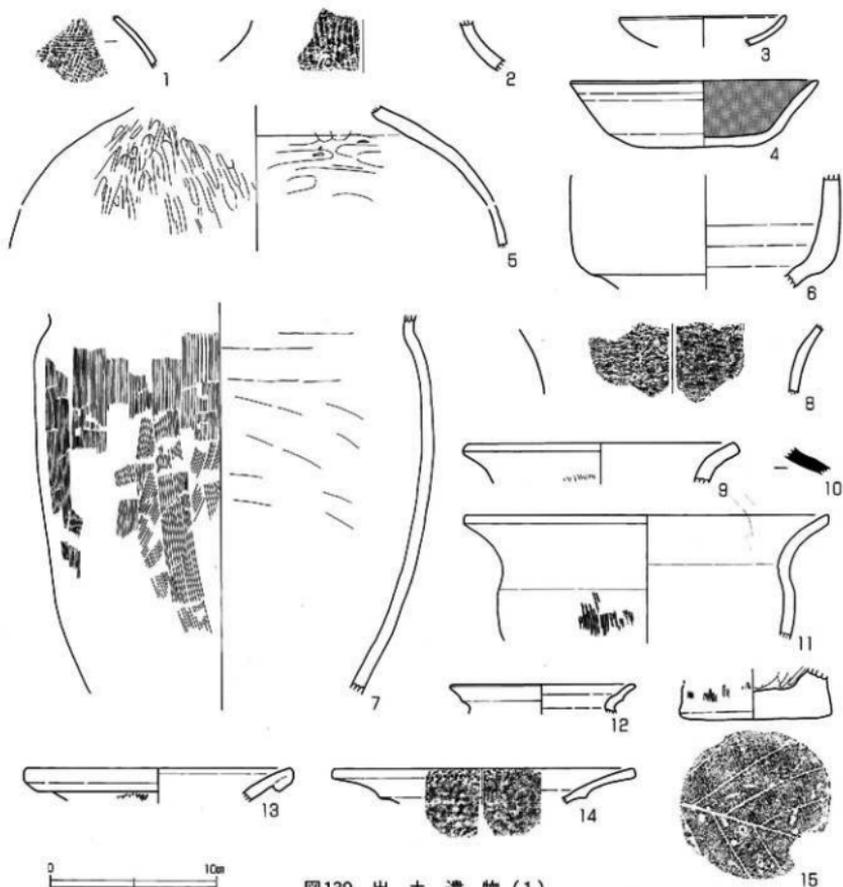


図139 出土遺物(1)

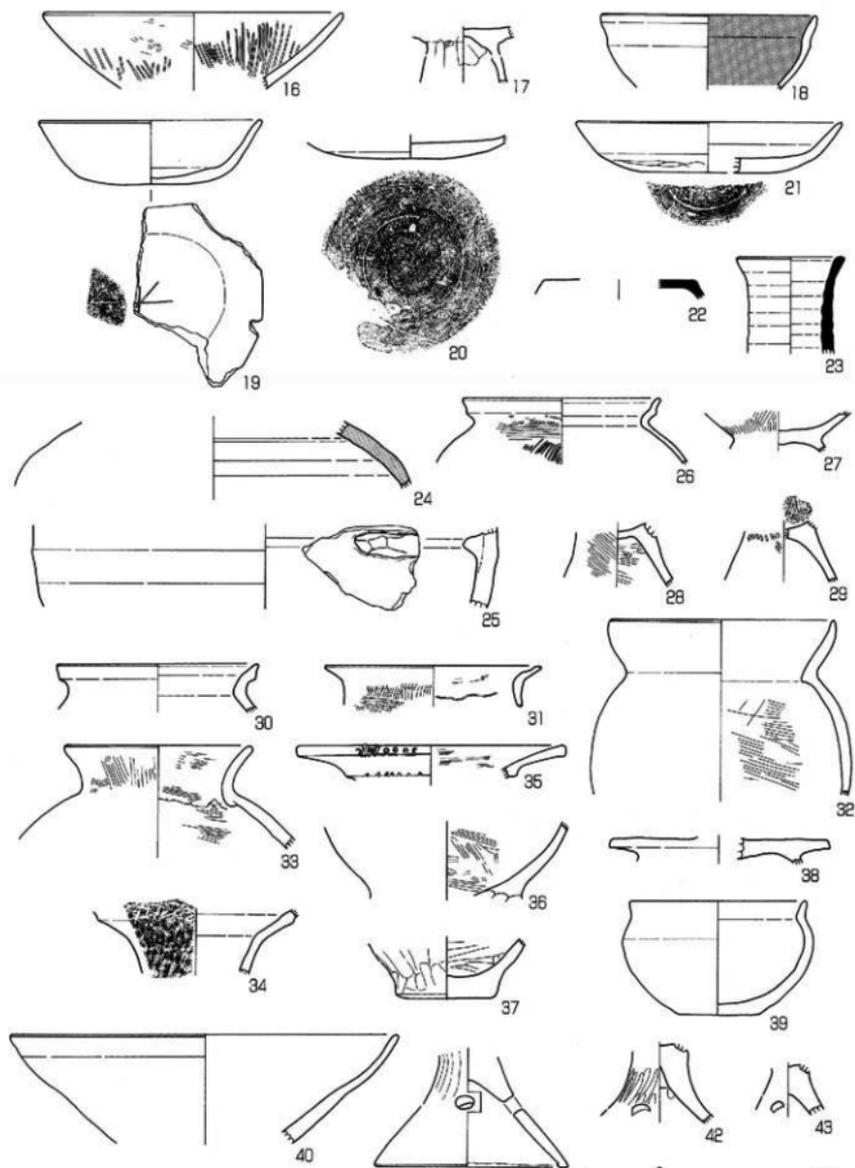


图140 出土遗物(2) 41

0 10cm

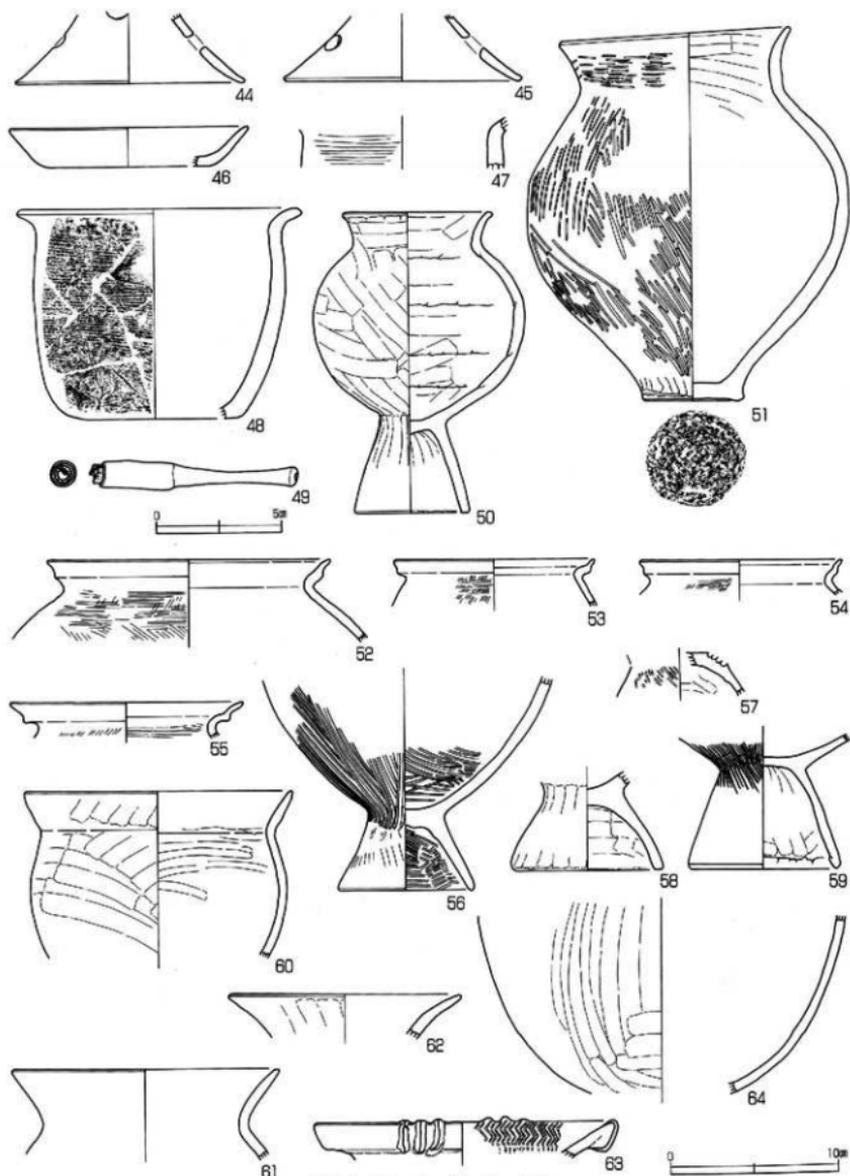


图141 出土遗物(3)

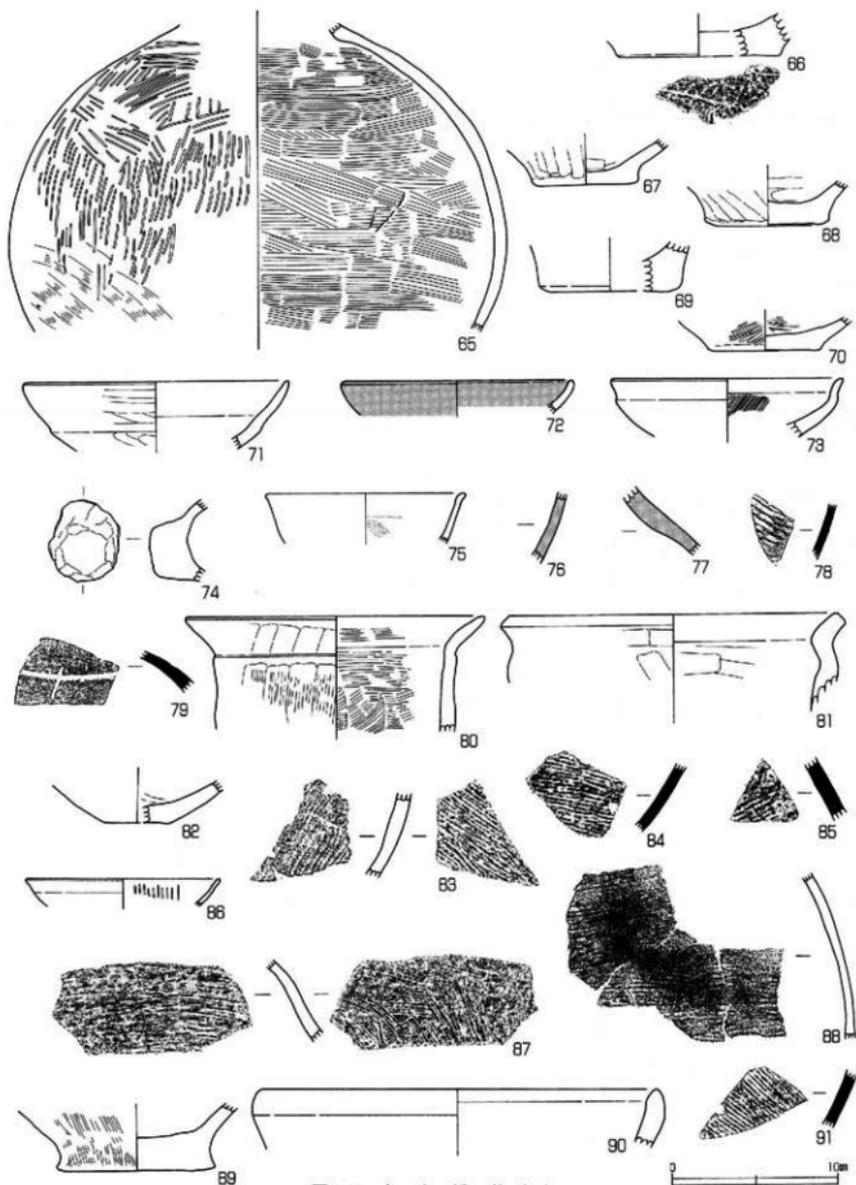


图142 出土遗物(4)

12-9 金塚西遺跡

調査位置 甲府市千塚三丁目2548-5
調査原因 個人住宅建設
対象面積 260.23㎡
調査面積 6㎡
調査期間 平成13年3月7日～8日
調査担当 伊藤正彦

遺跡概要

本遺跡は、盆地北部に位置し、市城西部を流下する荒川の左岸、標高295mを測る緩傾斜地に広がる。加牟那塚古墳に近接するとともに、周辺に多数の遺跡包蔵地が存在し、山麓には後期古墳が群集するなど濃密に遺跡が密集する地域である。一帯は近年、開発が進み、宅地が増加している状況である。調査地は古墳西側の宅地である。

調査概要

対象地に試掘坑を二箇所設定し、人力により掘り下げた。いずれの試掘坑も地表下50～60cmまで掘削したが、アスファルト・コンクリート片が混入し安定した土層堆積を確認できなかった。対象地は周辺畑地より高く、すでに盛土されているものと判断した。調査により遺構・遺物は確認できなかった。

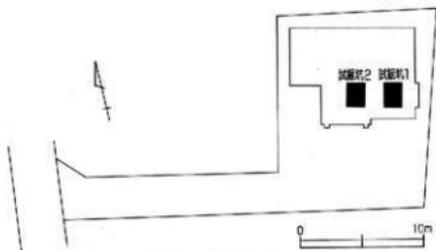


図143 試掘坑配置図



試掘坑 1



試掘坑 2

12-10 上石田遺跡

調査位置 甲府市上石田三丁目1683-1
 調査原因 個人住宅建設
 対象面積 97.42㎡
 調査面積 6㎡
 調査期間 平成12年6月19日
 調査担当 平塚洋一



調査の概要

上石田遺跡は縄文時代の集落跡が確認されている上石田遺跡の一角にあたるが、その中心部分からははずれるようである。平成11年度隣接地の試掘調査も実施されているが、そのときの調査では、縄文時代の遺構も検出されている。

今回の調査は地表から100cmの深さで精査をし、部分的に地表下170cmまで掘削をした。遺物は縄文土器の小片が2点出土しただけである。

地表から70cm下層まで客土（瓦礫層）、105cm下層までが遺物包含層の可能性が高い褐色粘土、125cm下層まで黄褐色シルト質土、それより下層が淡褐色砂質土となる。125cmより下層については自然堆積土である。

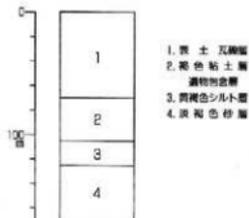


図145 土層柱状図

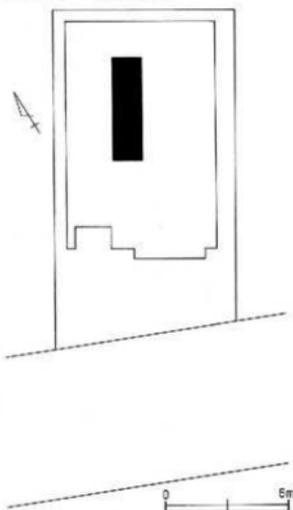


図144 試掘坑配置図



調査状況

12-11 神田遺跡

調査位置 甲府市千塚三丁目2136-3
調査原因 個人住宅建設
対象面積 331.1㎡
調査面積 1㎡
調査期間 平成12年8月2日
調査担当 志村憲一



調査の概要

調査区は荒川の左岸標高291mに位置する、弥生～平安時代にかけての散布地である。東方120mには千塚八幡神社が鎮座し、また周辺には加牟那塚古墳、八幡東遺跡、金塚西遺跡など縄文～平安時代にかけての遺跡が多く見られる地域である。

建物位置北西隅部を深さ1mほど掘削したが、遺構・遺物ともに検出されなかった。なお基本土層は、第1層は厚さ45～50cmの暗褐色砂質層である。第2層は黄褐色砂質層であり、厚さ50～70cmである。

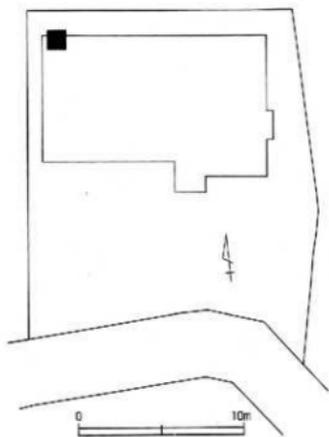


図146 試掘坑配置図



調査状況

12-12 北善光寺A遺跡

調査位置 甲府市善光寺町3038-11
 調査原因 個人住宅建設
 対象面積 532.33㎡
 調査面積 8㎡
 調査期間 平成12年4月7日
 調査担当 伊藤正幸



調査の概要

調査地点は高倉川扇状地の扇尖部に位置し、標高280mを測る。この遺跡の周辺地域は北原古墳群と呼ばれ、古墳及び中世以降の塚が17基知られている。また、山手通りを横切る地下通路建設の際（善光寺北遺跡）及び地場産業センター建設の際（北原遺跡）に発掘調査が行われ、縄文時代の遺構・遺物が検出している。

調査は建物建設予定地に、2m四方の試掘坑2ヶ所を設定し、人力により掘り下げた。両試掘坑とも地表下10～20cmまでは耕作による

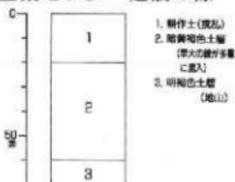


図148 土層柱状図

1. 耕作土(表土)
2. 暗黄褐色土層
(厚さ約20cm程度に厚く)
3. 明黄褐色土層
(地山)

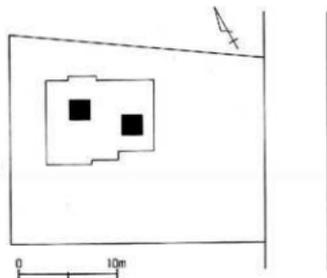
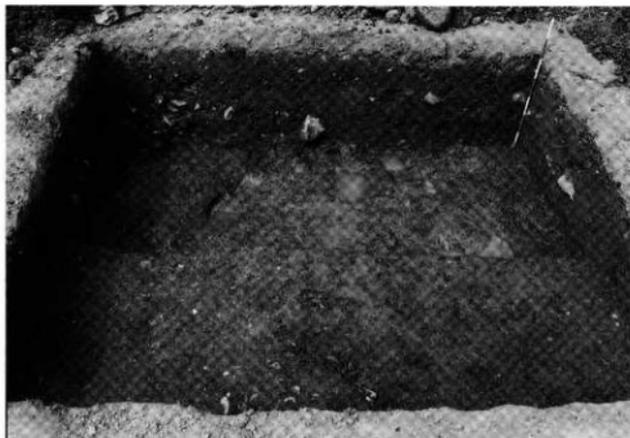


図147 試掘坑配置図

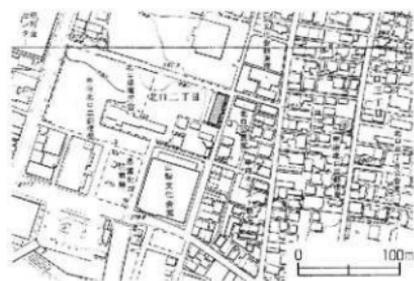
攪乱を受けている。その下層は拳大の礫が多く混入する暗黄褐色土層となり、さらに地表から50～60cmで地山（明黄褐色土層）に達する。遺物として土器及び陶器の小破片がそれぞれ1点ずつ出土したにとどまった。



調査状況

12-13 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市北口二丁目94 他
 調査原因 区画整理及び個人住宅建設
 対象面積 482㎡
 調査面積 198㎡
 調査期間 平成12年5月11日～7月4日
 調査担当 佐々木 満



調査の概要

本地点の試掘調査は、甲府駅周辺における新都市拠点整備事業の一環として個人住宅地の区画整理に伴うものであり、南北2つの区画の調査を同時に着手した。そのうち、北側の調査区では、地表下約20cmのところ確認した地山面から遺構が検出された。南側の調査区では地表下約60cmで地山を検出したが、遺構もなく、全体に削平された痕跡が確認された。よって、北側については建物建設時に遺跡が破壊されることが明らかとなったことから、トレンチを拡張し、掘削が行われる建物敷地全体の調査を実施した。

検出遺構

調査区には以前倉庫が存在していたために全体的に攪乱が著しく、すべての遺構は地山面での確認となった。検出された遺構は、溝跡8条、土坑6基、井戸跡1基、水溜め遺構1基、ビット67基であり、時代的には中世末期から近世・近代までと考えられる。年代的に古くに位置づける遺構には火災による炭化物や焼土が混入するものが多く、1号井戸跡では、焼けた壁土などがまとまって出土している。

また、調査区中央から東西方向に走る3号溝跡を検出した。元々は石組水路だったと考えられるが、確認時、縁石は数箇所に残るのみで、多くは抜き取られていた。水路に砂層の顕著な堆積がみられないことから、地境の水路として雨水などの排水用に敷設されたものと考えられる。したがって、調査区に北接する森下小路から水路まで6間幅の屋敷地が復元される。

出土遺物

1号井戸跡の遺物が比較的まとまっている。陶磁器では1は肥前の碗であるが、上層か

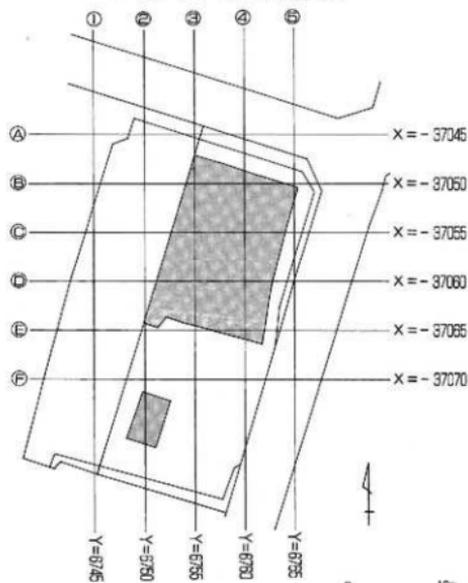


図149 試掘坑配置図

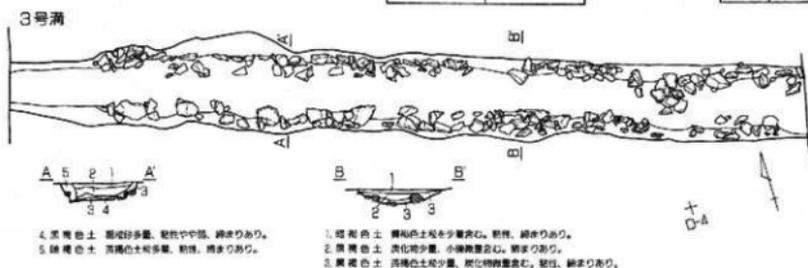
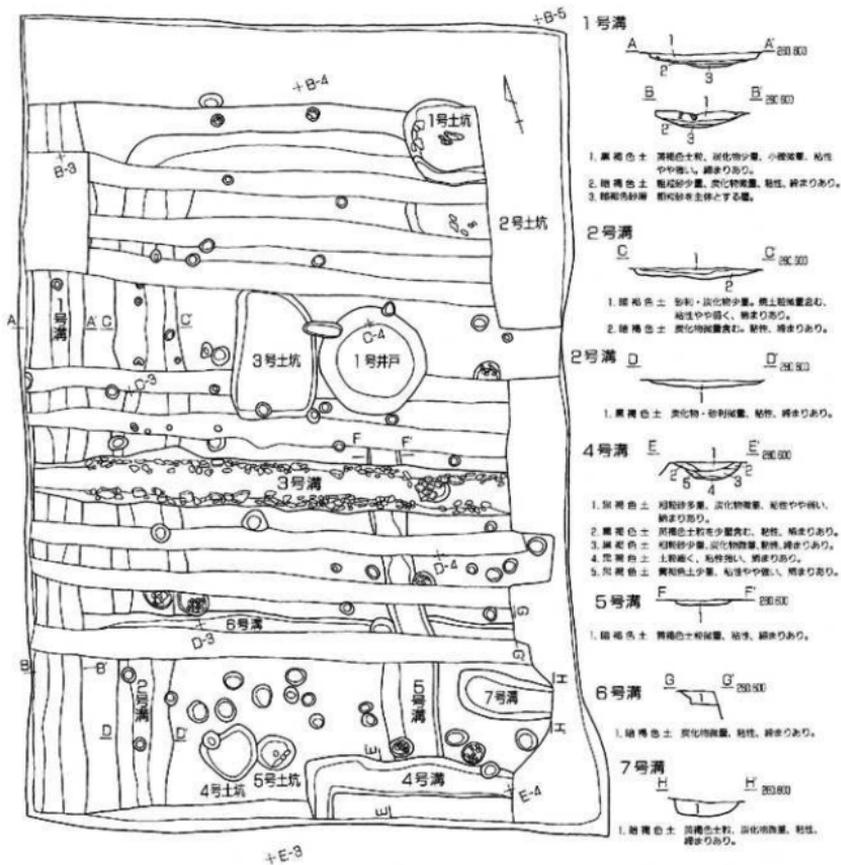


図150 平面図・土層堆積図・3号溝遺構検出状況

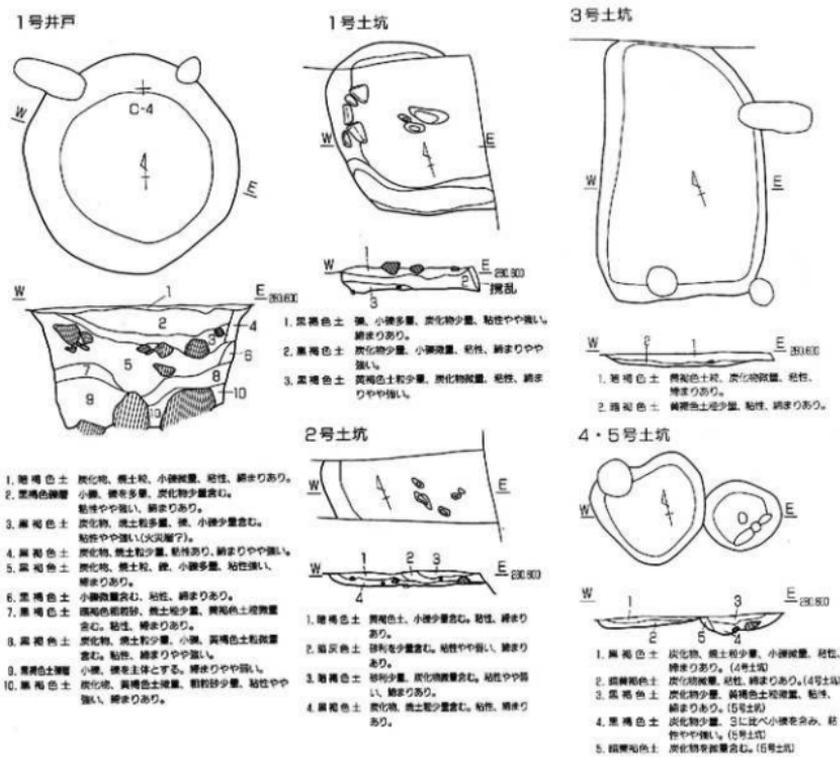


図151 1号井戸・1～5号土坑遺構検出状況

らの出土であるため混入と考えられる。2は中国青花の小坏で、ほかに実測されていないが、志野端反皿片が出土している。3はかわらけ、4～6は在地播鉢である。このような組み合わせを考えると、時的的に16世紀後半から17世紀初頭の遺物でまとまっていると考えられる。ほかに1・2号溝跡も幕末から明治期でまとまっているが、3号溝跡は18世紀後半の遺物群でまとまりがある。58の瀬戸美濃大碗の底部には墨書がみられる。

まとめ

本地点周辺は、甲府城跡二の堀内の武家屋敷地に位置するが、隣接地において県埋蔵文化財センターならびに甲府市教育委員会による発掘調査が実施され、城下町の様相が面的に把握されつつある。本地点においても、中世末期から近代までの遺構群が検出され、屋敷割りの一部とみられる溝跡なども確認されたが、全体的に削平が著しく、残念ながら、屋敷内の様相や変遷を復元するまでには至らなかった。

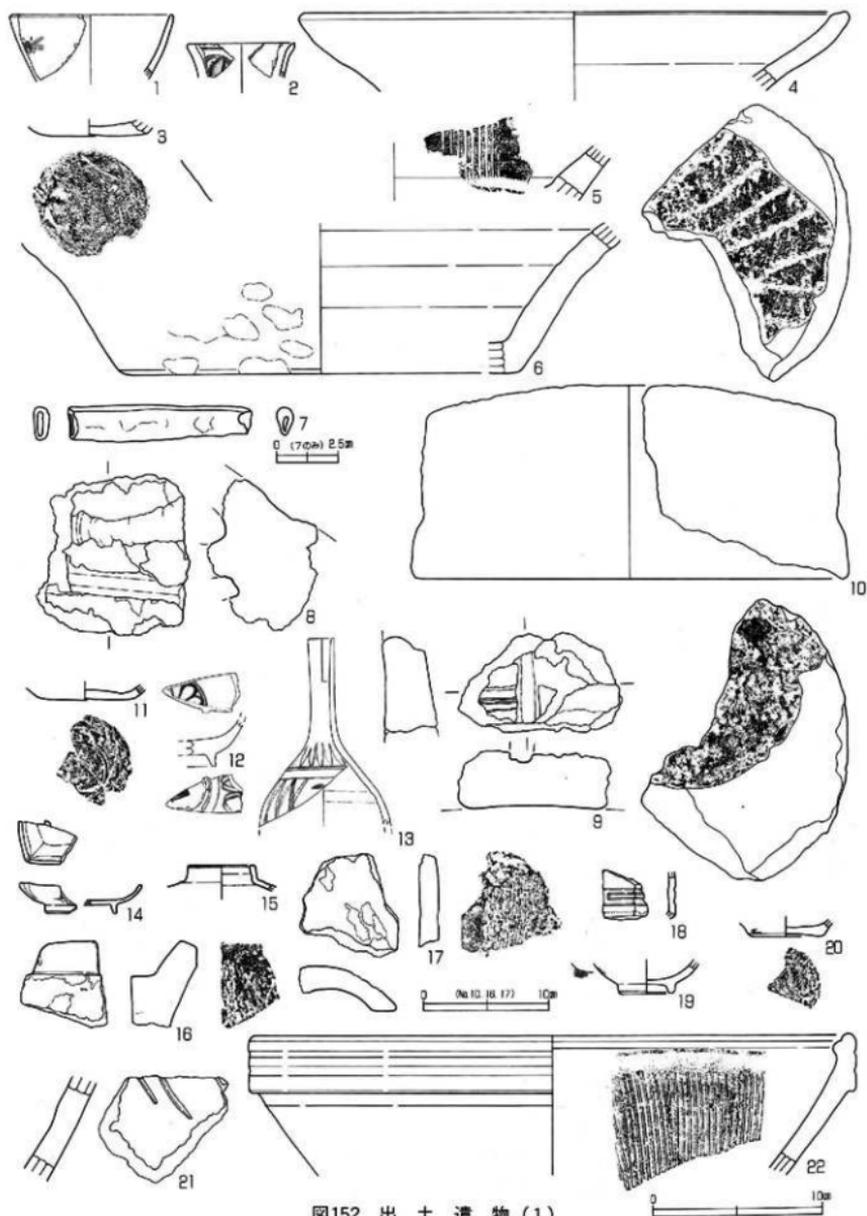


圖152 出土遺物(1)

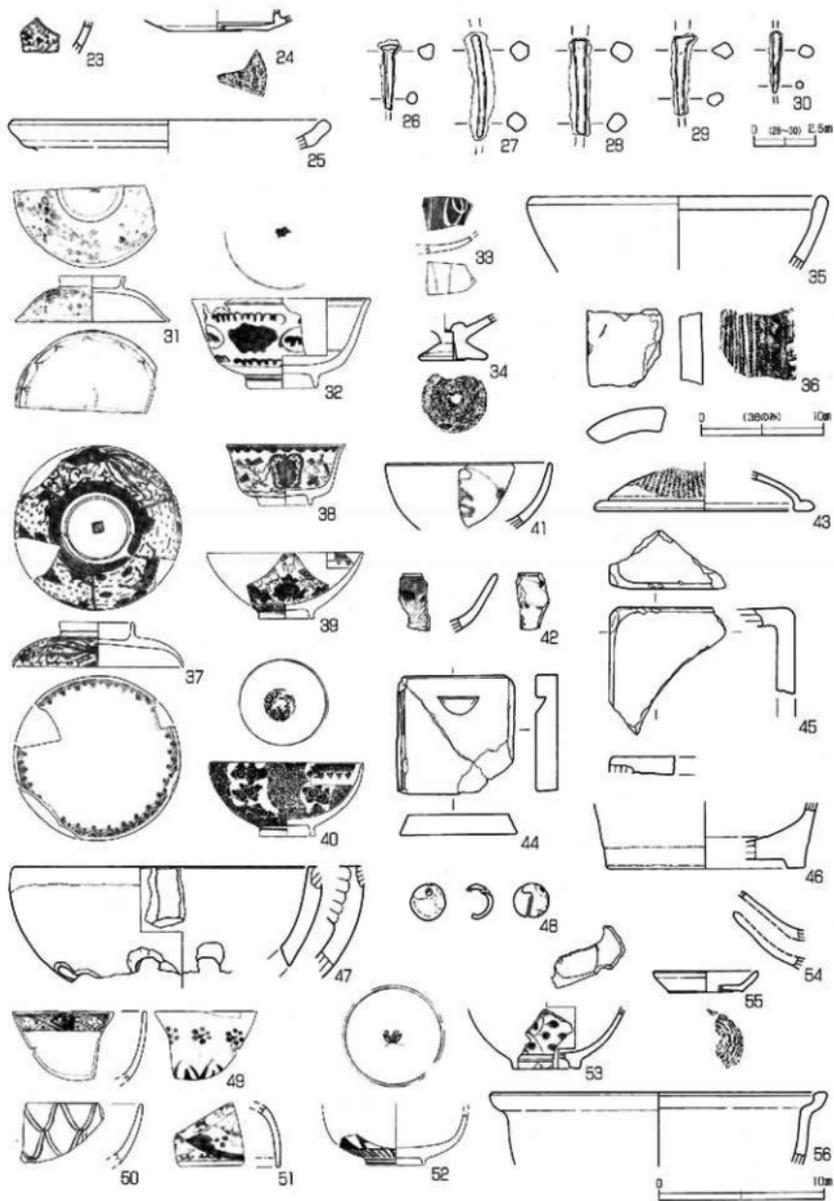


圖153 出土遺物(2)

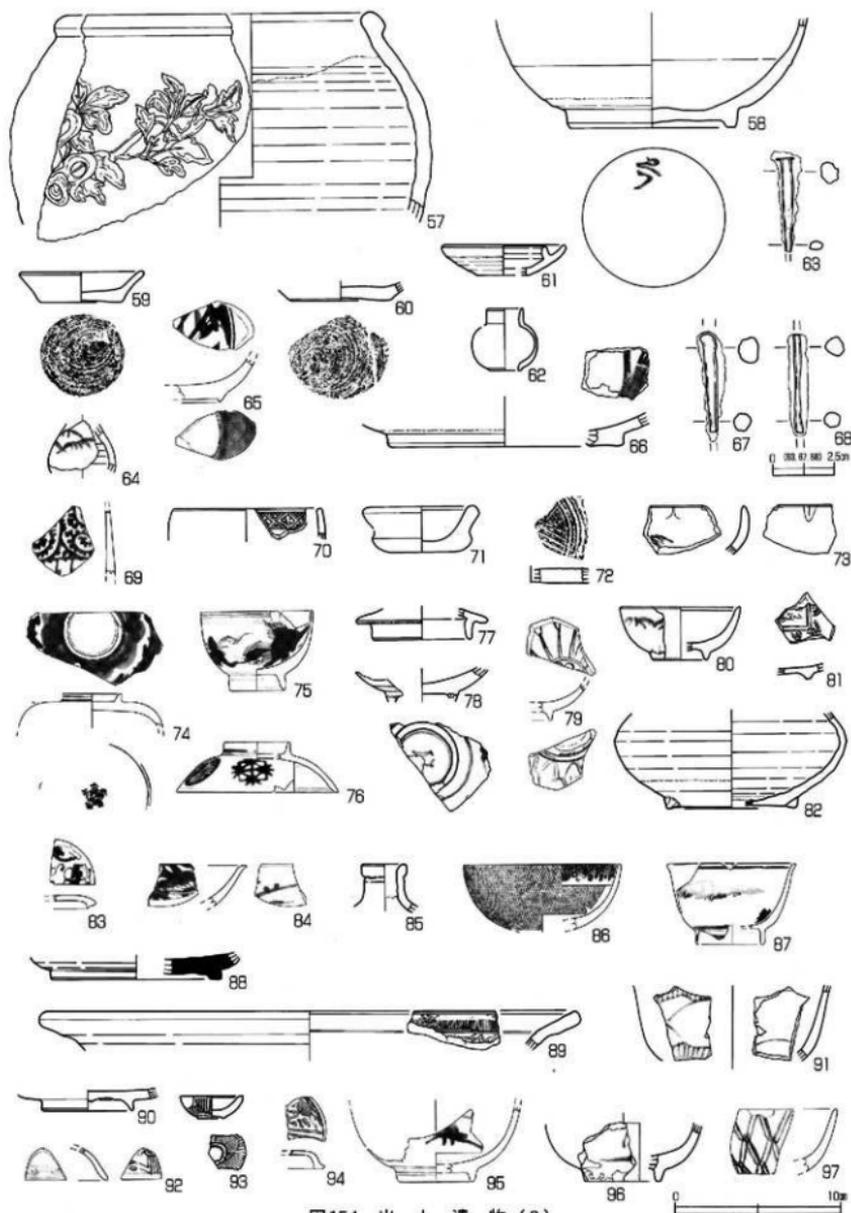


图154 出土遗物(3)

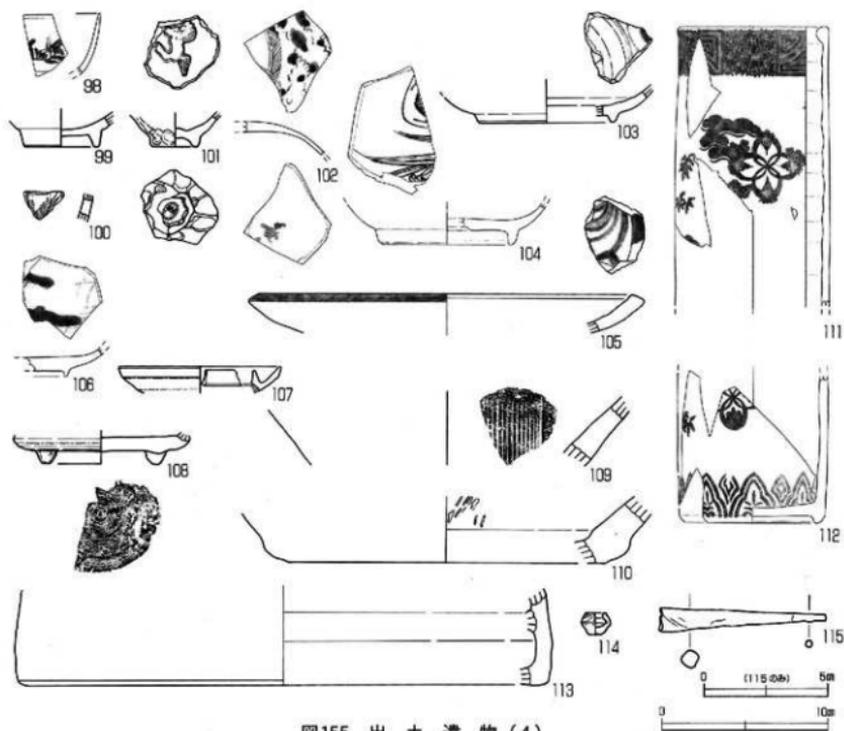


图155 出土遗物(4)



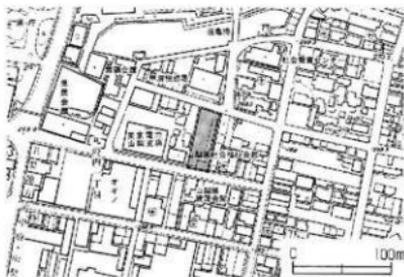
调查状况



3号沟

12-14 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市丸の内一丁目13-9
調査原因 店舗建設
対象面積 1383.41㎡
調査面積 189㎡
調査期間 平成12年7月11日～7月22日
調査担当 伊藤正彦



遺跡概要

調査地点は甲府城南側に位置し、二の堀内の武家屋敷地に相当する。宝永2年(1705)頃作成と推定される『甲府城下絵図』(柳沢文庫所蔵)は、西側に近藤図書、東側に平野源左衛門屋敷を、平野氏屋敷の南に1区画描き、都合3区画であったことを伝えている。元文3年(1738)、『甲府城下町絵図』(坂田典信氏所蔵)は、柳沢氏の大和郡山転封後の様子を伝え、近藤図書の屋敷地は無主となり、平野氏の屋敷地に大河内氏、その南側屋敷地に間宮氏と記載が見える。嘉永2年(1849)発行の『懐宝甲府絵図』(図157)は、屋敷地が3区画から6区画に分割されていることを伝える。明治以降、街路が通じ、広大な屋敷地はさらに細分化されることとなった(図158)。

調査概要

対象地へ南北方向に試掘坑を3箇所設定し、重機で地表下0.5～1mまで掘り下げ、人力により遺構・遺物を確認した。全ての試掘坑から遺構・遺物が確認されたため範囲を拡張して調査を実施した。調査の結果、溝跡4条、池跡、石列3条、井戸3基、溜枡3基、土坑4基、木杭を3本打ち込んだ浅いピット状の遺構等が検出された。出土遺物からこれらほとんどの遺構は近世から近代に位置づけられよう。

各遺構の重複状況から3時期程度の変遷が想定できる。最も古い遺構は東西方向に延びる3・4号溝と1号井戸がある。3・4号溝とも本来、同一遺構と思われる、3号溝からかわらけが2点出土している(図164-6,7)。1号井戸は南北1.80mの規模となり、掘り込みを確認した程度である。出土遺物(図165-21～31)の多くが明治前半期に位置づけられるものの、土層堆積から池跡に先行するのは明らかである。

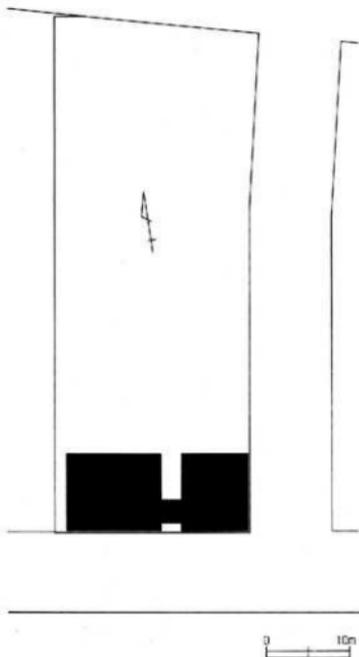


図156 試掘坑配置図

2期に想定される遺構に池跡、1～3号溜橋、3号井戸、3号石列がある。池跡は、検出できた範囲で東西8.52m、南北7.32m以上を有し、方形を呈する。その後、3号石列を境に北側が埋められ、南北4.28mの規模に減じている。池跡に新旧の二時期が存在し、出土遺物から規模を減じた改変時期を幕末から明治前半(図169-115~134)に、廃絶時期を明治後半(図165~167-41~85、図170-155~162)と推量できる。他に1～3号溜橋、3号井戸がある。出土遺物からいずれも明治前半に位置づけられ、1・2号溜橋、3号井戸はいずれも重複し、土層堆積からは、埋没により僅かながら地点を変えつつ繰り返し設けた結果と判断できる。

1・2号石列と木杭を2～3本打ち込んだ浅いビット状の遺構が3期に相当し、明治末年から大正期に位置づけられる。杭の直上の方0.40m、厚0.20m程の礎石が存在していたため建物跡と考えられ、この杭は、建物礎石の沈下防止用として打ち込まれたものであろう。1・2号石列はこれら礎石建物を取り囲み、建物とともに設けられたものであろう。図158に載る渡辺病院に関する遺構と推量される。

まとめ

本地点は江戸期を通じ武家屋敷であったと窺い知れ、明治維新後も細分化されつつも明治末年までは個人の屋敷地であった。渡辺病院の建設時期が定かではないが、昭和10年頃にはすでに存在していたらしい。検出された池跡が、武家屋敷にともなう遺構であるが、その建設時期は定かでなく、規模を減じつつも明治期まで存続し、明治後半頃廃絶する。その後、礎石建物が建設されているが、調査地点の歴史的利用形態と遺構変遷がほぼ照合する結果となる。出土遺物は明治期以降、近代に属するものが大半であり、大正期以降に位置付けられるものが少ない状況である。生活空間としての屋敷地から医療空間へと変化したことに対応していると考えられ、出土遺物からも利用形態及び遺構の性格を反映する結果が得られたこととなる。

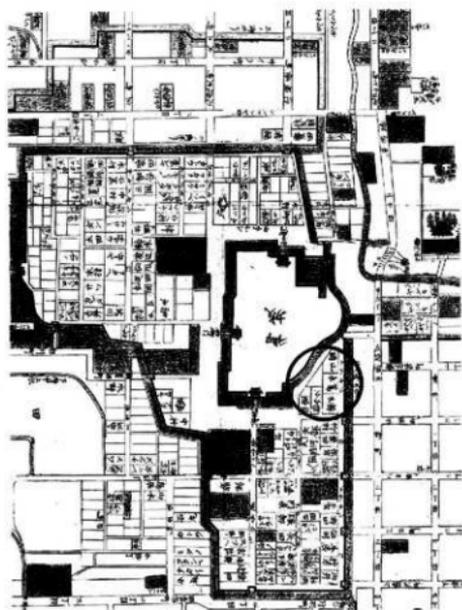


図157 『懷宝甲府絵図』 嘉永2年(1849)

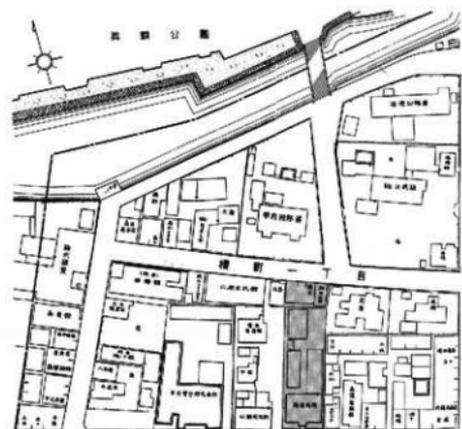


図158 昭和16年市街地図

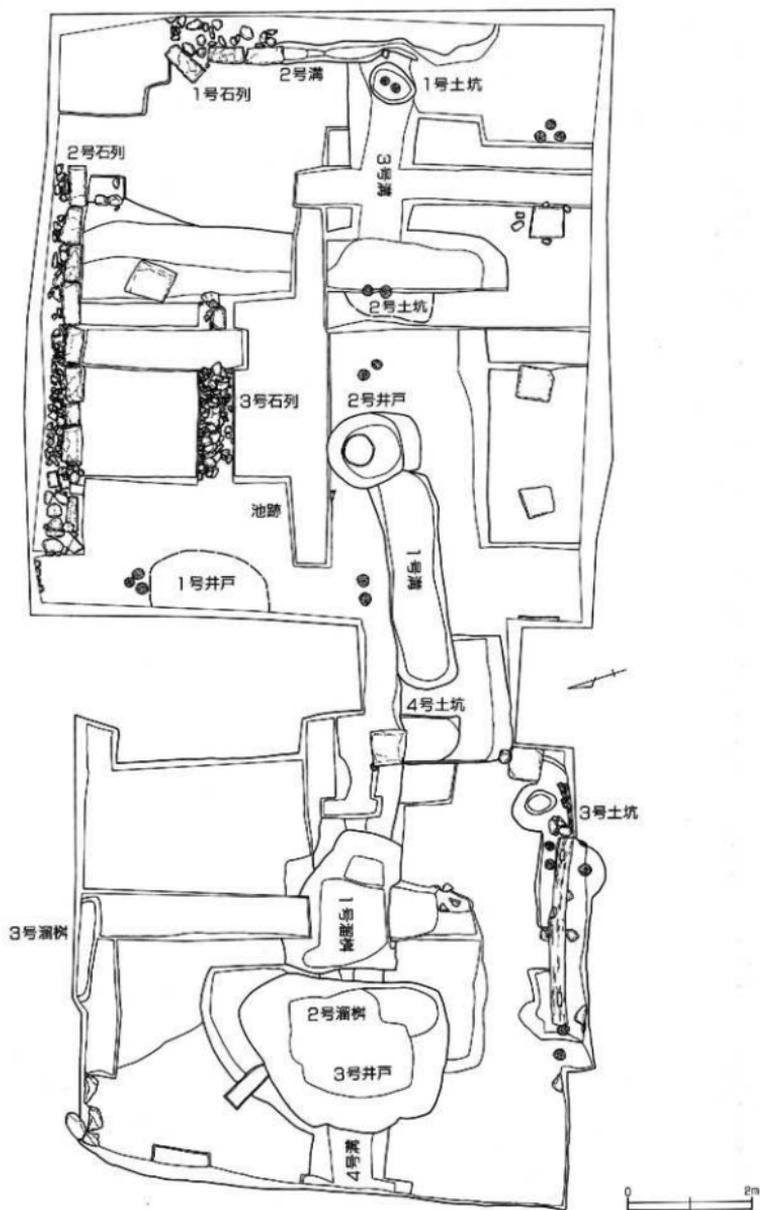
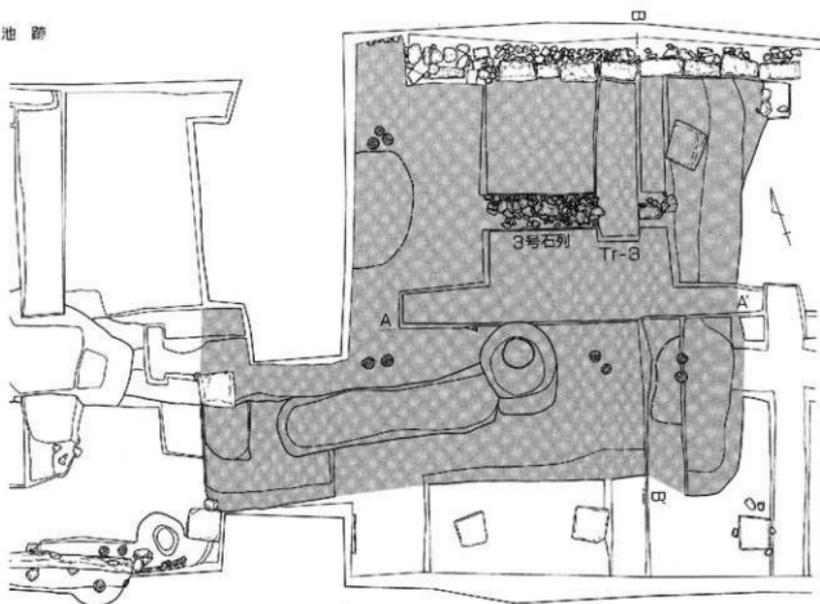
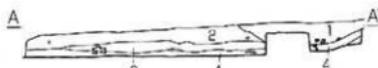
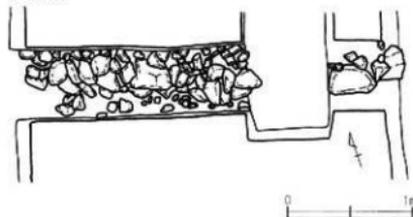


图159 全 体 图

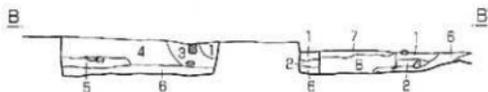
池跡



3号石列



1. 灰色粘質土層 砂粒・小礫を含み、酸化鉄が散る。締まりあり、極めて粘性強い。
2. 暗灰色粘質土層 砂粒・小礫を含み、褐色土・灰色土がブロック状に混る。締まりあり、極めて粘性強い。
3. 灰黒粘質土層 砂粒・小礫を含み、褐色土・灰色土がブロック状に混る。締まりあり、極めて粘性強い。
4. 灰黒粘質土層 砂粒を含み、極めて粘性が強く、3層より締まりを帯びる。

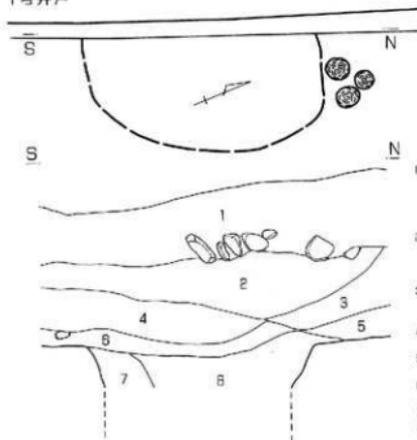


1. 灰色粘質土層 砂粒・小礫を含み、酸化鉄が散る。締まりあり、極めて粘性強い。
2. 灰黒色粘質土層 砂粒・小礫を含み、褐色土・灰色土がブロック状に混る。締まりあり、極めて粘性強い。
3. 灰黒粘質土層 多量の鉄が混り、酸化鉄が若しく北向きに混る。締まりあり、粘性強い。
4. 灰黒粘質土層 砂粒・小礫を含み、特に小礫以下層に多く混入する。褐色土・灰褐色土がブロック状に混る。締まりあり、粘性強い。
5. 灰黒粘質土層 3層と同ーか？ 多量の鉄が混り、鉄分が沈着する。
6. 暗灰色粘質土層 砂粒を含み、南側に僅かに小礫が混る。極めて粘性が強く、2層より締まりを帯びる。
7. 灰黒粘質土層 砂粒・小礫を含み、褐色土・灰色土・多量の褐色土がブロック状に混る。(2号土状)
8. 灰色粘質土層 小礫を多く含む。灰黒粘質土・褐色土がブロック状に混る。(2号土状)

図160 池跡、3号石列遺構検出状況



1号井戸



1. 黄褐色

ガラ・砂等を含み、茶褐色粘質土を主体とした土層を穿し、堅持する。一部2~4cm付近には灰褐色砂を埋め、その後に堅持した痕跡あり。

2. 灰褐色粘質土層

砂粒・礫を含み、極めて粘性強い。多量の灰土・茶色土・黄褐色土がブロック状に露る。この層より第一明内の陶磁器・木製品が出土。

3. 灰色粘質土層

砂粒を多量に含み、特に上部に凝結する。下部には木片が露る。粘性強い。

4. 灰褐色粘質土層

砂粒・礫を含み、粘性強い。灰濁質・木片を多量に抽出。

5. 灰色粘質土層

礫を多量に含み、下部に凝結する。木片が露る。粘性強い。

6. 茶褐色粘質土層

砂粒・礫を含み、粘性強い。木片・木製品が露入が著しい。

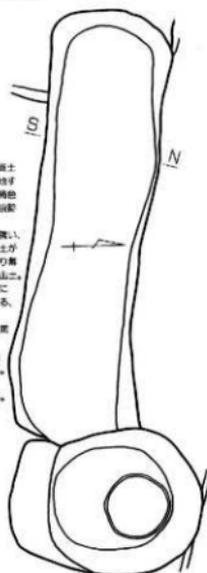
7. 灰褐色粘質土層

砂粒・礫を含み、粘性強い。

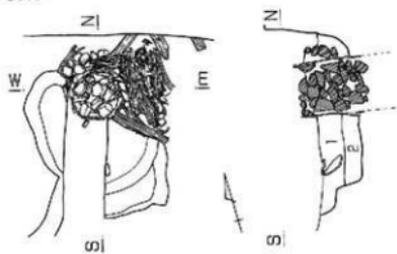
8. 灰色粘質土層

砂粒・木片を多量に含む。(2・4・6層 池、7・8層 1号井戸)

1号溝



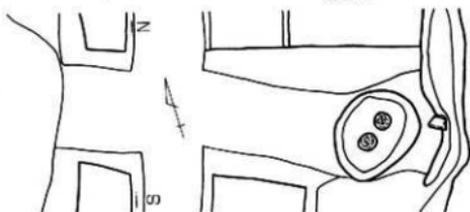
2号井戸



断面
41 11 白 記
1 1 記 2



3号溝



1. 黄褐色土層

中大粒の礫を多量に含む。茶褐色土が粒状に露る。棒まりあり。粘性強い。

2. 灰褐色粘質土層

砂粒・小礫を含み、灰色土が粒状に露る。よく崩れ、粘性強い。

3. 茶褐色粘質土層

砂粒・小礫を含み、黄褐色土が粒状に露る。よく崩れ、粘性強い。

4. 黄褐色土層

砂粒を多量に含む。部分的にブロック状となる。褐色土が粒状に露る。

1. 黄褐色

ガラ・礫等を含み、茶褐色粘質土を主体とした土層を穿つて堅持する。一部3~4cm付近には灰褐色砂を埋め、その後に堅持した痕跡あり。

2. 灰褐色粘質土層

砂粒・礫を含み、極めて粘性強い。多量の灰土・黒土・黄褐色土がブロック状に露る。この層より第一明内の陶磁器・木製品が出土。

3. 灰色粘質土層

砂粒・礫を含み、粘性強い。灰濁質・木片を多量に抽出。

4. 灰褐色粘質土層

砂粒・礫を含み、粘性強い。木片・木製品が露入が著しい。

5. 灰色粘質土層

礫を多量に含み、下部に凝結する。木片が露る。粘性強い。

6. 茶褐色粘質土層

砂粒・礫を含み、粘性強い。木片・木製品が露入が著しい。

7. 灰褐色粘質土層

砂粒・礫を含み、粘性強い。

(2~4層 池、5~7層 1号溝)

図161 1~2号井戸、1・3号溝遺構検出状況

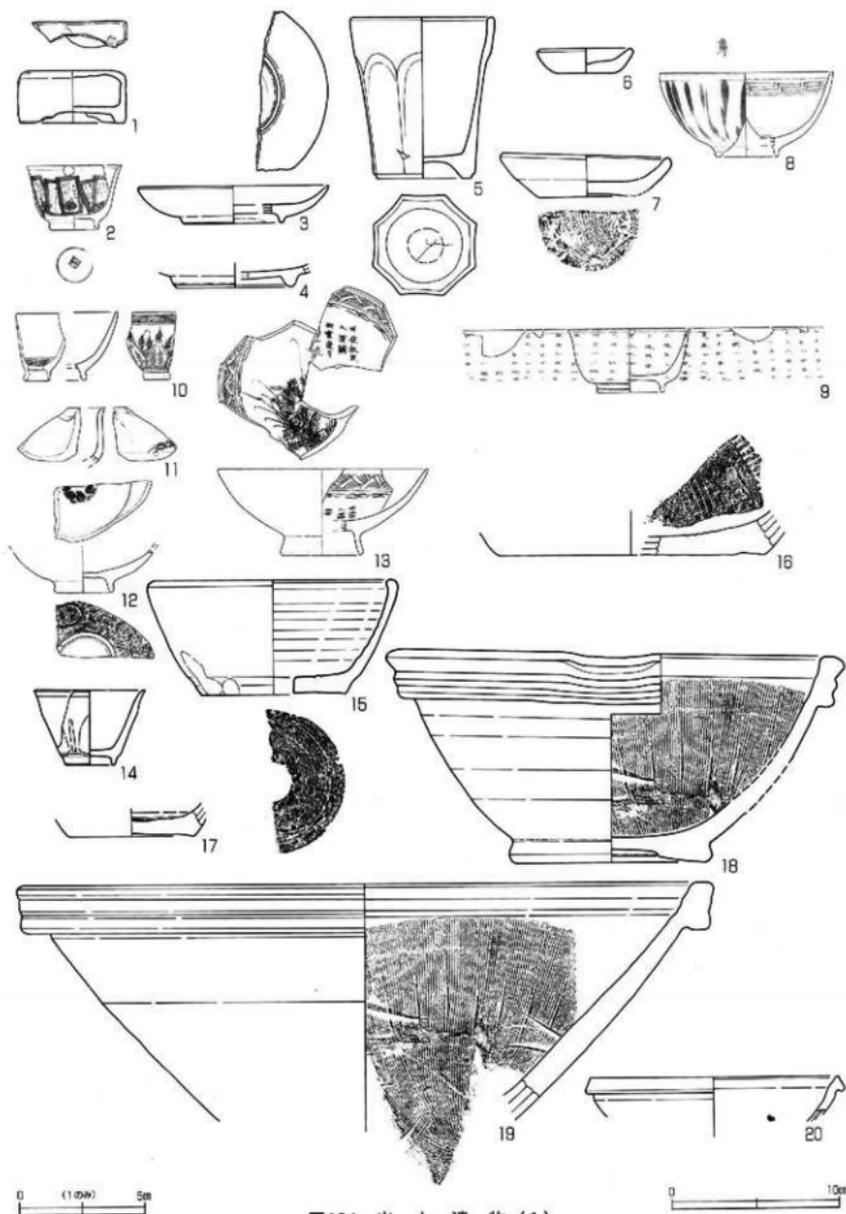


图164 出土遗物(1)

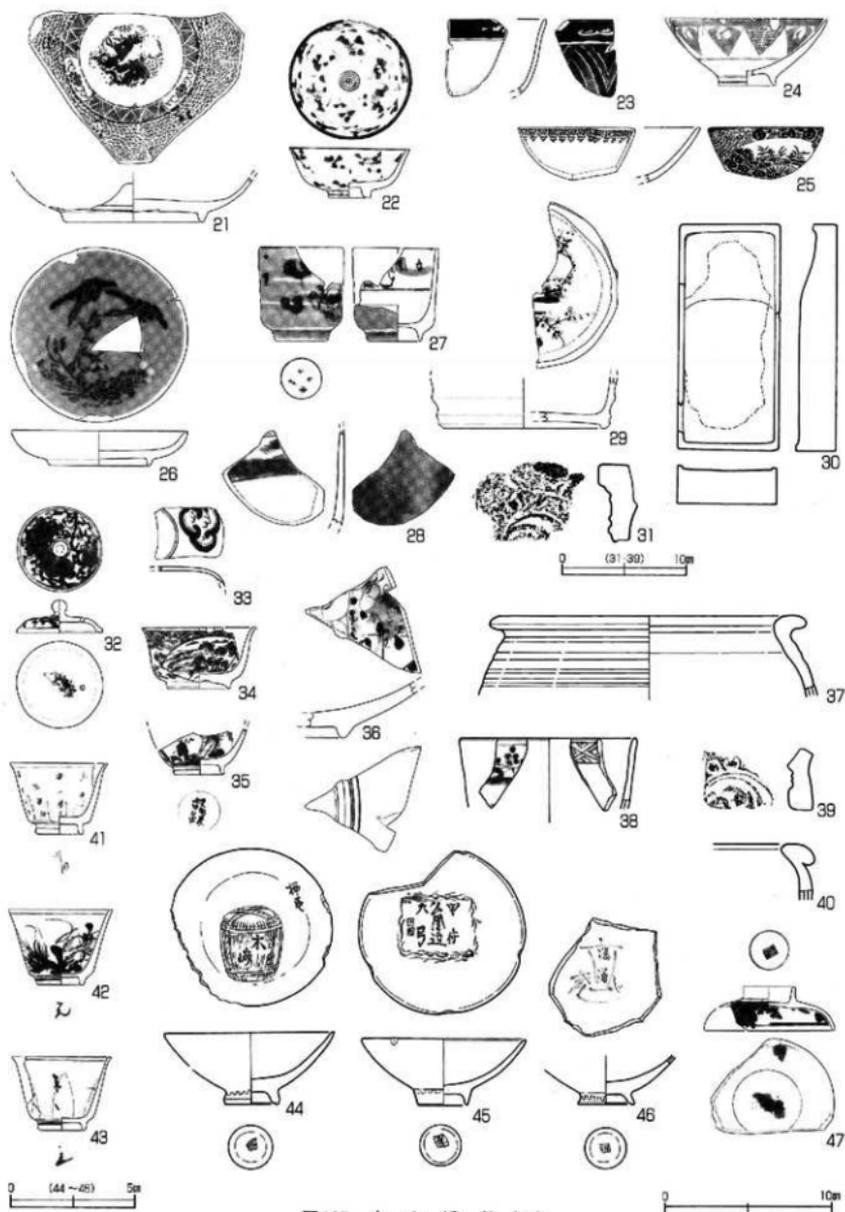


图165 出土遗物(2)

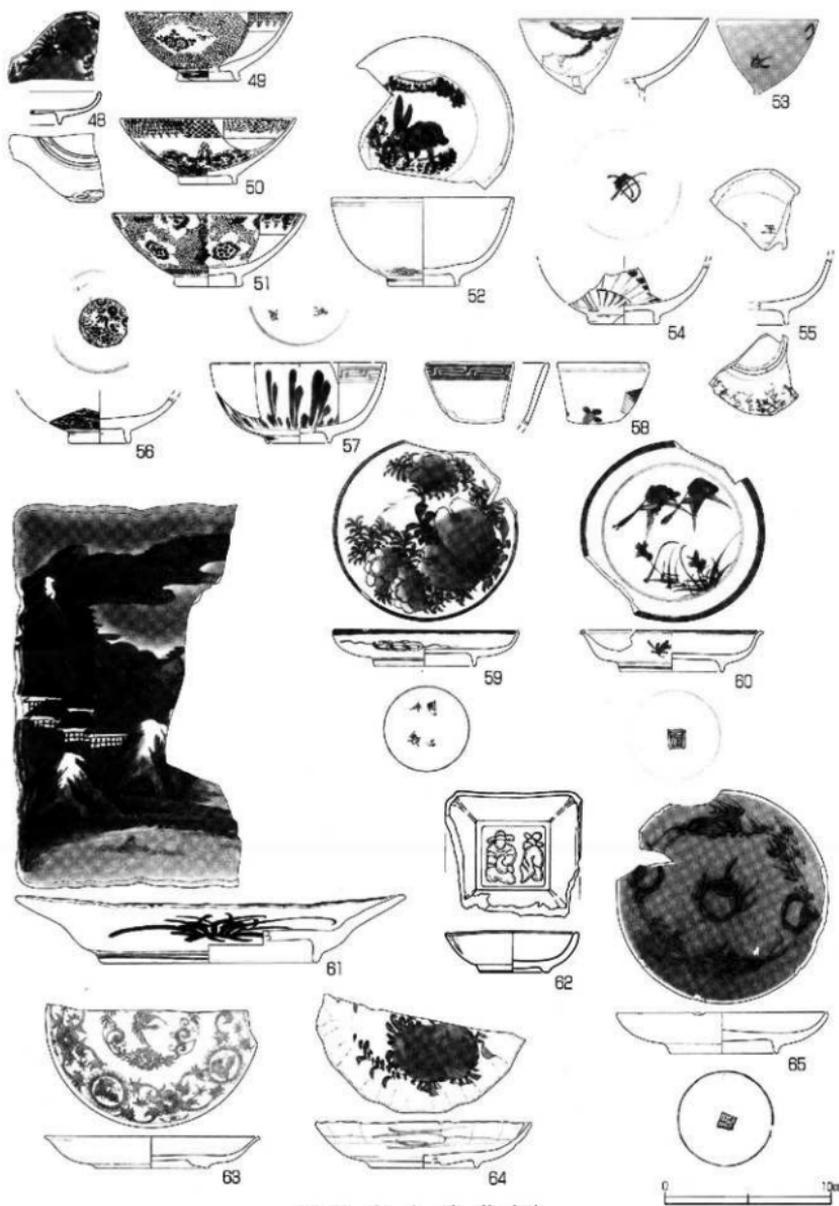


图166 出土遺物(3)

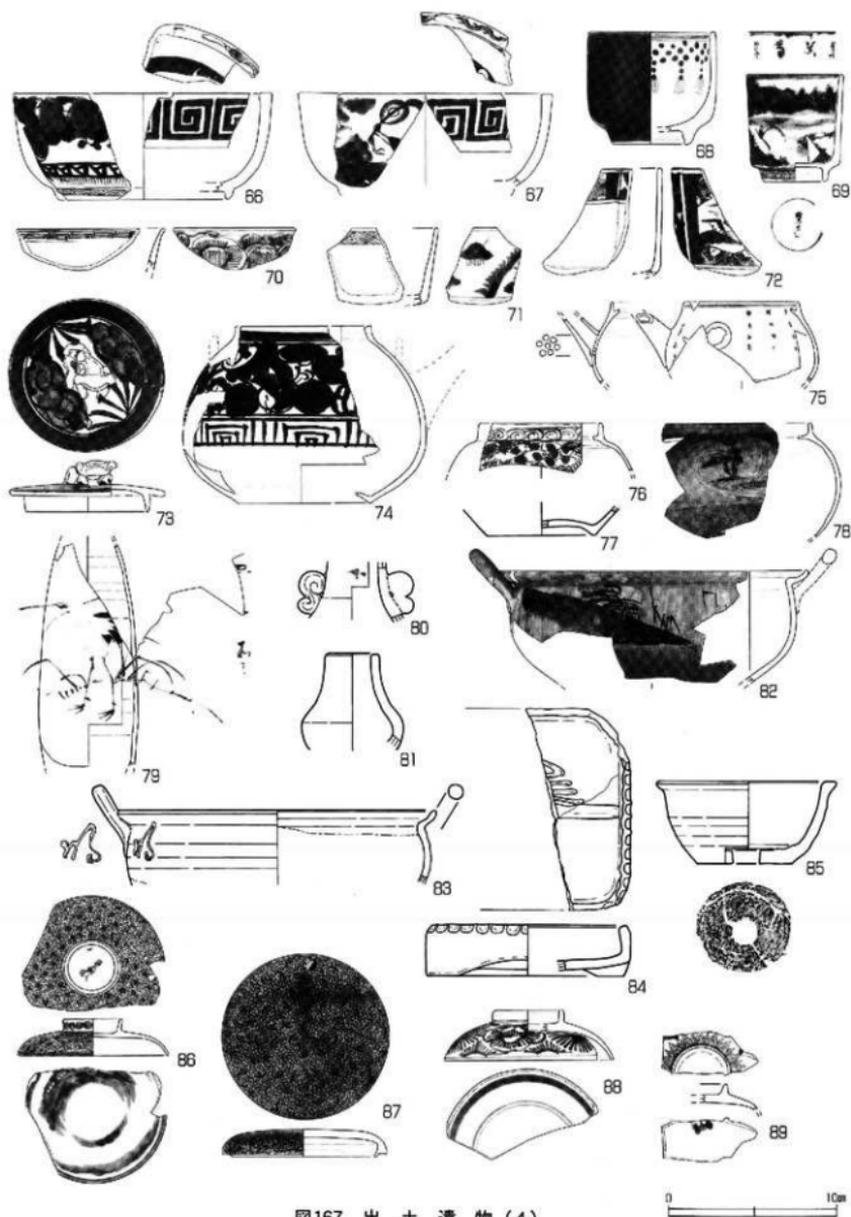


圖167 出土遺物(4)

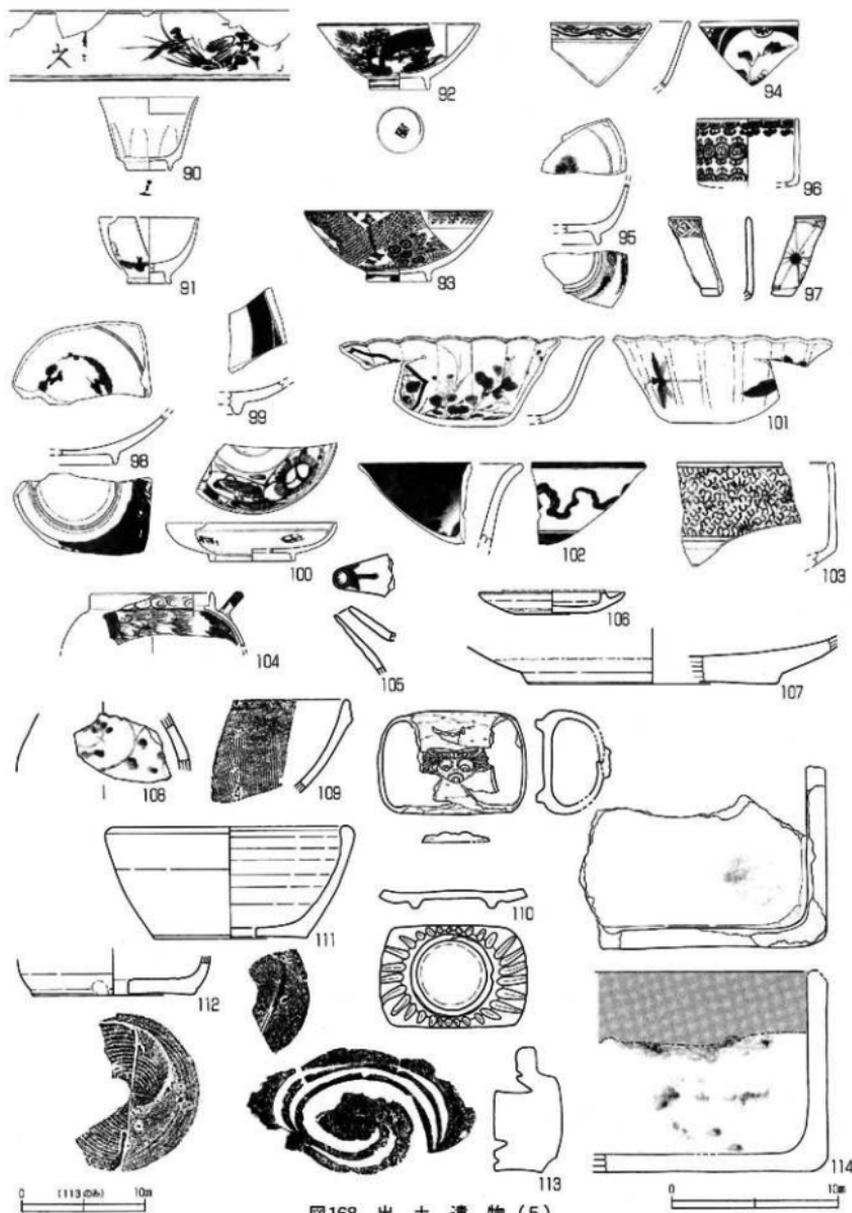


圖168 出土遺物(5)

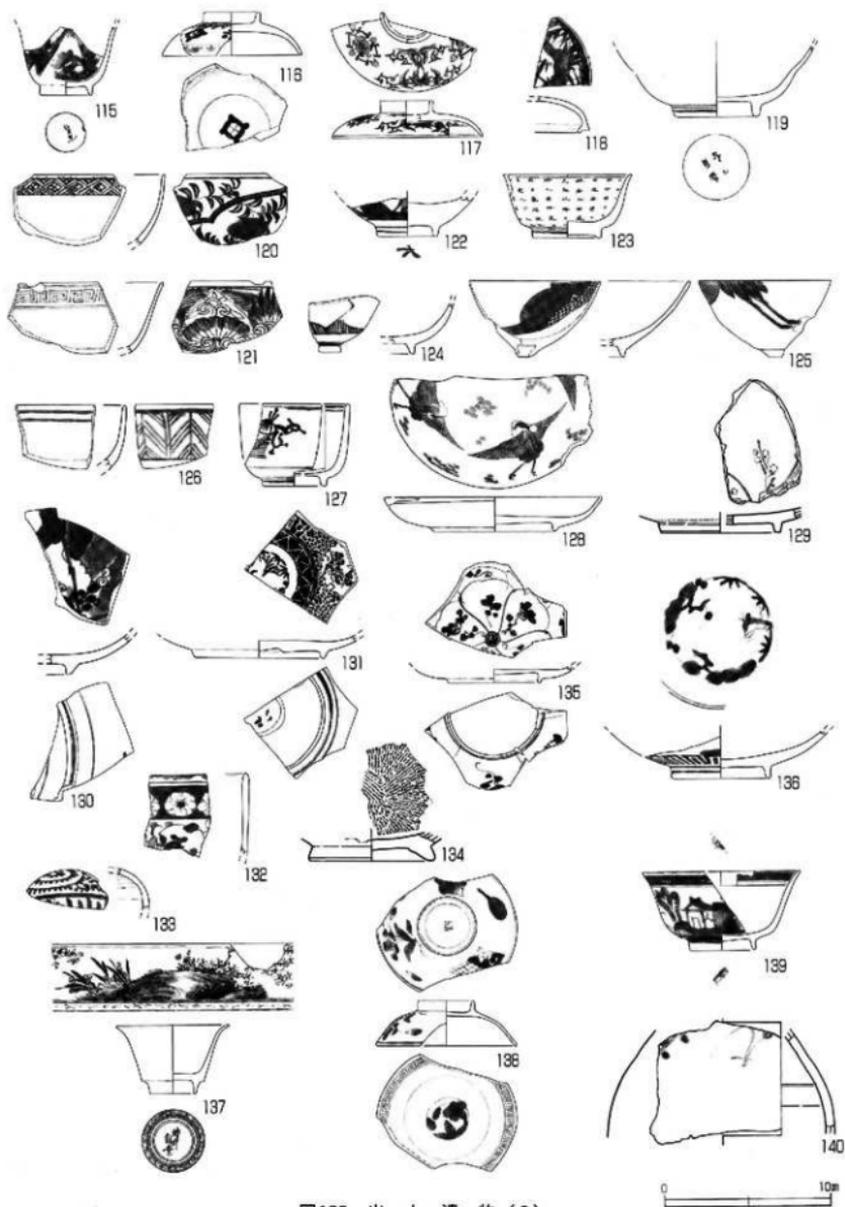


图169 出土遗物(6)

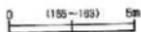
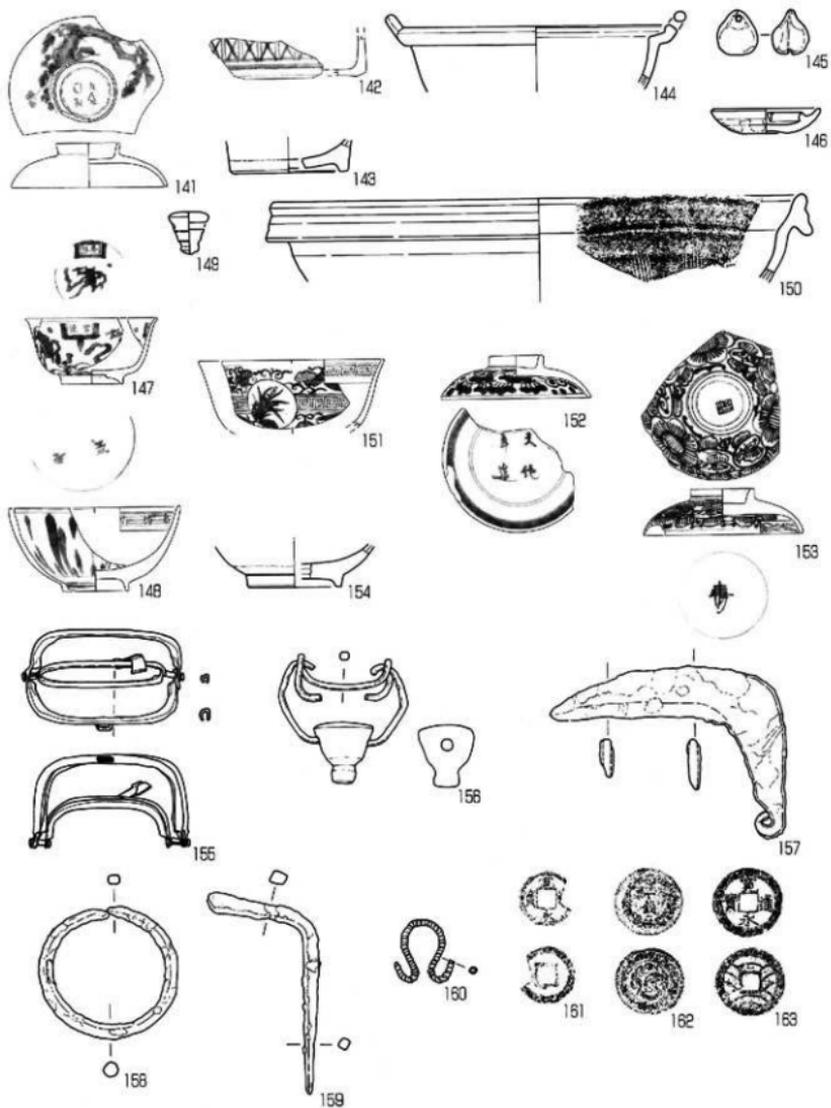


图170 出土遺物(7)

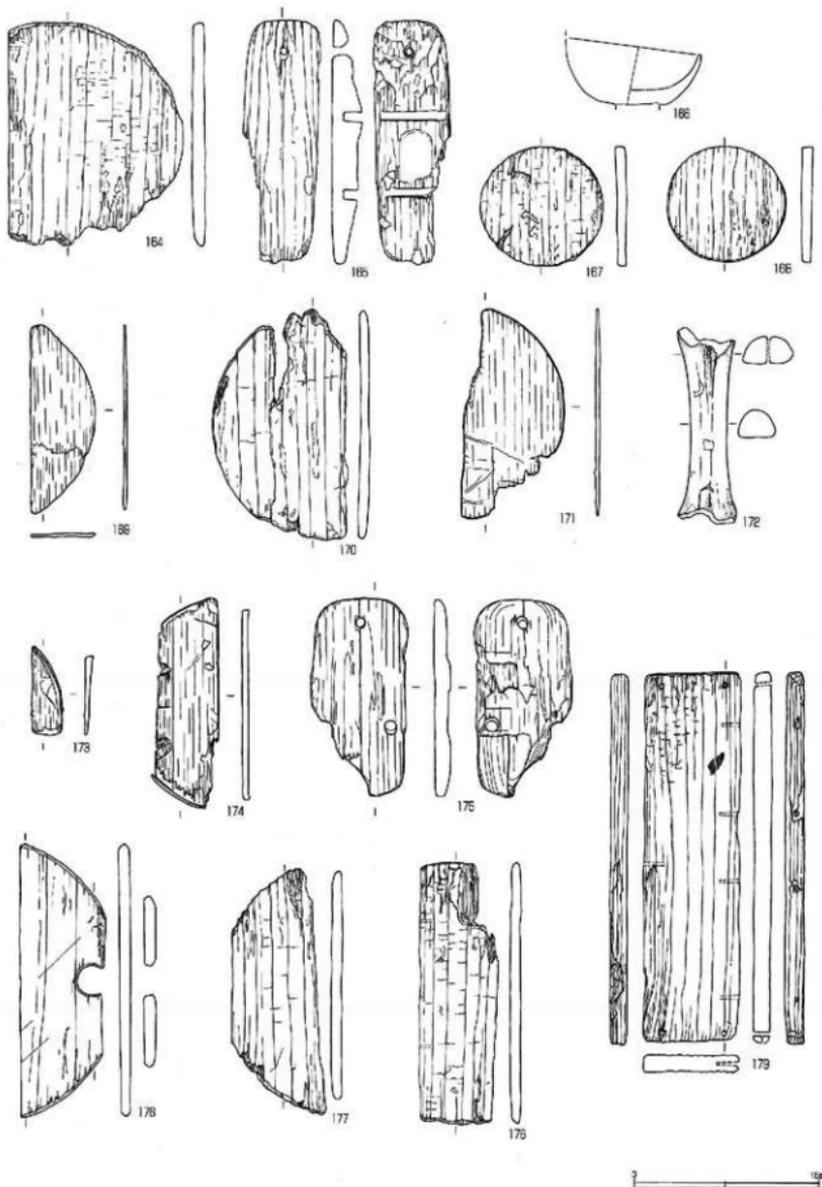
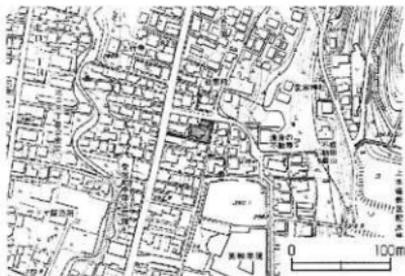


图171 出土遺物(8)

12-15 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市愛宕町101-1 他
 調査原因 個人住宅建設
 対象面積 503㎡
 調査面積 4㎡
 調査期間 平成12年8月1日
 調査担当 平塚洋一



調査の概要

調査対象地は愛宕神社参道のすぐ南に位置する。調査の結果、地表から15～35cmの地層から焼土と炭化物が多く出土する。おそらく第2次大戦における甲府空襲の処理層だと思われる。それより下層から人為的に整地された可能性のある地層が確認できた。地表から60cm下層から自然堆積層と思われる黄白色の粘土層が確認できた。



図173 土層柱状図

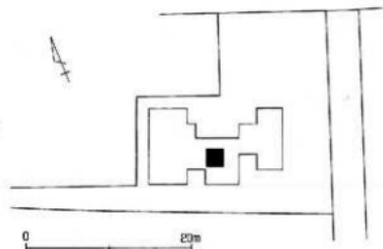


図172 試掘坑配置図

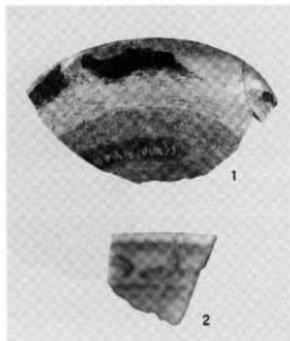
地表から15cmまでが表土（盛土）、15～35cmまでが暗褐色粘土、35～60cmまでが暗褐色粘土に乳白色の粘土ブロックが混入する粘土。60cmより下層は乳白色の粘土層であった。



図174 出土遺物



調査状況



出土遺物

12-16 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市北口三丁目144
調査原因 集合住宅建設
対象面積 997.04㎡
調査面積 12㎡
調査期間 平成12年11月28日～11月29日
調査担当 伊藤正幸

調査地の概要

藤川の右岸の河岸段丘上、標高280mに位置する。藤川との比高差は3mを測る。甲府城下町の東端部にあたり、敷地西側は江戸時代の御納戸小路に接する。

調査の概要

調査は集合住宅建設に伴い、2m四方の試掘坑を3ヵ所設定して人力により掘り下げ、埋蔵文化財の確認を行った。全体的には水道管ないし建物の基礎により攪乱を受けていた。

地山は拳大の礫を含む黒色土層で、地山までの深さは西(TP 1)が-50cm、中央(TP 2)が-90cm、東(TP 3)が-150cmを測り、従来の自然地形も藤川に向かってかなり傾斜していたものと考えられる。TP 1は地山直上まで攪乱を受け、またTP 3は攪乱下部と地山の間30cmほどの茶褐色土の間層が確認できたが、埋蔵文化財は確認できなかった。

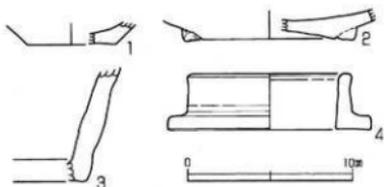
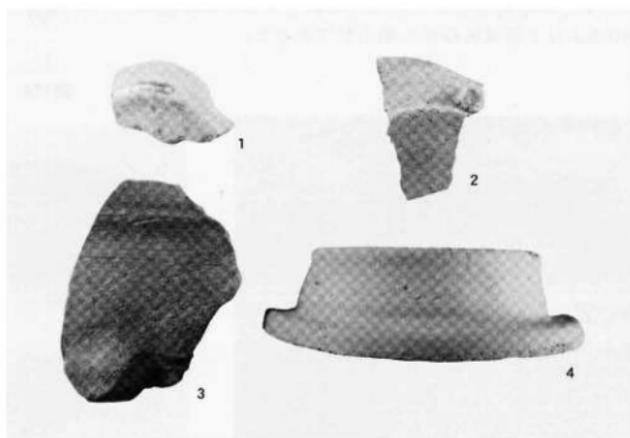


図175 出土遺物



出土遺物

12-17 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市朝日四丁目99 他
調査原因 集合住宅建設
対象面積 1302.65㎡
調査面積 72㎡
調査期間 平成12年12月19日
～平成13年1月18日
調査担当 平塚洋一



調査の概要

調査地は甲府城下町を区画する二の堀に面した北側で、堅町御門の西に位置する。旧町名でいうと堅町に属する。『懷宝甲府絵図』によると武家屋敷地の一角であったことがわかる。地元の人の話によると、以前に電器工場があり、それより前には芝居小屋があったという。

調査の結果、全体的に遺構・遺物ともに散漫な出土であった。そのなかで、近世以前に遡る遺構は井戸跡、及び3号溝跡がある。出土遺物もほとんど確認できないことから、本調査の必要はないと判断した。

検出遺構

- 1号井戸跡 外径約100cm。内径約60cm、深さ約180cm。石組みを伴う。
- 1号溝跡 幅約60cm。ほぼ北西-南東方向に軸を持つ。
- 2号溝跡 幅約30cm。ほぼ北西-南東方向に軸を持つ。
- 3号溝跡 幅約130cm。ほぼ東西方向に軸を持つ。
- 4号溝跡 不整形。ほぼ南北方向に軸を持つ。
- 5号溝跡 幅約60cm。東西方向からやや南に振れた軸を持つ（現在の町割り軸と同一）。北側の面をもった石積みを伴う。

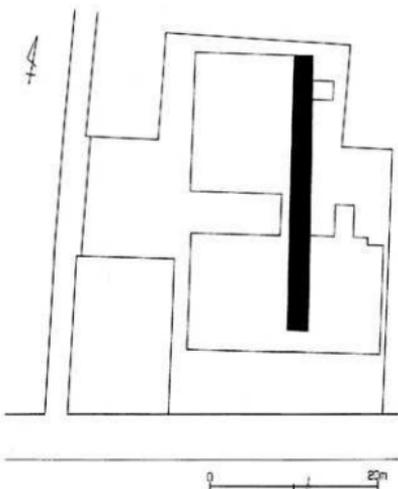
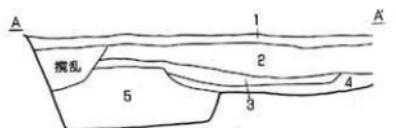


図176 試掘坑配置図

出土遺物

出土遺物は、近世から特に近代の遺物が多い。出土した陶磁器は18が18世紀頃作製された肥前系染付であるが、それ以外は着色に人工コバルト使用し、銅版転写の技法を用いることから、明治時代に作製されたと考えられる。24～27はガラス製の小瓶または壺の蓋である。ちなみに24は化粧品メーカーの株式会社ウテナの商標登録である。38、39は別の個体ではあるが同じ湯呑茶碗で、底面に「橋町田原屋」と記される。現在の甲府市北口1-2丁目付近にあたるものと考えられる。55は染付の男性用小便器である。3号溝の南付近からまともな出土したものが接合により復元した。



1. 黄 土(卵石)
2. 紫褐色粘土 红粘土
3. 暗褐色粘土 黄色土块子(20cm)混入。
4. 黑色粘土层
5. 黄褐色粘土层(地山)



图177 土层堆积图

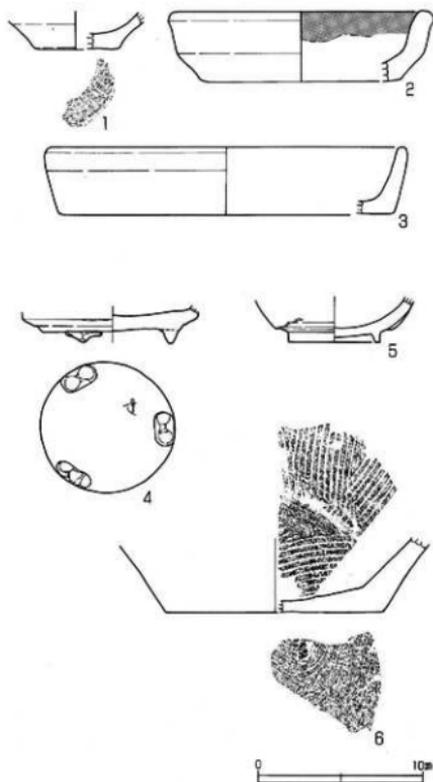


图179 出土遗物(1)

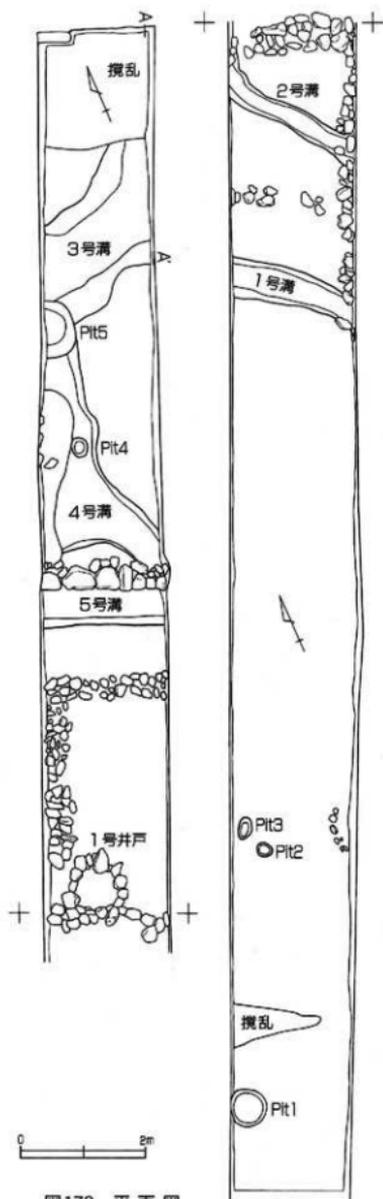


图178 平面图

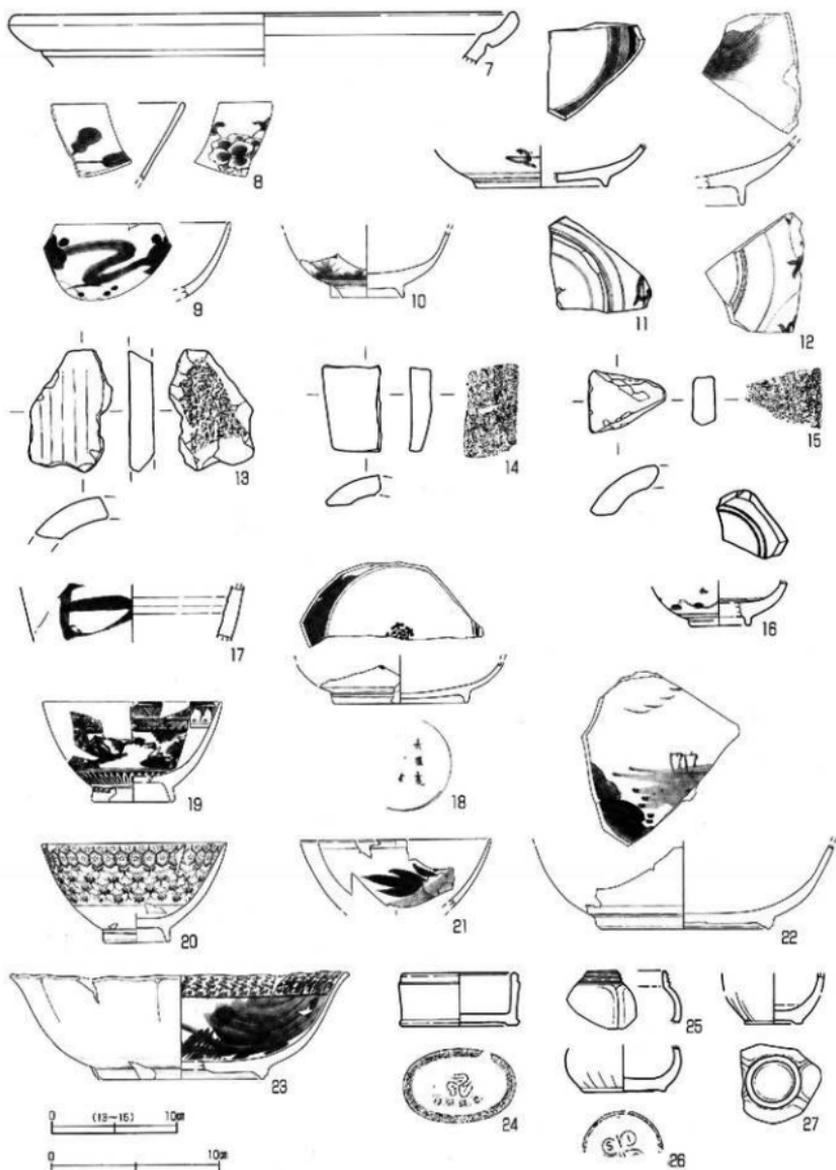


图180 出土遺物(2)

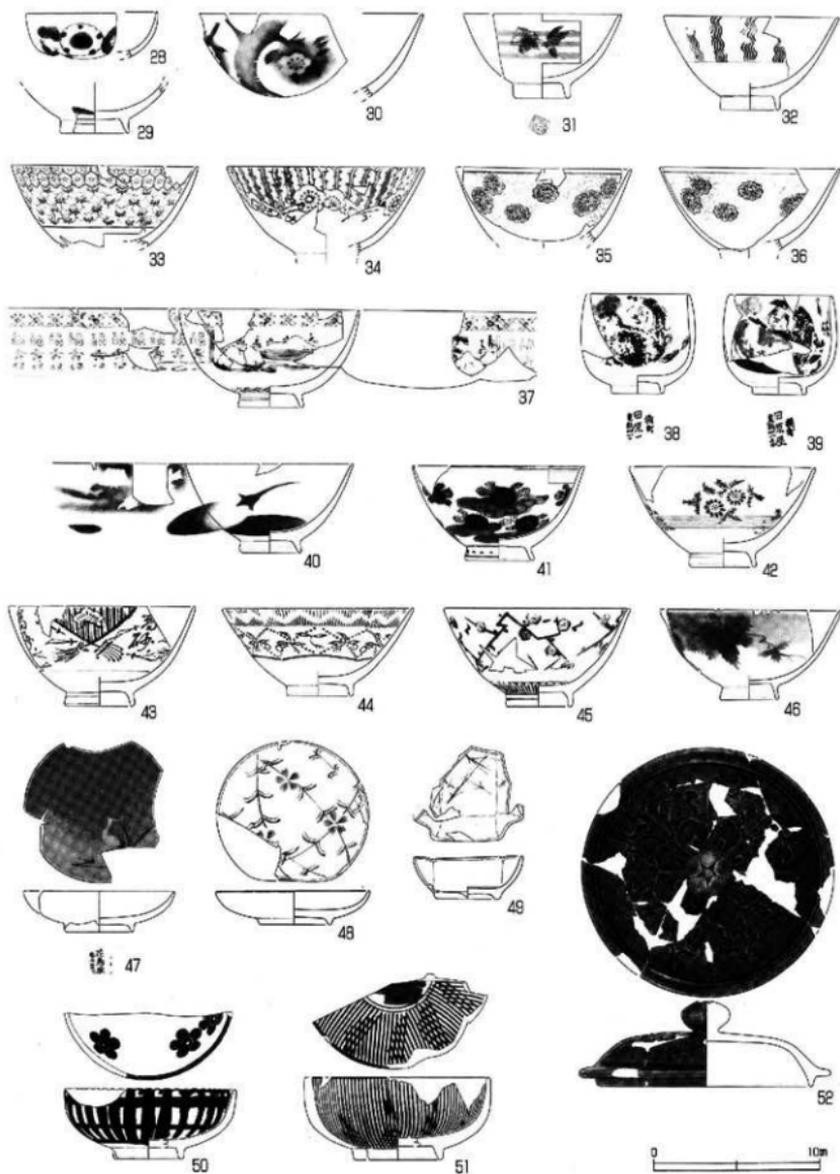


图181 出土遗物(3)

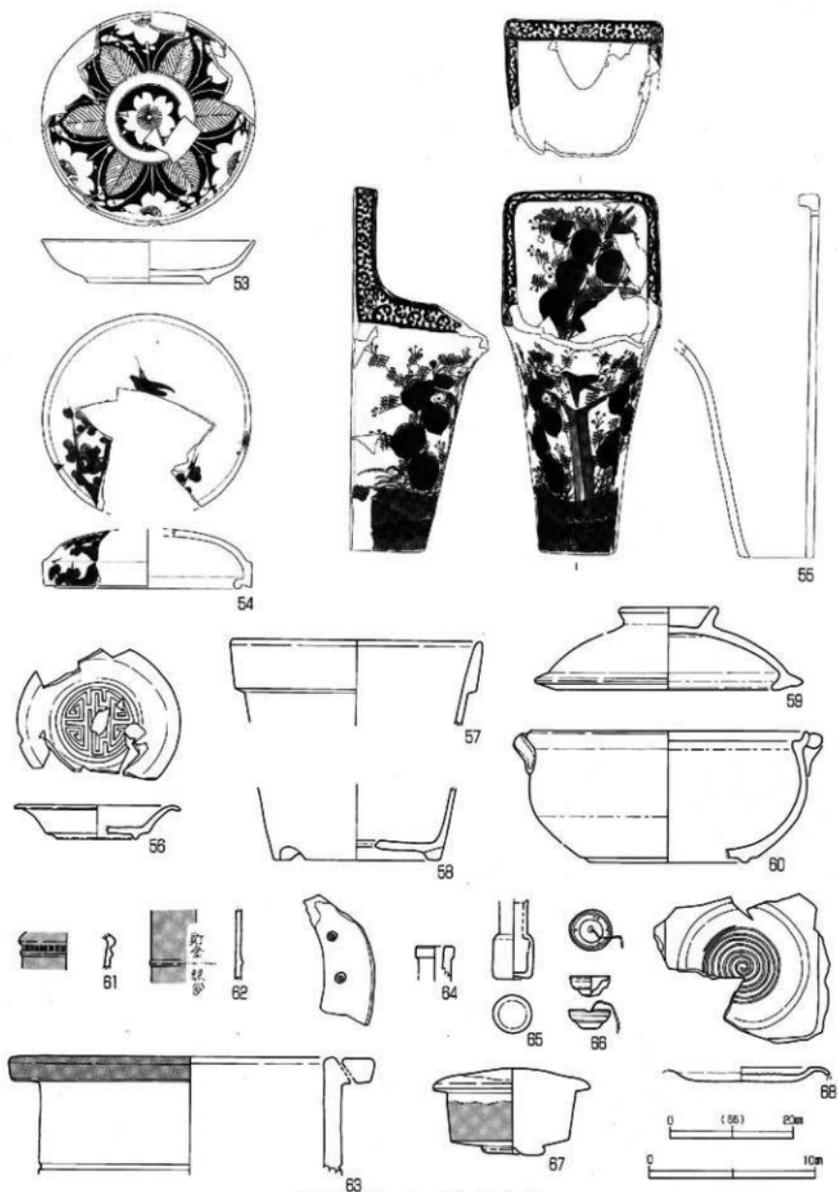


图182 出土遺物(4)

12-18 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市古府中町字中屋敷973-6
 調査原因 個人住宅建設
 対象面積 229.65㎡
 調査面積 8㎡
 調査期間 平成12月4月11日
 調査担当 志村憲一



調査の概要

調査区は、相川扇状地の標高337m地点に位置する。武田時代の家屋敷敷を描いた『甲府略志』の絵図によると「真田信綱」の屋敷地の北側であり、西側には「山本勘助」の屋敷地が記載されている。

調査区に2m四方のグリッド（A・B）を2ヶ所設定し、約0.6m掘削を行った。基本土層は2層に分層される。第1層は厚さ約40cmの暗褐色土層の耕作土である。第2層は黒褐色土層となる。その下層は黄褐色土の地山層となる。

Aグリッドは、地表下0.4mの第2層に掘り込まれた、径約40cm、深さ約20cmのピットが1基確認されている。遺物は、瀬戸美濃系大窯第2期の天目茶碗（1）、かわらけ（2・3）が出土した。

Bグリッドでは、遺構は検出されなかったが、地表下0.35mに位置する第2層において、かわらけ（4）など16世紀代の遺物が出土した。

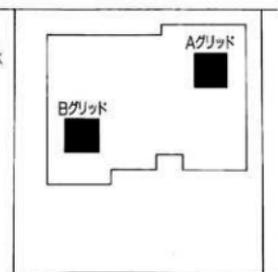


図183 試掘坑配置図



Bグリッド

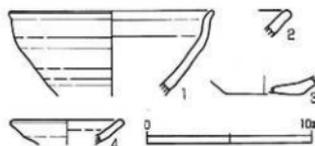
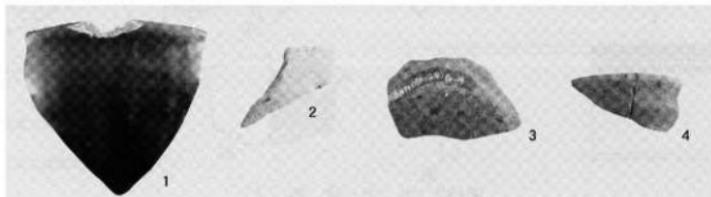


図184 出土遺物



出土遺物

12-19 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形二丁目2392-3
 調査原因 宅地造成・店舗建設
 対象面積 168.40㎡
 調査面積 4.5㎡
 調査期間 平成12年5月22日
 調査担当 志村憲一



調査の概要

武田氏館跡の南方約500mに位置し、中世から存在する街路に面する場所である。北方20m地点には「伊勢の森」が位置していた。

遺構の概要

建物部分2ヶ所にA・Bのグリッドを設定し、表土下1m部分まで重機で掘削を行い、その後人力で遺構・遺物の検出を行った。

Aグリッドは、武田時代からの街路と45°ほど西側に軸線が異なる溝が確認された。溝の西側の立ち上がり部は未確認ではあるが、現状幅1m、深さ約0.1mである。溝内からは北宋銭が1点とかわらげが検出されている。

Bグリッドでは、地表下0.8mから径0.45mのピットが1基検出された。また時期不明の土器が出土している。

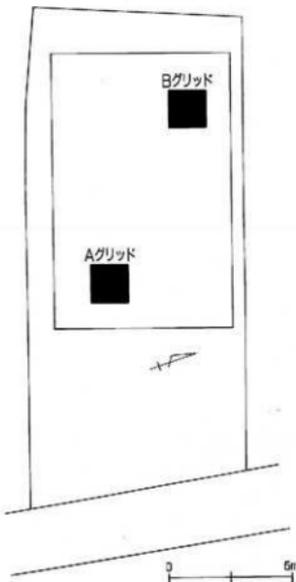


図185 試掘坑配置図

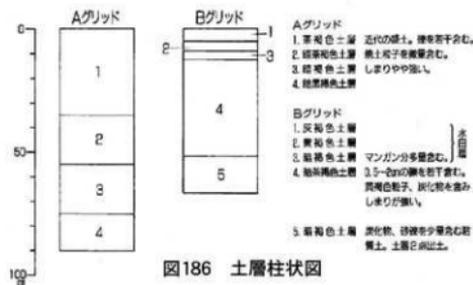


図186 土層柱状図

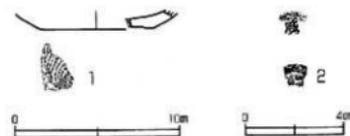


図187 出土遺物



出土遺物

12-20 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形三丁目1785-3
調査原因 個人住宅建設
対象面積 264.46㎡
調査面積 10㎡
調査期間 平成12年6月26日
調査担当 平塚洋一



調査の概要

調査地点は、中世における武田氏館跡城下町を形成する南北5条の通りのうち、もっとも西側に位置する南小路（御殿小路）と呼ばれた通りから約東に30mに位置する。『甲府略史』所収の「古府之図」によると、一条右衛門家臣屋敷にあたる。

地表から約30cmの厚さで表土（黒色粘土）が堆積し、それより下層には褐色粘土層（自然堆積土）が検出できた。

重機により地表から約1mまで深く掘り下げたが、人工的に整地・掘削をした状況は検出できなかった。おそらく近代以降に整地され、その際に遺構面まで削平されたものと考えられる。

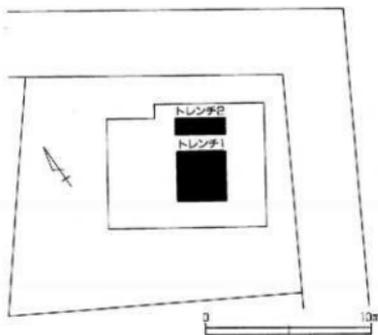


図188 試掘坑配置図



トレンチ1



トレンチ2

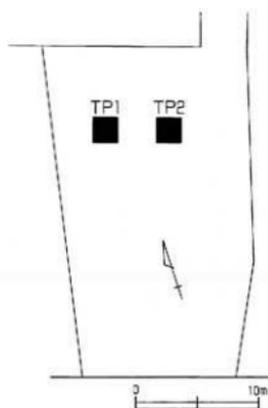
12-21 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形三丁目1706-2
調査原因 個人住宅建設
対象面積 437.22㎡
調査面積 8㎡
調査期間 平成12年6月30日
調査担当 伊藤正幸

調査の概要

武田氏館跡梅翁曲輪の南西側、標高330mに位置する。個人住宅建設に伴い対象地に2m四方の試掘坑を2ヵ所設定し、人力により掘り下げて試掘確認調査を実施した。

全体的に地表下20cmまで、一部50cmまで攪乱を受けており、その下層は黄褐色の粘質土が100cmほど堆積して地山に至る。地山は粘性に乏しく拳大前後の礫を多く含む黄褐色土で若干水が湧き出す。遺構・遺物等は確認できなかった。



調査状況

図189 試掘坑配置図

12-22 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市大手一丁目4347-21
調査原因 個人住宅建設
対象面積 196.01㎡
調査面積 1㎡
調査期間 平成12年7月1日・8日
調査担当 志村憲一

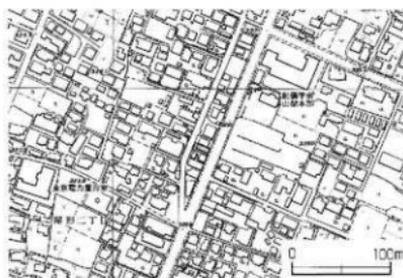
調査の概要

調査区は、相川扇状地の相川左岸標高約322m地点に位置する。国史跡武田氏館跡の南方約500m地点に位置し、武田時代の家臣屋敷を描いた『甲府略志』の絵図によると、「諸角豊後守」の屋敷跡の伝承地である。調査は1m四方と狭隘な範囲を、地表下1mの拳大の礫を多く含む地山層まで掘削を行った。表土以下は暗褐色粘質土となるが、遺構・遺物ともに確認されなかった。



12-23 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形二丁目4423-4
 調査原因 診療所建設
 対象面積 120.83㎡
 調査面積 4㎡
 調査期間 平成12年7月10日
 調査担当 平塚洋一



調査の概要

地表から約30cmの厚さで表土（黒色粘土）が堆積し、それより下層には水田耕作土である黄褐色粘土層が検出できた。それより下層の地表下40～60cmまで中世の遺物包含層が堆積し、地表下60cmで遺構確認できる。

遺構の残存状況は非常に良好である。計画建物は盛土を施した上に、基礎を配置する予定のため、基礎深度は遺物包含層にも達しないため、今回は遺構確認だけにとどめ、調査を終了した。

確認できた地層は、地表から30cmまでが表土、30～35cmまでが黄褐色土（水田耕作土）、35～40cmまでが黒褐色土、40～60cmまでが灰褐色土（遺物包含層）、60cmより下層が褐色粘土（自然堆積層）となる。

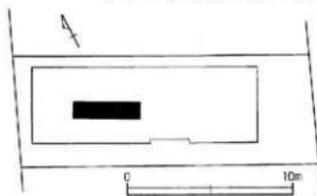


図190 試掘坑配置図

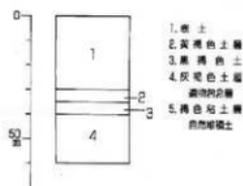


図191 土層柱状図

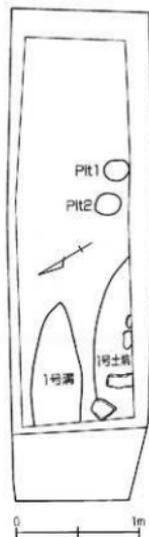


図192 平面図

調査状況

12-24 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市大手二丁目4211-1他
 調査原因 個人住宅建設
 対象面積 102.25㎡
 調査面積 10㎡
 調査期間 平成12年7月10日
 調査担当 平塚洋一

調査の概要

調査対象地に当初2×2mの試掘グリッドを設定したが、攪乱を受けていたため、南側と東側に延長し、L字状のトレンチ調査とした。

地表から30cmまでが現在の表土となっているが、地表下60cmまでが淡褐色土の盛土である。60～90cmまでが旧表土である褐色粘土、90～120cmまでが暗褐色粘土、120cmより下層が自然堆積した暗褐色土である。



図194 土層柱状図

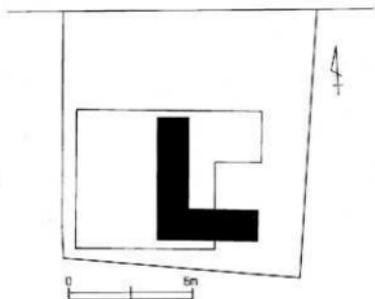


図193 試掘坑配置図



調査状況

12-25 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市大手一丁目4293-4
 調査原因 個人住宅建設
 対象面積 229.05㎡
 調査面積 4㎡
 調査期間 平成12年8月1日
 調査担当 平塚洋一



調査の概要

調査対象地点は、武田通りと鍛冶小路の間に位置する。調査の結果、地表から20～30cmの層で、周辺で確認される暗褐色の硬化面が確認できた。通常であればこの硬化面が中世における整地層となり、この層もしくはこの下層で遺構確認ができるが、今回の調査地点では遺構・遺物ともに確認できなかった。計画建物は現在の表土からさらに35cm盛土を施す予定であり、中世の整地面とも間層が保たれる。

地表から16cmまでが表土、20cmまでが黄褐色土、20～30cmが暗褐色粘土、30～50cmが暗灰褐色粘土、50～65cmが暗灰褐色粘土であった。

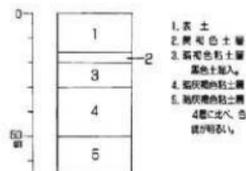


図196 土層柱状図

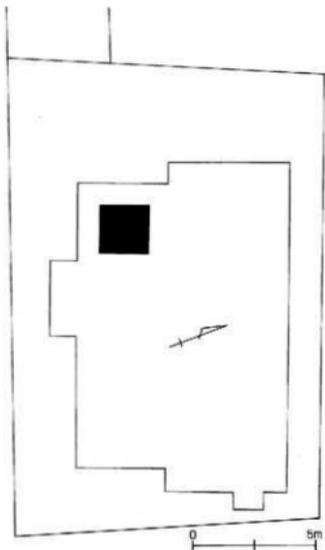


図195 試掘坑配置図



調査状況

12-26 武田城下町遺跡

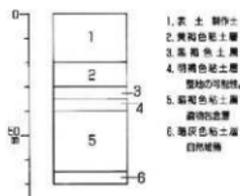
調査位置 甲府市大手三丁目3758-4他
 調査原因 個人住宅建設
 対象面積 447.86㎡
 調査面積 4㎡
 調査期間 平成12年8月9日
 調査担当 平塚洋一



調査の概要

調査対象地は鍛冶小路から東へ約60mに位置する。調査の結果、地表から30cm下層から炭化物が散布し始め、40cm下層から濃密に散布する。また、同地層からは土器片とともに鉄滓が出土した。炭化物は多いがそれにくらべて焼土の出土量が少ないことから、この地点で鍛冶が行われたのではなく、周辺で鍛冶をおこない、その廃棄物がもちこまれたものと考えられる。

地表から20cmまで表土（耕作土）、20～30cmまで黄褐色粘土、30～35cmまで黒褐色粘土（軟質な焼土と炭化物の小片が少し混ざる）、35～40cmまで明褐色粘土、40～65cmまで暗褐色粘土（炭化物が非常に多く混ざる）、65cmより下層は自然堆積した暗灰色粘土であった。



1. 表土 耕作土
2. 黄褐色粘土層
3. 黒褐色粘土層
4. 明褐色粘土層
5. 暗褐色粘土層
炭化物の混入層
6. 暗灰色粘土層
自然堆積物

図198 土層柱状図

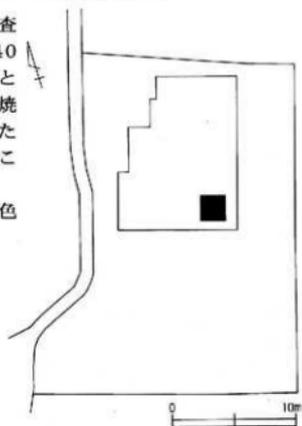


図197 試掘坑配置図



調査状況

12-27 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市武田三丁目391他
調査原因 個人住宅建設
対象面積 950.30㎡
調査面積 約20㎡
調査期間 平成12年9月28日～10月18日
調査担当 志村憲一



調査の概要

武田城下町遺跡南東側の相川扇状地、標高約294mに位置する。16世紀からの通りである鍛冶小路に接し、西側へかけて緩やかに傾斜する土地である。調査区にA～Dの4箇所グリッドを設定し、地表下0.3～0.7mまで掘削を行った。地山層は、地表下0.3～0.5mに位置する黒褐色土層である。

遺構は検出されなかったが、鍛冶小路に最も近いAグリッドでは、大窯2期の丸皿と不明陶器が各1点出土した。西側のDグリッドにおいては、かわらけが3点検出されている。出土遺物はいずれも16世紀代に使用されていたものである。



A グリッド



D グリッド

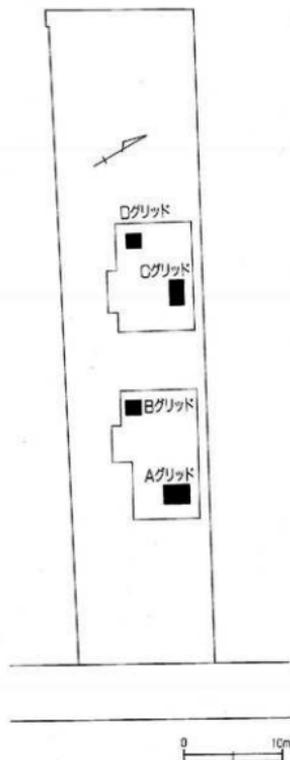


図199 試掘坑配置図

12-28 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形三丁目1709-6
調査原因 個人住宅建設
対象面積 263.35㎡
調査面積 4㎡
調査期間 平成12年10月16日
調査担当 伊藤正幸



調査の概要

武田氏館跡の南西約550m、標高330mに位置する。周囲は住宅地で、南北方向の傾斜に沿って、ヒナ段状の造成地になっている。

今回は個人住宅の建設に先立ち試掘確認調査を実施したもので、対象地に2m四方の試掘坑を設定し地下の状況を確認した。

宅地造成に伴う攪乱は地表下20cmに達し、その下層は茶褐色の自然堆積層になる。厚さは40cmほどで地山に達する。

調査により遺構・遺物等は確認されなかった。

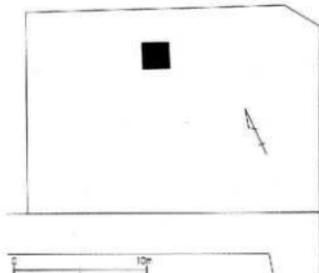


図200 試掘坑配置図

12-29 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形二丁目2393-1
調査原因 個人住宅建設
対象面積 165.24㎡
調査面積 4㎡
調査期間 平成12年10月16日
調査担当 伊藤正幸



調査の概要

武田氏館跡から500mほど南に位置し、標高325mに立地する。住宅建設に伴い事前の試掘確認調査を実施した。調査は2m四方の試掘坑を1カ所設定し、人力により掘り下げて行った。

地表下20cmまでは宅地造成に伴う攪乱を受けていて、部分的には攪乱の深さは70cmに達している。造成による攪乱を除去すると茶褐色土の自然堆積層になり、さらに-70cmで小礫混じりの黄褐色面に至る。遺物の散布は散漫で、茶褐色土層中から土師質土器の小破片が確認された以外には、遺構・遺物とも確認されなかった。

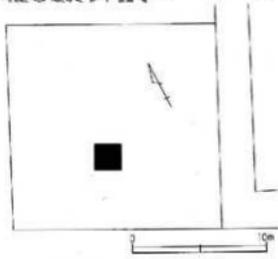


図201 試掘坑配置図

12-30 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市宮前町38-1 他
調査原因 集合住宅建設
対象面積 1708.70㎡
調査面積 20㎡
調査期間 平成12年10月16日～10月18日
調査担当 志村憲一



調査の概要

相川扇状地扇中部、標高約290m地点に位置し、武田城下町遺跡の南端部である。16世紀代からの通りである鍛冶小路に面する土地であり、江戸時代は城屋町の通りであった。中世から近世にかけて町屋が存在していたものと推定される場所である。調査区北西側50m地点において、かわらけなど16世紀代の遺物が確認されている。

敷地の4地点について2箇所の試掘調査と立会調査を実施した。鍛冶小路側のトレンチ1は、東西1.5m幅1mである。地表下0.6mで地山層となるが、地山層の上層は近代の旧水田層である。

トレンチ1の東側の立会調査区及びトレンチ2では、地表下1mまで既存建物による攪乱を受けていたため、遺構・遺物は確認されなかった。敷地東側の立会調査区では、時期不明のピットが2基確認されたが、周辺は建物解体時に攪乱を受けていたため、本調査を行うことは困難であると判断し、調査は終了した。



図202 試掘坑配置図

12-31 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形一丁目2105-1 他
調査原因 個人住宅建設
対象面積 341.42㎡
調査面積 13㎡
調査期間 平成12年11月7日
調査担当 佐々木 満

調査の概要

本地点は、武田城下町遺跡内でも西端に位置し、南側は北新地区の区画軸の変化点にあたる。調査区内では、建物建設予定地で幅1.5m、長さ6mのトレンチを1箇所設定して調査を実施した。

しかし、地表下約60cmまで掘削したが、以前に存在した建物解体に伴う攪乱層で覆われており、全体的に攪乱が著しいことが確認された。新築住宅の基礎構造も考慮し、建物予定地内でそれ以上の掘削は避けることとした。この地点の土層堆積を把握するため、その南側で新たに2m四方のグリッドを設定して状況の確認を行った。地表下約80cmまで掘削したところでも攪乱層は除去されなかったことから、付近の調査状況も加味すると、遺跡面は攪乱によってすでに消滅していると判断し、調査を終了した。

まとめ

武田城下町遺跡の中でも本地点周辺の調査事例は少なかったことから、城下町の範囲や様相を把握する上でこの地点の調査成果に期待が持たれたが、結果的には遺構・遺物は皆無であり、今後の調査に期待される。

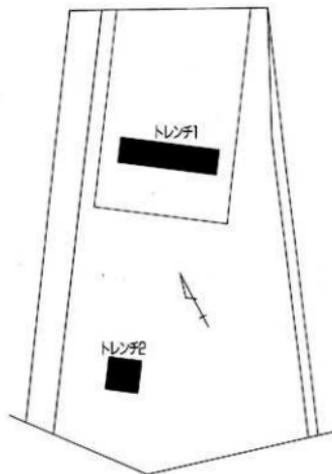
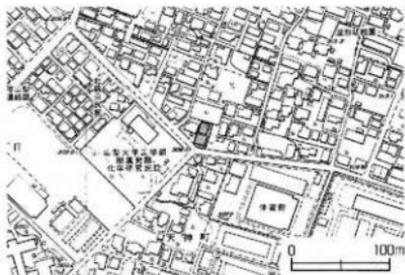


図203 試掘坑配置図



トレンチ1

12-32 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市元紺屋町43-4
 調査原因 個人住宅建設
 対象面積 511.60㎡
 調査面積 24.3㎡
 調査期間 平成12年11月21日～11月24日
 調査担当 志村憲一



調査の概要

武田城下町遺跡の東南部にあたり、愛宕山山麓の緩斜面標高291mに位置する。大泉寺小路に面し、近世の古絵図には延寿院の記載が見られる。この延寿院は、調査区北東側200mの高台に位置する真言宗の真如山華光院の末寺であるが、明治期の地図等には見られない。現在も大泉寺小路沿いには、寺院が多く見られる。

建物位置に東西16.2m、幅1.5mのトレンチを設定した。深さ0.3～0.5m掘削し、トレンチの東側南壁で基本土層の確認を行った。基本土層は3層に分層される。第1層は近代の攪乱層である。第2層は暗黒褐色土層である。第3層は地表下0.5mに位置する黄黒褐色の地山層である。

遺構は地山層に掘り込まれたピットが19基検出された。径30～50cmを測り、覆土は黒褐色又は暗黒褐色土である。少量の炭化物の混入が見られるピットもあるが、遺物は土器の小片が数点確認されたのみである。遺構の時期・性格等については不明である。

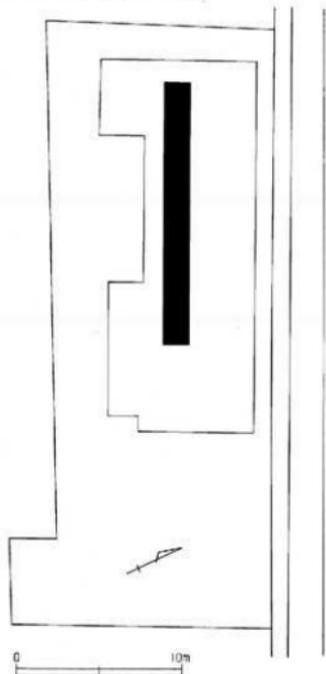


図204 試掘坑配置図



ピット群検出状況



図205 土層柱状図



遺構検出状況



調査状況

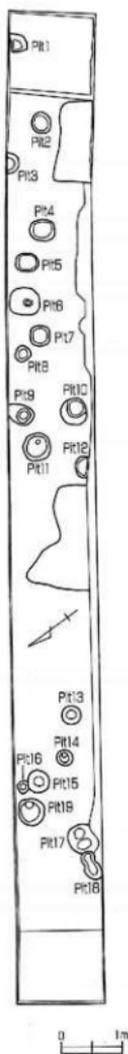


図206 平面図

12-33 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市天神町7-4
 調査原因 個人住宅建設
 対象面積 403.57㎡
 調査面積 14㎡
 調査期間 平成12年11月27日～28日
 調査担当 志村憲一



遺跡の概要

調査区は相川扇状地扇央部、標高約292m地点であり、武田城下町遺跡の南西部に位置する。武田時代の家臣屋敷を描いた『甲府略志』の絵図によると、大熊備前守の屋敷跡の伝承地であり、近辺には「大熊」の字名が残る。

調査の概要

建物部分に東西7m×幅2mのトレンチを設定し、重機で表土を0.3～0.5mほど掘削を行い、その後人力で遺構・遺物の検出を行った。基本土層は、トレンチ東壁で確認した。第1～3層は近代の堆積層である。地表下約0.5mに位置する第4層の暗褐色粘質土層は、近代以前の堆積層である。

検出された遺構は、黄褐色粘質土層の地山層に掘り込まれた状況で確認された。

溝はトレンチの東側で検出された。北東方向から南西方向に通じ、確認された最大幅は1.5m、深さ15cmを測る。覆土は暗褐色粘質土であるが、遺物は検出されていない。

ピット4基は、径25～35cmである。1号ピットの深さは5cmと浅いが、他は50cm前後ある。いずれも覆土は同質の暗褐色土である。遺物は2号ピットから時期不明の土器が1点出土した。

1号土坑は幅約40cm、深さ10cmを測る。覆土は黒褐色土であり、遺物は未確認である。

検出された遺構については、時期不明の遺物が1点しか検出されていないことから、時期を特定することは困難である。しかし、溝に関しては武田城下町で確認されている中段階の溝等の軸線と異なることから、16世紀以前の遺構であると考えられる。

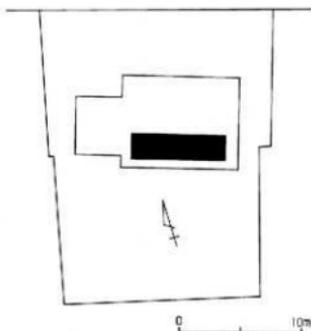


図207 試掘坑配置図

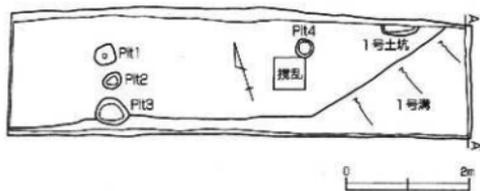
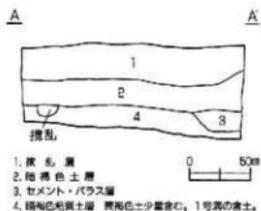


図208 平面図



1. 表土層
2. 暗褐色土層
3. セメント・バラスト層
4. 黄褐色粘質土層 黄褐色土少量含む、1号溝の遺土。

図209 土層堆積図

12-34 武田城下町遺跡

調査位置	甲府市屋形二丁目2438-3
調査原因	個人住宅建設
対象面積	356.89㎡
調査面積	4.5㎡
調査期間	平成12年11月28日～11月29日
調査担当	志村憲一

遺跡の概要

武田氏館跡の南方300m、標高約324m地点に位置する。武田時代の家臣屋敷を描いた『甲府略志』の絵図によると、「三枝勘解由」の屋敷跡の伝承地である。現在も周辺の道路は16世紀代の遠見遮蔽小路の痕跡と考えられるクランク状に屈曲した道路が見られる地域である。

調査区は南北方向に周辺より約1m落ち窪み、調査区西側2m地点には「伊勢の森」に関係すると云われる、径6.5m、高さ約0.6mの円形状の石積の塚が存在した。

調査の概要

調査区域内に1.5m四方のグリットを2箇所設定し、地表下約0.8m地点まで掘削を行った。地表下約0.4mに位置する暗褐色粘質土層は、焼土・炭化物を含む遺物包含層である。この層からは、かわらけ・土製の挿針など16世紀代の遺物が検出された。その下層からは遺物の出土量は少なくなり、地表下0.8m地点で黒褐色土の地山層となる。

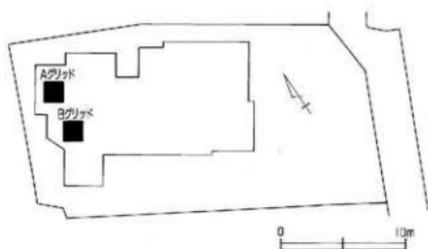


図210 試掘坑配置図

12-35 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市古府中町字中屋敷1009-1 他
調査原因 集合住宅建設
対象面積 913㎡
調査面積 12㎡
調査期間 平成12年12月18日
調査担当 伊藤正幸



調査地の概要

相川の河岸段丘上、標高332mに位置する。武田城下町遺跡の西端にあり、近隣は山本勘介屋敷跡とも推定されている。集合住宅建設にともない、対象地全体に2m四方の試掘坑を3ヵ所設定し人力により掘り下げながら試掘確認調査を実施した。

調査の概要

現状は荒地で、瓦礫等放置されていた。また北から西に向かい、1mほどの比高差が認められる。部分的に水道管・下水管等が確認されるなど攪乱を受けていたが、旧来は水田として耕作していたと思われ、暗灰褐色の水田土壌が認められる。

基本層序は以下のとおり

第Ⅰ層 砂や礫を含む黒色土層（客土）

第Ⅱ層 暗灰褐色土層（10cm）

第Ⅲ層 淡黄褐色土層（5cm）

第Ⅳ層 黒色土ブロックを多く含む暗灰褐色土層（10cm）

第Ⅴ層 人頭大の礫を多く含む黄褐色土層（地山）

地山面までが非常に浅いことと、耕作を含めた攪乱が著しいこともあり、埋蔵文化財は確認されなかった。

12-36 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市大手三丁目3764-3 他
調査原因 個人住宅建設
対象面積 291.02㎡
調査面積 6㎡
調査期間 平成12年12月25日～
平成13年1月10日
調査担当 伊藤正彦



遺跡の概要

本遺跡は市街北部、相川扇状地一帯に広がる戦国期開創の城下町遺跡である。城下の範囲は、武田氏の居館「躰躰ヶ崎館」を中心に現在のJR甲府駅付近まで広がっていたものと推量される。調査地点は館に近接し、標高約345mを測る宅地である。

調査概要

対象地に試掘坑を二箇所設定し、人力により掘り下げた。いずれの試掘坑も地表下約30cmまでは旧水田耕作土・床土が安定して堆積し、それより下層から遺物が出土した。出土遺物は縄文時代中期・平安時代・中世と各時代にわたり、なかでも縄文時代中期に属する遺物が最も多く出土した。

南側に設定した試掘坑1は、地表下約1mまで掘削し、厚さ70cmに及ぶ遺物包含層が確認でき、北側に設定した試掘坑2は、地表下約60cmまで掘削し、厚さ30cmに及ぶ遺物包含層を確認した。北から南に傾斜する地形に対応して南側に厚く包含層が堆積している状況であった。遺物の出土状況などから地形を利用した土器廃棄遺構と類推する様相を呈していた。



図211 試掘坑配置図

調査後の対応

住宅建設に伴う開発は、地表下35cmまで達し、遺跡が削平される状況であった。土地所有者・工事主体者・施行責任者などと遺跡の取扱いについて協議した結果、盛土工法により遺跡の保存を図ることとなった。



試掘坑 1



試掘坑 2

12-37 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市天神町35 他
調査原因 集合住宅建設
対象面積 281.3㎡
調査面積 20㎡
調査期間 平成13年1月22日
調査担当 平塚洋一



調査の概要

計画建物の基礎は現地表面から1.7mの深さを予定する。調査はトレンチを3箇所設定し行った。調査の結果、地表から40cmの深さで自然堆積層に達し、遺構が確認できる地点もあった。しかし、遺構・遺物が検出できたところは、南側に設定したトレンチからのみで、それ以外は近代以降の攪乱を受けている状況が看取できた。そのため、施行に際し、埋蔵文化財への影響は少ないものと判断できる。

確認できた遺構は、溝状遺構3条と柱穴跡と思われるピットが6基確認できた。

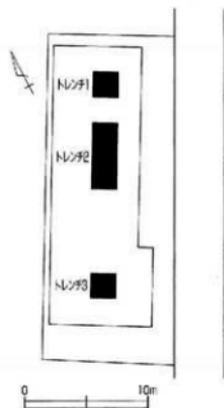
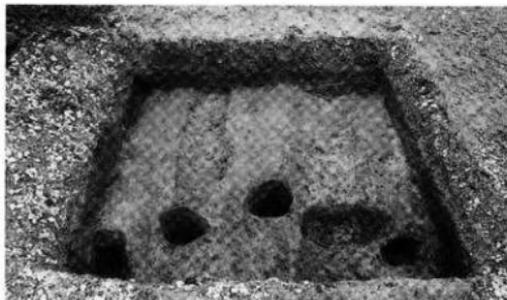


図212 試掘坑配置図



トレンチ2



トレンチ3

12-38 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市宮前町89
 調査原因 宅地造成
 対象面積 679.93㎡
 調査面積 32㎡
 調査期間 平成13年3月1日
 調査担当 伊藤正幸



調査の概要

宮前町に鎮座する八幡神社の南に位置する。中世の武田城下町及び近世の甲府城下町とが重複して存在している地域と推測されている。地形的には藤川右岸の舌状台地上にあり、標高は293mを測る。宅地造成工事に伴い、事前の試掘確認調査を実施した。

調査は2m四方の試掘坑8ヶ所を設定し、人力により掘り下げた。敷地北西部の二つの試掘坑（TP2および3）は、表土を除去すると人頭大の礫が重畳し湧水も多く調査が困難であった。また南部中央の試掘坑（TP8）では、下水管が埋設されており、その下部は黒色土に多量の礫が混入されていた。

他の5カ所の試掘坑は60～100cm掘り下げて地山を検出することができたが、いずれの試掘坑からも遺構・遺物等の検出はなかった。

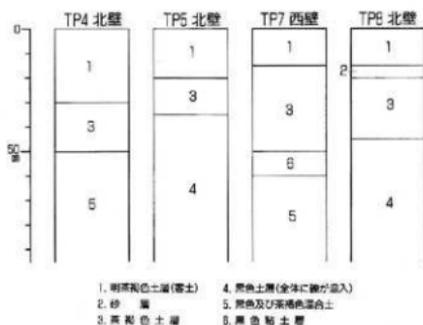


図213 土層柱状図

12-39 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市天神町98-1
 調査原因 個人住宅建設
 対象面積 142.10㎡
 調査面積 4㎡
 調査期間 平成13年3月26日
 調査担当 平塚洋一



調査の概要

『甲府略史』所収の「古府之図」によると、大熊備前守の畑地となっている場所にあたる。調査の結果、南北方向の溝状遺構が3条と柱穴と思われる小規模な掘り込みが6基検出できた。そのうち一方は近世の耕作に伴う暗渠、他方は出土遺物から中世鎌倉時代の溝跡だと思われる。近世の溝跡には丸石が充填され、肥前系磁器の破片が混入していた。

中世の溝跡は、二段の掘り込みが確認できた。出土遺物は細片ばかりで器形まで不明であるが、胎土から鎌倉時代の陶器片と判断した。溝の用途として、敷地の境界溝が考えられる。

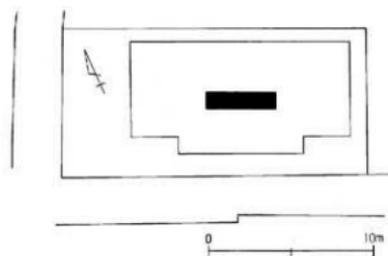


図214 試掘坑配置図

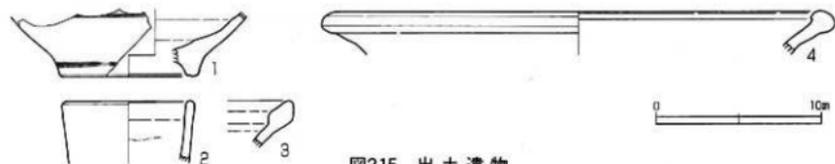
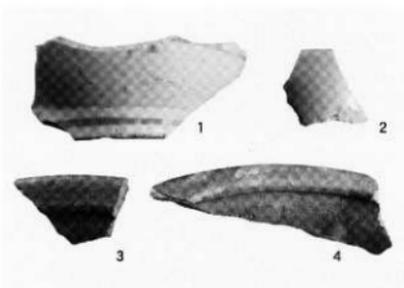


図215 出土遺物



調査状況



出土遺物

12-40 天神西遺跡

調査位置 甲府市千塚四丁目3212-1
 調査原因 個人住宅建設
 対象面積 215.25㎡
 調査面積 8㎡
 調査期間 平成12年6月19日
 調査担当 伊藤正幸



調査地の概要

荒川扇状地上、標高305m程に位置する。同扇状地上には縄文時代から古墳時代に至る良好な遺跡が分布している。また『千塚』の地名が示すとおり、古墳が多く分布していた地域であるが、宅地開発等によりその大半は姿を消した。

調査の概要

調査は個人住宅建設に伴い、対象地に2m×2mの試掘坑2ヶ所を設定して行った。60cmまで掘り下げると地山に至る。

両試掘坑とも耕作土は20cmほどで、

瓦礫が多く埋められていた。その下層に黄褐色土層、褐色土層が続く。地山は明黄褐色土で、若干小礫を含んでいた。

遺物は-40cm程の黄褐色土層中から古墳時代前期の土師器の小破片及び黒曜石の剥片が出土した以外には、遺構・遺物とも検出しなかった。



図217 土層柱状図

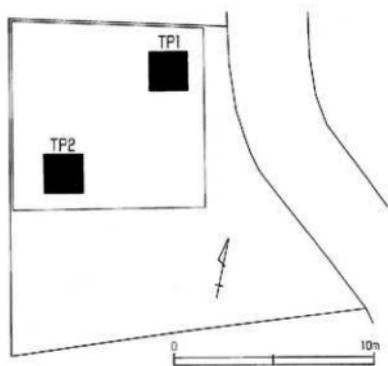


図216 試掘坑配置図

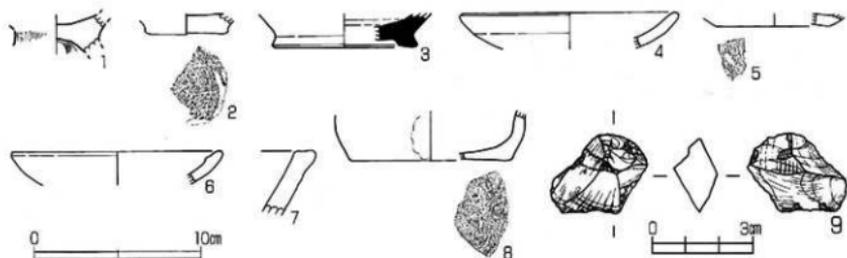


図218 出土遺物

12-41 東光寺遺跡

調査位置 甲府市東光寺一丁目208-1 他
 調査原因 宅地造成
 対象面積 2216㎡
 調査面積 32㎡
 調査期間 平成12年12月7日～12月12日
 調査担当 伊藤正幸



調査地の概要

東光寺遺跡は高倉扇状地の扇端部、標高250mほどの位置に立地する。現状は葡萄畑で、遺跡詳細分布調査により平安時代の遺跡として周知されている。今回この地で宅地造成計画が提出され、埋蔵文化財保護の観点から試掘確認調査を実施したものである。

今回の調査地は南北100m、東西30mほどの細長い調査地で、高倉川に隣接している。試掘に先立つ踏査では、古墳時代の遺物が採集できた。また、現地での等高線は南北に向かっており、対象地全体として高低差はほとんど認められない。

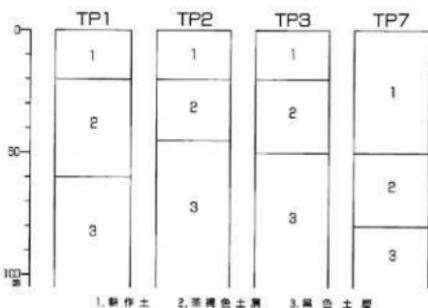


図219 土層柱状図

調査の概要

調査は2m四方の試掘坑を南北方向に4個ずつ2列設定し、人力により掘り下げながら地下の状況を確認した。川寄りの北部2つの試掘坑は湧水が多く、また暗渠排水路が埋設されていたことにより、水没によって調査は困難であったが、他の試掘坑では調査に対する影響は軽微であった。

耕作土の厚さは全体的に20cmほどであるが、TP7では50cmの深掘りと、その底部には持ち込まれた碎石が確認されている。その下は30cmほどの茶褐色土の間層を挟んで黒色土層になるが、この黒色土層中、現状地面から-80cmの位置で、各試掘坑中から古墳時代前期の遺物が出土している。遺物の出土位置は限定的で、深掘りをして外的位置からは確認されなかった。また遺構等も検出されなかった。

工事は現状地盤から30cmほど盛り、擁壁及び住宅を建設するもので、基礎の下端と遺物包含層までの間層として40cmほど確保されるということから、本調査とはせず試掘確認調査で終了した。

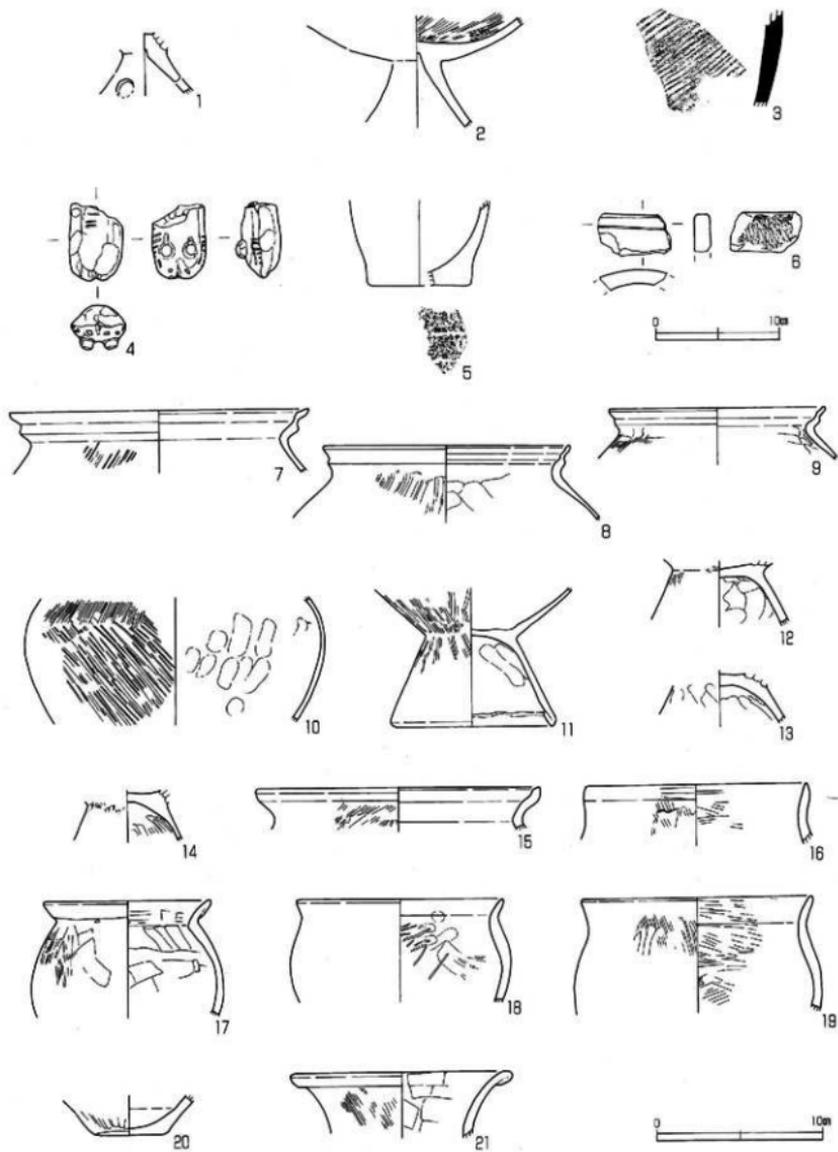


图220 出土遺物(1)

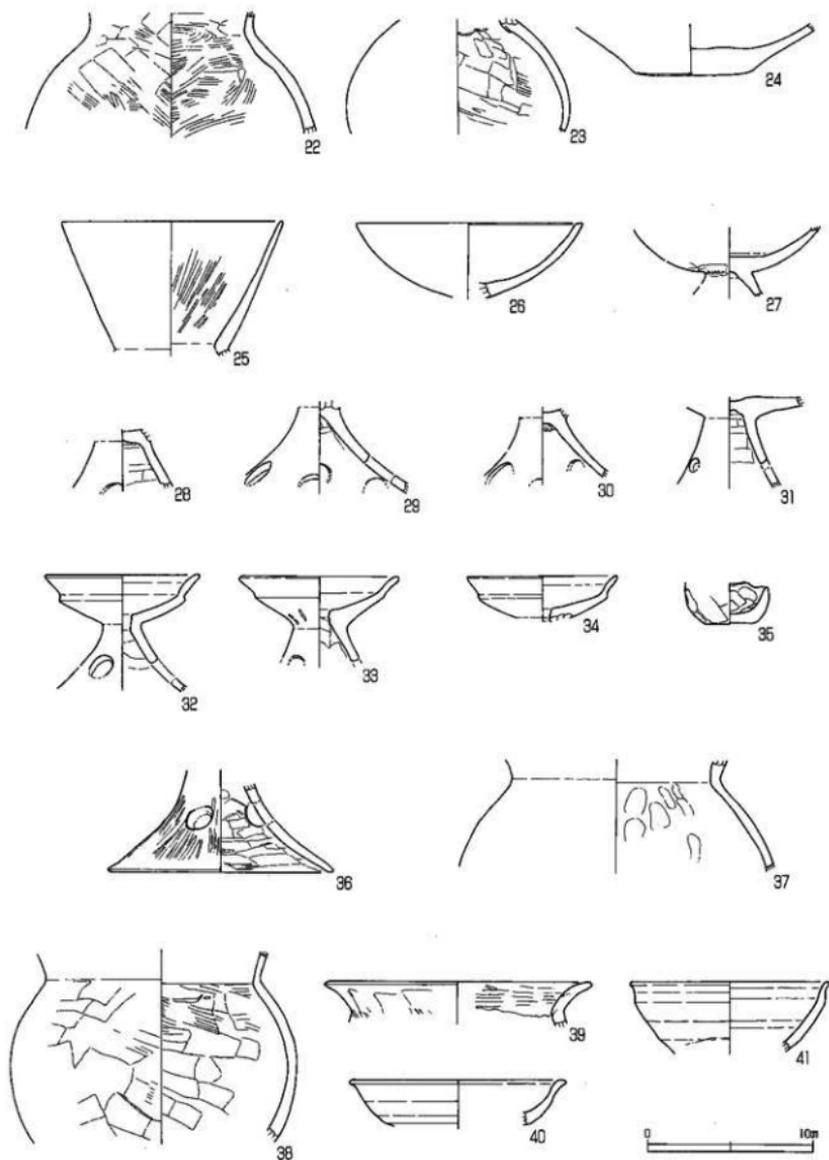


图221 出土遗物(2)

12-42 西河原遺跡

調査位置 甲府市荒川二丁目90-2 他
 調査原因 県道建設
 対象面積 1760㎡
 調査面積 26㎡
 調査期間 平成12年9月25日
 調査担当 平塚洋一



調査の概要

調査対象地は荒川の氾濫により形成された沖積地である。縄文時代・平安時代の散布地とされている遺跡である。荒川二丁目は旧中巨摩郡荒川村に所属する。調査地点の北方約500mには、荒川以西の甲府市域において唯一現存する穴塚古墳が所在する。調査の結果、荒川の氾濫によって堆積したと思われる砂層が確認できた。しかし、人工的な遺構・遺物等は確認できなかった。

地表から25cmまでが表土、25～65cmまで白色砂（縮まりなし）、65～80cmまで灰褐色砂（やや縮まりあり）、80～105cmまで暗褐色砂（縮まりあり）、105～115cm赤褐色砂、115～150cm灰褐色砂混雑が確認できた。

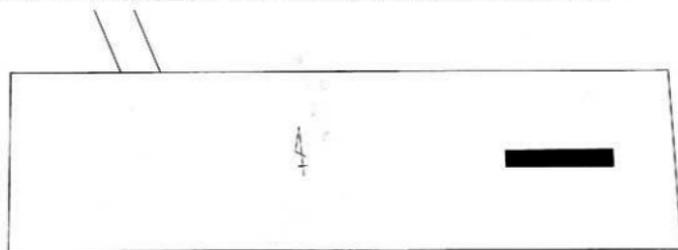
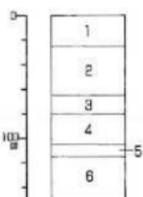


図222 試掘坑配置図



1. 表土
2. 白色砂層 縮まりなし。
3. 灰褐色砂層 縮まりなし。
4. 暗褐色砂層
5. 赤褐色砂層
6. 灰褐色砂混雑

図223 土層柱状図



調査状況

12-43 西耕地C遺跡

調査位置 甲府市大里町4269-4 他
調査原因 建売分譲住宅建設
対象面積 5042.66㎡
調査面積 64㎡
調査期間 平成12年9月18日～9月26日
調査担当 伊藤正幸



調査地の概要

調査地近辺には二日市場・古市場の地名が残り、富士川船運により物資が集散された地域である。今回の調査地の河川を挟んだ南側の畑には、近世の土器及び陶磁器が大量に散布していた。標高は253mを測る。

今回の調査地は既に宅地造成済で建設工事に着手していた区画もあったため、急速各区画に1つずつの試掘坑を設定し、重機により掘り下げながら地下の埋蔵文化財について調査記録したものである。全体で21区画のうち16区画を調査したが、道路部分の1,153㎡は調査不能であった。

調査の概要

層序は全体的には安定した細粒砂混じりの土層である。耕作面（I層）の厚さは30cmで、その下部に西側の区画では不鮮明であるが、黒色の粘土層（II層）が10cmほど堆積する。さらに黄褐色土層（III層:15cm）黄褐色土ブロックを含む明黒色土層（IV層:25cm）と続く。調査地中央部の試掘坑（TP10）は、III層中に多量の角礫が混入していた。

遺構と遺物

TP15中、深さ80cmほどの位置から人骨1体を検出した。頭部を北に向け顔面は西に向けた状態で、II層からIII層までを掘り込み埋葬したと思われる。覆土は黒色粘土をブロック状に含む黄褐色土である。伴出遺物がなく時期は不明である。また遺物は、近世の陶器及び土師質土器を中心として、200点以上出土し184点を図化した。TP4中では遺物の周囲に若干炭化物が確認できたが、遺構としては把握できなかった。

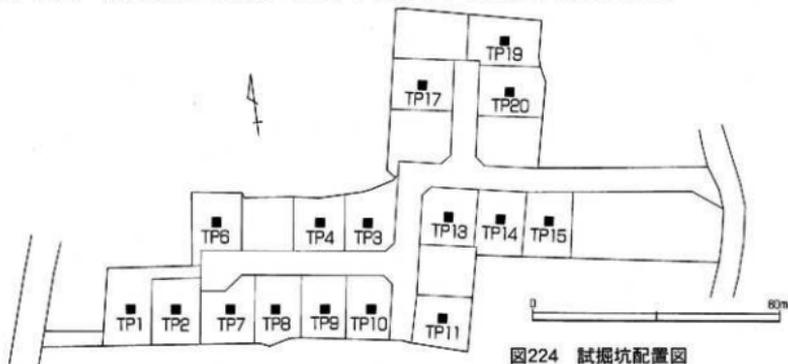


図224 試掘坑配置図

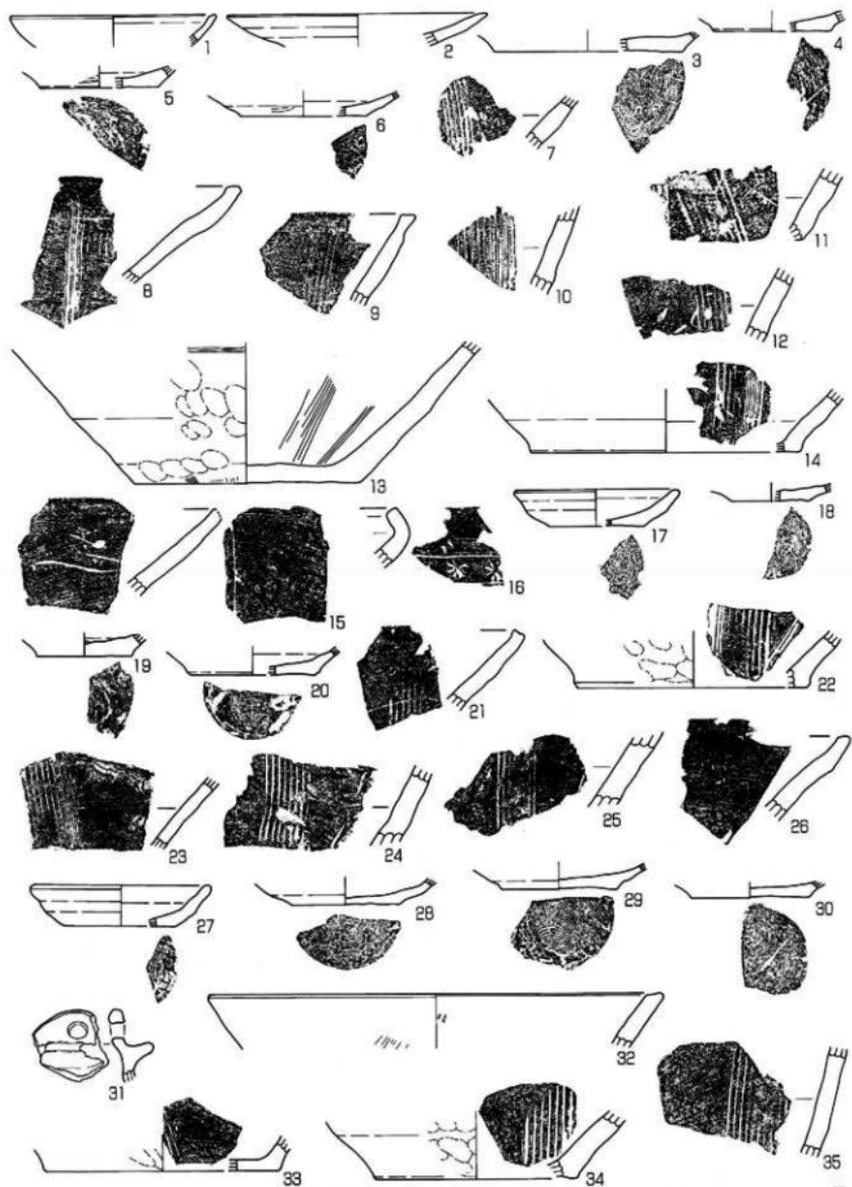


图225 出土遺物(1)

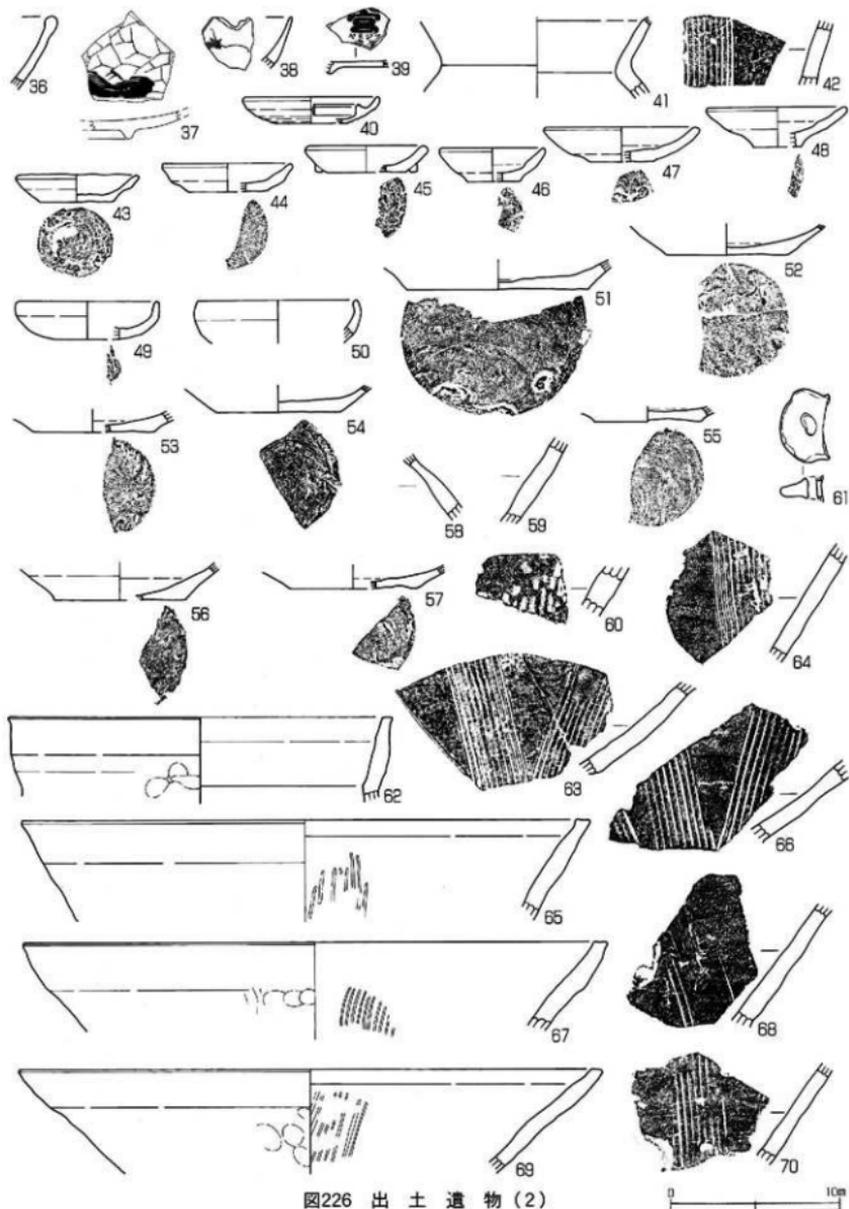


图226 出土遺物(2)



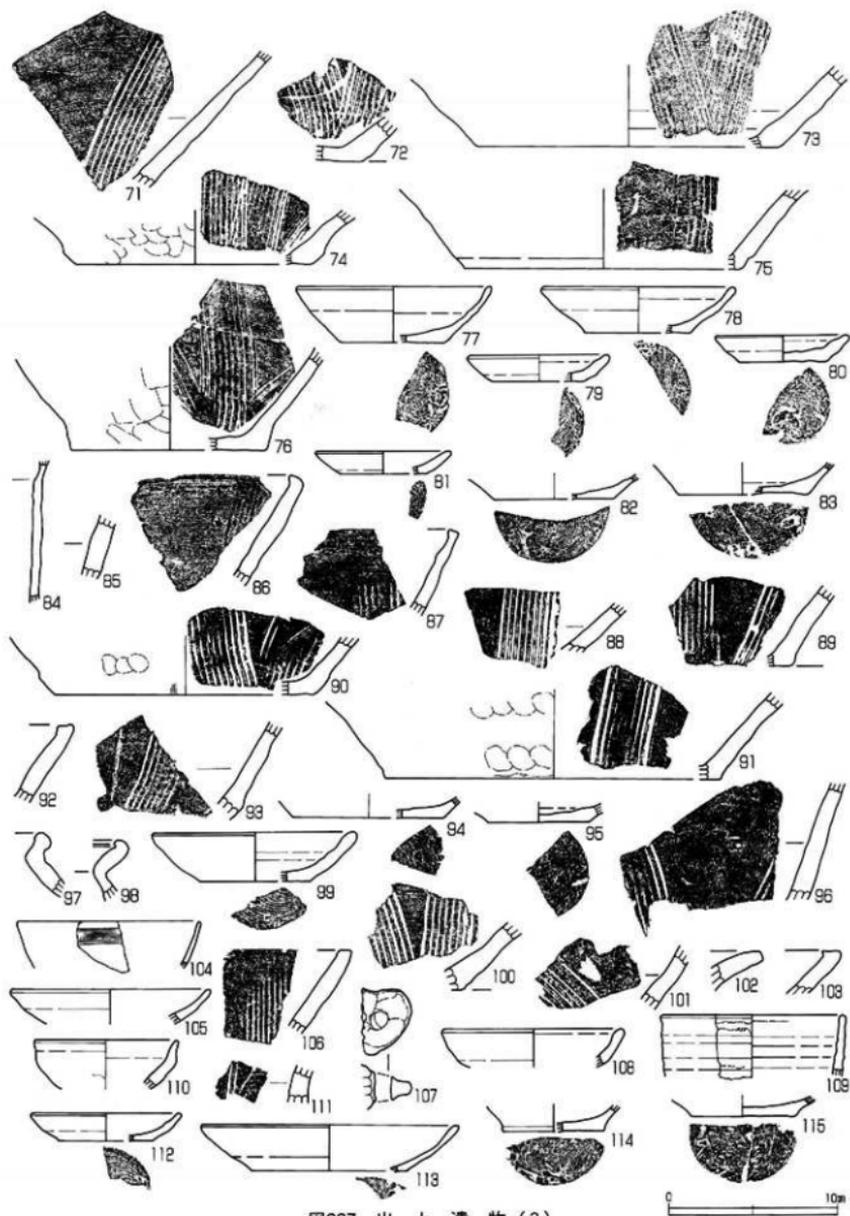


圖227 出土遺物(3)

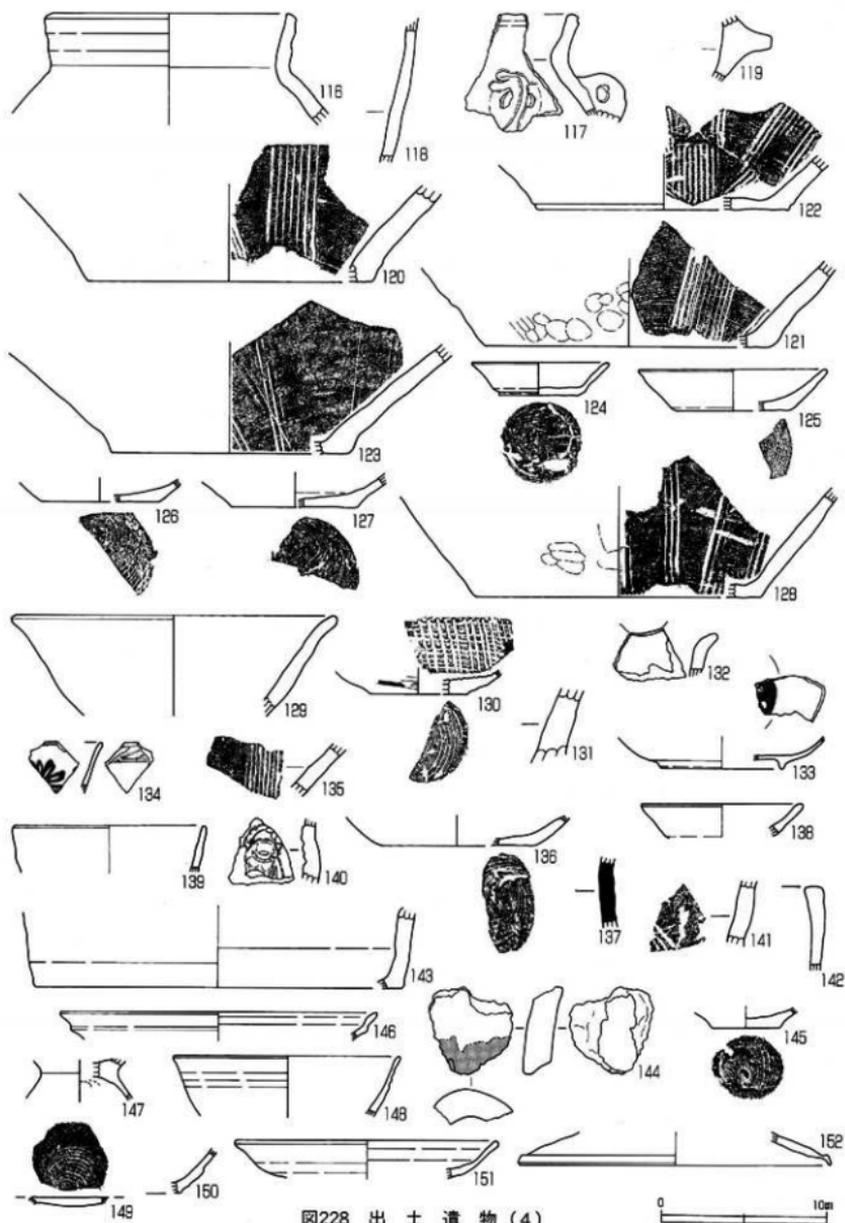


圖228 出土遺物(4)

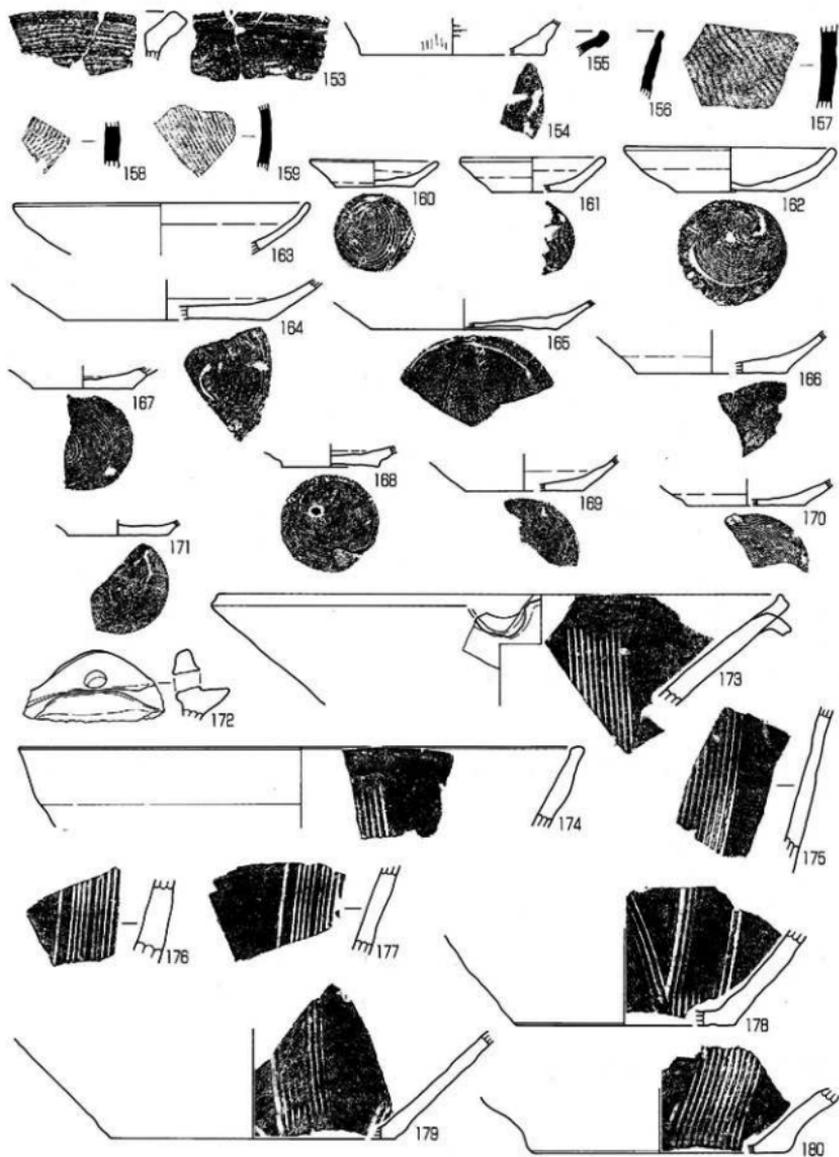


图229 出土遺物(5)



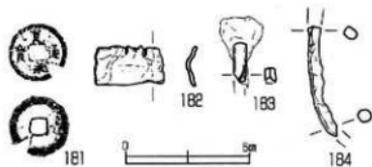
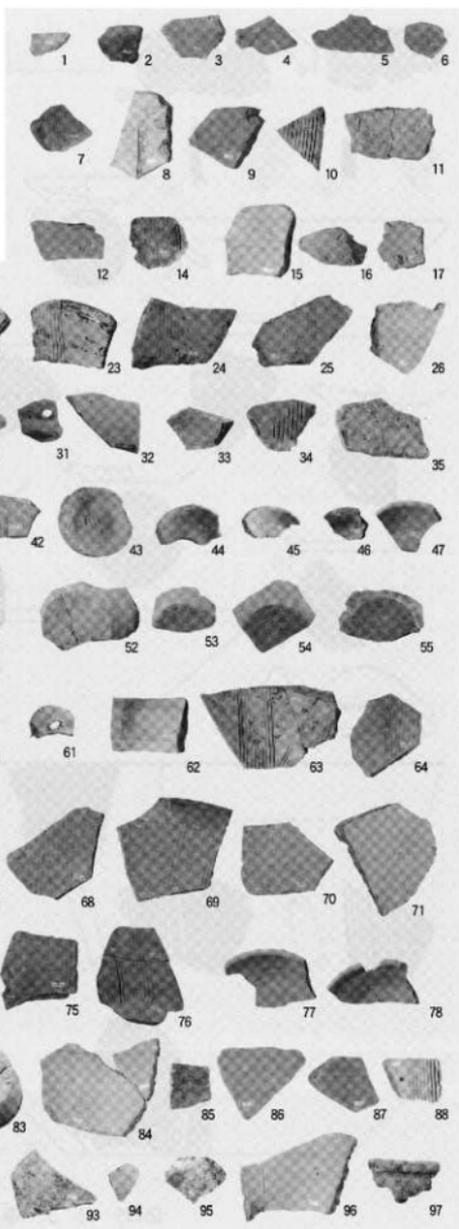
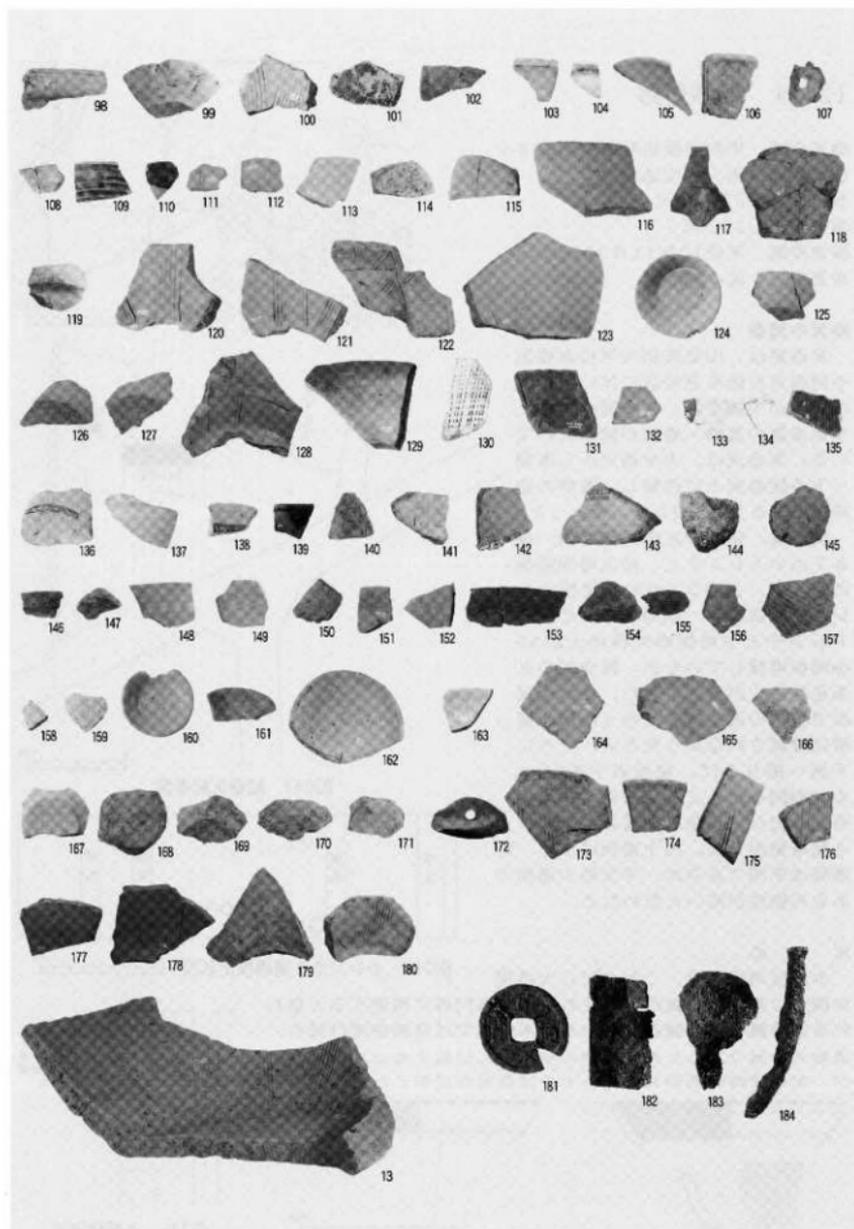


图230 出土遗物(6)





12-44 東畑遺跡

調査位置 甲府市横根町字東畑902-1
 調査原因 個人住宅建設
 対象面積 538.34㎡
 調査面積 16.5㎡
 調査期間 平成12年11月30日
 調査担当 佐々木 満



調査の概要

本遺跡は、山梨英和大学校舎建設や西関東自動車道建設に伴い大規模な調査が実施され、平安期を主体とする多数の遺構・遺物が検出されている。本地点は、大学地点から南側へ下る緩斜面上に位置し、遺跡の連続性を知る上で重要な確認であった。

調査は、建物予定地に幅2m、長さ7mのトレンチと、浄化槽埋設部に幅1m、長さ2.5mの小規模なトレンチを設定し、掘削を行った。両トレンチとも果樹園の耕作土が30cm前後堆積していたが、除去すると黒色粘性土が確認された。この土層面で遺構の確認作業を行ったが、遺構は確認されなかったため、さらに下層へ掘り下げ、現地表下約60cmまで掘削したところで黄褐色の地山面を検出し、黒色土で覆われたピット4基を検出した。出土遺物はなく、時期等は不明であるが、平安期の遺構である可能性が高いと思われる。



図231 試掘坑配置図

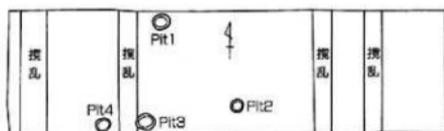


図232 トレンチ2 遺構検出状況

まとめ

本地区周辺では、これまでに大規模な開発に先立つ調査が実施され、古代表門郷に関連すると思われる集落跡などを確認している。本地点では遺構密度は低く、遺物も少量であるため、遺跡の末端部に位置すると考えられるが、東畑遺跡の範囲を考える上では貴重な成果となった。



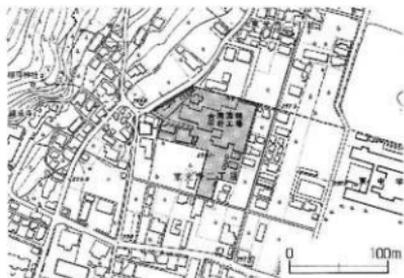
図234 出土遺物



図233 土層柱状図

12-45 御崎田遺跡

調査位置 甲府市東光寺二丁目4-349 他
調査原因 宅地造成
対象面積 6318㎡
調査面積 120㎡
調査期間 平成12年6月21日～6月23日
調査担当 伊藤正幸



調査の概要

調査は、宅地造成工事に先立つもので、幅2mの試掘坑を3本、延べ60m設定し、重機により掘り下げながら人力により調整して行った。

いずれの試掘坑でも帯水層が高く、また-50cmほどまでは攪乱が認められた。攪乱層を掘り抜くと黒色粘土層になり、この層は調査により-3mまで確認できた。攪乱との境が帯水層である。

調査により攪乱層最下部から近世のかわらけ1点を検出した以外に、遺構・遺物は確認されなかった。



調査状況



調査状況

12-46 緑ヶ丘一丁目遺跡

調査位置 甲府市緑ヶ丘一丁目147-1
 調査原因 個人住宅建設
 対象面積 200.58㎡
 調査面積 3㎡
 調査期間 平成12年5月29日～5月30日
 調査担当 伊藤正彦



調査の概要

本遺跡は甲府盆地北縁部、相川が形成した扇状地の扇央部、相川右岸に位置する。微地形分析から度重なる流路の変更により一帯に後背湿地・旧河道の他、自然堤防・扇状地が埋没しており複雑な地形を形成していたことが判明している。周辺に多数の遺跡が確認され、山麓には後期古墳が群集する遺跡密集地である。調査地は遺跡の北側、標高287mを測る宅地であり、近年開発が進み宅地と化している。

調査の概要

対象地に試掘坑を二箇所設定し、地表下80cmまで掘り下げた。いずれの試掘坑も地表下30cmまで整地層・旧水田耕作土が堆積し、それ以下に黒褐色粘質土・黄褐色粘質土が堆積していた。調査により遺構・遺物は確認できなかった。

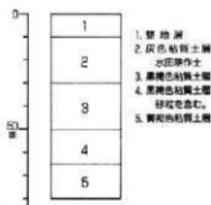


図236 土層柱状図

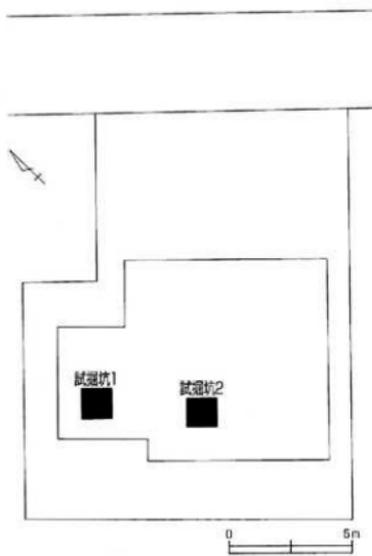


図235 試掘坑配置図



試掘坑 1



試掘坑 2

12-47 緑ヶ丘一丁目遺跡

調査位置 甲府市緑が丘二丁目144-2
 調査原因 個人住宅建設
 対象面積 169.97㎡
 調査面積 8㎡
 調査期間 平成13年3月6日
 調査担当 伊藤正幸



調査の概要

個人住宅建設に先立ち試掘確認調査を実施した。建築予定地内に2m四方の試掘坑を2カ所設定し、人力により掘り下げた。

旧建物を取り壊す際に表面を攪乱していたため、瓦礫が20～30cmほど堆積している。その下層は比較的安定しており、黄褐色土層・灰褐色土層・黄褐色土粒子を含む黒色粘土層・粘性の弱い黒色土層と続き、茶褐色の地山に至る。表面から地山までは1.4mほどである。

地山直上から、古墳時代前期～後期に至る遺物が確認されたが遺構の検出はなく、埋め戻して調査を終了した。



図238 土層柱状図

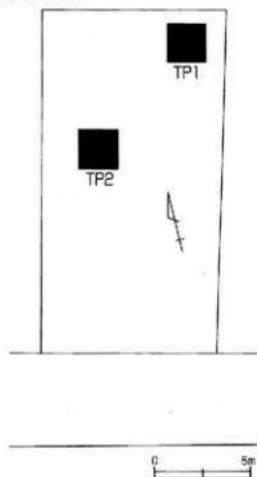


図237 試掘坑配置図

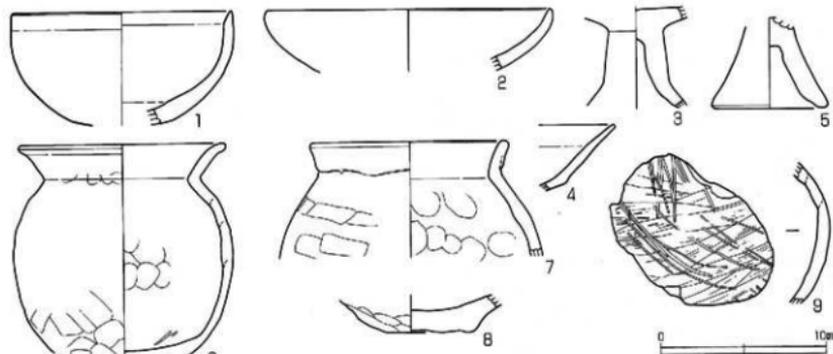
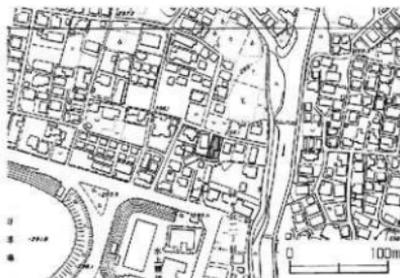


図239 出土遺物

12-48 緑ヶ丘二丁目遺跡

調査位置 甲府市緑ヶ丘二丁目771-6
 調査原因 個人住宅建設
 対象面積 285.76㎡
 調査面積 8㎡
 調査期間 平成12月4月17日～4月18日
 調査担当 志村憲一



調査の概要

緑ヶ丘二丁目遺跡は、古墳～平安時代にかけての遺跡である。相川扇状地の相川右岸標高296m地点に位置し、遺跡範囲の北東隅にあたる。平成11年度、調査区の北側30m地点で行われた調査では、平安時代の遺構が検出されている。

調査は、建物位置2ヶ所に2m四方のグリッドを設定し、深さ1.1mほど掘削を行った。地表下0.65m地点の暗黒褐色土層から、かわらけ・土師器など中世と古墳時代の遺物が検出された。遺構に関しては未確認である。

基本土層

- | | |
|-------------|-------------------------------|
| 1. 茶褐色土層 | 厚さ40cm、近代の盛土 |
| 2. 暗褐色粘質土層 | 厚さ25cm、炭化物少量混入 |
| 3. 暗黒褐色粘質土層 | 厚さ50cm、炭化物・焼土粒子少量、かわらけ・土師器片混入 |
| 4. 暗褐色砂質土層 | 径2～50cmの礫を多く含む地山層 |

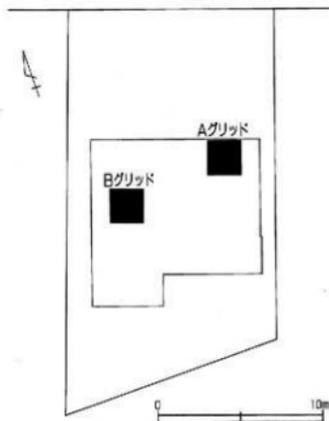


図240 試掘坑配置図



A グリッド

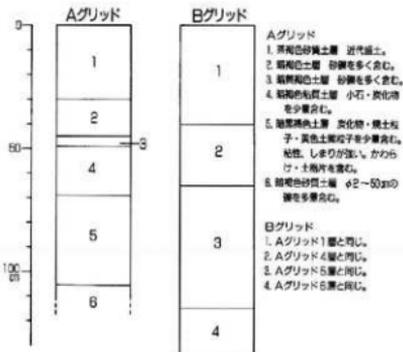


図241 土層柱状図

12-49 緑ヶ丘二丁目遺跡

調査位置 甲府市緑ヶ丘二丁目2414-3
 調査原因 個人住宅建設
 対象面積 329.93㎡
 調査面積 8㎡
 調査期間 平成12年9月6日
 調査担当 平塚洋一



調査の概要

調査対象地は緑ヶ丘二丁目遺跡として括られた範囲のほぼ中心に位置する。調査の結果、溝状に掘り込まれた痕跡が確認できたが、明確ではない。出土遺物もごく少量であった。地図上では遺跡の範囲の中央付近に位置するが、これまでの調査の結果から、単一の中心ではなく、北側の山際とスポーツ公園の南側の2箇所に偏在することも考えられる。

地表から65cmまで盛土、65～80cmまで極暗灰色粘土、80～85cm暗灰褐色粘土、85～100cmまで黒褐色粘土、それより下層は南側に傾斜して自然堆積と思われる暗褐色粘土が確認できた。

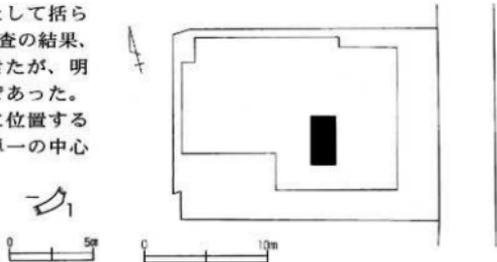
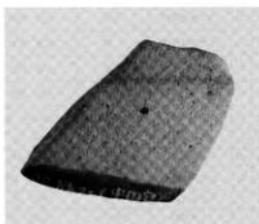


図243 出土遺物

図242 試掘坑配置図



調査状況



出土遺物

出土遺物観察表(1)

()は推定値、西は概算値

図	No	出土遺物	検出地点	種別・器種	径(φ) (cm)		部位	観察所見(成形・調整・文様・時代等)	胎土	備考
					口徑	底径				
9	1	朝気遺跡	成福坑 1	土師 壺		(11.0)	底面	内面ハケ、外面ナシ	乳、黒石、赤灰、金銀粉	
9	2	朝気遺跡	成福坑 1	土師 高杯			杯部	内外面ナシ	今中色、黒石	
9	3	朝気遺跡	成福坑 1	土師 壺			底面	内外面ナシ、外面ニガキナシ	今中色、黒石、赤灰、金銀粉	
9	4	朝気遺跡	成福坑 1	土師 高杯			杯部	内外面ナシ	今中色、黒石、赤灰、金銀粉	
9	5	朝気遺跡	成福坑 2	土師 壺	(23.5)		口縁～底面	内外面ナシ、内面黒色地あり	今中色、黒石、赤灰	
9	6	朝気遺跡	成福坑 2	土師 壺	(17.0)		口縁部	内外面ナシ	乳、黒石、赤灰、金銀粉	
11	1	鎌倉之本遺跡	SJ-1	縄文土師 高杯			杯部	内外面ナシ	乳、黒石、赤灰	
16	1	藤川遺跡	T P-2	土師 壺	(14.0)		口縁～杯部	内外面ナシ	今中色、黒石、赤灰	
16	2	藤川遺跡	T P-2	土師 壺	(14.2)		口縁部	内外面ナシ、一部ニガキあり	今中色、黒石、赤灰	
16	3	藤川遺跡	T P-2	土師 壺		(6.0)	底面	内外面ナシ	乳、黒石、赤灰、金銀粉	
16	4	藤川遺跡	T P-2	土師 壺			杯部	内外面ナシ	赤灰、赤色地	
16	5	藤川遺跡	T P-2	土師 壺			杯部	内外面ナシ	今中色、黒石、赤灰	
16	6	藤川遺跡	T P-5	土師 壺	(13.2)		口縁～杯部	内外面ナシ、外面ニガキ	今中色、赤色地	
16	7	藤川遺跡	T P-5	土師 壺			杯部	内外面ナシ、外面ニガキ	今中色、石質、金銀粉、赤色地	
16	8	藤川遺跡	T P-5	土師 壺	(7.0)		口縁～杯部	内外面ナシ、内面黒色地、ニガキ	今中色、赤石	
16	9	藤川遺跡	T P-5	土師 壺		(8.0)	底面	内面ハケ、外面ナシ	赤灰、黒石、赤灰	
16	10	藤川遺跡	T P-6	土師 壺			杯部	内外面ナシ	今中色、黒石、赤灰、金銀粉	
16	11	藤川遺跡	T P-6	土師 壺			口縁部	内面ハケ、外面ナシ	今中色、黒石、赤灰、金銀粉	
16	12	藤川遺跡	T P-7	土師 壺			杯部	内外面ナシ	今中色、黒石、赤灰	
16	13	藤川遺跡	T P-7	土師 かわらけ	(8.2)		口縁部	内外面ナシ	今中色、黒石、赤灰	
16	14	藤川遺跡	T P-8	土師 壺	(29.0)		口縁部	内外面ナシ	乳、黒石、赤灰、金銀粉	
18	1	大北群地遺跡	T P-6	青銅 鏡			杯部	漆文		
18	2	大北群地遺跡	T P-6	青銅 鏡	(12.0)		口縁部	内外面ナシ	漆	
18	3	大北群地遺跡	T P-6	銅製 鏡			杯部	銅ノリ裏面ニ付	漆	
18	4	大北群地遺跡	T P-6	銅製 花瓶			杯部	銅ノリ裏面、内外面ナシ	漆	
18	5	大北群地遺跡	T P-8	銅製 帯ノ環			口縁～底面	銅ノリ裏面、15世紀後半～19世紀初頭	漆	
18	6	大北群地遺跡	T P-8	青銅 鏡	(14.0)		口縁部	漆文	漆	
18	7	大北群地遺跡	T P-8	銅製 鏡			口縁部	銅ノリ裏面、内外面ナシ	漆	
18	8	大北群地遺跡	一部	縄文土師 高杯			口縁部	内面ハケ、内面	乳、黒石、赤灰、金銀粉	
18	9	大北群地遺跡	一部	土師 壺	(7.0)		口縁～杯部	内外面ナシ	今中色、赤石、黒石、赤灰、金銀粉	
18	10	大北群地遺跡	一部	土師 壺	(6.0)		口縁～杯部	内外面ナシ	今中色、赤石、黒石、赤灰、金銀粉	
18	11	大北群地遺跡	一部	土師 かわらけ	(8.2)		口縁～杯部	内外面ナシ	今中色、赤石、黒石、赤灰、金銀粉	
18	12	大北群地遺跡	一部	土師 かわらけ	(8.0)		底面	内外面ナシ、底面黒色地あり、底面に黒石	今中色、赤石、黒石、赤灰、金銀粉	
18	13	大北群地遺跡	一部	土師 かわらけ	(6.0)		底面	内外面ナシ、底面黒色地あり	今中色、赤石、黒石、赤灰、金銀粉	
18	14	大北群地遺跡	一部	土師 壺	(21.0)		底面	内外面ナシ	今中色、赤石、黒石、赤灰、金銀粉	
18	15	大北群地遺跡	一部	土師 壺			杯部	内外面ナシ	今中色、赤石、黒石、赤灰、金銀粉	
18	16	大北群地遺跡	一部	土師 壺			杯部	内外面ナシ	今中色、赤石、黒石、赤灰、金銀粉	
18	17	大北群地遺跡	一部	土師 壺			杯部	内外面ナシ	今中色、赤石、黒石、赤灰、金銀粉	
18	18	大北群地遺跡	一部	瓦質土師 壺			杯部	内外面ナシ	今中色、赤石、黒石、赤灰、金銀粉	
18	19	大北群地遺跡	一部	陶製 壺			杯部	外面自然釉、叩き目	赤、黒石	
18	20	大北群地遺跡	一部	陶製 壺	(7.0)		底面	外面自然釉	漆	
18	21	大北群地遺跡	一部	瓦質土師 壺	(21.0)		口縁部	内外面ナシ	今中色、赤石、黒石、赤灰、金銀粉	
18	22	大北群地遺跡	一部	陶製 壺	(16.0)		口縁部	内外面ナシ	漆	
20	1	大坪遺跡	T R-1	土師 壺	(12.0)		口縁～杯部	コテリ成形、外面ハケナシ、甲斐型	今中色、赤石、赤色地	
20	2	大坪遺跡	T R-2	土師 壺	高台ナシ		杯部	外面コテリ成形、内面黒色地	今中色、赤石、赤色地	
20	3	大坪遺跡	T R-4	土師 壺		(6.0)	口縁～底面	コテリ成形	今中色、黒石、赤石、赤色地	
20	4	大坪遺跡	T R-5 西一筋	土師 壺	高台ナシ		杯部	コテリ成形	赤、黒石、赤石、赤色地	
20	5	大坪遺跡	T R-5 西一筋	土師 壺	(18.0)		口縁～杯部	コテリ成形、甲斐型	今中色、赤石、赤色地	
20	6	大坪遺跡	T R-5 西一筋	土師 壺	(12.0)		口縁～杯部	コテリ成形、甲斐型	今中色、赤石、赤色地	
20	7	大坪遺跡	T R-5 西一筋	土師 壺	(12.0)		口縁～杯部	コテリ成形、甲斐型	赤、黒石、赤石、赤色地	
20	8	大坪遺跡	T R-5 西一筋	土師 壺		(6.0)	底面	コテリ成形、底面ハケナシ、甲斐型	赤、黒石、赤石、赤色地	
20	9	大坪遺跡	T R-5 西一筋	土師 壺		(7.0)	底面	コテリ成形、甲斐型	今中色、赤石、赤色地	
20	10	大坪遺跡	T R-5 西一筋	土師 壺		(6.0)	底面	コテリ成形、底面ハケナシ、内面黒色地、漆文	赤、黒石、赤石、赤色地	
20	11	大坪遺跡	T R-5 P-1	土師 壺		(17.2)	底面	コテリ成形、底面黒色地あり	赤、黒石、赤石、赤色地	
20	12	大坪遺跡	T R-5 P-1	土師 壺			杯部	コテリ成形、自然釉	赤、黒石、赤石、赤色地	
20	13	大坪遺跡	T R-5 P-1	土師 壺			杯部	外面叩き目	漆	
20	14	大坪遺跡	T R-6	土師 壺		(7.0)	杯部	コテリ成形、甲斐型	赤、黒石、赤石、赤色地	

出土遺物観察表 (3)

()は測定値、括弧は推定値

No	No	出土遺物	検出地点	種類・器種	法長 (cm)			部位	観察所見(成形・調整・文様・時代等)	胎土	備考
					口徑	高さ	底径				
21	4	上石田遺跡	グリッドA	瓦葺土器 陶鉢				陶器	焼物	今半、赤石、赤色胎	
21	5	上石田遺跡	グリッドA	土師器 皿	15.2	2.7	6.5	口縁～底面	内側面ロクロ、底部に「X」の彫刻、甲斐型	今半、赤石、赤色胎	
21	6	上石田遺跡	グリッドA	土師器 鉢			(1.2)	底面	内側面ロクロ、内面に放射状文、甲斐型	今半、赤石、赤色胎	
21	7	上石田遺跡	グリッドA	土師器 杯				底面	内側面ロクロ、甲斐型	今半、赤石、赤色胎	
21	8	上石田遺跡	グリッドA	土師器 杯			(11.0)	口縁～底面	内側面ロクロ、甲斐型	今半、赤石、赤色胎	
21	9	上石田遺跡	グリッドA	土師器 杯			(11.0)	口縁部	内側面ロクロ	赤	
21	10	上石田遺跡	グリッドA	土師器 盃			(22.0)	口縁部	内側面ロクロ	赤	
21	11	上石田遺跡	グリッドB	瓦葺土器 陶鉢				体部		今半、赤石、赤石、赤色胎、赤色胎	
21	12	上石田遺跡	グリッドB	瓦葺土器 鉢				陶器	内面有線文、外面可き目	赤	
21	13	上石田遺跡	グリッドB	瓦葺土器 鉢				陶器	内面有線文、外面可き目	赤	
21	14	上石田遺跡	グリッドA	石製品 漆器				漆器	厚さ4mm、砂削		
21	15	上石田遺跡	グリッドA	石製品 漆器				漆器	厚さ2mm、安山岩		
22	1	加中郡古墳	KN古	須恵系 広口皿				須恵	外周可き目、沈線、内面ナデ	今半、赤石、赤石	
22	2	加中郡古墳	KN古	須恵系 鉢				須恵	内側面有線文、内面可き目	赤、赤石、赤石	
22	3	加中郡古墳	KN古	須恵系 鉢				須恵	外周有線、内面可き目	赤、赤石、赤石	
22	4	加中郡古墳	KN古	須恵系 鉢				須恵	外周可き目、内面ナデ	赤、赤石、赤石	
22	5	加中郡古墳	KN古	須恵系 高杯				須恵	口縁部	赤、赤石、赤石、赤色胎	
22	6	加中郡古墳	赤坂	須恵系 高杯				赤坂	ヘラナデ、指線ナデ	今半、赤石、赤石	
22	7	加中郡古墳	赤坂	須恵系 高杯				赤坂	ヘラナデ、ハク、字線あり	赤、赤石、赤石、赤色胎	赤色胎
22	8	加中郡古墳	赤坂	須恵系 高杯				口縁部	内面有線文、内面ナデ	赤、赤石、赤石、赤色胎	
22	9	加中郡古墳	赤坂	須恵系 高杯				口縁部	外周有線文、内面ナデ	赤、赤石、赤石、赤色胎	
22	10	加中郡古墳	赤坂	須恵系 高杯				口縁部	外周有線文、内面ナデ	赤、赤石、赤石	
22	11	加中郡古墳	赤坂	須恵系 高杯				口縁部	外周有線文、内面ナデ	赤、赤石、赤石、赤色胎	
22	12	加中郡古墳	赤坂	須恵系 高杯				口縁部	外周有線文、内面ナデ	赤、赤石、赤石、赤色胎	
22	13	加中郡古墳	赤坂	須恵系 高杯				口縁部	外周有線文、内面ナデ	赤、赤石、赤石、赤色胎	
22	14	加中郡古墳	赤坂	須恵系 高杯				口縁部	外周有線文、内面ナデ	赤、赤石、赤石、赤色胎	
22	15	加中郡古墳	赤坂	須恵系 高杯				口縁部	外周有線文、内面ナデ	赤、赤石、赤石、赤色胎	
22	16	加中郡古墳	赤坂	須恵系 高杯				口縁部	外周有線文、内面ナデ	赤、赤石、赤石、赤色胎	
22	17	加中郡古墳	赤坂	須恵系 高杯				口縁部	外周有線文、内面ナデ	赤、赤石、赤石、赤色胎	
22	18	加中郡古墳	赤坂	須恵系 高杯				口縁部	外周有線文、内面ナデ	赤、赤石、赤石、赤色胎	
22	19	加中郡古墳	赤坂	須恵系 高杯				口縁部	外周有線文、内面ナデ	赤、赤石、赤石、赤色胎	
22	20	加中郡古墳	赤坂	須恵系 高杯				口縁部	外周有線文、内面ナデ	赤、赤石、赤石、赤色胎	
22	21	川原館跡	グリッド1	土師 かわらけ			(6.0)	口縁～底面		今半、赤石、赤石	
22	2	川原館跡	グリッド1	土師 かわらけ	(13.3)	2.8	(7.0)	口縁～底面		今半、赤石、赤石	
22	3	川原館跡	グリッド1	土師 皿			(4.2)	底面		今半、赤石、赤石	
22	4	川原館跡	グリッド1	土師 小杯				口縁部	底面有線文、内面可き目、明石0-40年代	赤坂	
22	5	川原館跡	グリッド1	土師 皿	(11.0)	3.3	(7.0)	口縁～底面	底面有線文	赤坂	
22	6	川原館跡	グリッド2	土師 高杯				口縁部		今半、赤石、赤石	
22	7	川原館跡	グリッド2	土師 高杯			(2.0)	口縁部	底面有線文	赤坂	
22	8	川原館跡	グリッド2	土師 高杯	(18.3)			口縁部	内面有線文、外周有線文	赤坂	
22	9	川原館跡	グリッド2	土師 高杯			(4.2)	口縁部	底面有線文、明石0-40年代	赤坂	
22	10	川原館跡	グリッド2	土師 高杯	(26.6)			口縁部	赤、赤石、赤石、コクロナデ	赤坂	
22	11	川原館跡	グリッド2下層	土師 高杯			(5.8)	口縁部	底面有線文	今半、赤石、赤石	
22	12	川原館跡	グリッド2下層	土師 かわらけ	(8.3)			口縁部	コクロナデ	今半、赤石、赤石	
22	13	川原館跡	グリッド2下層	土師 かわらけ			(1.0)	口縁部	底面有線文	今半、赤石、赤石	
22	14	川原館跡	グリッド3東石	土師 高杯			(1.0)	口縁部	底面有線文、明石0-40年代	赤坂	
22	15	川原館跡	グリッド3東石	土師 高杯			(1.0)	口縁部	底面有線文、明石0-40年代	赤坂	
22	16	川原館跡	グリッド3東石	土師 高杯			(1.0)	口縁部	底面有線文、明石0-40年代	赤坂	
22	17	川原館跡	グリッド3東石	土師 高杯			(1.0)	口縁部	底面有線文、明石0-40年代	赤坂	
22	18	川原館跡	グリッド3東石	土師 高杯			(1.0)	口縁部	底面有線文、明石0-40年代	赤坂	
22	19	川原館跡	グリッド3東石	土師 高杯			(1.0)	口縁部	底面有線文、明石0-40年代	赤坂	
22	20	川原館跡	グリッド3	土師 高杯				口縁部	コクロナデ、底面コクロナデ	赤、赤石、赤石	
22	21	川原館跡	グリッド3下層	土師 かわらけ	8.2	2.1	4.6	口縁～底面	コクロナデ	今半、赤石、赤石、赤色胎	
22	22	川原館跡	グリッド3下層	土師 かわらけ	(16.2)			口縁～底面	コクロナデ	今半、赤石、赤石、赤色胎	
22	23	川原館跡	グリッド3下層	瓦葺土師 高杯				体部	コクロナデ	今半、赤石、赤石	
22	24	川原館跡	ドット1	土師 高杯	8.6	4.0	5.4	口縁部	コクロナデ、底面有線文、明石0-40年代	赤坂	
22	1	早野地下町遺跡	井戸跡	土師 かわらけ	(16.3)	1.7	(7.3)	口縁～底面	内側面ロクロ、底面有線文	今半、赤石、赤石	
22	2	早野地下町遺跡	井戸跡	土師 六枚			(13.0)	口縁部	内側面ナデ	今半、赤石、赤石	
22	3	早野地下町遺跡	井戸跡	土師 六枚				口縁部	底面有線文、明石0-40年代	赤坂	
22	4	早野地下町遺跡	井戸跡	土師 六枚				口縁部	底面有線文、明石0-40年代	赤坂	
22	5	早野地下町遺跡	井戸跡	土師 六枚				口縁部	底面有線文、明石0-40年代	赤坂	
22	6	早野地下町遺跡	井戸跡	土師 六枚				口縁部	底面有線文、明石0-40年代	赤坂	
22	7	早野地下町遺跡	井戸跡	土師 六枚				口縁部	底面有線文、明石0-40年代	赤坂	
22	8	早野地下町遺跡	井戸跡	土師 六枚				口縁部	底面有線文、明石0-40年代	赤坂	

出土遺物観察表(4)

()は測定値、[]は推定値

図	No.	出土遺跡	検出地点	種別・器種	数量	寸法 (cm) 口径×器高(底径)	部位	観察所見(成形・調整・文様・時代等)	胎土	備考
39	9	早府城下町遺跡	赤戸部	土製品	数量5.4/残高0.4/重1.95					中年代, 灰石
40	1	早府城下町遺跡	3号溝	陶器 土器	(10.5)	2.6 (0.3)	口縁~底面	瀬戸赤土, 灰地, 輪打痕, 付着物		底
41	2	早府城下町遺跡	3号溝	陶器 土器	(16.4)	2.7 (6.0)	口縁~底面	瀬戸赤土, 灰地, 輪打痕, 付着物		底
42	3	早府城下町遺跡	3号溝	陶器 土器	(11.9)		口縁~底面	瀬戸赤土, 内外面灰地		底
43	4	早府城下町遺跡	3号溝	陶器 土器		(6.2)	口縁	瀬戸赤土, 内外面灰地, 輪打痕, 付着物		底
44	5	早府城下町遺跡	3号溝	陶器 土器		(8.4)	口縁~底面	内外面灰地		底
45	6	早府城下町遺跡	3号溝	土器 土器			底部	内外面ナメ		中年代, 灰石, 石炭, 金層付
46	7	早府城下町遺跡	3号溝	土器 土器			口縁部	内外面ナメ		中年代, 灰石, 石炭, 金層付
47	8	早府城下町遺跡	3号溝	土器 土器			口縁部	内外面ナメ(裏面に不規則)		中年代, 灰石, 石炭
48	9	早府城下町遺跡	3号溝	土器 土器			口縁部	内外面ナメ		中年代, 灰石, 石炭
49	10	早府城下町遺跡	3号溝	土器 土器	(10.9)	1.0 (6.0)	口縁~底面	内外面ナメ, 内面に磨粒付着		中年代, 灰石
50	11	早府城下町遺跡	3号溝	土器 土器	(10.0)		口縁~底面	内外面ナメ, 内面に磨粒付着		中年代, 灰石
51	12	早府城下町遺跡	3号溝	土器 土器	(10.9)		口縁~底面	内外面ナメ		中年代, 灰石, 金層付
52	13	早府城下町遺跡	3号溝	土器 土器		(5.2)	底部	内外面ナメ, 内面に磨粒付着		中年代, 灰石, 金層付
53	14	早府城下町遺跡	3号溝	土器 土器		(5.6)	底部	内外面ナメ, 内面に磨粒付着		中年代, 灰石, 金層付
54	15	早府城下町遺跡	3号溝	土器 土器		(6.0)	底部	内外面ナメ, 内面に磨粒付着		中年代, 灰石, 金層付
55	16	早府城下町遺跡	4号溝	土器 土器		(21.0)	底部	内外面ナメ(裏面に不規則)		中年代, 灰石, 石炭, 金層付
56	17	早府城下町遺跡	4号溝	陶器 土器			底部	内外面ナメ		底
57	18	早府城下町遺跡	4号溝	陶器 土器		(1.4)	口縁部	瀬戸赤土灰付		底
58	19	早府城下町遺跡	4号溝	土器 土器	残高0.2/残高0.0/残高2.9/重2.0					中年代, 灰石
59	20	早府城下町遺跡	ビット6	土器 土器	(14.0)		口縁部	内外面ナメ		中年代, 灰石, 金層付
60	21	早府城下町遺跡	ビット7	土器 土器	(8.2)	1.6 (5.0)	口縁~底面	内外面ナメ		中年代, 灰石, 石炭, 金層付, 赤色粒
61	22	早府城下町遺跡	ビット9	土器 土器	(14.4)	3.0 (16.2)	口縁~底面	内外面ナメ		中年代, 灰石, 金層付
62	23	早府城下町遺跡	ビット10	陶器 土器	(11.0)		口縁部	瀬戸赤土, 内外面灰地		底
63	24	早府城下町遺跡	トレンチ2(南)	陶器 土器	(11.1)		口縁部	瀬戸赤土灰付		底
64	25	早府城下町遺跡	トレンチ2(南)	陶器 土器			口縁部	瀬戸赤土灰付		底
65	26	早府城下町遺跡	トレンチ2(南)	陶器 土器			口縁部	瀬戸赤土灰付, 19世紀中期		底
66	27	早府城下町遺跡	トレンチ2(南)	陶器 土器			口縁部	瀬戸赤土灰付		底
67	28	早府城下町遺跡	トレンチ2(南)	陶器 土器			口縁部	瀬戸赤土灰付		底
68	29	早府城下町遺跡	トレンチ2(南)	陶器 土器			口縁部	瀬戸赤土灰付, 19世紀中期		底
69	30	早府城下町遺跡	トレンチ2(南)	陶器 土器	残高5.9/残高0.0/重2.2			灰地		底
70	31	早府城下町遺跡	一帯	陶器 土器	(12.0)		口縁部	瀬戸赤土灰付		底
71	32	早府城下町遺跡	一帯	陶器 土器			口縁部	瀬戸赤土灰付, 19世紀中期~19世紀中期		底
72	33	早府城下町遺跡	一帯	陶器 土器			口縁部	瀬戸赤土灰付, 19世紀中期		底
73	34	早府城下町遺跡	一帯	陶器 土器			口縁部	瀬戸赤土		底
74	35	早府城下町遺跡	調査区北側	陶器 土器			口縁部	瀬戸赤土灰付, 19世紀中期~中葉		底
75	36	早府城下町遺跡	一帯	陶器 土器		(4.8)	底部	瀬戸赤土, 内外面灰地, 磨粒付着		底
76	37	早府城下町遺跡	一帯	陶器 土器	(18.8)		口縁部	陶器		底
77	38	早府城下町遺跡	一帯	陶器 土器			口縁部	内外面ナメ		底
78	39	早府城下町遺跡	一帯	土器 土器	(21.0)	3.0 (20.0)	口縁~底面	ナメ		中年代, 灰石, 石炭, 金層付
80	40	早府城下町遺跡	調査区北側	金属類 釘	長4.2/幅0.09/厚0.6/重0.6g					
81	41	早府城下町遺跡	調査区北側	金属類 釘	長1.77/幅0.73/厚0.46/重1.5g					
82	42	早府城下町遺跡	調査区北側	金属類 釘	長2.84/幅1.16/厚0.97/重4.0g					
83	43	早府城下町遺跡	3号土坑	鉄貨	直径2.41/孔径0.7/厚0.12/重0.49g			磨粒付着		
84	44	早府城下町遺跡	3号土坑	鉄貨	直径2.42/孔径0.7/厚0.12/重0.52g			磨粒付着		
85	45	早府城下町遺跡	3号土坑	鉄貨	直径2.43/孔径0.7/厚0.11/重0.56g			磨粒付着		
86	46	早府城下町遺跡	3号土坑	鉄貨	直径2.36/孔径0.67/厚0.11/重0.52g			磨粒付着		
87	47	早府城下町遺跡	3号土坑	鉄貨	直径2.33/孔径0.7/厚0.11/重0.36g			磨粒付着		
88	48	早府城下町遺跡	3号土坑	鉄貨	直径2.4/孔径0.62/厚0.1/重0.37g			磨粒付着		
89	49	早府城下町遺跡	3号土坑	鉄貨	直径2.23/厚0.11/重0.4g			磨粒付着		
90	1	早府城下町遺跡	Cグリッド	土師器 土器	(17.0)		口縁~底面	内外面ナメ, 内面ナメ磨きガク?		中年代, 灰石, 石炭, 金層付
91	2	早府城下町遺跡	Cグリッド	土師器 土器	(6.2)		口縁部	内外面ナメ		中年代, 灰石, 石炭, 金層付
92	3	早府城下町遺跡	Cグリッド	土師器 土器			口縁部	内外面ナメ		中年代, 灰石, 石炭, 金層付
93	4	早府城下町遺跡	Cグリッド	土師器 土器	(10.2)		口縁~底面	瀬戸赤土灰付		底
94	5	早府城下町遺跡	Cグリッド	土師器 土器	長さ1.4/幅0.7/厚0.3/重2.0g			瀬戸赤土灰付, 近代, 内面に「開成製電機第三大機」印		底
95	6	早府城下町遺跡	Cグリッド	土師器 土器			口縁部	瀬戸赤土灰付, 近代		底
96	7	早府城下町遺跡	Cグリッド	土師器 土器	(18.4)	1.4 (6.7)	口縁~底面	瀬戸赤土, 磨粒付着		底
97	8	早府城下町遺跡	一帯	陶器 土器			口縁部	瀬戸赤土灰付, 磨粒, 19世紀~19世紀中期		底
98	1	早府城下町遺跡	Bトレンチ上層	金属類 釘			口縁部	磨粒		底
99	2	早府城下町遺跡	Bトレンチ	金属類 釘	(11.8)		口縁~底面	磨粒		底
100	3	早府城下町遺跡	Bトレンチ	陶器 土器			口縁~底面	瀬戸赤土灰付, オムレ, 大正~昭和20年代		底

出土遺物観察表(5)

()は推定値、横線は推定値

図	No	出土遺物	検出地点	種別・器種	直径(cm)	口径	高さ	底径	部位	観察所見(成形・調整・文様・時代等)	胎土	備考
49	4	早府城下町遺跡	Bトレンチ	磁器 蓋	10.0	3.1	4.7		口縁～底部	瀬戸黄瀬土染付、『全島式大瓦葺陶器』あり 別物存在	磁器	
49	5	早府城下町遺跡	一帯	陶器 瓦片			2.0		体部～底面	ロクロナデ、内外黄瀬土、加平下半輪軸	磁器	
49	6	早府城下町遺跡	一帯	土製品 灰					蓋A	加平	磁、赤色土	
49	7	早府城下町遺跡	一帯	陶器					(B.7)	瀬戸黄瀬土、片断陶片	磁器	
49	8	早府城下町遺跡	一帯	陶器 灯篭型土	6.0	1.7	12.7		口縁～底面	ロクロナデ、内外黄瀬土	磁	
49	9	早府城下町遺跡	一帯	陶器 工	7.8	1.5	2.9		口縁～底面	ロクロナデ、内外黄瀬土	磁	
49	10	早府城下町遺跡	一帯	陶器 瓦			(B.7)		底面	瀬戸黄瀬土、内面赤土	磁	
49	11	早府城下町遺跡	一帯	黄鉄 土灰	0.4				口縁～底面	瀬戸黄瀬土、ロクロナデ、片断瓦葺	磁	
49	12	早府城下町遺跡	一帯	陶器 小椀	12.0				口縁部	瀬戸黄瀬土、口唇部黄瀬土、内外黄瀬土	磁	
49	13	早府城下町遺跡	一帯	陶器 土灰	6.1				口縁～底面	コクロナデ、片断瓦葺	磁	
49	14	早府城下町遺跡	一帯	陶器 土塊			(B.4)		体部～底面	瀬戸黄瀬土、ロクロナデ、コクロナデより 瓦葺、土灰付、内外黄瀬土	磁、黒石	
50	15	早府城下町遺跡	一帯	磁器 小瓶					底面	瀬戸黄瀬土	磁器	
50	16	早府城下町遺跡	一帯	磁器 陶器片					口縁部	瀬戸黄瀬土染付、19世紀中葉～明治前期	磁器	
50	17	早府城下町遺跡	一帯	磁器 蓋	9.0	2.4	(3.5)		口縁～底面	肥前瓦葺付、19世紀中葉	磁器	
50	18	早府城下町遺跡	一帯	磁器 立派茶碗	9.0	2.6	(5.0)		口縁～底面	肥前瓦葺付、19世紀末～19世紀初頭	磁器	
50	19	早府城下町遺跡	一帯	磁器 湯呑	6.6	0.9	(2.4)		口縁～底面	瀬戸黄瀬土染付、1920年代～19世紀中葉	磁器	
50	20	早府城下町遺跡	一帯	磁器 小瓶	9.0	4.5	(4.0)		口縁～底面	瀬戸黄瀬土染付、明治前期	磁器	
50	21	早府城下町遺跡	一帯	磁器 小瓶					底面	肥前瓦葺付、19世紀末～19世紀初頭	磁器	
50	22	早府城下町遺跡	一帯	磁器 茶碗					口縁部	瀬戸黄瀬土染付、19世紀初頭	磁器	
50	23	早府城下町遺跡	一帯	磁器 鍋					底面	肥前瓦葺(肥前瓦)染付、19世紀中葉～明治前期	磁器	
50	24	早府城下町遺跡	一帯	磁器 湯杯	10.0	5.3	(3.2)		口縁～底面	瀬戸黄瀬土染付、19世紀中葉	磁器	
50	25	早府城下町遺跡	一帯	磁器 鍋					口縁～底面	瀬戸黄瀬土染付、19世紀中葉	磁器	
50	26	早府城下町遺跡	一帯	磁器 小瓶	8.8	5.0	3.4		口縁～底面	肥前瓦葺付、19世紀前半～19世紀初頭	磁器	
50	27	早府城下町遺跡	一帯	磁器 鍋			4.1		底面	肥前瓦葺付、19世紀前半～中葉	磁器	
50	28	早府城下町遺跡	一帯	磁器 瓦	10.2	2.0	5.6		口縁～底面	瀬戸黄瀬土染付、19世紀前半～明治前期	磁器	
50	29	早府城下町遺跡	一帯	磁器 瓦			(4.9)		底面	肥前瓦葺付、肥前瓦葺染付、色紙瓦葺 19世紀末	磁器	
50	30	早府城下町遺跡	一帯	磁器 鍋					底面	瀬戸黄瀬土染付、ロム色、大正～昭和初期頃	磁器	
50	31	早府城下町遺跡	一帯	磁器 鍋			(6.2)		底面	瀬戸黄瀬土染付、ロム色、大正～昭和初期頃	磁器	
50	32	早府城下町遺跡	一帯	磁器 杯持樽					底面	肥前瓦葺付、19世紀前半～中葉	磁器	
50	33	早府城下町遺跡	一帯	磁器 灰皿			5.6		口縁～底面	肥前瓦葺付、19世紀前半～中葉	磁器	
50	34	早府城下町遺跡	一帯	磁器 灰皿	(12.0)	7.1	(11.5)		口縁～底面	肥前瓦葺付、明治前期	磁器	
50	35	早府城下町遺跡	一帯	磁器 灰皿	(11.7)	5.1	(8.0)		口縁～底面	肥前瓦葺付、19世紀前半～中葉	磁器	
50	36	早府城下町遺跡	一帯	磁器 灰皿	(11.3)	5.3	(7.4)		口縁～底面	肥前瓦葺付、19世紀前半～中葉	磁器	
50	37	早府城下町遺跡	一帯	陶器 土瓦					口縁～底面	肥前瓦葺付、近代?	磁器	
50	38	早府城下町遺跡	一帯	陶器 山水土器蓋	5.9	2.5			口縁～底面	瓦葺、19世紀後半	磁	
50	39	早府城下町遺跡	一帯	陶器 土灰皿	7.6	2.0			口縁～底面	瓦葺不明、19世紀前半～明治前期	磁	
50	40	早府城下町遺跡	一帯	陶器 汽車土灰	5.2	6.7	7.2		口縁～底面	瓦葺、『新説』『『忍んじやく』の文字あり	磁	
50	41	早府城下町遺跡	一帯	陶器 樽	2.6				口縁～底面	瀬戸黄瀬土、明治前期	磁	
51	42	早府城下町遺跡	一帯	陶器 土塊	(18.0)				口縁～底面	瀬戸黄瀬土、ロクロナデ、内外黄瀬土	磁	
51	43	早府城下町遺跡	一帯	陶器 灰皿		7.2			口縁～底面	瀬戸黄瀬土、内面口唇部～片断下半輪軸	磁、黒石	
51	44	早府城下町遺跡	一帯	陶器 磁鉢	(23.0)				口縁～底面	瀬戸黄瀬土、内外黄瀬土	磁	
51	45	早府城下町遺跡	一帯	陶器 磁鉢	(28.2)				口縁～底面	瀬戸黄瀬土、片断	磁、黒石、黒瓦	
51	46	早府城下町遺跡	一帯	陶器 磁鉢			6.0		底面	瀬戸黄瀬土、底面加平染付、鉄陶	磁、黒石	
51	47	早府城下町遺跡	一帯	瓦葺土器 磁土鉢					底面	ロクロナデ	今中泥、黒石、赤色土	
51	48	早府城下町遺跡	一帯	土器 鉢	(36.4)				口縁部	ロクロナデ	今中泥、黒石、赤色土	
51	49	早府城下町遺跡	一帯	瓦 瓦瓦	既述12.5/既述10.7/既述2.1				外面ヘラナデ、内面有目		今中泥、黒石	
51	50	早府城下町遺跡	一帯	瓦 瓦瓦	既述3.4/既述0.9/既述4.3/既述2.0				外面ヘラナデ、内面有目		今中泥、黒石	
51	51	早府城下町遺跡	一帯	瓦 瓦瓦	既述3.0/既述17.5/既述0.0				上面、瓦葺		今中泥、黒石	
51	52	早府城下町遺跡	一帯	磁器	既述2.77/既述0.15/既述0.55				電1既述既述『大日本 明治十五年 1880』あり			
54	1	早府城下町遺跡	井戸	木製品 漆碗	12.1	5.4	7.2		口縁～底面	内面赤色土、外面赤色土の文様		
54	2	早府城下町遺跡	井戸	木製品 漆碗			7.1		口縁～底面	内面赤色土、外面赤色土の文様		
54	3	早府城下町遺跡	井戸	木製品	既述6.6/既述3.0/既述0.5							
54	4	早府城下町遺跡	井戸	土器 かむらけ	12.5	2.6	6.7		口縁～底面	内外黄瀬土、底面加平染付		今中泥、黒石、赤瓦、金澤砂
54	5	早府城下町遺跡	井戸	土器 かむらけ	12.4	2.7	6.4		口縁～底面	内外黄瀬土、底面加平染付		今中泥、黒石、赤瓦、金澤砂
54	6	早府城下町遺跡	井戸	土器 かむらけ	(9.4)	2.1	4.4		口縁～底面	内外黄瀬土、底面加平染付		今中泥、黒石、赤瓦、金澤砂
54	7	早府城下町遺跡	井戸	土器 かむらけ	10.4	2.4	5.7		口縁～底面	内外黄瀬土、底面加平染付		今中泥、黒石、赤瓦、金澤砂
54	8	早府城下町遺跡	井戸	土器 かむらけ	12.5	2.5	6.8		口縁～底面	内外黄瀬土、底面加平染付		今中泥、黒石、赤瓦、金澤砂
54	9	早府城下町遺跡	井戸	土器 かむらけ	12.8	2.9	6.4		口縁～底面	内外黄瀬土、底面加平染付		今中泥、黒石、赤瓦、金澤砂
54	10	早府城下町遺跡	井戸	土器 かむらけ	(7.4)	1.8	(4.7)		口縁～底面	内外黄瀬土、底面加平染付		今中泥、黒石、赤瓦、金澤砂
54	11	早府城下町遺跡	井戸	土器 かむらけ	11.0	2.0	6.3		口縁～底面	内外黄瀬土、底面加平染付		今中泥、黒石、赤瓦、金澤砂

出土遺物観察表(6)

()は推定値、残存数/調査数

図	No	出土遺物	検出地点	種別・類種	深さ (cm)	部位	観察所見(成形・調色・文様・時代等)	胎土	備考	
					口径	高さ				
54	12	甲府地下町遺跡	井戸	土師 かわらけ	(10.4)	1.9	4.9	C線~底面	内外面コクロ、底面回転糸切り	中年代、灰石、金雲母
54	17	甲府地下町遺跡	井戸	土師 かわらけ	(11.8)	2.8	(5.0)	C線~底面	内外面コクロ、底面回転糸切り	中年代、灰石、金雲母
54	14	甲府地下町遺跡	井戸	土師 かわらけ	(12.5)	2.8	(6.2)	C線~底面	内外面コクロ、底面回転糸切り	中年代、灰石、金雲母
54	15	甲府地下町遺跡	井戸	土師 かわらけ	(11.2)	2.3	(6.0)	以外~底面	内外面コクロ、底面回転糸切り	中年代、灰石、金雲母
54	16	甲府地下町遺跡	井戸	土師 かわらけ	(11.2)	2.4	(6.0)	C線~底面	内外面コクロ、底面回転糸切り	中年代、灰石、金雲母
54	17	甲府地下町遺跡	井戸	土師 土蓋	(15.0)			C線~底面	内外面コクロ	中年代、灰石、金雲母
54	18	甲府地下町遺跡	井戸	土師 土蓋	(15.0)			C線~底面	内外面コクロ	中年代、灰石、金雲母
54	19	甲府地下町遺跡	井戸	土師 かわらけ	(5.2)	1.1	(2.0)	C線~底面	内外面コクロ、底面回転糸切り	中年代、灰石、金雲母
54	20	甲府地下町遺跡	井戸	土師 かわらけ	(7.0)	1.7	(4.0)	C線~底面	内外面コクロ、底面回転糸切り	中年代、灰石、金雲母
54	21	甲府地下町遺跡	井戸	土師 かわらけ	(10.2)	2.8	(5.3)	C線~底面	内外面コクロ、底面回転糸切り	中年代、灰石、金雲母
54	22	甲府地下町遺跡	井戸	土師 かわらけ	(11.8)	2.3	(7.0)	C線~底面	内外面コクロ、底面回転糸切り	中年代、灰石、金雲母
54	23	甲府地下町遺跡	井戸	土師 土蓋	(10.0)			C線~底面	内外面コクロ	中年代、灰石、金雲母
54	24	甲府地下町遺跡	一括	陶器 甕	(9.2)			口縁部	片持	甕
54	25	甲府地下町遺跡	一括	陶器 甕		(6.4)		底面	敷底	甕
54	26	甲府地下町遺跡	一括	土師 埴輪		(26.2)		底面	内外面コクロ	中年代、灰石、金雲母
65	1	塚原遺跡	1号壇穴	土師器 甕	(12.0)			口縁~胴部	内外面ヘラナズリ、ヨコナダ	中年代、灰石
65	2	塚原遺跡	1号壇穴	土師器 甕	(24.0)			C線~胴部	内外面ヘラナズリ、ナダ、敷底	中年代、灰石
65	3	塚原遺跡	1号壇穴	土師器 甕	(15.0)			口縁~胴部	内外面ヘラナズリ、ヨコナダ	中年代、赤色土
65	4	塚原遺跡	1号壇穴	土師器 甕			7.9	胴部~底面	内外面ヘラ	中年代
65	5	塚原遺跡	1号壇穴	土師器 甕	8.5	16.5	4.4	陶片	内外面ヘラ、輪縁部	中年代
65	6	塚原遺跡	1号壇穴	土師器 甕	(18.0)			C線~胴部	内外面コクロ、ヘラナズリ、輪縁	中年代、黒石、赤石
65	7	塚原遺跡	1号壇穴	土師器 小片	(23.0)			C線~胴部	内外面ヘラ	中年代、黒石、赤色土
65	8	塚原遺跡	1号壇穴	土師器 甕	(17.0)			口縁~胴部	内外面ヘラナズリ、ヘラ	中年代、黒石、赤色土
65	9	塚原遺跡	1号壇	土師器 甕			9.0	底面	内外面ヘラ、外面ナズリ	中年代、金雲母
65	10	塚原遺跡	2号壇	土師器 甕	(18.0)			C線~胴部	内外面ヘラ、ナダ、外面ナズリ	中年代
65	11	塚原遺跡	2号壇	土師器 甕			(7.0)	底面	内外面ナズリ	中年代
65	12	塚原遺跡	2号壇	土師器 甕				底面	内外面ヘラ	中年代
65	13	塚原遺跡	第2トレンチ	土師器 甕				底面	内外面ヘラナズリ、外面ナズリ	中年代
65	14	塚原遺跡	第3トレンチ	土師器 甕	(11.0)			C線~胴部	内外面ナズリ	中年代
65	15	塚原遺跡	第3トレンチ	土師器 小片	(11.0)			口縁~胴部	内外面ヘラ、外面ヘラ	中年代
65	16	塚原遺跡	第3トレンチ	土師器 甕	(13.0)			口縁~胴部	内外面ヘラ	中年代、赤色土
65	17	塚原遺跡	第3トレンチ	土師器 甕	(13.0)			口縁~胴部	内外面ヘラ	中年代
65	18	塚原遺跡	第3トレンチ	土師器 小片			(5.0)	底面	内外面ヘラ	中年代
65	19	塚原遺跡	第3トレンチ	土師器 甕	(11.0)			口縁~胴部	内外面ヘラ、外面ナズリ	中年代
65	20	塚原遺跡	第3トレンチ	土師器 甕			(7.0)	底面	内外面ヘラ、外面ナズリ	中年代
65	21	塚原遺跡	第4トレンチ	土師器 甕	(17.0)	26.7		C線~底面	内外面ヘラ、輪縁部、外面ナズリ	中年代
65	22	塚原遺跡	第4トレンチ	土師器 甕	16.4			C線~底面	内外面ヘラ、外面ナズリ	中年代
65	23	塚原遺跡	第4トレンチ	土師器 甕	(17.0)			C線~底面	内外面ヘラ	中年代
65	24	塚原遺跡	第4トレンチ	土師器 甕	15.5			口縁~胴部	内外面ヘラナズリ、底面、輪縁部	中年代
65	25	塚原遺跡	第4トレンチ	土師器 甕	(15.2)			C線~胴部	内外面ヘラ、外面ナズリ	中年代
65	26	塚原遺跡	第4トレンチ	土師器 甕				底面~胴部	内外面ヘラ、外面ナズリ	甕
65	27	塚原遺跡	第4トレンチ	土師器 甕	(17.0)			口縁~胴部	内外面ヘラ	中年代、灰石
65	28	塚原遺跡	第4トレンチ	土師器 甕			5.2	底面~底面	内外面ナズリ、外底面、二次焼成	中年代
65	29	塚原遺跡	第4トレンチ	土師器 甕				底面~底面	内外面ヘラ、二次焼成	甕
65	30	塚原遺跡	第4トレンチ	土師器 甕	(17.0)			C線~胴部	内外面ヘラ、ナズリ、外底面、二次焼成	中年代
65	31	塚原遺跡	第4トレンチ	土師器 甕			2.3	底面~底面	内外面ナズリ、輪縁部、外底面ナズリ	中年代、黒石、金雲母
65	32	塚原遺跡	第4トレンチ	土師器 甕				底面	内外面ヘラ	中年代
65	33	塚原遺跡	第4トレンチ	土師器 甕	(9.0)			口縁部	内外面ナズリ、外底面	中年代
65	34	塚原遺跡	第4トレンチ	土師器 甕			(7.0)	底面	内外面ナズリ	中年代、赤色土
65	35	塚原遺跡	第4トレンチ	青銅 小片	(17.0)			口縁部		甕
65	36	塚原遺跡	一括	金銭類 硬貨	長12.68/幅1.28/厚1.94/重22.06					
70	1	十二天遺跡	Aグリッド	土師						保形
70	2	十二天遺跡	Aグリッド	石鏡木製片?	長2.22/幅0.91/厚0.96/重0.9g					保形
72	1	塚原遺跡	一括	土師 かわらけ	(8.2)	1.7	(5.0)	C線~底面	内外面コクロ、底面回転糸切り	中年代、灰石、金雲母
72	2	塚原遺跡	一括	土師 かわらけ				底面	内外面コクロ、底面回転糸切り	中年代、灰石、金雲母
72	3	塚原遺跡	一括	土師 かわらけ			(5.2)	底面	内外面コクロ、底面回転糸切り	中年代、灰石、金雲母
72	4	塚原遺跡	一括	土師 かわらけ			(5.7)	底面	内外面コクロ、底面回転糸切り	中年代、灰石、金雲母
72	5	塚原遺跡	一括	土師 かわらけ			(7.0)	底面	内外面コクロ、底面回転糸切り	中年代、灰石、金雲母
72	6	塚原遺跡	一括	土師 土蓋?	(10.0)			口縁部	内外面コクロ	中年代、灰石、金雲母
74	1	外郎坂下町遺跡	Aグリッド	陶器 甕				口縁部	底面	甕
74	2	外郎坂下町遺跡	Aグリッド	白磁 皿	(16.0)	2.8	(9.3)	C線~底面		甕
80	1	外郎坂下町遺跡	T-P-2	陶文土師 陶片?				底面		中年代、灰石、金雲母

出土遺物観察表(7)

()は測定値、角は残存状態

図	No.	出土遺物	検出地点	種別・器種	法量 (cm)		部位	観察所見(成形・調整・文様・時代等)	胎土	備考
					口径	高さ				
80	2	武蔵城下町遺跡	T P-2	土師器 灰付	(20.0)		断面	内外面ナデ	中々密、赤色胎	
80	3	武蔵城下町遺跡	T P-2	土師器 台付壺			断面	内外面ナデ	中々密、黒石、赤灰胎、赤色胎	
80	4	武蔵城下町遺跡	T P-3	土師 かわらけ	(12.0)		口縁部	内外面ナデ	中々密、黒石、(灰)胎、赤色胎	
80	5	武蔵城下町遺跡	T P-3	土師 かわらけ		(8.8)	底面	内外面ナデ	中々密、黒石、石灰胎、赤色胎	
84	1	武蔵城下町遺跡	T P-2	陶器 碗	(12.0)		口縁部	内外面ナデ	密	
80	1	武蔵城下町遺跡	Aグリッド	青磁 香炉			断面	コロンナデ、取柄	密	
80	2	武蔵城下町遺跡	Aグリッド	磁器 鉢			口縁部	瀬戸青磁系灰付、コロンナ	密	
80	3	武蔵城下町遺跡	Aグリッド	磁器 小鉢			口縁部	瀬戸青磁系灰付、近代	密	
80	4	武蔵城下町遺跡	Aグリッド	磁器 鉢			口縁部	瀬戸青磁系灰付、室町期、樹形10~20年代	密	
80	5	武蔵城下町遺跡	Aグリッド	磁器 鉢			断面	体部	密	
80	6	武蔵城下町遺跡	Aグリッド	磁器 鉢	(8.0)		口縁部	コロンナ	密	
80	7	武蔵城下町遺跡	Aグリッド	陶器 急須		(5.0)	断面	瀬戸青磁系、内面口縁部あり、コロンナ	密	
80	8	武蔵城下町遺跡	Aグリッド	磁器 急須			口縁部	瀬戸青磁系灰付、明治期	密	
80	9	武蔵城下町遺跡	Bグリッド S D-1	土師器 杯	(10.0)		口縁部	コロンナデ成形	不中密、黒石胎、赤色胎	
80	10	武蔵城下町遺跡	Bグリッド	陶器 鉢		(5.2)	断面	瀬戸青磁系、コロンナデ成形	密	
80	11	武蔵城下町遺跡	Bグリッド	磁器 小鉢	(7.0)		口縁部-体部	コロンナデ成形	密	
80	12	武蔵城下町遺跡	Cグリッド	灰付陶器 皿			C縁部	内外面コロンナ	密	
99	1	本郷遺跡	一帯	磁器 鉢			C縁部	瀬戸青磁系(樹形)系付、近代	密	
99	2	本郷遺跡	一帯	磁器 小鉢			底面	瀬戸青磁系灰付、明治期	密	
99	3	本郷遺跡	一帯	磁器 碗			体部	瀬戸青磁	密	
99	4	本郷遺跡	一帯	磁器 八角鉢			断面	瀬戸系灰付、19世紀前半~中葉	密	
99	5	本郷遺跡	一帯	陶器 急須	(8.0)		口縁部		密	
99	6	本郷遺跡	一帯	陶器 鉢	(11.0)		口縁部	縁~内面口縁	密	
99	7	本郷遺跡	一帯	ガラス製品	3.0	2.0	口縁部-底面		密	
100	1	本郷遺跡	表土 一帯	土師器 杯	(11.0)		口縁部	古縁部、コロンナデ成形(樹形)	中々密、黒石、赤灰胎、赤色胎	
100	2	本郷遺跡	一帯	土師器 盃	(18.0)		口縁部	古縁部、コロンナデ成形(樹形)	中々密、黒石、赤灰胎、赤色胎	
100	3	本郷遺跡	一帯	土師器 杯		(8.0)	断面	ナデ成形、早製	中々密、黒石、石灰胎	
100	4	本郷遺跡	一帯	土師器 杯		(7.0)	断面	古縁部、外側ヘラケズリ、内面口縁部ナデ、取柄	密、黒石、赤灰胎、赤色胎	
100	5	本郷遺跡	Bトレンチ	土師器 盃		(6.0)	底面	コロンナデ、底面口縁部切り、早製	中々密、黒石胎、赤色胎	
100	6	本郷遺跡	Bトレンチ	土師器 盃		(4.0)	底面	外側ヘラケズリ、内面ナデ、早製	密、黒石、石灰胎	
100	7	本郷遺跡	Bトレンチ	土師器 盃	(20.0)		口縁部	古縁部、ナデ成形(取柄)、内外面ナデ	中々密、黒石、赤灰胎	
100	8	本郷遺跡	Bトレンチ	土師器 盃			体部	コロンナデ成形	中々密、黒石胎、赤色胎	
100	9	本郷遺跡	Bトレンチ	青磁 碗	(14.0)		口縁部-体部	コロンナデ成形、内面口縁部取柄2条	密	
100	10	本郷遺跡	表土 一帯	土師 かわらけ		(4.8)	断面	コロンナデ成形、底面取柄あり	中々密、黒石胎、赤色胎	
100	11	本郷遺跡	一帯	土師 かわらけ		(6.0)	底面	コロンナデ成形、底面取柄あり	中々密、黒石胎、赤色胎	
100	12	本郷遺跡	一帯	土師 椀鉢			体部	ナデ成形、内面に放射状模目	中々密、黒石胎、赤色胎	
100	13	本郷遺跡	一帯	磁器 碗状陶器			口縁部	肥前系灰付、19世紀前半~中葉	密	
100	14	本郷遺跡	一帯	磁器 碗		(1.0)	断面	肥前、コロンナデ成形	密	
100	15	本郷遺跡	一帯	陶器 文目鉢		(8.0)	断面	コロンナデ成形、体部下半~底面縁部	密、黒色胎	
100	16	本郷遺跡	一帯	磁器 鉢			断面	肥前、コロンナデ成形、内面口縁部あり	密	
100	17	本郷遺跡	一帯	磁器 皿			口縁部	肥前系灰付、19世紀中葉	密	
100	18	本郷遺跡	一帯	磁器 盃			口縁部	瀬戸青磁系灰付、タロム輪、製物転写、明治20年代~人正	密	
100	19	本郷遺跡	一帯	土師 盃	(6.0)		口縁部	コロンナデ成形	中々密、黒石胎、赤色胎	
106	1	跡ヶ丘一丁目遺跡	第1グリッド	土師器 盃			口縁部	内外面ナデ	中々密、黒石胎、赤色胎	
106	2	跡ヶ丘一丁目遺跡	第1グリッド	土師器 台付壺			断面	内外面ナデ	中々密、黒石胎、赤色胎	
106	3	跡ヶ丘一丁目遺跡	第1グリッド	土師器 S字壺	(13.0)		口縁部-断面	内外面ナデ、外側ヘラ	中々密、黒石胎、石灰胎、赤色胎	
106	4	跡ヶ丘一丁目遺跡	第1グリッド	土師器 杯	(11.0)		口縁部	内外面ナデ	中々密、黒石胎、赤色胎	
106	5	跡ヶ丘一丁目遺跡	第1グリッド	土師器 杯	(14.0)		口縁部	内外面ナデ、内面黒色化	中々密、黒石胎、石灰胎、赤色胎	
106	6	跡ヶ丘一丁目遺跡	第1グリッド	土師器 壺		(5.0)	底面	内外面ナデ、外側ヘラ、底面黒色化	中々密、黒石胎、石灰胎、赤色胎	
106	7	跡ヶ丘一丁目遺跡	第1グリッド	伊賀系 盃			断面	一帯自然釉、穴開き	密	
106	8	跡ヶ丘一丁目遺跡	第1グリッド	磁器 鉢			体部	肥前	密	
106	9	跡ヶ丘一丁目遺跡	第2グリッド	陶文土師 鉢			断面	肥前区陶文、制陶文	中々密、黒石胎、赤色胎	
106	10	跡ヶ丘一丁目遺跡	第2グリッド	土師器 台付壺	(7.0)		断面	外側ヘラ、内面ヘラナデ	中々密、黒石胎、赤色胎	
106	11	跡ヶ丘一丁目遺跡	第2グリッド	土師器 灰付			断面	内外面ナデ	密	
106	12	跡ヶ丘一丁目遺跡	第2グリッド	土師器 灰付			断面	内外面ナデ	中々密、赤色胎	
111	1	跡ヶ丘二丁目遺跡	一帯	土師 かわらけ			底面	内外面コロンナ、底面取柄切り	中々密、黒石胎、赤色胎	
111	2	跡ヶ丘二丁目遺跡	第2グリッド	陶文土師 鉢			断面	外側取柄、内面ナデ	中々密、黒石胎、赤色胎	
111	3	跡ヶ丘二丁目遺跡	第2グリッド	陶文土師 鉢			断面	外側取柄、内面ナデ	中々密、黒石胎、赤色胎	
111	4	跡ヶ丘二丁目遺跡	第2グリッド	土師 鉢			断面	粘土結晶灰付	中々密、黒石胎、赤色胎	

出土遺物観察表(9)

()は推定値、[]は推定範囲

図	No.	出土遺物	検出地点	種別・器種	直径(cm) 口径・器高・底径	部位	観察所見(成形・調色・文様・時代等)	胎土	備考
119	5	瓦ノ屬A遺跡	一括	瓦文土器 漆絵		口縁部	内外面ナツ	黄、灰石、石灰	
119	6	瓦ノ屬A遺跡	一括	瓦文土器 漆絵		底面	内外面ナツ	不透明、黒褐色 赤褐色、赤褐色 赤褐色、黒褐色	
119	7	瓦ノ屬A遺跡	一括	瓦文土器 漆絵		肩部	黒色文貼付、磨削	不透明、黒褐色 赤褐色、赤褐色	
119	8	瓦ノ屬A遺跡	一括	瓦文土器 漆絵		腹部	磨削、文様文、磨削	不透明、黒褐色 赤褐色、赤褐色	
119	9	瓦ノ屬A遺跡	一括	瓦文土器 漆絵		腹部	磨削、文様文、文様文、赤褐色、赤褐色	赤褐色、赤褐色	
119	10	瓦ノ屬A遺跡	一括	瓦文土器 漆絵		腹部	磨削、内外面ナツ、磨削文、磨削IV-V?	赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色	
119	11	瓦ノ屬A遺跡	一括	磨削 筒		口縁部	磨削、磨削、磨削	赤褐色、赤褐色	
119	12	瓦ノ屬A遺跡	一括	磨削 筒	(7.0)	口縁部	磨削、磨削、磨削	赤褐色、赤褐色	
119	13	瓦ノ屬A遺跡	一括	磨削 土器 筒	(7.0)	口縁部	磨削、磨削、磨削	赤褐色、赤褐色	
119	14	瓦ノ屬A遺跡	一括	磨削 土器 筒	(4.0)	口縁部	磨削、磨削、磨削	赤褐色、赤褐色	
119	15	瓦ノ屬A遺跡	一括	磨削 土器 筒		口縁部	磨削、磨削、磨削	赤褐色、赤褐色	
119	16	瓦ノ屬A遺跡	一括	磨削 土器 筒		口縁部	磨削、磨削、磨削	赤褐色、赤褐色	
120	1	菅沼遺跡	Aトレンチ	土器 筒		口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	2	菅沼遺跡	Bトレンチ1号溝	土器 筒		口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	3	菅沼遺跡	Bトレンチ1号溝	土器 筒		口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	4	菅沼遺跡	Bトレンチ1号溝	土器 筒		口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	5	菅沼遺跡	Bトレンチ2号溝	土器 筒		口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	6	菅沼遺跡	Bトレンチ2号溝	土器 筒	(9.0)	口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	7	菅沼遺跡	Bトレンチ2号溝	土器 筒		口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	8	菅沼遺跡	Bトレンチ2号溝	土器 筒		口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	9	菅沼遺跡	Bトレンチ3号溝	土器 筒		口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	10	菅沼遺跡	Bトレンチ土坑1	土器 筒	(11.0)	口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	11	菅沼遺跡	Bトレンチ土坑1	土器 筒	(11.0)	口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	12	菅沼遺跡	Bトレンチ	土器 筒	(12.2)	口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	13	菅沼遺跡	Bトレンチ	土器 筒	(17.1)	口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	14	菅沼遺跡	Bトレンチ	土器 筒		口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	15	菅沼遺跡	Bトレンチ	土器 筒		口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	16	菅沼遺跡	Bトレンチ	土器 筒		口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	17	菅沼遺跡	Bトレンチ	土器 筒	(14.0)	口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	18	菅沼遺跡	Bトレンチ	土器 筒	(14.0)	口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	19	菅沼遺跡	Bトレンチ	土器 筒		口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	20	菅沼遺跡	Bトレンチ	土器 筒		口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	21	菅沼遺跡	Bトレンチ	土器 筒		口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	22	菅沼遺跡	Bトレンチ	土器 筒		口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	23	菅沼遺跡	Bトレンチ	土器 筒		口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	1	菅沼遺跡	Aトレンチ	土器 筒	(11.0)	口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	2	菅沼遺跡	Aトレンチ	土器 筒	(10.5)	口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	3	菅沼遺跡	Aトレンチ	土器 筒	(4.0)	口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	4	菅沼遺跡	Aトレンチ	土器 筒		口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	5	菅沼遺跡	Aトレンチ	土器 筒		口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	6	菅沼遺跡	Aトレンチ	土器 筒		口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	7	菅沼遺跡	Bトレンチ	土器 筒	(11.0)	口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	8	菅沼遺跡	Bトレンチ	土器 筒		口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	9	菅沼遺跡	Bトレンチ	土器 筒		口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	10	菅沼遺跡	Bトレンチ	土器 筒		口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	1	金保西遺跡	1区トレンチ1 S3-4	土器 筒		口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	2	金保西遺跡	1区トレンチ1 S3-1	土器 筒		口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	3	金保西遺跡	1区トレンチ1 S3-4	土器 筒	(8.0)	口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	4	金保西遺跡	1区トレンチ1 S3-4	土器 筒	14.5 4.0 6.4	口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	5	金保西遺跡	1区トレンチ1 S3-4	土器 筒		口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	6	金保西遺跡	1区トレンチ1 S3-4	土器 筒		口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	7	金保西遺跡	1区トレンチ1 P1-1-16	土器 筒	(15.0)	口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	8	金保西遺跡	1区トレンチ1 P1-1-16	土器 筒		口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	9	金保西遺跡	1区トレンチ1 P1-1-16	土器 筒	(15.0)	口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	
120	10	金保西遺跡	1区トレンチ1 P1-1-16	土器 筒		口縁部	磨削	赤褐色、赤褐色、赤褐色 赤褐色、赤褐色、赤褐色	

出土遺物観察表 (10)

(注) 法量定線、両は標準観察線

図 号	出土遺物	検出地点	種別・器種	法量 (cm)	口径	高さ	底径	部位	観察所見(成形・調整・文様・時代等)	胎土	備考
129 11	金塚西遺跡	1区トレンチ1	土師 甕	G1.81				口縁部	ロコナダ、外面ハケ、ヘラ	中年代、長石 石灰、金雲母	
129 12	金塚西遺跡	1区トレンチ1	土師 台付甕	(10.9)				口縁部	ナダ成形	中年代、長石	
129 13	金塚西遺跡	1区トレンチ1	土師 土口甕	(15.0)				口縁部	ナダ成形、外面ハケ、内面に線	中年代、長石	
129 14	金塚西遺跡	1区トレンチ1	土師 甕	(18.8)				口縁部	ナダ成形、外面ハケ、口縁部に線	中年代、長石 石灰、金雲母	
129 15	金塚西遺跡	1区トレンチ1	土師 甕			9.0		底部	外面ハケ、内面指痕ナダ	中年代、長石、石灰	
129 16	金塚西遺跡	1区トレンチ1	土師 甕	(17.5)				口縁部	ナダ成形後外面ハケ	中年代、長石、石灰	
129 17	金塚西遺跡	1区トレンチ1	土師 甕					底部	外面ハケナダ、内面に指痕あり	中年代、長石、石灰	
129 18	金塚西遺跡	1区トレンチ1	土師 甕	(12.7)				口縁部	ロコナダ、外面黒色地帯	中年代、長石、石灰	
129 19	金塚西遺跡	1区トレンチ1	土師 甕	(15.1)	2.8	(5.0)		口縁部	ロコナダ	中年代、長石、石灰	
129 20	金塚西遺跡	1区トレンチ1	土師 甕		4.9			底部	コケナダ、内面指痕ヘラナダ	中年代、長石	
129 21	金塚西遺跡	1区トレンチ1	土師 甕	(16.9)	2.1	(8.0)		口縁部	ロコナダ、底部黒ヘラナダ	中年代、長石、石灰	
129 22	金塚西遺跡	1区トレンチ1	土師 甕			9.2		底部	コケナダ	中年代、長石	
129 23	金塚西遺跡	1区トレンチ1	土師 甕	(6.2)				口縁部	コケナダ	中年代、長石	
129 24	金塚西遺跡	1区トレンチ1	土師 甕					口縁部	コケナダ	中年代、長石	
129 25	金塚西遺跡	1区トレンチ1	土師 甕					口縁部	コケナダ	中年代、長石	
129 26	金塚西遺跡	1区トレンチ1	土師 甕	(11.8)				口縁部	ナダ成形の上を外面ハケ、内面指痕ナダ	中年代、長石、石灰	
129 27	金塚西遺跡	1区トレンチ1	土師 甕					口縁部	外面ハケ、内面指痕ナダ、指痕	中年代、長石、石灰	
129 28	金塚西遺跡	1区トレンチ1	土師 甕					口縁部	内外面ハケ成形	中年代、長石、石灰	
129 29	金塚西遺跡	1区トレンチ1	土師 甕					口縁部	内外面ハケ成形	中年代、長石、石灰	
129 30	金塚西遺跡	トレンチ1	土師 甕	(12.0)				口縁部	土師、ロコナダ	中年代、長石	
129 31	金塚西遺跡	トレンチ1	土師 甕	(12.8)				口縁部	外面ハケ、内面ナダ	中年代、長石、金雲母	
129 32	金塚西遺跡	トレンチ1	土師 甕	(12.4)				口縁部	ナダ成形、内面ハケ	中年代、長石、石灰	
129 33	金塚西遺跡	トレンチ1	土師 甕	(11.0)				口縁部	内外面ハケ、指痕	中年代、長石、金雲母	
129 34	金塚西遺跡	トレンチ1	土師 甕					口縁部	外面ハケ、指痕、内面ヘラナダ	中年代、長石	
129 35	金塚西遺跡	トレンチ1	土師 甕	(13.9)				口縁部	ナダ成形、外面ハケ、内面に指痕あり	中年代、長石、金雲母	
129 36	金塚西遺跡	トレンチ1	土師 甕					口縁部	ナダ成形、内面ハケ	中年代、長石、石灰	
129 37	金塚西遺跡	トレンチ1	土師 甕		5.1			底部	外面ハケ、ナダ	中年代、長石、石灰	
129 38	金塚西遺跡	トレンチ1	土師 甕					底部	ナダ成形	中年代、長石、石灰	
129 39	金塚西遺跡	トレンチ1	土師 甕	(16.4)	6.9	(4.0)		口縁部	ナダ成形後外周ハケ	中年代、長石、金雲母	
129 40	金塚西遺跡	トレンチ1	土師 甕	(22.2)				口縁部	ナダ成形後外周ハケ	中年代、長石	
129 41	金塚西遺跡	トレンチ1	土師 甕					口縁部	ナダ成形、透かし孔あり	中年代、長石、石灰	
129 42	金塚西遺跡	トレンチ1	土師 甕					口縁部	ナダ成形後外周ハケ、内面に指痕、透かし孔	中年代、長石、金雲母	
129 43	金塚西遺跡	トレンチ1	土師 甕					口縁部	ナダ成形、透かし孔あり	中年代、長石	
129 44	金塚西遺跡	トレンチ1	土師 甕					口縁部	ナダ成形、透かし孔あり	中年代、長石	
129 45	金塚西遺跡	トレンチ1	土師 甕					口縁部	ナダ成形、透かし孔あり	中年代、長石	
129 46	金塚西遺跡	トレンチ1	土師 甕	(14.2)	2.4	(5.7)		口縁部	ロコナダ	中年代	
129 47	金塚西遺跡	トレンチ1	土師 甕					口縁部	ナダ成形後外周ハケ	中年代、長石 石灰、金雲母	
129 48	金塚西遺跡	トレンチ1	土師 甕	(16.9)	0.9			口縁部	ナダ成形後外周ハケ	中年代、長石 石灰、金雲母	
129 49	金塚西遺跡	トレンチ1	土師 甕	径8.22・幅1.16・重1.09・寸14.25				口縁部	ナダ成形後外周ハケ	中年代、長石、石灰	
129 50	金塚西遺跡	トレンチ2	土師 甕	(8.3)	15.3	8.8		口縁部	ナダ成形後外周ハケ	中年代、長石、石灰	
129 51	金塚西遺跡	トレンチ2	土師 甕	15.7	22.4	3.8		口縁部	ナダ成形後外周ハケ、内面ヘラナダ	中年代、長石	
129 52	金塚西遺跡	トレンチ2	土師 甕	(16.8)				口縁部	外面ハケ、内面ヘラ、指痕ナダ	中年代、長石 石灰、金雲母	
129 53	金塚西遺跡	トレンチ2	土師 甕	(11.9)				口縁部	外面ハケ、内面ヘラ、指痕ナダ	中年代、長石 石灰、金雲母	
129 54	金塚西遺跡	トレンチ2	土師 甕	(12.0)				口縁部	外面ハケ、内面ヘラ、指痕ナダ	中年代、長石 石灰、金雲母	
129 55	金塚西遺跡	トレンチ2	土師 甕	(14.0)				口縁部	外面ハケ、内面ヘラ、指痕ナダ、ハケ	中年代、長石 石灰、金雲母	
129 56	金塚西遺跡	トレンチ2	土師 甕		8.0			口縁部	内外面ハケ	中年代、長石	
129 57	金塚西遺跡	トレンチ2	土師 甕					口縁部	外面ハケ、内面指痕ナダ、指痕	中年代、長石、石灰	
129 58	金塚西遺跡	トレンチ2	土師 甕		8.5			口縁部	ナダ成形後ヘラナダ	中年代、長石、石灰	
129 59	金塚西遺跡	トレンチ2	土師 甕	(8.8)				口縁部	外面指痕、内面指痕ナダ、指痕	中年代、長石 石灰、金雲母	
129 60	金塚西遺跡	トレンチ2	土師 甕	(16.0)				口縁部	ナダ成形後ヘラナダ	中年代、長石 石灰、金雲母	
129 61	金塚西遺跡	トレンチ2	土師 甕	(12.9)				口縁部	ナダ成形	中年代、長石 石灰、金雲母	
129 62	金塚西遺跡	トレンチ2	土師 甕	(13.8)				口縁部	ロコナダ、ヘラナダ	中年代、長石 石灰、金雲母	

出土遺物観察表(11)

(1)は測定値、(2)は保存部位置

図	No.	出土遺物	出土地点	種別・器種	寸法(cm)		部位	観察所見(成形・調整・文様・時代等)	胎土	備考
					口径	底径				
141	53	金塚西遺跡	トレンチ2	土師器 壺	(16.2)		口縁部	コクロナデ、内面滑沢赤土、内面滑沢赤土による引掛赤土文	中や赤、黒石、石灰	
141	54	金塚西遺跡	トレンチ2 土師器中	土師器 壺			胴部	ナデ成形	中や赤、黒石、石灰	
142	65	金塚西遺跡	トレンチ2 土師器中	土師器 壺			胴部	ナデ成形後外面ヘラケズリ、内面ヘラケ	中や赤、黒石、石灰	
142	66	金塚西遺跡	トレンチ2	土師器 壺			底部	ヘラケズリ	中や赤、黒石、石灰	
142	67	金塚西遺跡	トレンチ2	土師器 壺	(12.8)		胴部	ナデ成形後外面ヘラケズリ、内面滑沢ナデ、滑沢赤	中や赤、黒石、石灰	
142	68	金塚西遺跡	トレンチ2 土師器中	土師器 壺	(16.2)		胴部	ナデ成形後外面ヘラケズリ、内面滑沢ナデ、滑沢赤	中や赤、黒石、石灰	
142	69	金塚西遺跡	3区トレンチ2	土師器 壺	(17.0)		底部	ナデ成形後外面ヘラケズリ、内面滑沢ナデ、滑沢赤	中や赤、黒石、石灰	
142	70	金塚西遺跡	1区トレンチ2	土師器 壺	(16.7)		底部	ナデ成形後外面ヘラケズリ、内面ヘラケ	中や赤、黒石、石灰	
142	71	金塚西遺跡	1区トレンチ2	土師器 高杯	(13.5)		口縁部	コクロナデ後外面ヘラケズリ、内面ヘラケ	中や赤、黒石、石灰	
142	72	金塚西遺跡	1区P1-1-23	土師器 高杯	(13.8)		口縁部	コクロナデ、内面赤色滑沢	中や赤、黒石、石灰	
142	73	金塚西遺跡	1区トレンチ2	土師器 高杯	(14.9)		胴部	コクロナデ、内面滑沢、ヒガキ	赤、黒石、石灰	
142	74	金塚西遺跡	1区トレンチ2	土師器 壺			底部	滑沢ナデ	中や赤、黒石、石灰	
142	75	金塚西遺跡	1区トレンチ2	白磁 壺	(11.9)		口縁部		滑沢	
142	76	金塚西遺跡	1区トレンチ2	灰釉陶器 壺			胴部		滑沢	
142	77	金塚西遺跡	1区トレンチ2	灰釉陶器 壺			胴部		滑沢	
142	78	金塚西遺跡	1区トレンチ2	灰釉陶器 壺			胴部	外面叩き目	滑沢	
142	79	金塚西遺跡	1区トレンチ2	灰釉陶器 フラスコ底			胴部	灰釉状凸目	滑沢	
142	80	金塚西遺跡	1区トレンチ2	土師器 壺	(17.8)		口縁部	内外面ヘラケ	中や赤、黒石、石灰、金雲母	
142	81	金塚西遺跡	1区トレンチ2	土師器 壺	(18.8)		口縁部	内外面ナデ成形	中や赤、黒石、石灰、金雲母	
142	82	金塚西遺跡	1区トレンチ2 5D-1	土師器 壺	(14.9)		底部	ナデ成形	中や赤、黒石、石灰	
142	82	金塚西遺跡	1区トレンチ2	土師器 壺			胴部	内外面ヘラケ	中や赤、黒石、石灰、金雲母	
142	84	金塚西遺跡	1区トレンチ3	灰釉陶器 壺			胴部	外面叩き目	赤	
142	85	金塚西遺跡	1区トレンチ3	灰釉陶器 壺			胴部	外面叩き目	赤	
142	86	金塚西遺跡	3区トレンチ2 5D-11	土師器 高杯	(11.0)		口縁部	コクロナデ	中や赤、黒石、石灰、金雲母	
142	87	金塚西遺跡	3区トレンチ1	土師器 壺			胴部	滑沢ナデ、内面ヘラケズリ	中や赤、黒石、石灰、金雲母	
142	88	金塚西遺跡	3区トレンチ1	土師器 壺			胴部	外面ナデ、内面ヘラケ	中や赤、黒石、石灰、金雲母	
142	89	金塚西遺跡	3区トレンチ1	土師器 壺	(9.3)		底部	外面ヘラケ、内面ナデ	中や赤	
142	90	金塚西遺跡	3区トレンチ2	土師器 壺	(22.0)		口縁部	内外面ナデ成形	黒石、金雲母	
142	91	金塚西遺跡	3区トレンチ2	灰釉陶器 壺			胴部	外面叩き目	滑沢	
152	1	早府地下町遺跡	1号井戸	磁器 小杯	(9.7)		口縁→底部	胴部	滑沢	
152	2	早府地下町遺跡	1号井戸	磁器 小杯	(6.4)		口縁部	胴部	滑沢	
152	3	早府地下町遺跡	1号井戸	土師 かわらけ		6.2	底部	コクロナデ形、表面磨き赤土	中や赤、黒石、石灰、金雲母	
152	4	早府地下町遺跡	1号井戸	土師 磁鉢	(32.4)		口縁部	コクロナデ形	中や赤、黒石、金雲母	
152	5	早府地下町遺跡	1号井戸	土師 磁鉢			底部	コクロナデ形	中や赤、黒石、石灰、金雲母	
152	6	早府地下町遺跡	1号井戸	土師 磁鉢		(24.0)	底部	コクロナデ形、滑沢赤	中や赤、黒石、石灰、金雲母、黒・白土粒	
152	7	早府地下町遺跡	1号井戸	金雲母 小刀	残長1.27/幅0.99/重14.0g					
152	8	早府地下町遺跡	1号井戸	磁土	残高9.2/幅9.7/重7.1			下地材料a-		
152	9	早府地下町遺跡	1号井戸	磁土	残高9.9/幅6.8/重3.2			下地材料a		
152	10	早府地下町遺跡	1号井戸	石製品 下臼	残長14.5/幅15.2/高さ8.2/厚下縁16.4/重4.2kg				笠山砂	
152	11	早府地下町遺跡	1、2号土坑	土師 かわらけ		(5.0)	底部	コクロナデ形、表面磨き赤土	中や赤、黒石、石灰、金雲母	
152	12	早府地下町遺跡	1号土坑	磁器 碗			底部	灰釉	滑沢	
152	13	早府地下町遺跡	1号土坑	磁器 伊勢神橋形	1.6		口縁部	滑沢(滑沢赤)高杯付、15世紀中葉一休書	滑沢	
152	14	早府地下町遺跡	1号土坑	陶器 皿	1.5		口縁→底部	滑沢(滑沢赤)高杯付、15世紀中葉一休書	滑沢	
152	15	早府地下町遺跡	1号土坑	陶器 土瓶	(4.0)		口縁部	瀬戸黄瀬	赤	
152	16	早府地下町遺跡	1号土坑	瓦 軒瓦	残長6.9/残幅6.8/重4.1/残高1.2/瓦縁長2.9					
152	17	早府地下町遺跡	2号土坑	瓦 瓦葺	残長7.5/残幅7.9/重2.1/残高2.6					
152	18	早府地下町遺跡	2号土坑	陶器			底部		赤	
152	19	早府地下町遺跡	2号土坑	磁器 碗		(3.4)	底部	瀬戸黄瀬系赤土	赤	
152	20	早府地下町遺跡	2号土坑	土師 かわらけ	(4.1)		底部	コクロナデ形、表面磨き赤土	中や赤、黒石、赤色粘	
152	21	早府地下町遺跡	2号土坑	土師 磁鉢			底部	コクロナデ形	中や赤、黒石、金雲母	
152	22	早府地下町遺跡	2号土坑	陶器 磁鉢	(35.6)		口縁→胴部	滑沢、黒石	赤	
152	23	早府地下町遺跡	3号土坑	磁器 碗			底部	肥前系高杯付	滑沢	
152	24	早府地下町遺跡	3号土坑	陶器 灯台受皿		(6.0)	口縁→底部	コクロナデ形	滑沢	
152	25	早府地下町遺跡	3号土坑	陶器 磁鉢	(18.0)		口縁部	瀬戸黄瀬	赤	
152	26	早府地下町遺跡	3号土坑	金雲母 釘	残長2.14/幅0.92/重1.5g					
152	27	早府地下町遺跡	3号土坑	金雲母 釘	残長4.49/幅0.90/重4.5g					
152	28	早府地下町遺跡	3号土坑	金雲母 釘	残長3.94/幅0.85/重4.4g					

出土遺物観察表 (12)

()は推定値、残欠は推定値

図	No.	出土遺物	検出地点	種別・器種	寸法 (cm) 口径×高さ×底径	部位	観察所見(成形・調整・文様・時代等)	胎土	備考
153	29	早稲地下町遺跡	3号土坑	金属類 釘	残欠2.41/残欠0.99/底2.76				
153	30	早稲地下町遺跡	3号土坑	金属類 釘	残欠2.52/残欠0.48/底2.76				
153	31	早稲地下町遺跡	4号土坑	磁器 蓋	(9.2) 2.8 3.9	つまみ一底面	瀬戸美濃系灰付、割形、19世紀後半以降	磁器	
153	32	早稲地下町遺跡	4号土坑	磁器 飯取皿	(10.0) 5.5 (4.1)	口縁一底面	瀬戸美濃系灰付、19世紀中葉	磁器	
153	33	早稲地下町遺跡	4号土坑	磁器 皿		口縁一底面	肥前系灰付、19世紀後半～19世紀初頭	磁器	
153	34	早稲地下町遺跡	4号土坑	陶器 漆器		口縁一底面	瀬戸美濃、割形、(割形・割形)	漆	
153	35	早稲地下町遺跡	4号土坑	陶器 漆器	(17.7)	口縁外	瀬戸美濃、灰塗	漆	
153	36	早稲地下町遺跡	4号土坑	瓦 丸瓦	残欠6.1/残欠6.0/残欠2.0/残欠1.9				
153	37	早稲地下町遺跡	1号溝	磁器 漆器	19.4 2.7 4.5	つまみ一底面	瀬戸美濃系灰付、割形等、明治20～40年代	磁器	
153	38	早稲地下町遺跡	1号溝	磁器 小瓶	7.1 3.3 3.1	口縁一底面	瀬戸美濃系灰付、割形等、明治20～40年代	磁器	
153	39	早稲地下町遺跡	1号溝	磁器 瓶	4.1 3.2	底面	瀬戸美濃系灰付、割形等、明治10～20年代	磁器	
153	40	早稲地下町遺跡	1号溝	磁器 碗	9.2 4.6 3.4	口縁一底面	瀬戸美濃系灰付、割形等、明治10～20年代	磁器	
153	41	早稲地下町遺跡	1号溝	磁器 碗	(11.0)	口縁一底面	肥前系灰付	陶器	
153	42	早稲地下町遺跡	1号溝	磁器 碗		口縁外	口縁外	陶器	
153	43	早稲地下町遺跡	1号溝	陶器 竹取皿	(13.4)	口縁一底面	口縁一底面、ロクロ成形、トビガシラ輪組み		
153	44	早稲地下町遺跡	1号溝	土器 磁器	長(7.2)/幅(7.2)/底1.2				今中館
153	45	早稲地下町遺跡	1号溝	土器 磁器					今中館
153	46	早稲地下町遺跡	1号溝	陶器 磁器	(11.0)	底面	瀬戸美濃、ロクロ成形、灰塗	漆	
153	47	早稲地下町遺跡	1号溝	土器 磁器		口縁一底面			
153	48	早稲地下町遺跡	1号溝	土製品 土鈴	長さ2/残欠1				今中館
153	49	早稲地下町遺跡	2号溝	磁器 小丸瓶		口縁外	肥前系灰付、18世紀後半～19世紀初頭	磁器	
153	50	早稲地下町遺跡	2号溝	磁器 碗		口縁外	肥前系灰付、19世紀後半～中葉	陶器	
153	51	早稲地下町遺跡	2号溝	磁器 碗		口縁外	肥前系灰付、19世紀後半～中葉	陶器	
153	52	早稲地下町遺跡	2号溝	磁器 小丸瓶		底面	肥前系灰付、18世紀後半～19世紀初頭	陶器	
153	53	早稲地下町遺跡	2号溝	磁器 瓶	(2.9)	体部一底面	瀬戸美濃系灰付	磁器	
153	54	早稲地下町遺跡	2号溝	陶器 土瓶		底面	瀬戸美濃、灰付	漆	
153	55	早稲地下町遺跡	2号溝	土器 かわむけ	(6.2) 4.2 (4.0)	口縁一底面	口縁一底面、瀬戸美濃系灰付	今中館、青石 瓦、金属類	
153	56	早稲地下町遺跡	2号溝	陶器 土鍋	(10.2)	口縁外	瀬戸美濃、内外研輪	漆	
153	57	早稲地下町遺跡	2号溝	陶器 土鍋	(18.2)	口縁一底面	瀬戸美濃、割形等	漆	
153	58	早稲地下町遺跡	2号溝	陶器 碗		体部一底面	瀬戸美濃、割形等あり	漆	
153	59	早稲地下町遺跡	3号溝	土器 かわむけ	7.3 1.8 5.1	口縁一底面	口縁一底面、底面輪組みあり	今中館、青石 瓦、金属類	
154	60	早稲地下町遺跡	3号溝	土器 かわむけ	(6.0)	底面	ロクロ成形、底面輪組みあり	今中館、青石 瓦、金属類	
154	61	早稲地下町遺跡	3号溝	陶器 灯明土瓦	(7.2) 1.8 (3.1)	口縁一底面	口縁一底面	今中館、青石 瓦、金属類	
154	62	早稲地下町遺跡	3号溝	ガラス製品			無色透明、欠角あり径1.6cm		
154	63	早稲地下町遺跡	3号溝	金属類 釘	残欠4.96/残欠1.22/底3.16				
154	64	早稲地下町遺跡	5号溝	陶器 御神酒徳利		底面	瀬戸美濃系灰付	陶器	
154	65	早稲地下町遺跡	5号溝	磁器 碗		底面	肥前系灰付、外研輪等、18世紀後半～19世紀初頭	陶器	
154	66	早稲地下町遺跡	6号溝	陶器 瓦		底面	瀬戸美濃	漆	
154	67	早稲地下町遺跡	6号溝	金属類 釘	残欠4.91/残欠1.06/底4.16				
154	68	早稲地下町遺跡	6号溝	金属類 釘	残欠4.21/残欠0.72/底3.36				
154	69	早稲地下町遺跡	P11-7	磁器 徳利		底面	肥前系灰付、18世紀後半	陶器	
154	70	早稲地下町遺跡	P11-7	磁器 碗		口縁外	瀬戸美濃系灰付、内外研輪	陶器	
154	71	早稲地下町遺跡	P11-7	土器 土鍋	6.7 2.7 4.4	口縁一底面	口縁一底面	今中館、青石 瓦、金属類	
154	72	早稲地下町遺跡	P11-7	陶器 漆器		底面	瀬戸美濃	漆、石瓦、瓦、片瓦	
154	73	早稲地下町遺跡	P11-8	陶器 漆器		口縁一底面	瀬戸美濃、割形	漆	
154	74	早稲地下町遺跡	P11-24,25	磁器 瓶		つまみ一底面	肥前系灰付、18世紀後半～19世紀中葉	陶器	
154	75	早稲地下町遺跡	P11-24,25	磁器 瓶	(6.7) 4.8 3.2	口縁一底面	瀬戸美濃系灰付、19世紀後半	陶器	
154	76	早稲地下町遺跡	P11-54	磁器 瓶	(9.2) 2.1 2.9	つまみ一底面	瀬戸美濃系灰付、コンシヤク度	陶器	
154	77	早稲地下町遺跡	P11-59	陶器 土瓶	(6.0)	口縁一底面	口縁一底面	漆	
154	78	早稲地下町遺跡	B-3-G	磁器 碗		底面	肥前系灰付、外研輪等	陶器	
154	79	早稲地下町遺跡	B-3-G	磁器 碗		底面	肥前系灰付、18世紀後半	陶器	
154	80	早稲地下町遺跡	B-3-G	磁器 碗	(7.2) 3.2 (2.2)	口縁一底面	瀬戸美濃系灰付、19世紀中葉	陶器	
154	81	早稲地下町遺跡	B-3-G	磁器 湯呑		底面	瀬戸美濃	陶器	
154	82	早稲地下町遺跡	B-3-G	陶器 土鍋	(6.4)	体部一底面	口縁一底面、足高付、点・窪底系、灰塗	漆	
154	83	早稲地下町遺跡	C-2-G	磁器 盆		口縁外	肥前系灰付、18世紀後半～19世紀初頭	陶器	
154	84	早稲地下町遺跡	C-2-G	磁器 盆		口縁外	肥前系灰付、18世紀後半	陶器	
154	85	早稲地下町遺跡	C-3-G	陶器 漆器	(2.0)	口縁外	瀬戸美濃、折返し口縁、割形	漆	
154	86	早稲地下町遺跡	D-2-G	磁器 小瓶	9.4	口縁一底面	瀬戸美濃系灰付、割形等、明治20～40年代	陶器	
154	87	早稲地下町遺跡	D-2-G	磁器 小瓶	(7.0) 5.0 (4.0)	口縁一底面	底面、口土・割形、明治後半～大正	陶器	

出十遺物觀察表 (13)

()は測定値, 円は保存位置

図	No.	出土遺跡	検出地点	種別・器種	直径 (cm)		部位	観察所見(成形・調整・文様・時代等)	胎土	備考
					口径	高さ				
104	88	甲府城下町遺跡	D-2G	磁器 高台弁		(10.3)	底面	付着台	中心部	
104	89	甲府城下町遺跡	D-3G	陶器 大丸	(32.0)		口縁部	泥筋、鉄線、内面三島弁	底	
104	90	甲府城下町遺跡	D-3G	磁器 丸		(12.7)	底面	磁戸美濃	底面	
104	91	甲府城下町遺跡	D-4G	陶器 丸			底面	磁戸美濃系陶片, 外周黒鉛土文	底面	
104	92	甲府城下町遺跡	一括	磁器 陶器			口縁部	肥前系陶片, 19世紀前半～中葉	底面	
104	93	甲府城下町遺跡	一括	磁器 紅梅文	(1.8)	(1.6)	口縁～底面	磁戸美濃, 外周黒鉛土	底面	
104	94	甲府城下町遺跡	一括	磁器 魚鱗文			口縁部	磁戸美濃系陶片, 明治前半	底面	
104	95	甲府城下町遺跡	一括	磁器 丸		(4.4)	縁部～底面	肥前系陶片, 肥/日製陶器, 19世紀前半～先葉	底面	
104	96	甲府城下町遺跡	一括	陶器 丸		(4.6)	縁部～底面	肥前系陶片	底面	
104	97	甲府城下町遺跡	一括	磁器 丸			口縁部	肥前系陶片, 19世紀前半～先葉	底面	
105	98	甲府城下町遺跡	一括	磁器 丸			口縁部	磁戸美濃系陶片, 19世紀中葉	底面	
105	99	甲府城下町遺跡	一括	陶器 丸		(4.6)	底面	磁戸美濃, 付着台、鉄線	底	
105	100	甲府城下町遺跡	一括	陶器 丸			底面	磁戸美濃, 外周黒鉛土、鉄線	底	
105	101	甲府城下町遺跡	一括	陶器 小坪		(2.9)	口縁部	磁器, 内面黒鉛土、鉄線、鉄線	底	
105	102	甲府城下町遺跡	一括	磁器 丸			底面	肥前系陶片, 鉄線, 19世紀前半	底面	
105	103	甲府城下町遺跡	一括	磁器 直		(6.2)	底面	磁戸美濃	底面	
105	104	甲府城下町遺跡	一括	磁器 直		(7.9)	底面	肥前系陶片, 肥/日製陶器, 19世紀中葉	底面	
105	105	甲府城下町遺跡	一括	陶器 瓦片	(24.0)		口縁部	磁戸美濃	底	
105	106	甲府城下町遺跡	一括	磁器 丸			底面	肥前系陶片, 19世紀中葉	底面	
105	107	甲府城下町遺跡	一括	陶器 大明瓦	(10.1)		口縁部	口ノ口成形, 鉄線	底	
105	108	甲府城下町遺跡	一括	瓦器 香炉		(6.4)	底面	口ノ口成形, 鉄線	底	
105	109	甲府城下町遺跡	一括	陶器 樽			底面	磁戸美濃, 鉄線	底	
105	110	甲府城下町遺跡	一括	土器 樽		(19.3)	底面		中心部, 石灰 黄土, 金雲母	
105	111	甲府城下町遺跡	一括	磁器 花筒	9.0		口縁部	磁戸美濃系陶片, 網目彫り, 明治20～40年代	底面	
105	112	甲府城下町遺跡	一括	磁器 花筒		8.0	口縁部	磁戸美濃系陶片, 網目彫り, 明治20～40年代	底面	
105	113	甲府城下町遺跡	一括	土器 樽		(12.0)	口縁部	磁器	中心部, 石灰 黄土, 金雲母	
105	114	甲府城下町遺跡	一括	土製品 ひん玉具	1.2 1.2	8.7	先形	列陶文, 白土	中心部, 石灰, 金雲母	
105	115	甲府城下町遺跡	一括	金雲母 硬質瓦	鉄線6.72/鉄線6.00/鉄線5.52					
104	1	甲府城下町遺跡	1号棟	磁器 小坪	5.6	3.9	2.8	口縁部	磁戸美濃系陶片	底面
104	2	甲府城下町遺跡	1号棟	磁器 小坪	5.6	3.9	2.8	口縁部	磁戸美濃系陶片, 19世紀前半～明治前半	底面
104	3	甲府城下町遺跡	1号棟	磁器 丸	(11.4)	2.3	(5.9)	口縁部	磁戸美濃系陶片, 底面一重線	底面
104	4	甲府城下町遺跡	1号棟	陶器 直		(7.0)	底面	泥筋, 泥筋黒鉛土化粘土	底	
104	5	甲府城下町遺跡	1号棟	ガラス製 小瓶	(8.5)	9.7	5.6	口縁部	気泡あり, 無色透明	
104	6	甲府城下町遺跡	3号棟	土器 小皿	1.5	1.5	3.5	口縁部	底面	中心部, 金雲母 黄土, 金雲母
104	7	甲府城下町遺跡	3号棟	土器 小皿	(9.9)	2.7	(6.9)	口縁部	底面一重線	中心部, 石灰 黄土, 金雲母
104	8	甲府城下町遺跡	1号倉庫	磁器 丸	(16.4)	5.1	(2.7)	口縁部	磁戸美濃系陶片, 明治前半	底面
104	9	甲府城下町遺跡	1号倉庫	磁器 小坪	7.1	3.9	4.1	底面	磁戸美濃系陶片, 明治前半	底面
104	10	甲府城下町遺跡	3号倉庫	磁器 小坪		4.1		口縁部	磁戸美濃系陶片, 19世紀前半～明治前半	底面
104	11	甲府城下町遺跡	3号倉庫	磁器 小坪				底面	磁戸美濃系陶片, 明治前半	底面
104	12	甲府城下町遺跡	3号倉庫	磁器 小坪			(3.6)	底面	磁戸美濃系陶片, 鉄線彫り, 明治10～20年代	底面
104	13	甲府城下町遺跡	3号倉庫	磁器 丸	(12.0)	5.3	(5.1)	口縁部	磁戸美濃, 上輪, 明治期	底面
104	14	甲府城下町遺跡	3号倉庫	磁器 小坪	(6.0)	4.05	(2.9)	口縁部	磁戸美濃系陶片	底面
104	15	甲府城下町遺跡	3号倉庫	土器 磁器	(14.4)	6.30	(6.7)	口縁部	底面網目彫り, 厚径2.5cm	中心部, 石灰, 金雲母 黄土, 金雲母
104	16	甲府城下町遺跡	3号倉庫	陶器 丸		(16.0)	底面	埴・明石	底	
104	17	甲府城下町遺跡	3号倉庫	陶器 丸		(7.4)	底面	外周黒鉛土, 外至ノケ付	底	
104	18	甲府城下町遺跡	3号倉庫	陶器 樽	25.5	13.0	11.6	口縁部	磁戸美濃, 肥/日製陶器, 高台内輪縁 内至ノケ付～外至輪	底
104	19	甲府城下町遺跡	3号倉庫	陶器 樽	(41.5)			口縁部	鉄線	底, 赤褐色
104	20	甲府城下町遺跡	3号倉庫	陶器 樽	(15.0)			口縁部	磁戸美濃, 内外至輪	底
105	21	甲府城下町遺跡	1号井戸	磁器 丸		8.2	口縁部	磁戸美濃系陶片, 鉄線彫り, 明治10～20年代	底面	
105	22	甲府城下町遺跡	1号井戸	磁器 小坪	7.2	2.0	2.6	底面	磁戸美濃系陶片, 明治前半	底面
105	23	甲府城下町遺跡	1号井戸	磁器 磁器				口縁部	肥前系陶片, 鉄線, 19世紀前半～中葉	底面
105	24	甲府城下町遺跡	1号井戸	磁器 丸	9.7	4.1	3.5	口縁部	磁戸美濃系陶片, 網目彫り, 明治10年代～大正	底面
105	25	甲府城下町遺跡	1号井戸	磁器 丸				口縁部	磁戸美濃系陶片, 鉄線彫り, 明治10～20年代	底面
105	26	甲府城下町遺跡	1号井戸	磁器 直	16.5	2.1	6.1	口縁部	磁戸美濃系陶片, 鉄線彫り, ノロム等線, 底面 明治10～20年代	底面
105	27	甲府城下町遺跡	1号井戸	磁器 磁器	(5.1)	5.7	3.2	口縁部	磁戸美濃系陶片, クロム等線, 明治期	底面
105	28	甲府城下町遺跡	1号井戸	磁器 磁器				底面	磁戸美濃系陶片, 外周黒鉛土, 明治期	底面
105	29	甲府城下町遺跡	1号井戸	磁器 磁器		(6.6)	底面	磁戸美濃系陶片, クロム等線, 明治期	底面	
105	30	甲府城下町遺跡	1号井戸	瓦製 瓦	長13.8/幅6.1/厚2.3			底面	底面	
105	31	甲府城下町遺跡	1号井戸	瓦 和瓦	長10.2/幅5.2				底面	
105	32	甲府城下町遺跡	3号井戸	磁器 魚鱗文	5.1	2.0		口縁部	磁戸美濃系陶片, 明治前半	底面

出土遺物観察表 (14)

()は推定値, 2は共存数

図	No.	出土遺跡	発出地点	種別・器種	法量 (cm)		部位	観察所見(成形・調整・文様・時代等)	胎土	備考	
					口径	高さ					
165	20	早稲埜下町遺跡	2号石列	磁器 茶			白磁土	肥前系灰付, 19世紀中葉~明治前半	磁器		
165	24	早稲埜下町遺跡	2号石列	磁器 小茶	6.7	2.7	3.7	口縁~底縁	肥前系灰付, 肥後系灰, 明治前半~1900年代	磁器	
165	35	早稲埜下町遺跡	2号石列	磁器 小茶			2.9	口縁~底縁	肥前系灰付, 肥後系	磁器	
165	36	早稲埜下町遺跡	2号石列	磁器 蓋				底縁	肥前系灰付, 色絵, 明治期	磁器	
165	37	早稲埜下町遺跡	2号石列	陶器 皿	(15.0)			口縁部	肥前系灰, 内丹塗施装	磁器	
165	38	早稲埜下町遺跡	2号石列	磁器 湯呑茶	(10.4)			口縁~底縁	肥前系灰付	磁器	
165	39	早稲埜下町遺跡	2号石列	瓦 軒瓦					三之(左型)		
165	40	早稲埜下町遺跡	3号石列	陶器 壺				白磁土	肥前系灰, 陶繪	磁器	
165	41	早稲埜下町遺跡	池跡	磁器 小茶	5.8	4.3	2.8	口縁~底縁	肥前系灰付, 明治初期	磁器	
165	42	早稲埜下町遺跡	池跡	磁器 小茶	6.1	4.6	2.7	口縁	肥前系灰付, 明治初期	磁器	
165	43	早稲埜下町遺跡	池跡	磁器 小茶	5.9	4.6	2.7	口縁~底縁	肥前系灰付, 明治初期	磁器	
165	44	早稲埜下町遺跡	池跡	磁器 小茶	(6.7)	2.7	2.0	略先部	肥前系灰付, 肥後系灰付, 肥後系灰付	磁器	
165	45	早稲埜下町遺跡	池跡	磁器 小茶	(6.2)	2.9	2.1	略先部	肥前系灰付, 肥後系灰付, 肥後系灰付	磁器	
165	46	早稲埜下町遺跡	池跡	磁器 小茶				4.2	底縁	肥前系灰付, 肥後系灰付	磁器
165	47	早稲埜下町遺跡	池跡	磁器 茶	(7.3)	2.4	3.0	口縁~底縁	肥前系灰付, 明治前半	磁器	
165	48	早稲埜下町遺跡	池跡	磁器 蓋				口縁~底縁	肥前系灰付, コバルト施, 明治前半	磁器	
165	49	早稲埜下町遺跡	池跡	磁器 碗	9.9	4.2	3.8	口縁~底縁	肥前系灰付, 型残存, 明治10~20年代	磁器	
165	50	早稲埜下町遺跡	池跡	磁器 碗	10.5	4.0	3.4	口縁~底縁	肥前系灰付, 型残存, 明治10~20年代	磁器	
165	51	早稲埜下町遺跡	池跡	磁器 碗	11.5	4.3	4.1	口縁~底縁	肥前系灰付, 型残存, 明治10~20年代	磁器	
165	52	早稲埜下町遺跡	池跡	磁器 碗	(10.9)	5.4	4.3	口縁~底縁	肥前系灰付, 19世紀後半	磁器	
165	53	早稲埜下町遺跡	池跡	磁器 碗				口縁部	肥前系灰付, シロム青染, 明治期	磁器	
165	54	早稲埜下町遺跡	池跡	磁器 碗				4.2	底縁	肥前系灰付, 19世紀中葉	磁器
165	55	早稲埜下町遺跡	池跡	磁器 碗				底縁	肥前系灰付, 19世紀中葉~明治初期	磁器	
165	56	早稲埜下町遺跡	池跡	磁器 碗				3.6	底縁	肥前系灰付, 型残存, 明治10~20年代	磁器
165	57	早稲埜下町遺跡	池跡	磁器 碗	(16.4)	4.9	3.6	口縁~底縁	肥前系灰付, 明治前半	磁器	
165	58	早稲埜下町遺跡	池跡	磁器 碗				口縁部	肥前系灰付, 19世紀前半~中葉	磁器	
165	59	早稲埜下町遺跡	池跡	磁器 蓋	11.4	2.2	6.1	口縁~底縁	肥前系灰付, コバルト施, 明治前半	磁器	
165	60	早稲埜下町遺跡	池跡	磁器 皿	11.0	2.1	6.3	口縁~底縁	肥前系灰付, コバルト施, 明治前半	磁器	
165	61	早稲埜下町遺跡	池跡	磁器 角皿	(22.5)	3.6	(11.0)	口縁~底縁	肥前系灰付, 肥後系灰付, 明治後半~大正	磁器	
165	62	早稲埜下町遺跡	池跡	磁器 小皿	(5.0)	2.0	4.2	口縁~底縁	肥前系灰付, 肥後系灰付, 肥後系灰付, 人形面, 縁刻	磁器	
165	63	早稲埜下町遺跡	池跡	磁器 皿	13.0	1.9	6.8	口縁~底縁	肥前系灰付, 縁刻等, 明治20~40年代	磁器	
165	64	早稲埜下町遺跡	池跡	磁器 皿	(12.1)	2.8	6.1	口縁~底縁	肥前系灰付, 明治期	磁器	
165	65	早稲埜下町遺跡	池跡	磁器 鉢	12.7	2.0	6.6	口縁~底縁	肥前系灰付, シロム青染, 明治期	磁器	
165	66	早稲埜下町遺跡	池跡	磁器 鉢	(15.8)	6.5	(10.2)	口縁~底縁	肥前系灰付, 肥後系灰付, 肥後系灰付, 肥後系灰付	磁器	
165	67	早稲埜下町遺跡	池跡	磁器 鉢	(15.3)			口縁~底縁	肥前系灰付, 肥後系灰付	磁器	
165	68	早稲埜下町遺跡	池跡	磁器 盆	10.5	6.9	(4.0)	口縁~底縁	肥前系灰付, 漆施, 外丹塗施装, 幕末~明治初期	磁器	
165	69	早稲埜下町遺跡	池跡	磁器 湯呑茶	5.9	6.0	3.9	口縁~底縁	肥前系灰付, コバルト施, 明治初期	磁器	
165	70	早稲埜下町遺跡	池跡	磁器 碗				口縁部	肥前系灰付, 19世紀中葉	磁器	
165	71	早稲埜下町遺跡	池跡	磁器 碗				口縁~底縁	肥前系灰付, 19世紀末~19世紀初頭	磁器	
165	72	早稲埜下町遺跡	池跡	磁器 八角鉢				口縁~底縁	肥前系灰付, 19世紀前半~中葉	磁器	
165	73	早稲埜下町遺跡	池跡	陶器 土鍋	7.3	3.0		略先部	肥前系, 明治期	磁器	
165	74	早稲埜下町遺跡	池跡	陶器 土鍋	(8.2)	16.8	(8.0)	口縁~底縁	肥前系, 明治期	磁器	
165	75	早稲埜下町遺跡	池跡	磁器 急須	(6.3)			口縁~底縁	肥前系灰付, 明治前半	磁器	
165	76	早稲埜下町遺跡	池跡	磁器 土瓶	(7.2)			口縁部	肥前系灰付, 明治前半	磁器	
165	77	早稲埜下町遺跡	池跡	陶器 汽車土瓶			(6.6)	底縁	磁土	磁器	
165	78	早稲埜下町遺跡	池跡	陶器 汽車土瓶				口縁~底縁	磁土, 体部に「立口」の文字	磁器	
165	79	早稲埜下町遺跡	池跡	磁器 燗瓶				底縁	肥前系灰付, 盛縁, 明治期	磁器	
165	80	早稲埜下町遺跡	池跡	磁器 茶封				底縁	肥前系灰付	磁器	
165	81	早稲埜下町遺跡	池跡	磁器 茶封	(3.0)			口縁~底縁	肥前系灰付	磁器	
165	82	早稲埜下町遺跡	池跡	陶器 土鍋	(18.3)			口縁~底縁	肥前系, 明治期	磁器	
165	83	早稲埜下町遺跡	池跡	陶器 土鍋	(18.1)			口縁~底縁	肥前系	磁器	
165	84	早稲埜下町遺跡	池跡	陶器 蓋			3.2	口縁~底縁	肥前系	磁器	
165	85	早稲埜下町遺跡	池跡	土器 焼土瓶	16.7	6.3	5.7	口縁~底縁	肥前系灰付	中~古磁器	
165	86	早稲埜下町遺跡	T x - 2	磁器 蓋	(8.9)	2.2	3.4	口縁~底縁	肥前系灰付, コバルト施, 明治前半	磁器	
165	87	早稲埜下町遺跡	T x - 2	磁器 蓋	8.5	1.7		口縁部	肥前系灰付, 型残存, 盛縁不具, 明治10~20年代	磁器	
165	88	早稲埜下町遺跡	T x - 2	磁器 蓋	(16.0)	3.0	4.0	口縁~底縁	肥前系灰付, 19世紀中葉	磁器	
165	89	早稲埜下町遺跡	T x - 2	磁器 蓋				口縁部	肥前系灰付, 19世紀前半~中葉	磁器	
165	90	早稲埜下町遺跡	T x - 2	磁器 小茶	(1.9)	4.5	2.6	口縁~底縁	肥前系灰付, コバルト施, 明治前半	磁器	
165	91	早稲埜下町遺跡	T x - 2	磁器 小茶				口縁~底縁	肥前系灰付, 19世紀後半	磁器	
165	92	早稲埜下町遺跡	T x - 2	磁器 碗	(9.4)	4.0	3.4	口縁~底縁	肥前系灰付, 明治初期	磁器	

出上遺物觀察表 (15)

()は推定値、度は推定値

図	No	出土遺物	検出地点	種別・器種	赤径 (cm)		口径	底径	部位	観察所見(成形・調整・文様・時代等)	胎土	備考
					口径	底径						
168	93	甲冑城下町遺跡	T-r-2	磁器 碗	(11.3)	4.3	2.7	口縁~底面	瀬戸美濃系灰白付、型模写、明治10~20年代	磁器		
168	94	甲冑城下町遺跡	T-r-2	磁器 碗状物				口縁部	瀬戸美濃系灰白付、19世紀前半~中葉	磁器		
168	95	甲冑城下町遺跡	T-r-2	磁器 碗状物				底面	瀬戸美濃系灰白付、19世紀前半~中葉	磁器		
168	96	甲冑城下町遺跡	T-r-2	磁器 浅鉢	(6.0)			口縁~底面	瀬戸美濃系灰白付、19世紀前半~19世紀初葉	磁器		
168	97	甲冑城下町遺跡	T-r-2	磁器 碗状物				口縁~底面	瀬戸美濃系灰白付、明治前半、内面灰白文様	磁器		
168	98	甲冑城下町遺跡	T-r-2	磁器 鉢				底面	瀬戸美濃系灰白付、19世紀前半、底面	磁器		
168	99	甲冑城下町遺跡	T-r-2	磁器 土				底面	瀬戸美濃系灰白付、19世紀前半~19世紀中葉、底面	磁器		
168	100	甲冑城下町遺跡	T-r-2	磁器 土	(14.1)	1.3	(3.1)	口縁~底面	瀬戸美濃系灰白付、19世紀前半	磁器		
168	101	甲冑城下町遺跡	T-r-2	磁器 鉢				口縁部	肥前系灰白付、形部、19世紀前半~中葉	磁器		
168	102	甲冑城下町遺跡	T-r-2	磁器 鉢				口縁部	瀬戸美濃系灰白付、形部	磁器		
168	103	甲冑城下町遺跡	T-r-2	磁器 碗				口縁~底面	肥前系灰白付、19世紀前半~中葉	磁器		
168	104	甲冑城下町遺跡	T-r-2	磁器 土	(7.2)			口縁部	瀬戸美濃系灰白付、明治前半	磁器		
168	105	甲冑城下町遺跡	T-r-2	陶器 土	底径4.6/底径2.0			底口	瀬戸美濃、コバルト軸	磁器		
168	106	甲冑城下町遺跡	T-r-2	陶器 打明瓦	(6.5)		(4.0)	口縁~底面	丹波上総系、内面磨粉、外面灰白~厚層釉	磁器		
168	107	甲冑城下町遺跡	T-r-2	陶器 鉢			(15.0)	底面	瀬戸美濃系灰白付、内外面灰白、底面~底面磨粉	磁器		
168	108	甲冑城下町遺跡	T-r-2	陶器 惣鉢				底面	肥前系灰白付、形部、19世紀前半	磁器		
168	109	甲冑城下町遺跡	T-r-2	陶器 浅鉢				口縁部	瀬戸美濃系灰白付、内外面磨粉	磁器		
168	110	甲冑城下町遺跡	T-r-2	陶器		4.1	5.0		底面~底面加工部	磁器		
168	111	甲冑城下町遺跡	T-r-2	土器 唾木鉢	(14.0)	6.7	(9.2)	口縁~底面	肥前系灰白付、形部	今半磁器		
168	112	甲冑城下町遺跡	T-r-2	土器 唾木鉢			(9.4)	底面	肥前系灰白付、形部	今半磁器		
168	113	甲冑城下町遺跡	T-r-2	土	高10.6/底径19.6/底径5.3							
168	114	甲冑城下町遺跡	T-r-2	土器 燈台		12.2					今半磁器	
168	115	甲冑城下町遺跡	T-r-3	磁器 小杯			3.0	底面	瀬戸美濃系灰白付、明治前半	磁器		
168	116	甲冑城下町遺跡	T-r-3	磁器 碗	(8.2)	2.6	(2.2)	口縁部	肥前系灰白付、19世紀前半~中葉	磁器		
168	117	甲冑城下町遺跡	T-r-3	磁器 盃	(9.0)	2.2	(2.0)	口縁部	瀬戸美濃系灰白付、明治前半、明治10~40年代	磁器		
168	118	甲冑城下町遺跡	T-r-3	磁器 鉢				口縁部	肥前系灰白付、19世紀前半、明治前半	磁器		
168	119	甲冑城下町遺跡	T-r-3	磁器 鉢			4.2	底面	瀬戸美濃系灰白付、大工~明治20年代、底面	磁器		
168	120	甲冑城下町遺跡	T-r-3	磁器 碗				口縁部	肥前系灰白付、19世紀後半	磁器		
168	121	甲冑城下町遺跡	T-r-3	磁器 浅鉢				口縁部	肥前系灰白付、19世紀中葉	磁器		
168	122	甲冑城下町遺跡	T-r-3	磁器 碗			(2.5)	底面	肥前系(新見系)灰白付、19世紀後半~19世紀初葉	磁器		
168	123	甲冑城下町遺跡	T-r-3	磁器 小杯	7.5	2.9	4.1	口縁~底面	瀬戸美濃系灰白付、明治前半	磁器		
168	124	甲冑城下町遺跡	T-r-3	磁器 碗状物				底面	瀬戸美濃系灰白付、19世紀中葉	磁器		
168	125	甲冑城下町遺跡	T-r-3	磁器 碗				口縁~底面	瀬戸美濃系灰白付、明治前半、明治10~40年代	磁器		
168	126	甲冑城下町遺跡	T-r-3	磁器 小丸筒				口縁部	肥前系灰白付、19世紀末~19世紀初葉	磁器		
168	127	甲冑城下町遺跡	T-r-3	磁器 浅鉢	(6.5)	5.0	2.7	口縁~底面	瀬戸美濃系灰白付、19世紀前半	磁器		
168	128	甲冑城下町遺跡	T-r-3	磁器 皿	(12.0)	2.1	(7.3)	口縁~底面	瀬戸美濃系灰白付、明治前半、明治10~40年代	磁器		
168	129	甲冑城下町遺跡	T-r-3	陶器 土			(7.1)	底面	瀬戸美濃	磁器		
168	130	甲冑城下町遺跡	T-r-3	磁器 文				底面	肥前系灰白付、19世紀後半	磁器		
168	131	甲冑城下町遺跡	T-r-3	磁器 皿			(7.4)	底面	肥前系灰白付、型模写、磨粉、底面不良、明治10~20年代	磁器		
168	132	甲冑城下町遺跡	T-r-3	磁器 浅鉢				口縁部	肥前系灰白付、型模写、17世紀末	磁器		
168	133	甲冑城下町遺跡	T-r-3	磁器 浅鉢				底面	肥前系灰白付、19世紀末~19世紀中葉	磁器		
168	134	甲冑城下町遺跡	T-r-3	陶器 唾木鉢			(7.6)	底面	瀬戸美濃系灰白付、明治前半、明治後半	磁器		
168	135	甲冑城下町遺跡	T-r-3	磁器 鉢			(5.4)	口縁~底面	瀬戸美濃系灰白付、明治前半	磁器		
168	136	甲冑城下町遺跡	T-r-3	磁器 鉢			5.7	底面	肥前系灰白付、19世紀後半	磁器		
168	137	甲冑城下町遺跡	T-r-4	磁器 小杯	6.2	4.2	2.7	口縁~底面	瀬戸美濃系灰白付、明治前半	磁器		
168	138	甲冑城下町遺跡	T-r-4	磁器 碗状物	(5.0)	2.0	3.3	口縁部	肥前系灰白付、19世紀前半	磁器		
168	139	甲冑城下町遺跡	T-r-4	磁器 浅鉢	(9.0)	4.0	3.9	口縁~底面	瀬戸美濃系灰白付、19世紀初葉	磁器		
168	140	甲冑城下町遺跡	T-r-4	磁器 惣鉢				底面	肥前系灰白付	磁器		
170	141	甲冑城下町遺跡	T-r-6	磁器 盃	(9.3)	2.7	3.7	口縁部	瀬戸美濃系灰白付、明治前半、明治10~40年代	磁器		
170	142	甲冑城下町遺跡	T-r-6	磁器 盃				口縁~底面	肥前系灰白付、19世紀前半~中葉	磁器		
170	143	甲冑城下町遺跡	T-r-6	陶器 唾木鉢			(7.0)	底面	瀬戸美濃系灰白付、外底磨粉	磁器		
170	144	甲冑城下町遺跡	T-r-6	陶器 土	(16.0)			口縁部	瀬戸美濃系灰白付、内外面磨粉	磁器		
170	145	甲冑城下町遺跡	T-r-6	土製品 土	底径2.2	2.7		底面	丹波、丹波系、内面磨粉	今半磁器		
170	146	甲冑城下町遺跡	T-r-7	陶器 打明瓦	(6.5)	1.5	(2.0)	口縁~底面	口縁部、内面磨粉、外面打明瓦、理取	磁器		
170	147	甲冑城下町遺跡	一部	磁器 小杯	(7.0)	4.0	(3.0)	口縁~底面	瀬戸美濃系灰白付、19世紀後半	磁器		
170	148	甲冑城下町遺跡	一部	磁器 鉢	(8.2)	5.1	3.9	口縁~底面	瀬戸美濃系灰白付、明治前半	磁器		
170	149	甲冑城下町遺跡	一部	磁器 鉢		2.5		底面	肥前系灰白付、孔徑11mm、白色不透明	磁器		
170	150	甲冑城下町遺跡	一部	陶器 唾木鉢				口縁部	瀬戸美濃系灰白付、内外面磨粉	磁器		
170	151	甲冑城下町遺跡	一部	磁器 碗状物	(11.1)			口縁~底面	肥前系灰白付、型模写、19世紀前半~中葉	磁器		

出土遺物観察表(16)

()は推定値、或は存在数量

図	No.	出土遺跡	検出地点	種別・器種	法量 (cm)		部位	観察所見(成形・調候・文様・時代等)	胎土	備考
					口径	高さ/底径				
150	152	甲府城下町遺跡	茨城	磁器 蓋	(9.0)	2.6	3.1	つぶみ一磁器	瀬戸焼成系土質、19世紀前半～中期	磁器
150	153	甲府城下町遺跡	茨城	磁器 蓋	(9.4)	2.6	2.7	つぶみ一磁器	瀬戸焼成系土質、19世紀中葉	磁器
150	154	甲府城下町遺跡	茨城	磁器 筒			(5.0)	磁器	瀬戸焼成系土質、19世紀前半	磁器
150	155	甲府城下町遺跡	茨城	金属器 金具	長6.2/幅3.7/厚2.6/重10.1g					
150	156	甲府城下町遺跡	茨城	金属器 鉄	長5.11/幅4.68/厚2.76/重18.1g					
150	157	甲府城下町遺跡	茨城	金属器 鉄刀	長9.17/幅7.15/厚6.46/重24.5g					
150	158	甲府城下町遺跡	茨城	金属器 金具	長5.59/幅5.20/厚1.24/重2.04g					
150	159	甲府城下町遺跡	茨城	金属器 釘	長5.72/幅5.20/厚1.24/重2.0g					
150	160	甲府城下町遺跡	茨城	金属器 金具	長2.62/幅2.20/厚0.19/重1.93g					
150	161	甲府城下町遺跡	茨城	磁器	径2.78/厚0.08/重0.07g				瓦水透安	
150	162	甲府城下町遺跡	茨城	磁器	径2.75/厚0.1/重0.37g				瓦1 磁器質『大9号 明治十五年 15SEN』製あり	
150	163	甲府城下町遺跡	一色	磁器	径2.78/厚0.08/重0.92g				瓦水透安	
151	164	甲府城下町遺跡	2号井戸	木製品 桶底	径14.0/厚10.0					
151	165	甲府城下町遺跡	池原	木製品 下駄	長20.3/幅6.1/厚2.5					
151	166	甲府城下町遺跡	池原	木製品 漆碗	(11.2)	(5.3)		口径一底径	彩色	
151	167	甲府城下町遺跡	池原	木製品 漆碗	径5.5/幅0.8					
151	168	甲府城下町遺跡	池原	木製品 漆碗	径5.5/幅0.8					
151	169	甲府城下町遺跡	池原	木製品	長11.3/幅5.2/厚0.2					
151	170	甲府城下町遺跡	池原	木製品 磁蓋	長19.0/幅11.5/厚1.0					
151	171	甲府城下町遺跡	池原	木製品	長17.0/幅6.0/厚0.3					
151	172	甲府城下町遺跡	池原	木製品	長16.0/幅4.0/厚2.0					
151	173	甲府城下町遺跡	T-1	木製品 蓋	長7.1/幅2.5/厚0.6					瓦水透安
151	174	甲府城下町遺跡	T-2	木製品 蓋	長15.0/幅4.0/厚0.5					瓦水透安
151	175	甲府城下町遺跡	T-2	木製品 下駄	長16.2/幅7.0/厚1.3					
151	176	甲府城下町遺跡	T-2	木製品 漆碗	長22.3/幅6.7/厚0.8					
151	177	甲府城下町遺跡	T-2	木製品 漆碗	長19.0/幅7.1/厚0.8					瓦17上 磁器
151	178	甲府城下町遺跡	T-2	木製品 桶底	長21.5/幅5.2/厚0.9					瓦17上 磁器
151	179	甲府城下町遺跡	T-2	木製品 漆碗	長20.3/幅6.0/厚1.1					瓦17上 磁器
151	1	甲府城下町遺跡	一色	陶器 杉皿	(8.4)	1.6	(3.0)	口径一底径		
151	2	甲府城下町遺跡	一色	磁器 小皿				口径一底径	瀬戸焼成系土質、内内外口露出残塊、ターコ付者	磁器
151	1	甲府城下町遺跡	T-P-3	土器 小わらじ			(5.0)	底面	ロクロ成形、底面彫刻あり	彩色 今中色、赤色斑 黒磁器、石灰
151	2	甲府城下町遺跡	T-P-3	土器 土鍋			(8.0)	底面	ロクロ成形、内面彫刻、足刻付	今中色
151	3	甲府城下町遺跡	T-P-3	土器 漆碗				底面一底径	ロクロ成形	瓦、赤色斑 金蓋付、石灰
151	4	甲府城下町遺跡	T-P-3	土製品	9.2	3.4	(2.3)		ロクロ成形	今中色、赤色斑、黒石 蓋、黒磁器、石灰
151	1	甲府城下町遺跡	1号井戸	土器 小わらじ			(5.0)	底面	ロクロ成形、底面彫刻あり	今中色、赤石 石灰、赤色斑
151	2	甲府城下町遺跡	1号井戸	土器 皿	(14.7)	4.2	(12.0)	口径一底径	T-P、ヌス科者	今中色、黒石
151	3	甲府城下町遺跡	1号井戸	土器 漆碗	(21.0)	4.1	(20.0)	口径一底径	T-P	今中色、黒石、石灰
151	4	甲府城下町遺跡	1号井戸	陶器 香炉			5.1	底面	瀬戸焼成、磁胎、3足刻付、見込目僅か	今中色、黒石、石灰
151	5	甲府城下町遺跡	1号井戸	陶器 碗			(5.3)	底面	瀬戸焼成、磁胎	今中色、黒石、石灰
151	6	甲府城下町遺跡	1号井戸	陶器 漆碗			(11.0)	底面	瀬戸焼成、磁胎、底面彫刻あり	今中色、黒石
150	7	甲府城下町遺跡	1号井戸	陶器 漆碗	(20.8)			口径一底径	白磁器	今中色、黒石
150	8	甲府城下町遺跡	1号井戸	磁器 鉢				口径一底径	肥前系土質、17世紀後半～18世紀前半、漆黒	磁器
150	9	甲府城下町遺跡	1号井戸	磁器 鉢				口径一底径	肥前系土質、18世紀前半	磁器
150	10	甲府城下町遺跡	1号井戸	磁器 鉢			(4.2)	底面一底径	肥前系(成生色)土質、1600年代	磁器
150	11	甲府城下町遺跡	1号井戸	磁器 蓋			(8.0)	底面一底径	肥前系土質、見込目赤、外底彫文	磁器
150	12	甲府城下町遺跡	1号井戸	磁器 碗				底面一底径	肥前系土質、17世紀後半～18世紀前半	磁器
150	13	甲府城下町遺跡	1号井戸	瓦 瓦瓦	径長10.0/幅長6.4/厚2.0				外蓋一タケズリ、内面白目	今中色、黒石
150	14	甲府城下町遺跡	1号井戸	瓦 瓦瓦	径長7.5/幅長5.0/厚1.7				内面白目	今中色、黒石
150	15	甲府城下町遺跡	1号井戸	瓦 瓦瓦	径長4.0/幅長3.0/厚1.9				内面白目	今中色、黒石
150	16	甲府城下町遺跡	5号石列	磁器 碗			(5.3)	底面一底径	瀬戸焼成系土質、裏付科者	磁器
150	17	甲府城下町遺跡	南	陶器 漆碗				底面	ロクロ成形、磁胎	磁器
150	18	甲府城下町遺跡	南	磁器 鉢			(7.8)	底面	肥前系土質、見込目赤 底面彫刻『大正時代半葉』、18世紀前半	磁器
150	19	甲府城下町遺跡	北	磁器 鉢	(10.3)	6.1	4.7	口径一底径	瀬戸焼成系土質、T-P、大正第一昭和20年代	磁器
150	20	甲府城下町遺跡	北	磁器 鉢	11.0	6.1	3.9	口径一底径	瀬戸焼成系土質、T-P、大正第一昭和20年代	磁器
150	21	甲府城下町遺跡	北	磁器 鉢	11.5			口径一底径	瀬戸焼成系土質、T-P、大正第一昭和20年代	磁器
150	22	甲府城下町遺跡	北	磁器 鉢			(10.0)	底面一底径	肥前系土質、陶作り、見込目黒高台 外底彫文一タケ	磁器
150	23	甲府城下町遺跡	北	磁器 鉢	(20.0)	6.4	(16.0)	口径一底径	瀬戸焼成系土質、陶作り、見込目黒高台 外底彫文一タケ	磁器
150	24	甲府城下町遺跡	北	ガラス製品 磁器	(6.0)	2.1	7.0	口径一底径	陶器成形、彩色不透明、漆黒彫刻『皇朝皇帝』	磁器

出土遺物観察表 (17)

()は測定値、又は保存状態

図	No.	出土遺物	検出地点	種別・器種	質量 (g)		部位	観察所見 (成形・調色・文様・時代等)	出土	備考		
					口径	底径						
180	25	甲冑塚下可遺跡	北	ガラス製品 化形瓶	(4.0)		口縁～底部	口縁成形、自内下透明、スクリュー線	鎌倉	北野上 塚-7		
180	26	甲冑塚下可遺跡	北	ガラス製品 壺		3.0	口縁～底部	口縁成形、半透明、底縁角あり	鎌倉	北野上 塚-7		
180	27	甲冑塚下可遺跡	北	ガラス製品 化形瓶		3.3	口縁～底部	口縁成形、口弁不透明	鎌倉	北野上 塚-7		
181	28	甲冑塚下可遺跡	一帯	磁器 瓶			口縁部	彫刻系陶片、13世紀中葉～14世紀	鎌倉			
181	29	甲冑塚下可遺跡	一帯	磁器 瓶		(4.0)	底部	彫刻系陶片、ゾム系、大正末～昭和20年頃	鎌倉			
181	30	甲冑塚下可遺跡	一帯	磁器 瓶			口縁～底部	彫刻系陶片、ゾム系、大正末～昭和20年頃	鎌倉			
181	31	甲冑塚下可遺跡	一帯	磁器 瓶	(5.2)	5.1	3.0	口縁～底部	彫刻系陶片、ゾム系、大正末～昭和20年頃	鎌倉		
181	32	甲冑塚下可遺跡	一帯	磁器 瓶	(10.4)	5.7	3.4	口縁～底部	彫刻系陶片、ゾム系、大正末～昭和20年頃	鎌倉		
181	33	甲冑塚下可遺跡	一帯	磁器 瓶	11.0			口縁～底部	彫刻系陶片、ゾム系、大正末～昭和20年頃	鎌倉		
181	34	甲冑塚下可遺跡	一帯	磁器 瓶	11.9			口縁～底部	彫刻系陶片、ゾム系、大正末～昭和20年頃	鎌倉		
181	35	甲冑塚下可遺跡	一帯	磁器 瓶	(10.2)			口縁～底部	彫刻系陶片、ゾム系、大正末～昭和20年頃	鎌倉		
181	36	甲冑塚下可遺跡	一帯	磁器 瓶	(10.7)			口縁～底部	彫刻系陶片、ゾム系、大正末～昭和20年頃	鎌倉		
181	37	甲冑塚下可遺跡	一帯	磁器 瓶	11.2	6.0	3.7	口縁～底部	彫刻系陶片、ゾム系、大正末～昭和20年頃	鎌倉		
181	38	甲冑塚下可遺跡	一帯	磁器 壺	(6.0)	6.1	3.0	口縁～底部	彫刻系陶片、赤土、透影に文字あり	鎌倉		
181	39	甲冑塚下可遺跡	一帯	磁器 壺	(6.0)	6.1	3.0	口縁～底部	彫刻系陶片、赤土、透影に文字あり	鎌倉		
181	40	甲冑塚下可遺跡	一帯	磁器 壺	(10.0)	5.5	3.5	口縁～底部	彫刻系陶片、赤土、透影に文字あり	鎌倉		
181	41	甲冑塚下可遺跡	一帯	磁器 壺	(10.0)	5.7	3.9	口縁～底部	彫刻系陶片、赤土、透影に文字あり	鎌倉		
181	42	甲冑塚下可遺跡	一帯	磁器 壺	(11.1)	6.1	3.8	口縁～底部	彫刻系陶片、赤土、透影に文字あり、 口縁15～20代	鎌倉		
181	43	甲冑塚下可遺跡	一帯	磁器 壺	(11.1)	6.2	4.0	口縁～底部	彫刻系陶片、赤土、透影に文字あり	鎌倉		
181	44	甲冑塚下可遺跡	一帯	磁器 壺	11.4	5.4	3.8	口縁～底部	彫刻系陶片、ゾム系、大正末～昭和20年頃	鎌倉		
181	45	甲冑塚下可遺跡	一帯	磁器 壺	11.0	6.0	3.7	口縁～底部	彫刻系陶片、ゾム系、大正末～昭和20年頃	鎌倉		
181	46	甲冑塚下可遺跡	一帯	磁器 壺	(11.7)	5.5	3.4	口縁～底部	彫刻系陶片、赤土、透影に文字あり	鎌倉		
181	47	甲冑塚下可遺跡	一帯	磁器 壺	9.0	2.5	4.0	口縁～底部	彫刻系陶片、ゾム系 透影に赤土	鎌倉		
181	48	甲冑塚下可遺跡	一帯	磁器 壺	9.1	2.1	4.2	口縁～底部	彫刻系陶片、大正末～昭和20年頃	鎌倉		
181	49	甲冑塚下可遺跡	一帯	磁器 壺	6.5	2.5	3.8	口縁～底部	彫刻系陶片、赤土、透影に文字あり	鎌倉		
181	50	甲冑塚下可遺跡	一帯	磁器 壺	(10.2)	4.2	(4.0)	口縁～底部	彫刻系陶片、赤土、透影に文字あり	鎌倉		
181	51	甲冑塚下可遺跡	一帯	磁器 壺	(11.1)	5.0	(6.2)	口縁～底部	彫刻系陶片、ゾム系、大正末～昭和20年頃	鎌倉		
181	52	甲冑塚下可遺跡	一帯	陶器 壺	12.9	5.2		口縁～底部	赤土、割付	鎌倉		
182	53	甲冑塚下可遺跡	一帯	磁器 壺	12.8	2.0	7.3	口縁～底部	彫刻系陶片、赤土、透影に文字あり	鎌倉		
182	54	甲冑塚下可遺跡	一帯	磁器 壺	11.1			口縁～底部	彫刻系陶片、大正末～昭和20年頃	鎌倉		
182	55	甲冑塚下可遺跡	一帯	陶器 壺	幅5.6/最大幅6.6/最小幅2.6			彫刻系陶片、赤土	鎌倉			
182	56	甲冑塚下可遺跡	一帯	磁器 壺	9.0	2.0	4.7	口縁～底部	足込み彫刻	鎌倉		
182	57	甲冑塚下可遺跡	一帯	陶器 壺	(15.0)			口縁～底部		鎌倉	北野上 塚-7	
182	58	甲冑塚下可遺跡	一帯	陶器 壺		10.0		口縁～底部		鎌倉	北野上 塚-7	
182	59	甲冑塚下可遺跡	一帯	陶器 壺	13.0	5.0	5.5	つらみ～底部	ロクロ成形、鉄粉、緑褐色化粧土	鎌倉		
182	60	甲冑塚下可遺跡	一帯	陶器 壺	16.5	8.0	9.5	口縁～底部	ロクロ成形、鉄粉、底縁スリ線	鎌倉		
182	61	甲冑塚下可遺跡	一帯	土製品 鉢	(6.0)				割付成形、赤影	鎌倉	北野上 塚-7	
182	62	甲冑塚下可遺跡	一帯	土製品 鉢	(5.5)				ロクロ成形、赤影	鎌倉	北野上 塚-7	
182	63	甲冑塚下可遺跡	一帯	土製品 鉢	(17.2)			口縁～底部	ロクロ成形、ナデ、2面厚縁、スス行書	今午館、長石		
182	64	甲冑塚下可遺跡	一帯	ガラス製品 瓶	2.2	2.1	厚2.9	口縁部	透明	鎌倉		
182	65	甲冑塚下可遺跡	一帯	ガラス製品 瓶	口径1.9/底径2.4			口縁部	透明、文意あり	鎌倉		
182	66	甲冑塚下可遺跡	一帯	ガラス製品 壺	2.4	1.2	1.9	口縁部	透明、底縁(ゴムパッキン)付着、針金付	鎌倉		
182	67	甲冑塚下可遺跡	一帯	ガラス製品 壺	9.5	5.2	7.2	口縁～底部	透明、底縁角あり	鎌倉		
182	68	甲冑塚下可遺跡	一帯	ガラス製品 壺	8.0	0.9	6.0	口縁～底部	緑色透明、底縁角あり	鎌倉		
184	1	武田塚下可遺跡	Aグリッド	陶器 灰皿	(12.2)			口縁～底部	内外厚縁、底縁角あり	鎌倉		
184	2	武田塚下可遺跡	Aグリッド	土器 かむらけ			口縁部	ロクロ成形	今午館、赤色化粧土、赤影	鎌倉		
184	3	武田塚下可遺跡	Aグリッド	土器 かむらけ	(6.2)		(4.0)	底部	ロクロ成形、底縁角あり	今午館、赤色化粧土、赤影	鎌倉	
184	4	武田塚下可遺跡	Bグリッド	土器 かむらけ			(7.0)	底部	ロクロ成形	今午館、赤色化粧土、赤影	鎌倉	
187	1	武田塚下可遺跡	Aグリッド	土器 かむらけ				口縁部	ロクロ成形	今午館、赤色化粧土、赤影	鎌倉	
215	2	武田塚下可遺跡	Aグリッド	磁器 壺	口径1.02/底径0.07/高さ0.20g			口縁部	赤土	鎌倉		
215	1	武田塚下可遺跡	一帯	磁器 鉢			(5.0)	口縁～底部	彫刻系陶片	鎌倉		
215	2	武田塚下可遺跡	一帯	磁器 灰皿				口縁～底部	彫刻系陶片、内外厚縁	鎌倉		
215	3	武田塚下可遺跡	一帯	陶器 鉢	(29.5)			口縁部	彫刻系陶片、ロクロ成形、内外厚縁	今午館		
218	1	天神西遺跡	一帯	土器 かわらけ				口縁部	外厚、底縁角あり、古銅時代	今午館、赤、黒影 赤影、赤影 赤影、赤影		
218	2	天神西遺跡	一帯	土器 壺			5.0	底部	ロクロ成形、底縁角あり	今午館、赤、黒影		
218	3	天神西遺跡	一帯	陶器 壺	(8.0)			底部	ロクロ成形、足込み彫刻、赤影	赤、赤色化粧土、赤影		
218	4	天神西遺跡	一帯	土器 かわらけ	(12.0)			口縁～底部	ロクロ成形	赤、赤色化粧土、赤影		

出土土物観察表 (18)

()は測定値、[]は推定値

図	No.	出土土物	検出地点	種別・器種	口径 (cm)		器高	器径	部位	観察所見(成形・調整・文様・時代等)	胎土	備考
					口徑	底径						
218	5	天神寺遺跡	一基	土器 かわらけ			(6.7)	底面	ロクロ成形、底面内転糸切り	やや硬、赤色粘		
218	6	天神寺遺跡	一基	土器 かわらけ			(17.3)	口縁～胴部	ロクロ成形	やや硬、赤色粘		
218	7	天神寺遺跡	一基	土器 壺				口縁部	ロクロ成形	やや硬、赤色粘		
218	8	天神寺遺跡	一基	陶器 甕			(9.8)	底面	ロクロ成形、外周見込糸切り、底面内転糸切り	硬、赤色粘、黒石		
218	9	天神寺遺跡	一基	石製 (板瓦成分の瓦)	22.21	幅2.08	厚1.16	長さ5.2		外周～裏面		
220	1	東光寺遺跡	TP-1下層	土師器 甕				胴部	ハケ、透かし孔3ヶ所胴部にあり	やや硬、黒石、赤色粘		
220	2	東光寺遺跡	TP-1下層	土師器 高杯				胴部～胴部	ハケのみ	やや硬、黒石		
220	3	東光寺遺跡	TP-1下層	土師器 壺				胴部	外周見込み、内面ナデ	硬		
220	4	東光寺遺跡	TP-1-4上層	土師器 壺					4ヶ所あり	やや硬、黒石、赤色粘		
220	5	東光寺遺跡	TP-1-4上層	土師器 壺			(6.2)	胴部～底面	ナデ、底面木製痕	やや硬、黒石		
220	6	東光寺遺跡	TP-1-4上層	瓦 瓦					表面	やや硬、赤色粘		
220	7	東光寺遺跡	TP-2下層	土師器 壺			(11.0)	口縁部	ハケ、ナデ	やや硬、黒石、赤石		
220	8	東光寺遺跡	TP-2下層	土師器 壺			(14.8)	口縁部	ハケ、ナデ	やや硬、黒石、赤石		
220	9	東光寺遺跡	TP-2下層	土師器 壺			(13.0)	口縁部	ハケ、ナデ	やや硬、黒石		
220	10	東光寺遺跡	TP-2下層	土師器 壺				胴部	ハケ、捺痕	やや硬、黒石		
220	11	東光寺遺跡	TP-2下層	土師器 高杯				胴部	ハケ、ナデ	やや硬、黒石、赤石		
220	12	東光寺遺跡	TP-2下層	土師器 高杯				胴部	ハケ、ナデ	やや硬、黒石、赤石		
220	13	東光寺遺跡	TP-2下層	土師器 高杯				胴部	ナデ	やや硬、黒石、赤石		
220	14	東光寺遺跡	TP-2下層	土師器 高杯				胴部	ハケ	やや硬、黒石、赤石		
220	15	東光寺遺跡	TP-2下層	土師器 壺			(17.0)	口縁部	ハケ、ナデ	やや硬、黒石、赤色粘		
220	16	東光寺遺跡	TP-2下層	土師器 壺			(13.4)	口縁部	ハケ	やや硬、黒石、赤色粘		
220	17	東光寺遺跡	TP-2下層	土師器 壺			(10.0)	口縁部～胴部	ハケ、ナデ	やや硬、黒石、赤色粘		
220	18	東光寺遺跡	TP-2下層	土師器 壺			(12.8)	口縁部～胴部	ハケ、ナデ	やや硬、黒石、赤色粘		
220	19	東光寺遺跡	TP-2下層	土師器 壺			(12.8)	口縁部～胴部	ハケ、ナデ	やや硬、黒石、赤色粘		
220	20	東光寺遺跡	TP-2下層	土師器 壺			(4.3)	底面	ヘラナデ	やや硬、赤色粘		
220	21	東光寺遺跡	TP-2下層	土師器 壺			(13.0)	口縁部	ハケ、ナデ	やや硬、黒石、赤色粘		
221	22	東光寺遺跡	TP-2下層	土師器 壺				胴部	ハケ、ナデ	やや硬、赤色粘		
221	23	東光寺遺跡	TP-2下層	土師器 壺				胴部	外周ナデ、内面ハケナデ	やや硬、赤色粘		
221	24	東光寺遺跡	TP-2下層	土師器 壺			7.0	底面		やや硬、黒石、赤色粘		
221	25	東光寺遺跡	TP-2下層	土師器 壺			(12.3)	口縁部	外周ナデ見込み、内面ミガキ	やや硬、赤石		
221	26	東光寺遺跡	TP-2下層	土師器 高杯			(12.7)	口縁部	ナデ見込み	やや硬、赤色粘		
221	27	東光寺遺跡	TP-2下層	土師器 高杯				胴部～胴部	ナデ	やや硬、黒石、赤色粘		
221	28	東光寺遺跡	TP-2下層	土師器 高杯				胴部	内面ヘラナデ	やや硬		
221	29	東光寺遺跡	TP-2下層	土師器 高杯				胴部	透かし孔6ヶ所あり	やや硬、黒石、赤色粘		
221	30	東光寺遺跡	TP-2下層	土師器 高杯				胴部	ナデ、透かし孔1ヶ所あり	やや硬、黒石、赤色粘		
221	31	東光寺遺跡	TP-2下層	土師器 高杯				胴部～胴部	外周ナデ見込み、内面ヘラナデ、透かし孔3ヶ所	やや硬、赤色粘		
221	32	東光寺遺跡	TP-2下層	土師器 壺			(6.0)	口縁部～胴部	ナデ、透かし孔3ヶ所胴部にあり	やや硬、赤色粘		
221	33	東光寺遺跡	TP-2下層	土師器 壺			(9.4)	口縁部～胴部	ハケ、ナデ、透かし孔3ヶ所胴部にあり	やや硬、赤色粘		
221	34	東光寺遺跡	TP-2下層	土師器 壺			(9.0)	口縁部～胴部	ナデ	やや硬、赤石		
221	35	東光寺遺跡	TP-2下層	土師 卑形高杯	5.0	2.4	3.0	口縁部～底面	捺痕ナデ	やや硬、赤色粘		
221	36	東光寺遺跡	TP-2下層	土師器 高杯			12.4	胴部	ミガキ、ナデ、透かし孔3ヶ所あり	やや硬、黒石、赤色粘		
221	37	東光寺遺跡	TP-6下層	土師器 壺				胴部	ナデ	やや硬、黒石、赤色粘		
221	38	東光寺遺跡	TP-7下層	土師器 小形壺				胴部	ハケ、ナデ	やや硬、黒石		
221	39	東光寺遺跡	TP-7下層	土師器 壺			(18.7)	口縁部	ハケ、ナデ	やや硬、黒石		
221	40	東光寺遺跡	TP-7下層	陶器 壺			(12.5)	口縁部～胴部	横穴焼成系	硬		
221	41	東光寺遺跡	TP-7下層	陶器 天目碗			11.8	口縁部～胴部	横穴焼成、体割下半輪	硬		
225	1	西郷地C遺跡	TP-1	土器 かわらけ			(12.4)	口縁部	ロクロ成形	やや硬		
225	2	西郷地C遺跡	TP-1	土器 かわらけ			(15.4)	口縁部	ロクロ成形	やや硬		
225	3	西郷地C遺跡	TP-1	土器 かわらけ			(11.2)	底面	ロクロ成形、底面内転糸切り	やや硬		
225	4	西郷地C遺跡	TP-1	土器 かわらけ			(7.0)	底面	ロクロ成形、ナデ、底面内転糸切り	やや硬		
225	5	西郷地C遺跡	TP-1	土器 かわらけ			(7.0)	高部	ロクロ成形、ナデ、底面内転糸切り	やや硬		
225	6	西郷地C遺跡	TP-1	土器 かわらけ			(7.4)	底面	ロクロ成形、ナデ、底面内転糸切り	やや硬		
225	7	西郷地C遺跡	TP-1	土器 壺				胴部	ロクロ成形、外周ナデ	やや硬		
225	8	西郷地C遺跡	TP-1	土器 壺				口縁部	ロクロ成形、外周ナデ	やや硬、黒石		
225	9	西郷地C遺跡	TP-1	土器 壺				口縁部	ロクロ成形、外周ナデ	やや硬、黒石		
225	10	西郷地C遺跡	TP-1	土器 壺				胴部	ロクロ成形、外周見込み	やや硬		
225	11	西郷地C遺跡	TP-1	土器 壺				底面	ロクロ成形	やや硬		
225	12	西郷地C遺跡	TP-1	土器 壺				胴部	ロクロ成形、ナデ	やや硬		
225	13	西郷地C遺跡	TP-1	土器 壺			(12.4)	胴部～底面	ロクロ成形、捺痕	やや硬		

出土遺物観察表 (19)

()は測定値、□は推定値

図 号	出土遺跡	検出地点	種類・器種	断面 (cm)		部位	観察所見(成形・調整・文様・時代等)	胎土	備考	
				口径	高さ					
223	西野地C遺跡	T P - 1	土器 燗埴		(16.0)	底面	ロクロ製埴、ナブ	今中世		
224	西野地C遺跡	T P - 1	土器 燗埴?			口縁部	ロクロ製埴、ナブ	今中世		
225	西野地C遺跡	T P - 1	土器 燗埴			口縁部	ロクロ製埴、両面文刺印	今中世		
225	西野地C遺跡	T P - 2	土器 かわらけ	(9.0)	2.3	(5.9)	口縁～底面	ロクロ成形、ナブ、底面磁化痕あり	今中世	
225	西野地C遺跡	T P - 2	土器 かわらけ			(4.6)	底面	ロクロ成形、外周ナブ、底面磁化痕あり	今中世	
225	西野地C遺跡	T P - 2	土器 かわらけ			(7.4)	底面	ロクロ成形、底面磁化痕あり	今中世	
225	西野地C遺跡	T P - 2	土器 かわらけ			(3.6)	底面	ロクロ成形、ナブ、底面磁化痕あり	今中世	
225	西野地C遺跡	T P - 2	土器 燗埴			口縁部	ロクロ製埴、外周ナブ	今中世、金箔付		
225	西野地C遺跡	T P - 2	土器 燗埴			(13.0)	底面	ロクロ製埴、外周ナブ、両面文	今中世	
225	西野地C遺跡	T P - 2	土器 燗埴				体部	ロクロ製埴、外周ナブ	今中世、金箔付	
225	西野地C遺跡	T P - 2	土器 燗埴				体部	ロクロ製埴、外周ナブ	今中世	
225	西野地C遺跡	T P - 2	土器 燗埴				口縁部	ロクロ製埴、外周ナブ	今中世	
225	西野地C遺跡	T P - 2	土器 燗埴				口縁部	ロクロ製埴、外周ナブ	今中世、金箔付	
225	西野地C遺跡	T P - 3	土器 かわらけ	(16.0)	2.0	(6.0)	口縁～底面	ロクロ成形、ナブ、底面磁化痕あり	今中世、右面磁	
225	西野地C遺跡	T P - 3	土器 かわらけ			(6.4)	底面	ロクロ成形、ナブ、底面磁化痕あり	今中世	
225	西野地C遺跡	T P - 3	土器 かわらけ			(6.8)	底面	ロクロ成形、ナブ、底面磁化痕あり	今中世、金箔付	
225	西野地C遺跡	T P - 3	土器 かわらけ			(7.0)	底面	ロクロ成形、底面磁化痕あり	今中世、金箔付	
225	西野地C遺跡	T P - 3	土器 土鍋				体部	ロクロ製埴	今中世、実灰、スコウラ	
225	西野地C遺跡	T P - 3	土器 燗埴	(27.9)			口縁部	ロクロ製埴、外周ナブ	今中世	
225	西野地C遺跡	T P - 3	土器 燗埴			(14.0)	底面	ロクロ製埴、外周ナブ	今中世	
225	西野地C遺跡	T P - 3	土器 燗埴			(12.0)	底面	ロクロ製埴、外周ナブ、両面文	今中世	
225	西野地C遺跡	T P - 3	土器 燗埴				体部	ロクロ製埴、外周ナブ	今中世	
225	西野地C遺跡	T P - 4	陶器 鉢				口縁部	横戸製埴、内外面文刺	唐	
225	西野地C遺跡	T P - 4	磁器 壺				底面	肥前系磁器、19世紀前半～中葉、磁吹	唐	
225	西野地C遺跡	T P - 4	磁器 瓶				口縁部	横戸製埴	唐	
225	西野地C遺跡	T P - 4	磁器 瓶				底面	横戸製埴	唐	
226	西野地C遺跡	T P - 4	陶器 長頸瓶	(8.0)	1.6	(6.2)	口縁～底面	ロクロ成形、内外面文刺、外周面磁化	唐	
226	西野地C遺跡	T P - 4	土器 燗埴	(13.0)			口縁部	ロクロ製埴、ナブ	今中世	
226	西野地C遺跡	T P - 4	土器 燗埴				体部	ロクロ製埴、ナブ	今中世	
226	西野地C遺跡	T P - 6	土器 かわらけ	7.0	1.60	4.4	陶器製	ロクロ成形、ナブ、底面磁化痕あり	今中世	
226	西野地C遺跡	T P - 6	土器 かわらけ	(9.0)	1.7	(6.0)	口縁～底面	ロクロ成形、ナブ、底面磁化痕あり	今中世、金箔付	
226	西野地C遺跡	T P - 6	土器 かわらけ	(6.3)	1.6	(4.8)	口縁～底面	ロクロ成形、外周面磁化痕あり、底面磁化痕あり	今中世	
226	西野地C遺跡	T P - 6	土器 かわらけ	(6.0)	2.00	(3.0)	口縁～底面	ロクロ成形、ナブ	今中世、金箔付	
226	西野地C遺跡	T P - 6	土器 かわらけ	(9.0)	2.1	(3.0)	口縁～底面	ロクロ成形、底面磁化痕あり	今中世	
226	西野地C遺跡	T P - 6	土器 かわらけ	(9.0)	2.4	(2.8)	口縁～底面	ロクロ成形、ナブ、底面磁化痕あり	今中世	
226	西野地C遺跡	T P - 6	土器 かわらけ	(8.0)	2.3	(4.0)	口縁～底面	ロクロ成形、ナブ、底面磁化痕あり	今中世	
226	西野地C遺跡	T P - 6	土器 かわらけ	(9.0)			口縁部	ロクロ成形、外周ナブ、両面磁化痕あり	今中世	
226	西野地C遺跡	T P - 6	土器 かわらけ			(10.8)	底面	ロクロ成形、底面磁化痕あり	今中世	
226	西野地C遺跡	T P - 6	土器 かわらけ			(7.0)	底面	ロクロ成形、底面磁化痕あり	今中世	
226	西野地C遺跡	T P - 6	土器 かわらけ			(7.0)	底面	ロクロ成形、外周ナブ、底面磁化痕あり	今中世	
226	西野地C遺跡	T P - 6	土器 かわらけ			(7.4)	底面	ロクロ成形、底面磁化痕あり	今中世	
226	西野地C遺跡	T P - 6	土器 燗埴				体部	ロクロ製埴、ナブ	今中世	
226	西野地C遺跡	T P - 6	陶器 壺				体部	内周コクロナブ、外周文刺、自然釉	唐	
226	西野地C遺跡	T P - 6	土器 土鍋	(22.3)			口縁部	口縁部コクロナブ、両面文刺、内周文刺	今中世	
226	西野地C遺跡	T P - 6	土器 燗埴				体部	ロクロ製埴、外周ナブ	今中世	
226	西野地C遺跡	T P - 6	土器 燗埴				体部	ロクロ製埴、外周ナブ	今中世	
226	西野地C遺跡	T P - 6	土器 燗埴	(24.9)			口縁部	ロクロ製埴、外周口縁部コクロナブ、両面文	今中世	
226	西野地C遺跡	T P - 6	土器 燗埴				体部	ロクロ製埴、外周ナブ	今中世、実灰、自然釉	
226	西野地C遺跡	T P - 6	土器 燗埴	(25.0)			口縁部	ロクロ製埴、外周口縁部コクロナブ、両面文	今中世	
226	西野地C遺跡	T P - 6	土器 燗埴				体部	ロクロ製埴、外周ナブ	今中世	
226	西野地C遺跡	T P - 6	土器 燗埴	(25.0)			口縁部	ロクロ製埴、外周口縁部コクロナブ、両面文	今中世	
226	西野地C遺跡	T P - 6	土器 燗埴				体部	ロクロ製埴、外周ナブ	今中世	
226	西野地C遺跡	T P - 6	土器 燗埴				底面	ロクロ製埴、外周ナブ、砂吹き	今中世、金箔付、赤色光	
226	西野地C遺跡	T P - 6	土器 燗埴	(18.0)			底面	ロクロ製埴、外周ナブ	今中世	

出土遺物観察表 (20)

()は推定値、括弧は発見状況

図 札	出土遺物	発出地点	種類・仕様	土層	高さ	位置	部位	観察所見(成形・調整・文様・時代等)	胎土	備考
227 74	西野地C遺跡	T P-8	土器 埴輪			(14.0)	底面	口径成形、外周ナデ、切縁、彫刻痕	全々否	
227 75	西野地C遺跡	T P-9	土器 埴輪			(16.0)	底面	口径成形、外周ナデ、切縁、彫刻痕	全々否	
227 76	西野地C遺跡	T P-6	土器 埴輪			(11.0)	底面	口径成形、外周ナデ、切縁、彫刻痕	全々否	
227 77	西野地C遺跡	T P-7	土器 かわらけ	(11.0)	3.4	(6.3)	口縁~底面	口径成形、底面彫刻痕あり	全々否	
227 78	西野地C遺跡	T P-7	土器 かわらけ	(11.0)	2.8	(6.0)	口縁~底面	口径成形、底面彫刻痕あり	全々否	
227 79	西野地C遺跡	T P-7	土器 かわらけ	(6.3)	1.6	(3.0)	口縁~底面	口径成形、底面彫刻痕あり	全々否	
227 80	西野地C遺跡	T P-7	土器 かわらけ	(6.3)	0.0	(0.0)	口縁~底面	口径成形、底面彫刻痕あり	全々否	
227 81	西野地C遺跡	T P-7	土器 かわらけ	(6.0)	1.6	(5.0)	口縁~底面	口径成形、底面彫刻痕あり	全々否	
227 82	西野地C遺跡	T P-7	土器 かわらけ			(7.2)	底面	口径成形、底面彫刻痕あり	全々否	
227 83	西野地C遺跡	T P-7	土器 かわらけ			(7.0)	底面	口径成形、底面彫刻痕あり	全々否	
227 84	西野地C遺跡	T P-7	土器 埴輪				底面	口径成形、ナデ、外周ナデ付	全々否	
227 85	西野地C遺跡	T P-7	土器 埴輪				底面	口径成形、外周ナデ、切縁、彫刻痕	全々否	
227 86	西野地C遺跡	T P-7	土器 埴輪				口縁部	口径成形、外周ナデ	全々否	
227 87	西野地C遺跡	T P-7	土器 埴輪				口縁部	口径成形、外周ナデ	全々否	
227 88	西野地C遺跡	T P-7	土器 埴輪				口縁部	口径成形、外周ナデ	全々否	
227 89	西野地C遺跡	T P-7	土器 埴輪				底面	口径成形、外周ナデ、切縁、彫刻痕	全々否	
227 90	西野地C遺跡	T P-7	土器 埴輪			(15.0)	底面	口径成形、外周ナデ、切縁、彫刻痕	全々否	
227 91	西野地C遺跡	T P-7	土器 埴輪			(20.0)	底面	口径成形、外周ナデ、切縁、彫刻痕	全々否	
227 92	西野地C遺跡	T P-8	土器 埴輪				口縁部	口径成形、外周ナデ	全々否	
227 93	西野地C遺跡	T P-8	土器 埴輪				底面	口径成形、外周ナデ	全々否	
227 94	西野地C遺跡	T P-9	土器 かわらけ			(9.0)	底面	口径成形、底面彫刻痕あり	全々否	
227 95	西野地C遺跡	T P-9	土器 かわらけ			(6.0)	底面	口径成形、底面彫刻痕あり	全々否	
227 96	西野地C遺跡	T P-9	土器 埴輪				底面	口径成形	全々否	
227 97	西野地C遺跡	T P-9	土器 埴輪				口縁部	口径成形	全々否、片石	
227 98	西野地C遺跡	T P-9	土器 埴輪				口縁部	口径成形	全々否、片石	
227 99	西野地C遺跡	T P-10	土器 かわらけ	(12.0)	3.0	(6.0)	口縁~底面	口径成形、底面彫刻痕あり	全々否	
227 100	西野地C遺跡	T P-10	土器 埴輪				底面	口径成形	全々否	
227 101	西野地C遺跡	T P-10	土器 埴輪				底面	口径成形	全々否	
227 102	西野地C遺跡	T P-10	土器 埴輪				口縁部	口径成形	全々否	
227 103	西野地C遺跡	T P-10	土器 埴輪				口縁部	口径成形	全々否	
227 104	西野地C遺跡	T P-11	土器 埴輪	(10.0)			口縁部	口径成形	全々否	
227 105	西野地C遺跡	T P-11	土器 かわらけ	(11.0)			口縁部	口径成形	全々否	
227 106	西野地C遺跡	T P-11	土器 埴輪				口縁部	口径成形	全々否	
227 107	西野地C遺跡	T P-11	土器 埴輪				口縁部	口径成形	全々否	
227 108	西野地C遺跡	T P-12	土器 かわらけ	(10.0)			口縁部	口径成形、ナデ	全々否	
227 109	西野地C遺跡	T P-12	土器 かわらけ	(10.0)			口縁部	口径成形、内周成形、内底成形、外周ナデ、切縁、彫刻痕	全々否	
227 110	西野地C遺跡	T P-14	土器 埴輪	(8.0)			口縁部	口径成形、外周ナデ半筒付	全々否	
227 111	西野地C遺跡	T P-14	土器 埴輪				底面	口径成形、外周ナデ	全々否	
227 112	西野地C遺跡	T P-15	土器 かわらけ	(8.0)	1.7	(6.0)	口縁~底面	口径成形、底面彫刻痕あり	全々否、金葉付	
227 113	西野地C遺跡	T P-15	土器 かわらけ	(8.0)	2.8	(6.0)	口縁~底面	口径成形、底面彫刻痕あり	全々否	
227 114	西野地C遺跡	T P-15	土器 かわらけ	(6.0)		(6.0)	底面	口径成形、底面彫刻痕あり	全々否	
227 115	西野地C遺跡	T P-15	土器 かわらけ	(6.0)		(6.0)	底面	口径成形、底面彫刻痕あり	全々否	
228 116	西野地C遺跡	T P-15	土器 埴輪	(15.0)			口縁部	口径成形	全々否、金葉付	
228 117	西野地C遺跡	T P-15	土器 埴輪				口縁部	口径成形	全々否	
228 118	西野地C遺跡	T P-15	土器 埴輪				口縁部	口径成形、ナデ、外周ナデ付	全々否	
228 119	西野地C遺跡	T P-15	土器 埴輪				口縁部	口径成形、ナデ	全々否、金葉付	
228 120	西野地C遺跡	T P-15	土器 埴輪			(17.0)	底面	口径成形、彫刻痕	全々否	
228 121	西野地C遺跡	T P-15	土器 埴輪			(17.0)	底面	口径成形、彫刻痕	全々否	
228 122	西野地C遺跡	T P-15	土器 埴輪			(18.0)	底面	口径成形、彫刻痕	全々否	
228 123	西野地C遺跡	T P-15	土器 埴輪			(18.0)	底面	口径成形	全々否	
228 124	西野地C遺跡	T P-19	土器 かわらけ	8.2	2.0	4.6	底面	口径成形、ナデ、底面彫刻痕あり	全々否	
228 125	西野地C遺跡	T P-19	土器 かわらけ	(11.2)	2.5	(6.0)	口縁~底面	口径成形、底面彫刻痕あり	全々否	
228 126	西野地C遺跡	T P-19	土器 かわらけ			(7.0)	底面	口径成形、底面彫刻痕あり	全々否	
228 127	西野地C遺跡	T P-19	土器 かわらけ			(7.0)	底面	口径成形、底面彫刻痕あり	全々否	
228 128	西野地C遺跡	T P-19	土器 埴輪			(17.0)	底面	口径成形、ナデ、外周ナデ付	全々否	
228 129	西野地C遺跡	T P-19	土器 埴輪	(16.0)			口縁部	口径成形、ナデ	全々否	
228 130	西野地C遺跡	T P-20	土器 埴輪			(8.0)	底面	口径成形、底面彫刻痕あり	全々否	
228 131	西野地C遺跡	T P-20	土器 埴輪				底面	口径成形、ナデ	全々否	
228 132	西野地C遺跡	T P-20	土器 片目鉢				底面	口径成形、底面ナデ	全々否	
228 133	西野地C遺跡	T P-20	土器 埴輪			(17.2)	底面	底面	全々否	
228 134	西野地C遺跡	T P-1	土器 埴輪				口縁部	口径成形	全々否	
228 135	西野地C遺跡	T P-1	土器 埴輪				底面	口径成形、口径成形	全々否	
228 136	西野地C遺跡	T P-2	土器 埴輪			(6.2)	底面	口径成形、ナデ、切縁	全々否、片石付	

出土遺物観察表 (21)

()は高さ、数字は存在数

NO	No.	出土遺物	検出地点	類別・器種	遺長(cm) 11枚(断面) 底径	部位	観察所見(成形・調整・文様・時代等)	出土	備考
228	137	西條地C遺跡	T-2	灰皿 蓋		胴部	コロコ成形、ナブ	中	
228	139	西條地C遺跡	T-2	土器 小わらひ	(6.5)	コ縁部	コロコ成形	今中層	
228	139	西條地C遺跡	T-2	土器 西	(11.0)	コ縁部	内面無文様、口外に横溝、筋刻	中	
228	140	西條地C遺跡	T-2	土器			特に入浴用、コロコ成形、内面筋刻	中	
228	141	西條地C遺跡	T-2	土器 押餅		底部	コロコ成形、ナブ	今中層	
228	142	西條地C遺跡	T-2	土器 押餅		口縁部	コロコ成形、ナブ	今中層	金環母
228	143	西條地C遺跡	T-2	土器 押餅		胴部	コロコ成形、ナブ	今中層	金環母
228	144	西條地C遺跡	T-2	土器 押餅		胴部	筋刻	今中層	
228	145	西條地C遺跡	T-2	土器 小わらひ		口縁部	コロコ成形、ナブ	今中層	金環母
228	146	西條地C遺跡	表層	土器 鉢	(18.0)	口縁部	古型製、コロコ成形	今中層	金環母、良石
228	147	西條地C遺跡	表層	土器 鉢		胴部	古型製、コロコ成形	今中層	
228	148	西條地C遺跡	表層	土器 鉢	(13.0)	口縁部	コロコ成形	今中層	
228	149	西條地C遺跡	表層	土器 鉢		底面	古型製、コロコ成形	今中層	古瓦
228	150	西條地C遺跡	表層	土器 鉢		胴部	コロコ成形	今中層	古瓦
228	151	西條地C遺跡	表層	土器 鉢	(16.0)	口縁部	コロコ成形、押餅	今中層	
228	152	西條地C遺跡	表層	土器 鉢	(18.0)	口縁部	コロコ成形	今中層	
228	153	西條地C遺跡	表層	土器 鉢		口縁部	内面ハケ、内面筋刻	今中層	
228	154	西條地C遺跡	表層	土器 鉢	(11.0)	口縁部	内面ハケ、筋刻	今中層	金環母、良石
228	155	西條地C遺跡	表層	土器 鉢		口縁部	コロコ成形	今中層	
228	156	西條地C遺跡	表層	土器 鉢		口縁部	コロコ成形	中	
228	157	西條地C遺跡	表層	土器 鉢		胴部	コロコ成形、外周筋刻	中	
228	158	西條地C遺跡	表層	土器 鉢		胴部	コロコ成形、外周筋刻	中	
228	159	西條地C遺跡	表層	土器 鉢		胴部	内面ハケ、筋刻	中	
228	160	西條地C遺跡	表層	土器 鉢	7.8 1.7 4.6	胴部	コロコ成形、筋刻	中	
228	161	西條地C遺跡	表層	土器 鉢	18.4 2.1 14.8	口縁部	コロコ成形	今中層	金環母
228	162	西條地C遺跡	表層	土器 鉢	12.0 2.8 6.4	口縁部	コロコ成形、筋刻	今中層	金環母
228	163	西條地C遺跡	表層	土器 鉢	(17.0)	口縁部	コロコ成形	今中層	金環母
228	164	西條地C遺跡	表層	土器 鉢	(12.4)	底面	コロコ成形、筋刻	今中層	金環母
228	165	西條地C遺跡	表層	土器 鉢	(11.2)	底面	コロコ成形、筋刻	今中層	金環母
228	166	西條地C遺跡	表層	土器 鉢	(9.0)	底面	コロコ成形、筋刻	今中層	
228	167	西條地C遺跡	表層	土器 鉢	(8.0)	底面	コロコ成形、筋刻	今中層	
228	168	西條地C遺跡	表層	土器 鉢	(5.5)	底面	コロコ成形、筋刻	今中層	
228	169	西條地C遺跡	表層	土器 鉢	(7.0)	底面	コロコ成形、筋刻	今中層	
228	170	西條地C遺跡	表層	土器 鉢	(7.0)	底面	コロコ成形、筋刻	今中層	古瓦
228	171	西條地C遺跡	表層	土器 鉢	(6.0)	底面	コロコ成形、筋刻	今中層	
228	172	西條地C遺跡	表層	土器 鉢		口縁部	コロコ成形	今中層	
228	173	西條地C遺跡	表層	土器 鉢	(34.0)	口縁部	コロコ成形	今中層	
228	174	西條地C遺跡	表層	土器 鉢	(34.0)	口縁部	コロコ成形	今中層	
228	175	西條地C遺跡	表層	土器 鉢		口縁部	コロコ成形	今中層	金環母
228	176	西條地C遺跡	表層	土器 鉢		口縁部	コロコ成形	今中層	
228	177	西條地C遺跡	表層	土器 鉢		口縁部	コロコ成形	今中層	
228	178	西條地C遺跡	表層	土器 鉢	(13.0)	底面	コロコ成形	今中層	金環母、良石
228	179	西條地C遺跡	表層	土器 鉢	(17.0)	底面	コロコ成形、筋刻	今中層	良石
228	180	西條地C遺跡	表層	土器 鉢	(15.0)	底面	コロコ成形、筋刻	今中層	金環母
230	181	西條地C遺跡	T-2	鏡	径: 22.7/厚: 10/重: 67/径: 44g		裏面平直		
230	182	西條地C遺跡	T-2	金環母 金具	径: 2.4/厚: 0.6/重: 0.7/径: 2.9g				
230	183	西條地C遺跡	一帯	金環母 釘	径: 1.8/厚: 0.6/重: 0.1/径: 2.7g				
230	184	西條地C遺跡	一帯	金環母 釘	径: 1.4/厚: 0.2/重: 0.1/径: 1.8g				
234	1	東加遺跡	2-トレンチ	土器 鉢	(11.0)	口縁部	コロコ成形、内面黒色焼痕、古銅時代後期	中	古瓦、金環母
234	2	東加遺跡	2-トレンチ	土器 鉢	(14.4)	口縁部	コロコ成形、内面黒色、古銅時代後期	中	古瓦、金環母、良石
234	3	東加遺跡	2-トレンチ	土器 鉢		胴部	外周ハケ	中	古瓦、金環母、良石
234	1	跡ヶ丘二丁目遺跡	一帯	土器 鉢	(11.2)	口縁部	コロコ成形、ナブ	中	金環母、良石
234	2	跡ヶ丘二丁目遺跡	一帯	土器 鉢	(12.1)	口縁部	コロコ成形、ナブ	中	金環母、良石
234	3	跡ヶ丘二丁目遺跡	一帯	土器 鉢		胴部	内面ハケ	中	金環母、良石
234	4	跡ヶ丘二丁目遺跡	一帯	土器 鉢		口縁部	コロコ成形、ナブ	中	金環母、良石
234	5	跡ヶ丘二丁目遺跡	一帯	土器 鉢		胴部	筋刻	中	金環母、良石
234	6	跡ヶ丘二丁目遺跡	一帯	土器 鉢	(12.2) 12.0 5.1	口縁部	内面ナブ、内面ハケ、外周ナブ、古銅時代後期	中	古瓦、金環母、良石
234	7	跡ヶ丘二丁目遺跡	一帯	土器 鉢	(11.0)	口縁部	内面筋刻、内面ナブ	中	古瓦、金環母、良石
234	8	跡ヶ丘二丁目遺跡	一帯	土器 鉢		底面	外周筋刻、ナブ	中	古瓦、金環母、良石
234	9	跡ヶ丘二丁目遺跡	一帯	土器 鉢		底面	内面ナブ、外周ハケ、ナブ、ミガキ、筋刻	中	古瓦、良石
241	1	跡ヶ丘二丁目遺跡	一帯	土器 鉢		胴部	コロコ成形、古銅時代後期	中	古瓦、金環母



11-12 音羽遺跡 (TR 2-5)



11-12 音羽遺跡 (TR 2-3)



11-14 上石田遺跡 (Aグリッド)



11-14 上石田遺跡 (Bグリッド)



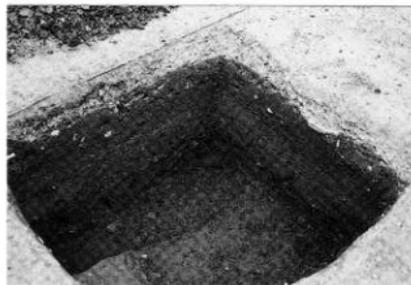
11-16 川田館跡 (グリッド3)



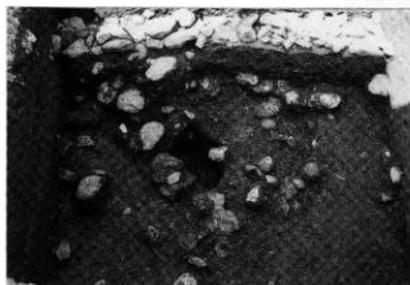
11-16 川田館跡 (調査状況)



11-26 甲府城下町遺跡 (TR 1)



11-53 緑ヶ丘一丁目遺跡(第2グリッド)



11-53 緑ヶ丘一丁目遺跡(第1グリッド)



11-46 武田城下町遺跡(東西トレンチ)



11-46 武田城下町遺跡
(南北トレンチ)



11-56 緑ヶ丘二丁目遺跡(住居跡)



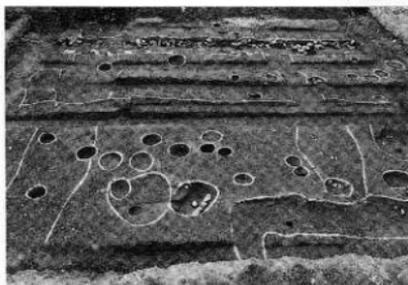
12-8 金塚西遺跡(1区トレンチ3)



12-8 金塚西遺跡(1区トレンチ1)



12-8 金塚西遺跡(3区トレンチ2)



12-13 甲府城下町遺跡(調査状況)



12-14 甲府城下町遺跡(2号井戸)



12-13 甲府城下町遺跡(1号井戸)



12-14 甲府城下町遺跡(1.2号石列)



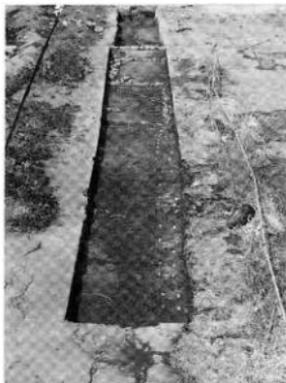
12-14 甲府城下町遺跡(建物跡)



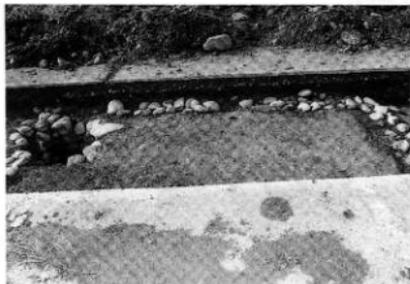
12-14 甲府城下町遺跡(2.3号石列)



12-14 甲府城下町遺跡(1.2号溜橋、3号井戸)



12-17 甲府城下町遺跡(調査状況)



12-17 甲府城下町遺跡(調査状況)

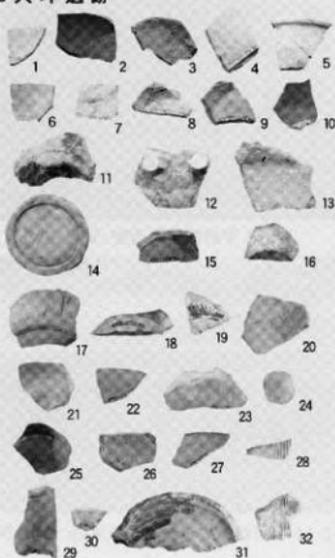


12-44 東畑遺跡(トレンチ2)

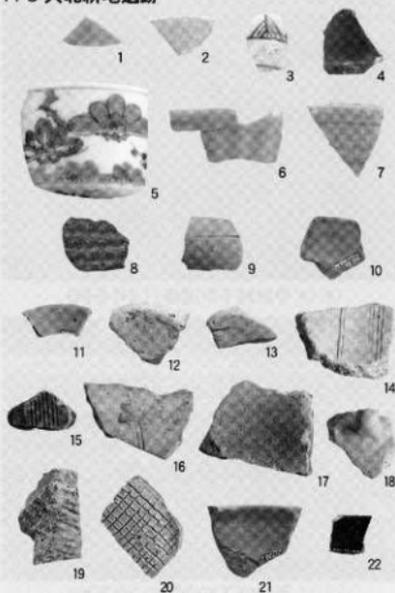
11-4 朝気遺跡



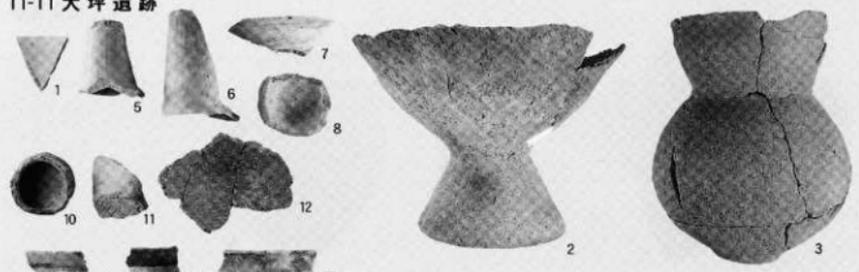
11-9 大坪遺跡



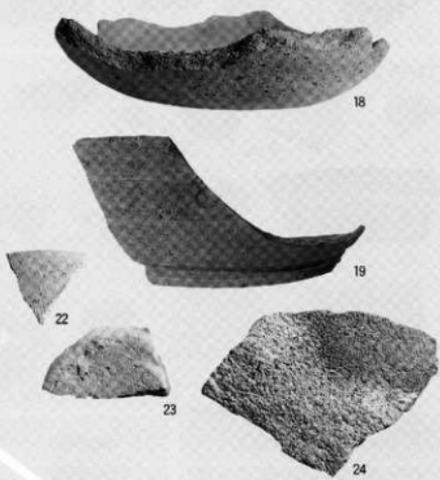
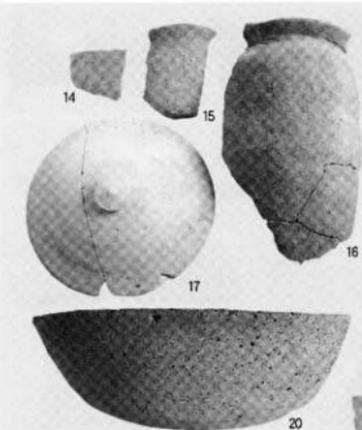
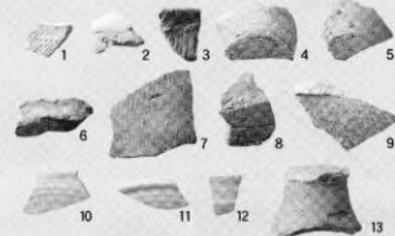
11-8 大北耕地遺跡



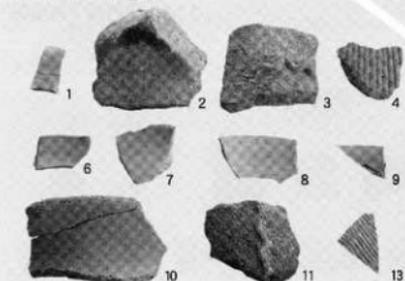
11-11 大坪遺跡



11-13 音羽遺跡



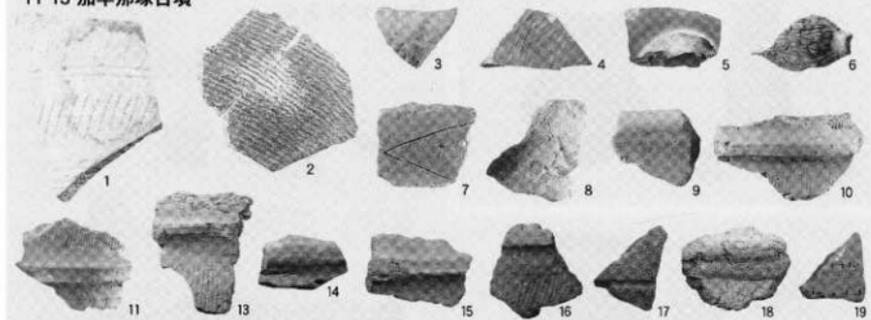
11-14 上石田遺跡



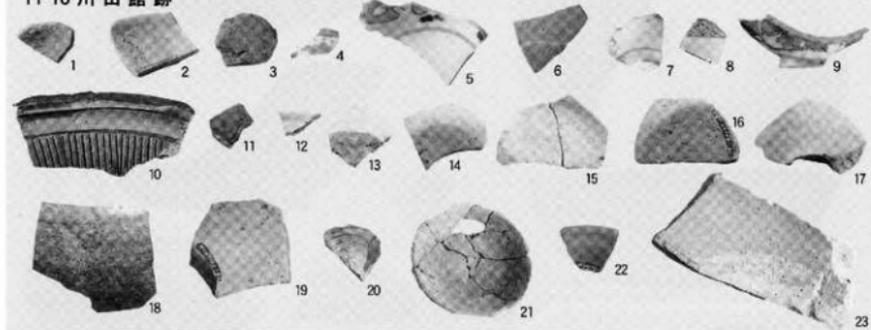
11-14 上石田遺跡



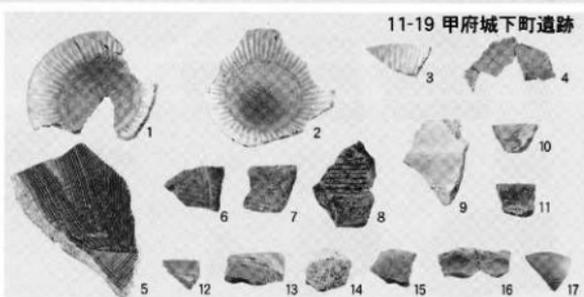
11-15 加牟那塚古墳



11-16 川田館跡



11-19 甲府城下町遺跡



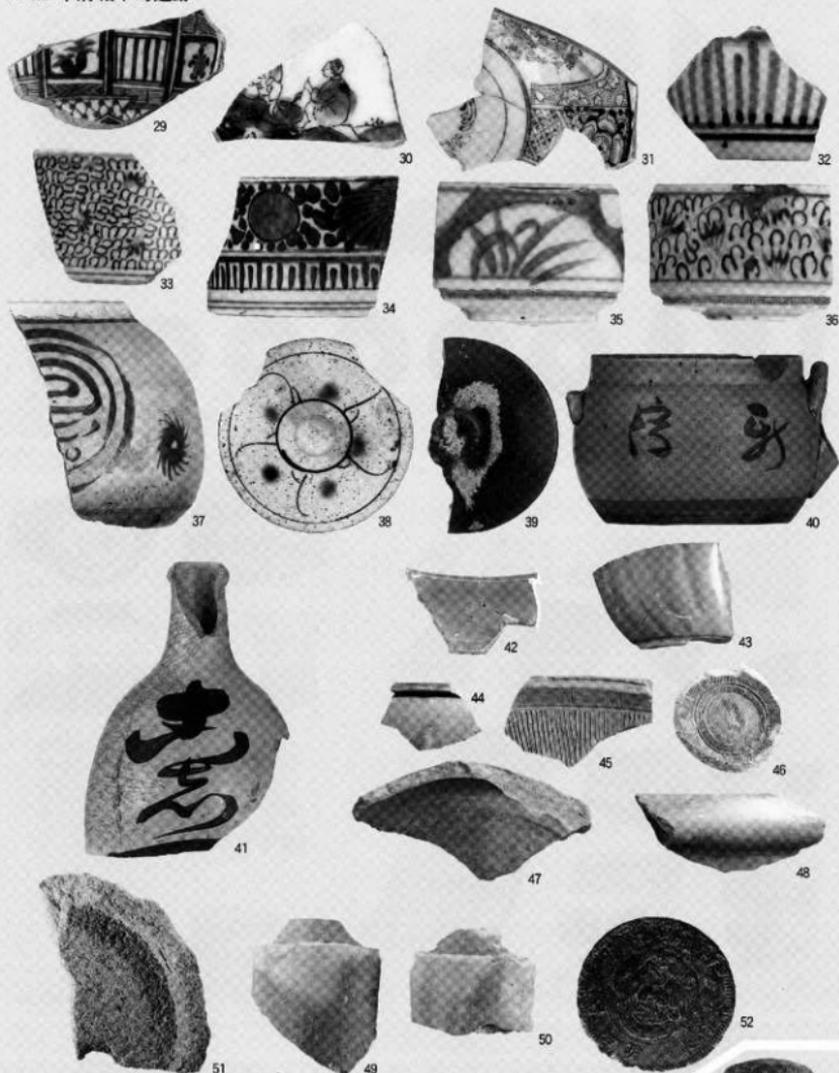
11-19 甲府城下町遺跡



11-22 甲府城下町遺跡



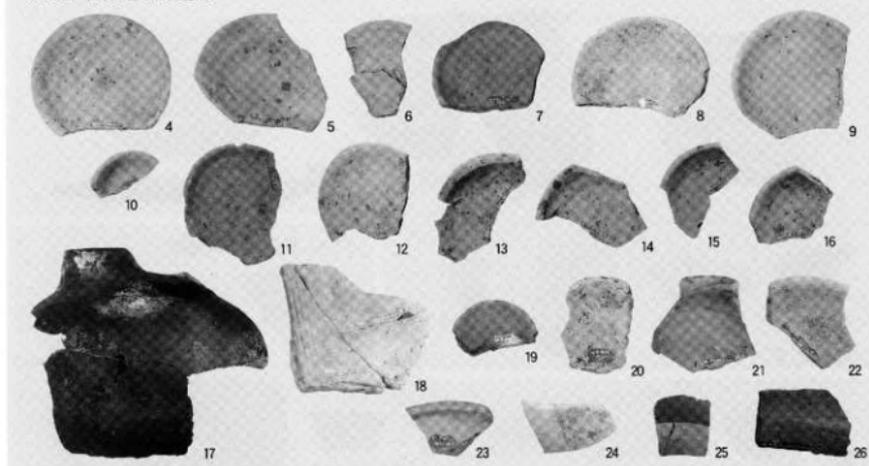
11-22 甲府城下町遺跡



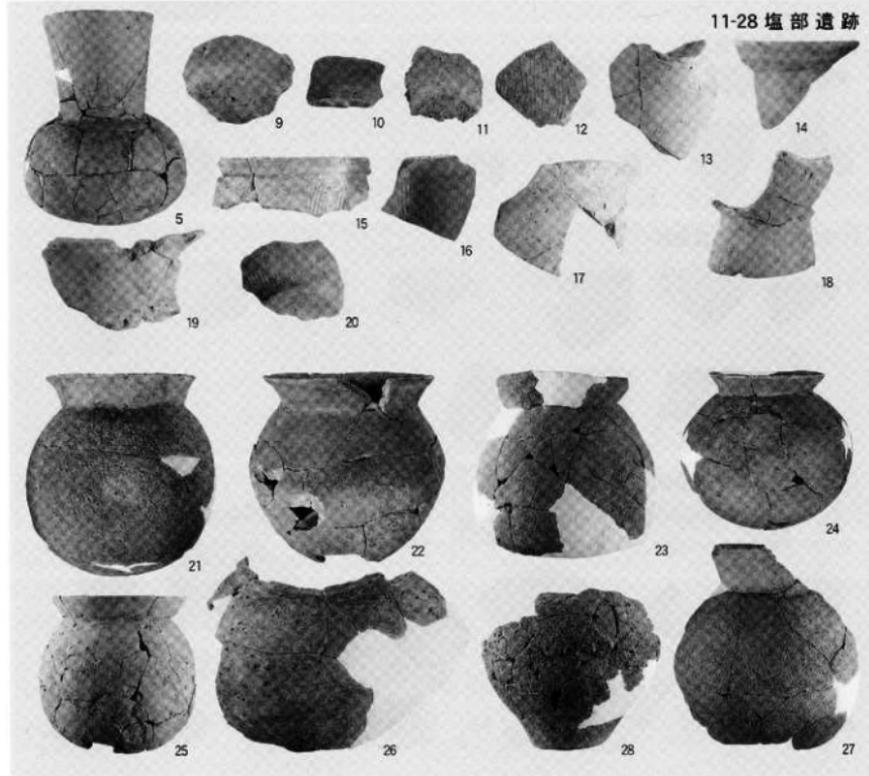
11-23 甲府城下町遺跡



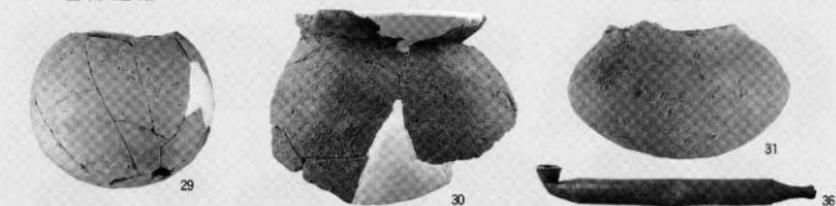
11-23 甲府城下町遺跡



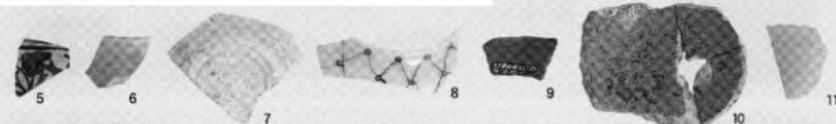
11-28 塩部遺跡



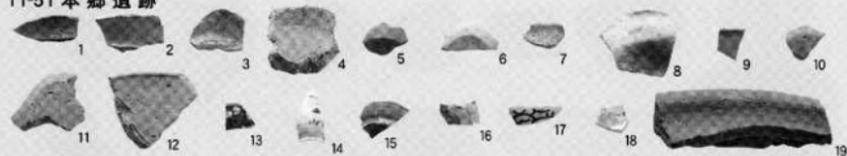
11-28 塩部遺跡



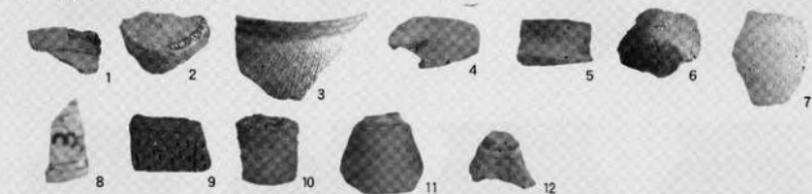
11-41 武田城下町遺跡



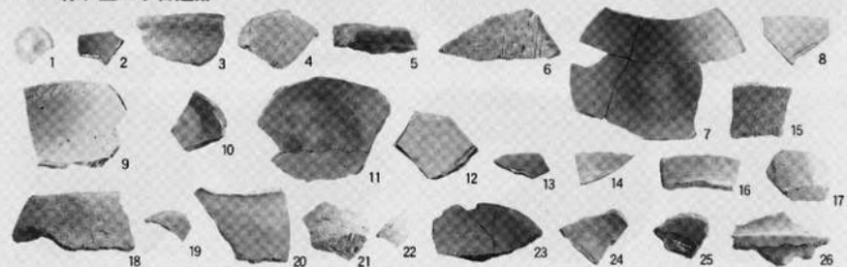
11-51 本郷遺跡



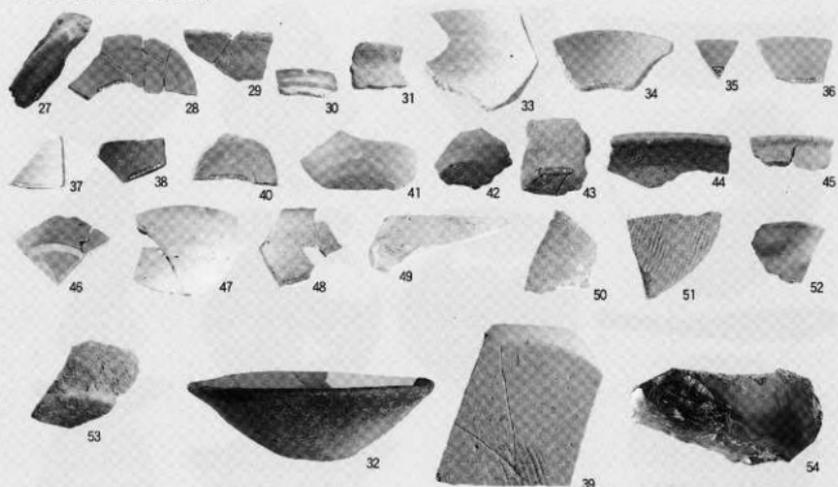
11-53 緑ヶ丘一丁目遺跡



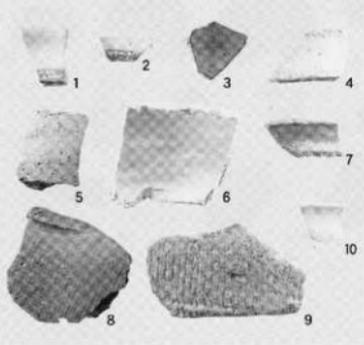
11-56 緑ヶ丘二丁目遺跡



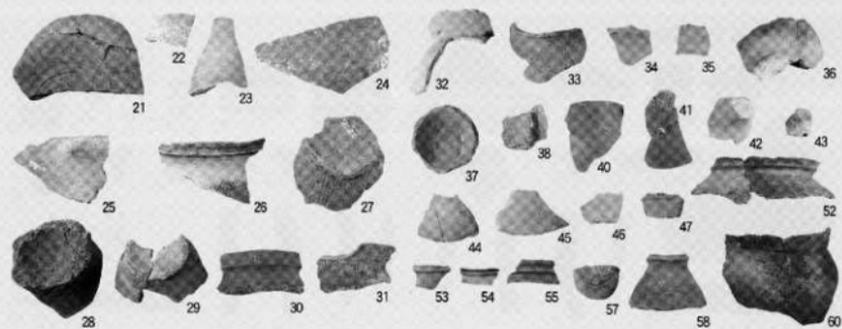
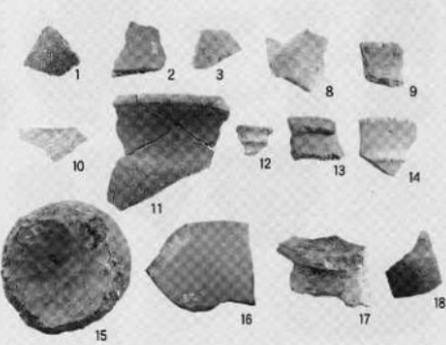
11-56 緑ヶ丘二丁目遺跡



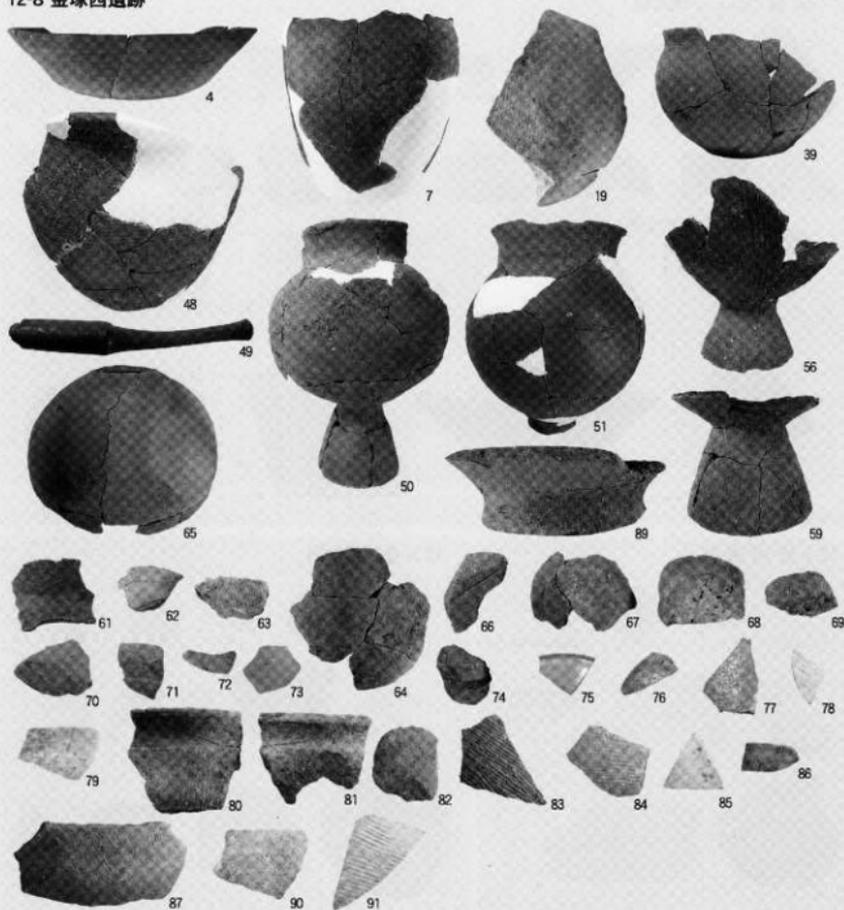
12-7 音羽遺跡



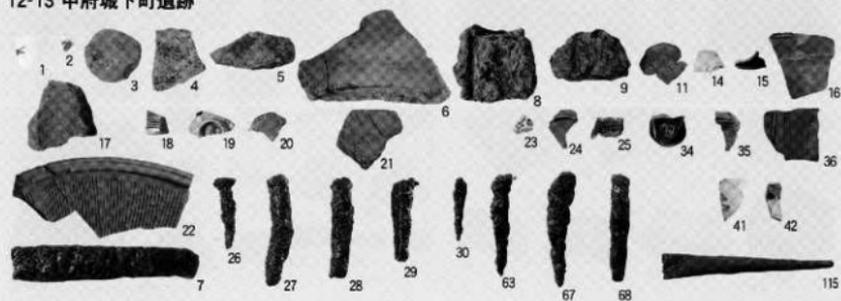
12-8 金塚西遺跡



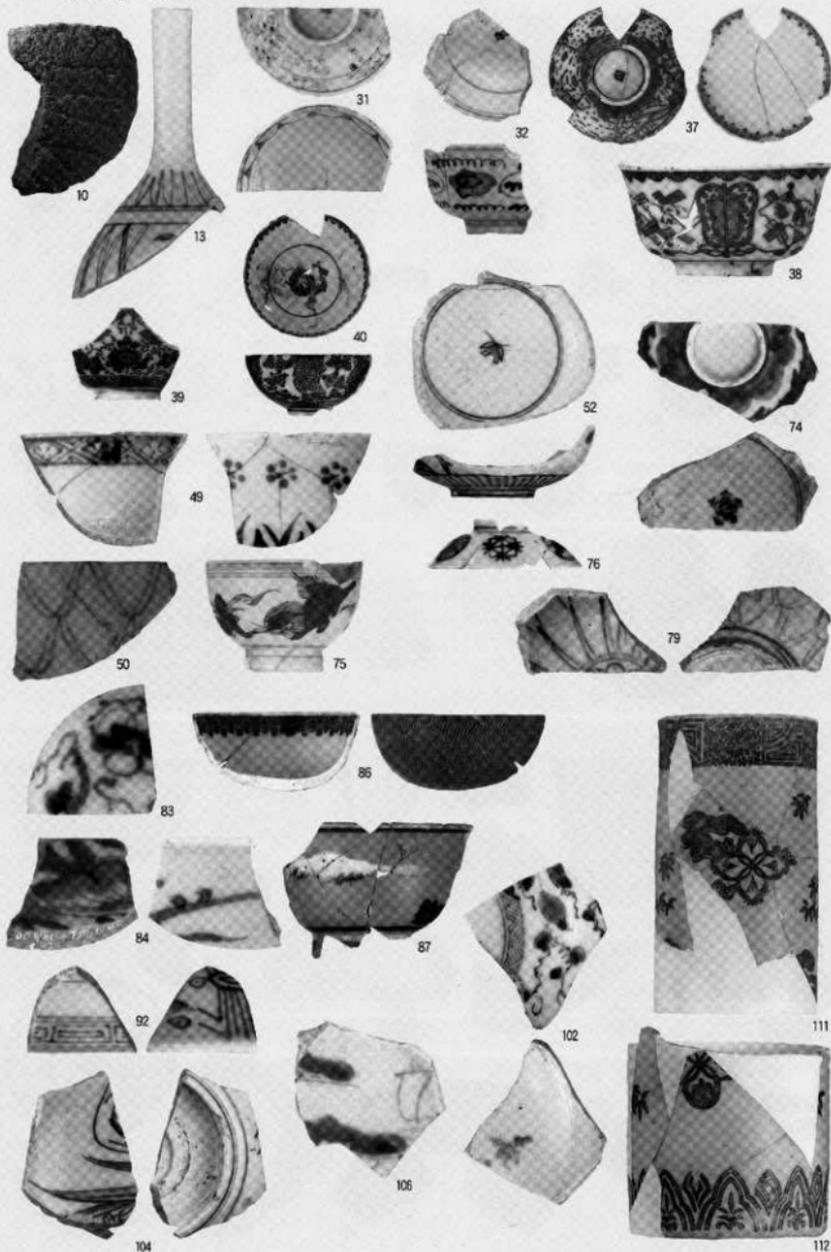
12-8 金塚西遺跡



12-13 甲府城下町遺跡



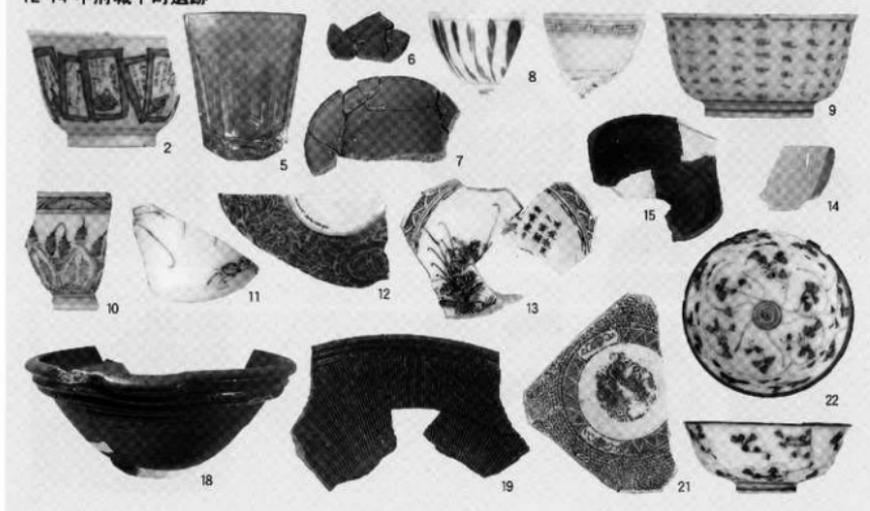
12-13 甲府城下町遺跡



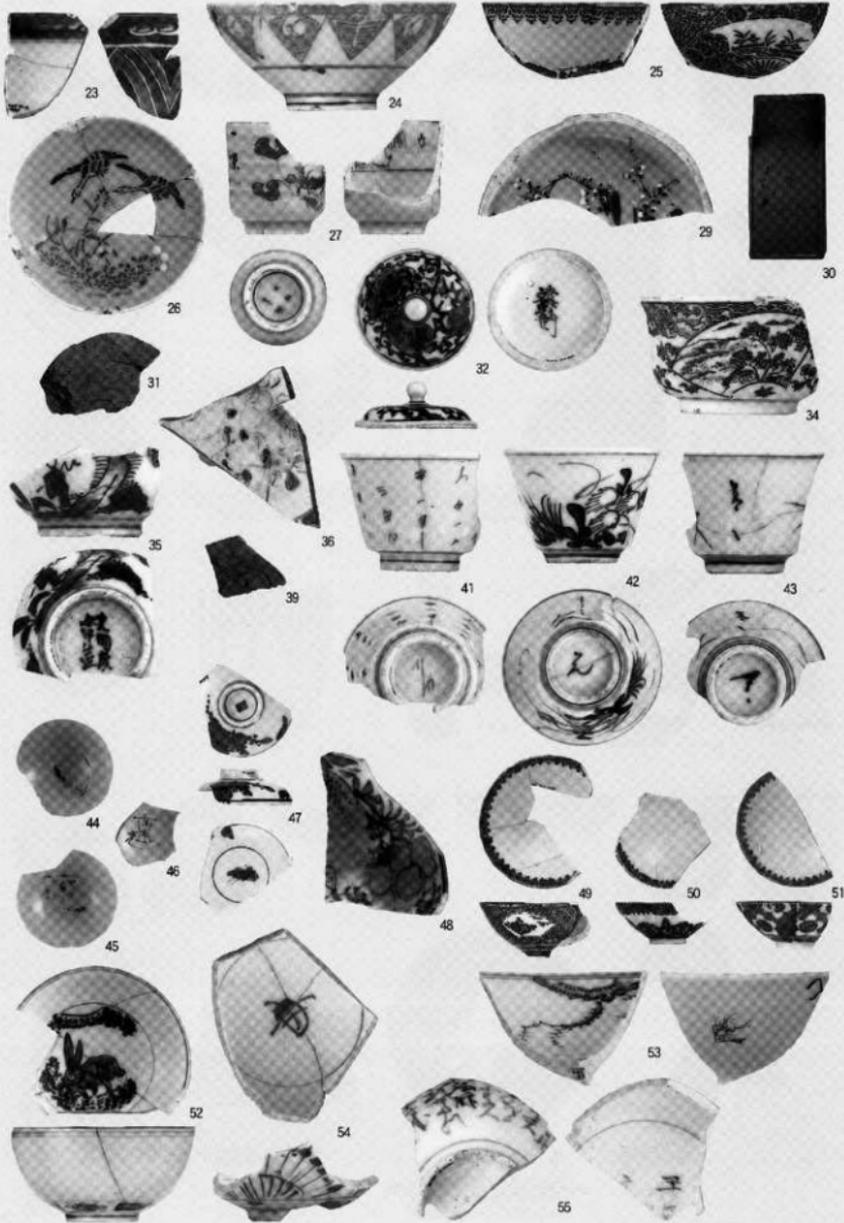
12-13 甲府城下町遺跡



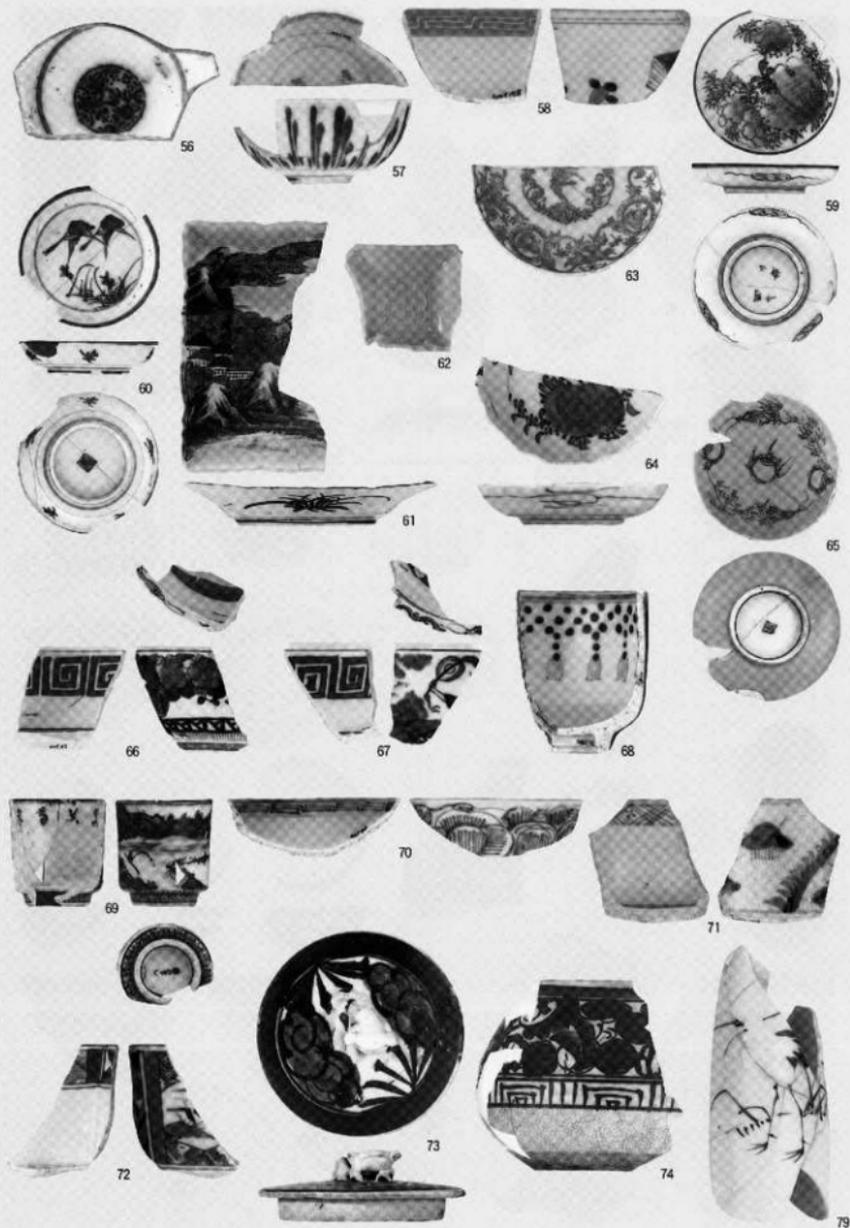
12-14 甲府城下町遺跡



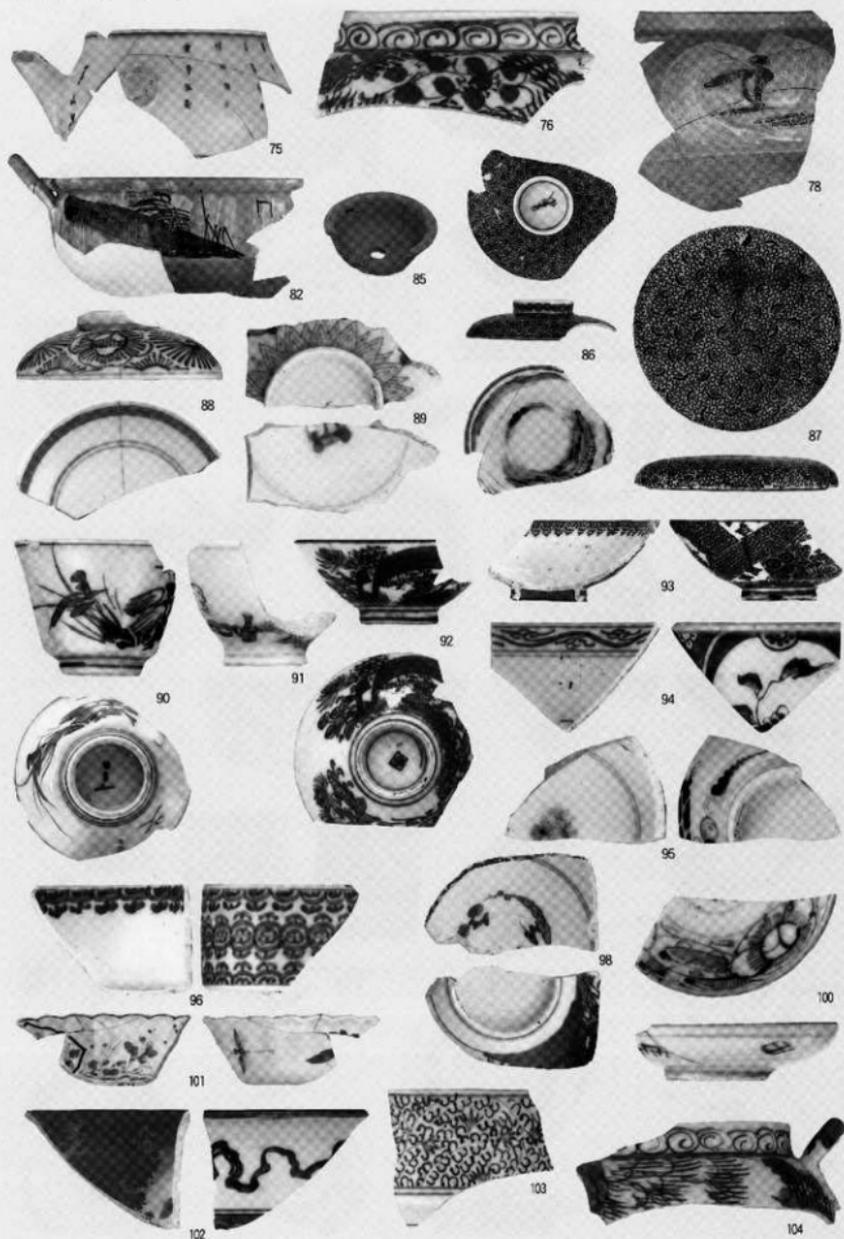
12-14 甲府城下町遺跡



12-14 甲府城下町遺跡



12-14 甲府城下町遺跡



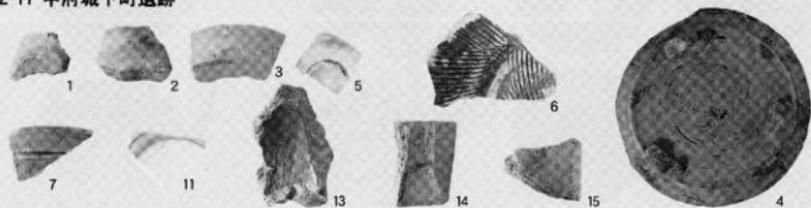
12-14 甲府城下町遺跡



12-14 甲府城下町遺跡



12-17 甲府城下町遺跡



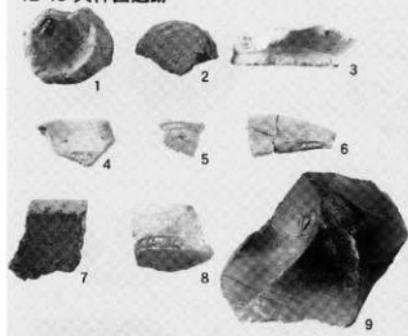
12-17 甲府城下町遺跡



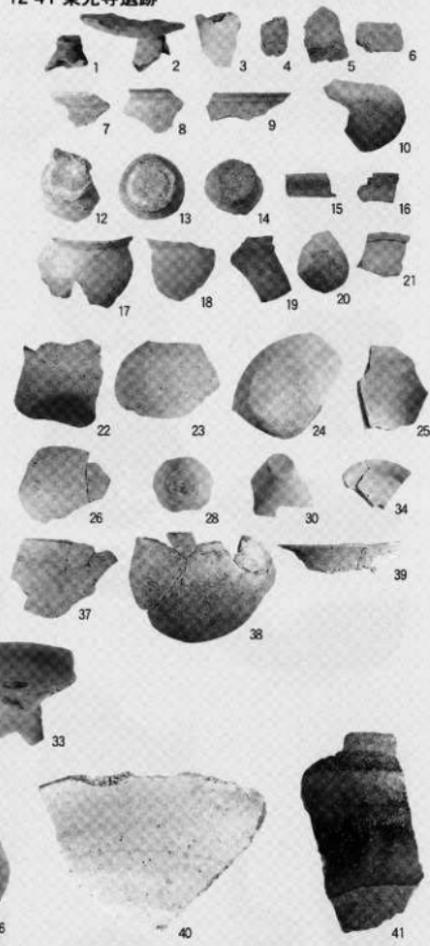
12-17 甲府城下町遺跡



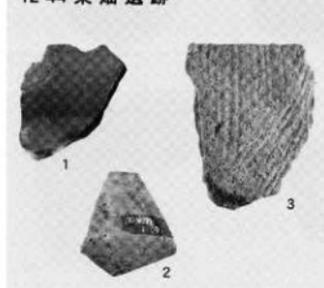
12-40 天神西遺跡



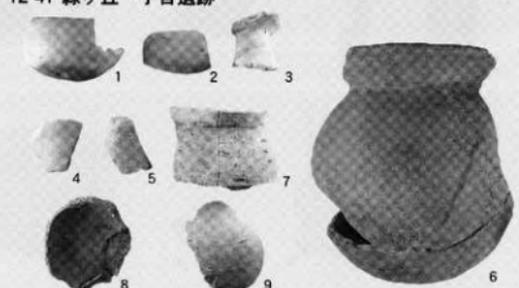
12-41 東光寺遺跡



12-44 東畑遺跡



12-47 緑ヶ丘一丁目遺跡



報告書抄録

ふりがな	こうふしなしいせき 5						
書名	甲府市内遺跡 V						
副書名	平成11～12年度試掘調査報告書						
巻次							
シリーズ名	甲府市文化財調査報告						
シリーズ番号	38						
編集機関	甲府市教育委員会						
所在地	〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18番1号 電話055(223)7324						
発行年月日	平成20年3月31日						
番号 フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地		コード		調査期間		調査原因
	種別	主な時代	市町村	遺跡番号	北緯 東経	調査面積	
主な遺物							
特記事項							
11-1 アサケ 朝気遺跡	コウアシマツキイシハラ 甲府市朝気三丁目281-2		19201	121	35°38' 48" 138°35' 01"	H11.6.1 3m ²	個人住宅建設
11-2 アサケ 朝気遺跡	コウアシマツキイシハラ 甲府市朝気一丁目27-3		19201	121	35°38' 57" 138°35' 03"	H11.7.6 4m ²	個人住宅建設
11-3 アサケ 朝気遺跡	コウアシマツキイシハラ 甲府市朝気一丁目93-2地		19201	121	35°39' 03" 138°35' 08"	H11.11.9～11.10 24m ²	店舗建設
11-4 アサケ 朝気遺跡	コウアシマツキイシハラ 甲府市朝気一丁目197-4地		19201	121	35°39' 56" 138°35' 03"	H12.3.31～4.5 8m ²	個人住宅建設
11-5 イチヨウノキ 銀杏之本遺跡	コウアシマツキイシハラ 甲府市東光寺二丁目295-1地		19201	122	35°39' 38" 138°35' 32"	H11.11.10～11.17 74m ²	集合住宅建設
11-6 エノダ 榎田遺跡	コウアシマツキイシハラ 甲府市千塚五丁目2918-9		19201	17	35°41' 04" 138°32' 30"	H11.5.28, 6.2 10m ²	個人住宅建設
11-7 エノダ 榎田遺跡	コウアシマツキイシハラ 甲府市山宮町3559-1地		19201	17	35°41' 06" 138°32' 25"	H11.6.29～7.23 36m ²	宅地造成
11-8 オオキクウチ 大北耕地遺跡	コウアシマツキイシハラ 甲府市大里町地内		19201	220	35°37' 20" 138°33' 30"	H11.12.16～H12.1.26 400m ²	区画整理事業
11-9 オオツボ 大坪遺跡	コウアシマツキイシハラ 甲府市横根町字反田443-1地		19201	149	35°39' 06" 138°36' 55"	H11.5.12～5.25 202m ²	宅地造成
11-10 オオツボ 大坪遺跡	コウアシマツキイシハラ 甲府市横根町字反田455-1		19201	149	35°39' 07" 138°37' 00"	H11.11.11 8.4m ²	アングラ建設
11-11 オオツボ 大坪遺跡	コウアシマツキイシハラ 甲府市和戸町916-2地		19201	149	35°39' 03" 138°36' 54"	H12.1.12～1.18 90m ²	店舗建設
11-12 オトツ 音羽遺跡	コウアシマツキイシハラ 甲府市音羽町420地		19201	28	35°40' 29" 138°32' 43"	H11.11.2～11.16 50m ²	宅地造成・集合住宅建設
11-13 オトツ 音羽遺跡	コウアシマツキイシハラ 甲府市音羽町389-7		19201	28	35°40' 28" 138°32' 45"	H11.12.2～12.3 10m ²	個人住宅建設
11-14 ホインダ 上石田遺跡	コウアシマツキイシハラ 甲府市上石田三丁目1301		19201	114	35°38' 54" 138°33' 36"	H11.11.4～11.9 10m ²	店舗建設
11-15 カムナヅカ 加牟那塚古墳	コウアシマツキイシハラ 甲府市千塚三丁目2437-9		19201	25	35°40' 52" 138°32' 50"	H11.10.29 15m ²	個人住宅建設
11-16 カワダヤカ 川田館跡	コウアシマツキイシハラ 甲府市川田町字北村373-2地		19201	177	35°39' 05" 138°37' 51"	H11.5.25～5.28 12m ²	個人住宅建設
11-17 コウシヨウ 甲府城跡	コウアシマツキイシハラ 甲府市北口二丁目2-42		19201	115	35°39' 52" 138°34' 29"	H11.8.2～8.10 20m ²	歯科医院建設

番号 フリガナ 所収遺跡名	フリガナ		コード		北緯	調査期間	調査原因
	所在地		市町村	遺跡番号	東経	調査面積	
	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		
11-18 コウフジウカマチ 甲府城下町遺跡	コウフジウカマチイデイ 甲府市宝一丁目106-1他		19201	253	35°39'50" 138°34'03"	H11.4.5~4.8 34㎡	病院増築
	城下町	近世	井戸・溝・ビット		陶磁器・かわらけ・土器・土製品		
11-19 コウフジウカマチ 甲府城下町遺跡	コウフジウカマチニホウ 甲府市北口二丁目13		19201	253	35°40'00" 138°34'30"	H11.6.10~6.18 42㎡	店舗併用住宅 建設
	城下町	近世	溝・土坑・ビット		陶磁器・かわらけ・土器・銭貨		
11-20 コウフジウカマチ 甲府城下町遺跡	コウフジウカマチニホウ 甲府市北口三丁目1-1他		19201	253	35°39'51" 138°34'33"	H11.7.1~7.31 7.5㎡	電力ケーブル 埋設
	城下町	近世	溝・ビット				
11-21 コウフジウカマチ 甲府城下町遺跡	コウフジウカマチニホウ 甲府市丸の内二丁目23他		19201	253	35°39'33" 138°34'10"	H11.8.26~8.27 10㎡	個人住宅建設
	城下町	近世			磁器・土師器		
11-22 コウフジウカマチ 甲府城下町遺跡	コウフジウカマチニホウ 甲府市中央二丁目373-4他		19201	253	35°39'33" 138°34'32"	H11.9.6~9.9 10㎡	個人住宅建設
	城下町	近世	石列		陶磁器・土師器・瓦・銭貨		
11-23 コウフジウカマチ 甲府城下町遺跡	コウフジウカマチニホウ 甲府市北口二丁目12-1		19201	253	35°39'59" 138°34'23"	H11.10.12~10.26 19㎡	事務所建設
	城下町	近世	井戸		陶器・かわらけ・土器・木製品		
11-24 コウフジウカマチ 甲府城下町遺跡	コウフジウカマチイデイ 甲府市宝一丁目165-1		19201	253	35°39'52" 138°33'58"	H11.11.9 4㎡	個人住宅建設
	城下町	近世					
11-25 コウフジウカマチ 甲府城下町遺跡	コウフジウカマチニホウ 甲府市北口二丁目15-27		19201	253	35°39'58" 138°34'27"	H11.11.24~11.25 9.68㎡	電力ケーブル 埋設
	城下町	近世					
11-26 コウフジウカマチ 甲府城下町遺跡	コウフジウカマチニホウ 甲府市北口三丁目101他		19201	253	35°39'52" 138°34'33"	H11.11.24~12.15 200㎡	集合住宅建設
	城下町	近世					
11-27 サウイイサウ 幸町A遺跡	コウフジウカマチニホウ 甲府市幸町2673-4		19201	190	35°38'36" 138°34'37"	H11.5.6~8.7 12㎡	個人住宅建設
	包蔵地	弥生					
11-28 シノベ 塩部遺跡	コウフジウカマチニホウ 甲府市飯田一丁目2356-1他		19201	74	35°39'55" 138°33'43"	H11.4.7~4.23 160㎡	貸事務所建設
	包蔵地	弥生~平安	駅穴建物跡・溝・ビット		磁器・土師器・金属器		
11-29 シノベ 塩部遺跡	コウフジウカマチニホウ 甲府市飯田一丁目2328他		19201	74	35°39'57" 138°33'44"	H11.9.9~9.21 40㎡	倉庫建設
	包蔵地	弥生~平安					
11-30 ジュウニヤ 十二天遺跡	コウフジウカマチニホウ 甲府市小松町496-1		19201	44	35°41'07" 138°34'06"	H11.12.17 3㎡	個人住宅建設
	敷布地	平安			土器・石器		
11-31 ヒヤクニ 藤原遺跡	コウフジウカマチニホウ 甲府市宮原町1163他		19201	234	35°36'47" 138°33'35"	H12.2.22 8㎡	倉庫建設
	敷布地	平安~中世			かわらけ・土器		
11-32 トゴワ 外河原ヂクヤ遺跡	コウフジウカマチニホウ 甲府市蓬沢町床の木995-3他		19201	216	35°38'07" 138°35'51"	H11.8.31~9.3 7㎡	鉄塔建設
	敷布地	古墳~平安			陶磁器		
11-33 トゴワ 外河原ヂクヤ遺跡	コウフジウカマチニホウ 甲府市増坪町445-6他		19201	216	35°38'00" 138°35'47"	H11.12.2 3㎡	店舗建設
	敷布地	古墳~平安					
11-34 タケダジウカマチ 武田城下町遺跡	コウフジウカマチニホウ 甲府市古府中町3006-1他		19201	252	35°41'17" 138°35'05"	H11.8.25 24㎡	個人住宅増築
	城下町	中世					
11-35 タケダジウカマチ 武田城下町遺跡	コウフジウカマチニホウ 甲府市武田二丁目2425		19201	252	35°40'46" 138°34'41"	H11.8.25~8.26 4㎡	個人住宅建設
	城下町	中世					
11-36 タケダジウカマチ 武田城下町遺跡	コウフジウカマチニホウ 甲府市屋形三丁目2476		19201	252	35°40'52" 138°34'43"	H11.9.2~9.6 12㎡	集合住宅建設
	城下町	中世			縄文土器・土師器・かわらけ		
11-37 タケダジウカマチ 武田城下町遺跡	コウフジウカマチニホウ 甲府市屋形三丁目2411-7他		19201	252	35°40'49" 138°34'38"	H11.10.4~10.6 24㎡	集合住宅建設
	城下町	中世	住穴				

番 号 ブリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地		コード		北 緯		調査期間		調査原因 特記事項
	種 別	主な遺構	市町村	遺跡番号	東 経		調査面積		
					主な遺物				
11-38 カタダ ショウカマチ 武田城下町遺跡	コウアシキキタニニシヨウダ 甲府市屋形二丁目2289-1他	19201	252	35°40'38"	138°34'33"	H11.10.4~10.15	160㎡	宅地造成	
城下町 中世									
11-39 カタダ ショウカマチ 武田城下町遺跡	コウアシキキタニニシヨウダ 甲府市屋形二丁目2357-1	19201	252	35°40'43"	138°34'37"	H11.10.8	8㎡	個人住宅建設	
城下町 中世									
11-40 カタダ ショウカマチ 武田城下町遺跡	コウアシキキタニニシヨウダ 甲府市屋形二丁目2350-1他	19201	252	35°40'42"	138°34'33"	H11.10.25~10.26	8㎡	個人住宅建設	
城下町 中世									
11-41 カタダ ショウカマチ 武田城下町遺跡	コウアシキキタニニシヨウダ 甲府市天神町148-1他	19201	252	35°40'23"	138°34'20"	H11.11.2~11.4	8㎡	集合住宅建設	
城下町 中世 時楽・清・ビット									
11-42 カタダ ショウカマチ 武田城下町遺跡	コウアシキキタニニシヨウダ 甲府市屋形二丁目2318-1他	19201	252	35°40'38"	138°34'31"	H11.11.17~11.18	8㎡	集合住宅建設	
城下町 中世									
11-43 カタダ ショウカマチ 武田城下町遺跡	コウアシキキタニニシヨウダ 甲府市大平一丁目4405	19201	252	35°40'43"	138°34'50"	H11.11.26~11.30	30㎡	個人住宅建設	
城下町 中世 井戸・柱穴									
11-44 カタダ ショウカマチ 武田城下町遺跡	コウアシキキタニニシヨウダ 甲府市武田三丁目448他	19201	252	35°40'29"	138°34'36"	H11.12.3~12.7	10㎡	個人住宅建設	
城下町 中世 ビット									
11-45 カタダ ショウカマチ 武田城下町遺跡	コウアシキキタニニシヨウダ 甲府市古府中町字中屋敷998-1他	19201	252	35°41'11"	138°34'29"	H11.12.7~12.8	8㎡	個人住宅建設	
城下町 中世									
11-46 カタダ ショウカマチ 武田城下町遺跡	コウアシキキタニニシヨウダ 甲府市大平一丁目4510-4他	19201	252	35°40'30"	138°34'43"	H11.12.7~12.15	65㎡	宅地造成・個人住宅建設	
城下町 中世 溝・ビット・石積									
11-47 テンジヤンニシ 天神古遺跡	コウアシキキタニニシヨウダ 甲府市千塚西四丁目3155-1	19201	16	35°40'58"	138°32'29"	H11.6.24	4㎡	個人住宅建設	
敷布地 古墳									
11-48 ナカノ ガワ ライイダウ 中小河原堤防遺跡	コウアシキキタニニシヨウダ 甲府市中小河原町1609-2他	19201	—	35°37'36"	138°34'18"	H11.4.14~4.20	703㎡	宅地造成	
包蔵地 近世									
11-49 ホンゴウ 本郷遺跡	コウアシキキタニニシヨウダ 甲府市善光寺三丁目2445-11	19201	130	35°39'30"	138°35'52"	H11.5.7	3㎡	個人住宅建設	
包蔵地 縄文・古墳									
11-50 ホンゴウ 本郷遺跡	コウアシキキタニニシヨウダ 甲府市善光寺三丁目2445-69	19201	130	35°39'34"	138°35'52"	H11.8.30~8.31	4㎡	個人住宅建設	
包蔵地 縄文・古墳									
11-51 ホンゴウ 本郷遺跡	コウアシキキタニニシヨウダ 甲府市善光寺三丁目1935-1	19201	130	35°39'31"	138°35'46"	H11.12.15~12.17	19㎡	個人住宅建設	
包蔵地 縄文・古墳 溝・ビット									
11-52 ホンゴウ 本郷B遺跡	コウアシキキタニニシヨウダ 甲府市善光寺三丁目1917-1	19201	131	35°39'26"	138°35'50"	H11.11.4	4㎡	個人住宅建設	
敷布地 平安									
11-53 シラガオカカイツウメ 緑ヶ丘一丁目遺跡	コウアシキキタニニシヨウダ 甲府市緑ヶ丘一丁目74-6	19201	43	35°40'28"	138°33'54"	H11.5.10~5.11	—	個人住宅建設	
敷布地 古墳 溝									
11-54 シラガオカカイツウメ 緑ヶ丘一丁目遺跡	コウアシキキタニニシヨウダ 甲府市緑ヶ丘二丁目138-10他	19201	43	35°40'34"	138°33'50"	H11.11.17~11.18	17㎡	個人住宅建設	
敷布地 古墳 溝									
11-55 シラガオカカイツウメ 緑ヶ丘二丁目遺跡	コウアシキキタニニシヨウダ 甲府市緑ヶ丘二丁目897-4	19201	42	35°40'46"	138°33'56"	H11.5.13~5.20	6㎡	個人住宅建設	
敷布地 古墳～平安									
11-56 シラガオカカイツウメ 緑ヶ丘二丁目遺跡	コウアシキキタニニシヨウダ 甲府市緑ヶ丘二丁目771-20他	19201	42	35°40'45"	138°33'59"	H11.5.27~6.21	80㎡	保育園建設	
敷布地 古墳～平安 水路									
11-57 ミナシガワ 南河原A遺跡	コウアシキキタニニシヨウダ 甲府市富竹西四丁目980-1	19201	107	35°39'12"	138°32'30"	H12.3.1	8㎡	宅地造成	
敷布地 平安									

番 号 フリガナ 所収遺跡名	フリガナ		コード		北 緯		調査期間		調査原因
	所在地		市町村	遺跡番号	東 経		調査面積		
	種 別	主な時代	主な遺物				特記事項		
11-58 ミヤウツ 宮ノ脇A遺跡	コウフシキョウゴウジニョウノ 甲府市善光寺二丁目2752-1	19201	97	35°39' 50"	138°35' 44"	H11.11.8	30㎡	個人住宅建設	
	敷布地 縄文・平安			縄文土器・陶磁器					
11-59 コトク 横田遺跡	コウフシキョウゴウジニョウノ 甲府市坂井町字横田420-5他	19201	157	35°39' 11"	138°37' 20"	H11.12.15	8㎡	個人住宅・作業場建設	
	敷布地 近世								
11-60 フドヤウ 和戸町遺跡	コウフシキョウゴウジニョウノ 甲府市和戸町390-2他	19201	—	35°38' 57"	138°37' 05"	H11.8.26~8.27	320㎡	住宅展示場建設	
	—								
12-1 アサケ 朝気遺跡	コウフシキョウゴウジニョウノ 甲府市朝気二丁目600-1他	19201	121	35°39' 01"	138°35' 18"	H12.9.25	18㎡	宅地造成	
	集落跡 縄文～平安								
12-2 イムラ ムラカ 居村村上遺跡	コウフシキョウゴウジニョウノ 甲府市池田二丁目376-2	19201	69	35°40' 11"	138°32' 34"	H12.11.20~11.21	16.5㎡	集合住宅建設	
	敷布地 縄文・平安								
12-3 イムラ ムラカ 居村村上遺跡	コウフシキョウゴウジニョウノ 甲府市池田二丁目391他	19201	69	35°40' 09"	138°32' 36"	H12.11.27	18㎡	集合住宅建設	
	敷布地 縄文・平安								
12-4 オホツボ 大坪遺跡	コウフシキョウゴウジニョウノ 甲府市坂井町字角田593-1他	19201	149	35°39' 16"	138°37' 12"	H12.11.30	6㎡	個人住宅建設	
	生痕遺跡 古墳～平安								
12-6 ツカ お塚さん古墳	コウフシキョウゴウジニョウノ 甲府市古府中町字古八幡1427-1	19201	54	35°41' 03"	138°34' 32"	H12.4.25	2㎡	個人住宅建設	
	古墳 古墳								
12-6 オトク 音羽遺跡	コウフシキョウゴウジニョウノ 甲府市音羽町398-1他	19201	28	35°40' 29"	138°32' 47"	H12.7.19~7.21	24㎡	集合住宅建設	
	敷布地 弥生・古墳 溝・集石土坑・ピット			土師器・須恵器					
12-7 オトク 音羽遺跡	コウフシキョウゴウジニョウノ 甲府市音羽町433他	19201	28	35°40' 28"	138°32' 42"	H12.10.4~10.5	3㎡	集合住宅建設	
	敷布地 弥生・古墳			灰輪陶器・土師器・須恵器					
12-8 カナガコシ 金塚西遺跡	コウフシキョウゴウジニョウノ 甲府市千塚五丁目2599-1他	19201	24	35°40' 52"	138°32' 44"	H12.10.17~11.28	562㎡	公園建設	
	敷布地 縄文・古墳 溝・聚穴住居跡・ピット			灰輪陶器・陶磁器・土師器・須恵器					
12-9 カナガコシ 金塚西遺跡	コウフシキョウゴウジニョウノ 甲府市千塚三丁目2548-5	19201	24	35°40' 55"	138°32' 46"	H13.3.7~3.8	6㎡	個人住宅建設	
	敷布地 縄文・古墳								
12-10 ホミイダ 上石田遺跡	コウフシキョウゴウジニョウノ 甲府市上石田三丁目1683-1	19201	114	35°38' 53"	138°33' 38"	H12.6.19	6㎡	個人住宅建設	
	集落跡 縄文								
12-11 カンダ 神田遺跡	コウフシキョウゴウジニョウノ 甲府市千塚三丁目2136-3	19201	26	35°40' 44"	138°32' 45"	H12.8.2	1㎡	個人住宅建設	
	敷布地 弥生～平安								
12-12 キヤクセンコウジ 北善光寺A遺跡	コウフシキョウゴウジニョウノ 甲府市善光寺町3038-11	19201	86	35°40' 01"	138°35' 50"	H12.4.7	8㎡	個人住宅建設	
	敷布地 平安								
12-13 コウフジウケマツ 甲府城下町遺跡	コウフシキョウゴウジニョウノ 甲府市北口二丁目94他	19201	253	35°39' 57"	138°34' 29"	H12.5.11~7.4	198㎡	区画整理及び個人住宅建設	
	城下町 近世 溝・土坑・井戸・ピット			陶磁器・土師器・須恵器・かわらけ					
12-14 コウフジウケマツ 甲府城下町遺跡	コウフシキョウゴウジニョウノ 甲府市丸の内一丁目13-9	19201	253	35°39' 33"	138°34' 27"	H12.7.11~7.22	189㎡	店舗建設	
	城下町 近世 溝・池・石列・井戸・溜井			陶磁器・土器・金属器・木製品					
12-15 コウフジウケマツ 甲府城下町遺跡	コウフシキョウゴウジニョウノ 甲府市梁岩町101-1他	19201	253	35°39' 52"	138°34' 42"	H12.8.1	4㎡	個人住宅建設	
	城下町 近世			陶磁器					
12-16 コウフジウケマツ 甲府城下町遺跡	コウフシキョウゴウジニョウノ 甲府市北口三丁目144	19201	253	35°39' 57"	138°34' 36"	H12.11.28~11.29	12㎡	集合住宅建設	
	城下町 近世			陶器・かわらけ・土器・木製品					
12-17 コウフジウケマツ 甲府城下町遺跡	コウフシキョウゴウジニョウノ 甲府市朝日四丁目99他	19201	253	35°40' 06"	138°34' 13"	H12.12.19~H13.1.18	72㎡	集合住宅建設	
	城下町 近世 井戸・溝			陶磁器・土器・瓦・ガラス製品					

番号 フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地		コード		北緯		調査期間		調査面積	調査原因
	種別	主な時代	市町村	遺跡番号	東経	調査面積	主な遺物	特記事項		
12-38 タケダジヨウカマチ 武田城下町遺跡	コウアシタマエチヨウ 甲府市宮前町89		19201	252	35°40'13"	138°34'40"	H13.3.1	32㎡		宅地造成
12-39 タケダジヨウカマチ 武田城下町遺跡	コウアシタマエチヨウ 甲府市天神町98-1		19201	252	35°40'19"	138°34'18"	H13.3.26	4㎡		個人住宅建設
12-40 テンジヨウシ 天神西道跡	コウアシタマエチヨウ 甲府市千塚四丁目3212-1		19201	16	35°40'56"	138°32'22"	H12.6.19	8㎡		個人住宅建設
12-41 トウコウジ 東光寺遺跡	コウアシタマエチヨウ 甲府市東光寺一丁目208-1他		19201	128	35°39'31"	138°35'31"	H12.12.7～12.12	32㎡		宅地造成
12-42 ニシガワラ 西河原遺跡	コウアシタマエチヨウ 甲府市荒川二丁目90-2他		19201	67	35°40'22"	138°32'18"	H12.9.25	26㎡		県道建設
12-43 ニシコウチ 西橋地C遺跡	コウアシタマエチヨウ 甲府市大里町4269-4他		19201	233	35°36'52"	138°33'52"	H12.9.18～9.26	64㎡		建売分譲住宅 建設
12-44 ヒゴノハシラ 東塚遺跡	コウアシタマエチヨウ 甲府市横根町字東塚902-1		19201	247	35°39'26"	138°36'59"	H12.11.30	16.5㎡		個人住宅建設
12-45 ミヤケダ 御崎田遺跡	コウアシタマエチヨウ 甲府市東光寺二丁目4-349他		19201	116	35°39'40"	138°35'14"	H12.6.21～6.23	120㎡		宅地造成
12-46 ミドリガオカニツヨウ 緑ヶ丘一丁目遺跡	コウアシタマエチヨウ 甲府市緑が丘一丁目147-1		19201	43	35°40'33"	138°33'48"	H12.5.29～5.30	3㎡		個人住宅建設
12-47 ミドリガオカニツヨウ 緑ヶ丘一丁目遺跡	コウアシタマエチヨウ 甲府市緑が丘二丁目144-2		19201	43	35°40'34"	138°33'49"	H13.3.6	8㎡		個人住宅建設
12-48 ミドリガオカニツヨウ 緑ヶ丘二丁目遺跡	コウアシタマエチヨウ 甲府市緑が丘二丁目771-6		19201	42	35°40'44"	138°33'58"	H12.4.17～4.18	8㎡		個人住宅建設
12-49 ミドリガオカニツヨウ 緑ヶ丘二丁目遺跡	コウアシタマエチヨウ 甲府市緑が丘二丁目2414-3		19201	42	35°40'46"	138°33'49"	H12.9.6	8㎡		個人住宅建設

甲府市文化財調査報告 38

甲府市内遺跡 V

— 平成11～12年度試掘調査報告書 —

平成20年3月31日

発行 甲府市教育委員会

〒400-8585 山梨県甲府市丸の内一丁目18番1号

TEL 055(223)7324

FAX 055(226)4889

印刷 篠内田印刷所

〒400-0032 山梨県甲府市中央二丁目10番18号

